

令和3年度 北陸信越運輸局管内における 地域公共交通確保維持改善事業の二次評価

■ 地域間幹線系統(5件)

【新潟県】

- 1) 新潟県生活交通確保対策協議会 1

【長野県】

- 2) 長野県公共交通活性化協議会 11

【富山県】

- 3) 富山県生活路線バス協議会 17

【石川県】

- 4) 石川県生活交通の確保に関する地域協議会 22

- 5) 中能登町地域公共交通協議会 24

■ 地域内フィーダー系統(69件)

【新潟県】

- 6) 村上市地域公共交通活性化協議会(村上市) 25
7) 阿賀野市地域公共交通協議会(阿賀野市) 28
8) 上越市地域公共交通活性化協議会(上越市) 35
9) 見附市地域公共交通活性化協議会(見附市) 38
10) 三条市地域公共交通協議会(三条市) 39
11) 胎内市地域公共交通協議会(胎内市) 43
12) 柏崎市地域公共交通活性化協議会(柏崎市) 45
13) 新発田市地域公共交通活性化協議会(新発田市) 47
14) 佐渡市地域公共交通活性化協議会(佐渡市) 49
15) 粟島浦村地域公共交通協議会(粟島浦村) 51
16) 五泉市地域公共交通活性化協議会(五泉市) 52
17) 魚沼市地域公共交通協議会(魚沼市) 54
18) 燕・弥彦地域公共交通会議(燕市・弥彦村) 60
19) 妙高市地域公共交通協議会(妙高市) 63
20) 南魚沼市地域公共交通協議会(南魚沼市) 65
21) 小千谷市地域公共交通協議会(小千谷市) 68
22) 長岡市地域公共交通協議会(長岡市) 69

次ページに続く

令和3年度 北陸信越運輸局管内における 地域公共交通確保維持改善事業の二次評価

■ 地域内フィーダー系統(69件)

前ページより

【長野県】

23) 飯田市地域公共交通改善市民会議(飯田市)	70
24) 上田市公共交通活性化協議会(上田市)	81
25) 松川町地域公共交通対策協議会(松川町)	89
26) 伊那市地域公共交通協議会(伊那市)	92
27) 長野市公共交通活性化・再生協議会(長野市)	98
28) 安曇野市地域公共交通協議会(安曇野市)	100
29) 信濃町地域公共交通協議会(信濃町)	101
30) 岡谷市地域公共交通活性化協議会(岡谷市)	106
31) 須坂市地域公共交通会議(須坂市)	107
32) 中野市地域公共交通対策協議会(中野市)	109
33) 生坂村地域公共交通協議会(生坂村)	111
34) 青木村地域公共交通会議(青木村)	113
35) 阿智村地域公共交通協議会(阿智村)	114
36) 下伊那南部地域公共交通対策協議会 (阿南町・売木村・天龍村・泰阜村・下條村)	128
37) 朝日村地域公共交通協議会(朝日村)	133
38) 松本市地域公共交通協議会(松本市)	134

39) 立科町地域公共交通活性化協議会(立科町)	137
40) 豊丘村地域公共交通会議(豊丘村)	144
41) 茅野市・原村地域公共交通活性化協議会(茅野市・原村) ..	145
42) 川上村地域公共交通活性化協議会(川上村)	151
43) 辰野町地域公共交通会議(辰野町)	152
44) 佐久市地域公共交通確保維持改善協議会(佐久市)	154
45) 飯山市地域公共交通会議(飯山市)	159
46) 塩尻市地域公共交通会議(塩尻市)	160
47) 諏訪市地域公共交通活性化協議会(諏訪市)	161
48) 西部コミュニティバスを守り育てる会(根羽村・平谷村)	164
49) 駒ヶ根市地域公共交通協議会(駒ヶ根市)	166
50) 中川村地域公共交通会議(中川村)	168
51) 千曲市地域公共交通活性化協議会(千曲市)	169
52) 大鹿村地域公共交通会議(大鹿村)	170
53) 喬木村地域公共交通会議(喬木村)	171
54) 高山村地域公共交通協議会(高山村)	172
55) 山ノ内町地域公共交通会議(山ノ内町)	173
56) 高森町地域公共交通協議会(高森町)	175

次ページに続く

令和3年度 北陸信越運輸局管内における 地域公共交通確保維持改善事業の二次評価

■ 地域内フィーダー系統(69件)

前ページより

【富山県】

- 57) 魚津市公共交通活性化会議(魚津市)179
- 58) 小矢部市地域公共交通活性化協議会(小矢部市)184
- 59) 滑川市地域公共交通会議(滑川市)194
- 60) 黒部市公共交通戦略推進協議会(黒部市)204
- 61) 氷見市地域公共交通会議(氷見市)210
- 62) 砺波市地域公共交通会議(砺波市)213
- 63) 上市町地域公共交通活性化協議会(上市町)215

【石川県】

- 64) 加賀市地域公共交通活性化・再生協議会(加賀市)216
- 65) 内灘町地域公共交通協議会(内灘町)218
- 66) 津幡町地域公共交通活性化協議会(津幡町)220
- 67) 輪島市地域公共交通会議(輪島市)223
- 68) 宝達志水町地域公共交通協議会(宝達志水町)225
- 69) 珠洲市地域公共交通活性化協議会(珠洲市)226
- 70) 穴水町地域公共交通協議会(穴水町)228
- 71) 小松市地域公共交通活性化協議会(小松市)229
- 72) 七尾市地域公共交通協議会(七尾市)230
- 73) 中能登町地域公共交通協議会(中能登町)232
- 74) 志賀町地域公共交通活性化協議会(志賀町)234

■ 離島航路(3件)

【新潟県】

- 75) 佐渡航路確保維持改善協議会235
- 76) 粟島浦村地域公共交通協議会236

【石川県】

- 77) 輪島市離島航路改善協議会237

令和3年度 北陸信越運輸局管内における 地域公共交通確保維持改善事業の二次評価

■ 調査事業〔計画策定事業〕(16件)

【新潟県】

78) 長岡市地域公共交通協議会(長岡市) ……238

79) 柏崎市地域公共交通活性化協議会(柏崎市) ……239

【長野県】

80) 長野市公共交通活性化・再生協議会(長野市) ……240

81) 佐久市地域公共交通確保維持改善協議会(佐久市) ……241

82) 東御市公共交通活性化協議会(東御市) ……242

83) 中川村地域公共交通会議(中川村) ……243

84) 南木曾町地域公共交通協議会(南木曾町) ……244

85) 木曾町地域公共交通協議会(木曾町) ……245

86) 信濃町地域公共交通協議会(信濃町) ……246

87) 中野市地域公共交通対策協議会(中野市・山ノ内町) ……247

88) 木曾地域公共交通活性化協議会
(上松町・南木曾町・木曾町・木祖村・王滝村・大桑村) ……248

89) 長野県公共交通活性化協議会(長野県) ……249

【富山県】

90) 魚津市公共交通活性化会議(魚津市) ……250

91) 砺波市地域公共交通会議(砺波市) ……251

92) 城端・氷見線活性化推進協議会
(高岡市・氷見市・砺波市・南砺市) ……252

【石川県】

93) 加賀市地域公共交通活性化・再生協議会(加賀市) ……253

■ 地域公共交通バリアフリー化調査事業(1件)

【新潟県】

94) 糸魚川市移動等円滑化促進方針推進協議会(糸魚川市) ……254

【富山県】

95) 福岡駅前地区移動等円滑化基本構想推進協議会(高岡市) ……255

96) 射水市バリアフリー推進協議会(射水市) ……256

令和3年度 北陸信越運輸局管内における 地域公共交通確保維持改善事業の二次評価

■ 日本版MaaS推進・支援事業（1件）

【富山県】

97) 株式会社博報堂(朝日町)……………257

■ 地域交通キャッシュレス決済導入支援事業（1件）

【石川県】

98) 加賀市(加賀市)……………258

■ 新モビリティサービス事業計画策定支援事業（1件）

【長野県】

99) 一般財団法人塩尻市振興公社(塩尻市)……………259

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
新潟県生活交通確保対策協議会	新潟交通(株)	新潟～豊栄	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年11月及び令和3年3月にダイヤ改正を実施した。 令和3年7月、夏休みこどもりゆーと50円バスを実施。令和3年9月(バスの日)にICカードりゆーとのチャージに対してノベルティ(ティッシュ)をプレゼントするキャンペーンを展開。 コロナ禍において近距離圏の外出・行楽(マイクロツーリズム)が推奨されていることを受け、1日乗り放題券(ふらばすチケット)を販売、メディア(地元テレビ局)での特集などを通じ発信・拡販につとめた。 	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A	輸送人員前年度比較:124% R2 139千人 R3 173千人	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍による行動変容を踏まえた利用動態を分析し、ダイヤ改正及び競合路線の時刻調整を検討する。 バスをはじめ公共交通機関の利用促進に繋がる広報・啓発活動を関係機関と連携し継続的に実施する。 車両の衛生対策(光触媒コーティング)を実施した事をPRし利用促進(回復)に繋げる。 	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	新潟交通観光バス(株)	新潟～新発田	<ul style="list-style-type: none"> 新発田市内のコミバス等の地域内交通路線・ダイヤの見直しによる相互連携により利便性アップを図った。 	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B	輸送人員前年度比較:96% R2 297千人 R3 285千人 <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響による外出・移動控えや在宅勤務によるバス利用の減少。 	<ul style="list-style-type: none"> バス利用者の動態を精査し、市町村などと連携して、より効率的な運行となるよう運行計画の見直しなどを検討する。 	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	新潟交通観光バス(株)	新潟～水原	<ul style="list-style-type: none"> 所要時分の見直しによる定時性・利便性アップを図った。 	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A	輸送人員前年度比較:101% R2 168千人 R3 169千人	<ul style="list-style-type: none"> バス利用者の動態を精査し、市町村などと連携して、より効率的な運行となるよう運行計画の見直しなどを検討する。 	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	新潟交通観光バス(株)	新潟～新津① (万代シテイ～沢海～秋葉区役所)	<ul style="list-style-type: none"> 所要時分の見直しによる定時性・利便性アップを図った。 	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A	輸送人員前年度比較:102% R2 60千人 R3 61千人	<ul style="list-style-type: none"> バス利用者の動態を精査し、市町村などと連携して、より効率的な運行となるよう運行計画の見直しなどを検討する。 	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
新潟県生活交通確保対策協議会	新潟交通観光バス㈱	新潟～京ヶ瀬	・所要時分の見直しによる定時性・利便性アップを図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 輸送人員前年度比較:96% R2 49千人 R3 47千人 ・新型コロナウイルスの影響による外出・移動控えや在宅勤務によるバス利用の減少。	・バス利用者の動態を精査し、市町村などと連携して、より効率的な運行となるよう運行計画の見直しなどを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	新潟交通観光バス㈱	新潟～新津② (万代シテイ～二本木～秋葉区役所)	・所要時分の見直しによる定時性・利便性アップを図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 輸送人員前年度比較:92% R2 66千人 R3 61千人 ・新型コロナウイルスの影響による外出・移動控えや在宅勤務によるバス利用の減少。	・バス利用者の動態を精査し、市町村などと連携して、より効率的な運行となるよう運行計画の見直しなどを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	新潟交通観光バス㈱	新潟～小須戸	・所要時分の見直しによる定時性・利便性アップを図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 輸送人員前年度比較:110% R2 79千人 R3 87千人	・バス利用者の動態を精査し、市町村などと連携して、より効率的な運行となるよう運行計画の見直しなどを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	新潟交通観光バス㈱	新潟～月潟	・所要時分の見直しによる定時性・利便性アップを図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 輸送人員前年度比較:105% R2 145千人 R3 152千人	・バス利用者の動態を精査し、市町村などと連携して、より効率的な運行となるよう運行計画の見直しなどを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	新潟交通観光バス㈱	新津～白根① (白根横町～臼井～新津駅)	・所要時分の見直しによる定時性・利便性アップを図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 輸送人員前年度比較:100% R2 30千人 R3 30千人	・バス利用者の動態を精査し、市町村などと連携して、より効率的な運行となるよう運行計画の見直しなどを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	新潟交通観光バス㈱	新津～白根② (白根横町～矢代田～新津駅)	・所要時分の見直しによる定時性・利便性アップを図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 輸送人員前年度比較:91% R2 44千人 R3 40千人 ・新型コロナウイルスの影響による外出・移動控えや在宅勤務によるバス利用の減少。	・バス利用者の動態を精査し、市町村などと連携して、より効率的な運行となるよう運行計画の見直しなどを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	新潟交通観光バス㈱	新発田～次第浜	今回初めての事業評価であるため反映状況無し。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 輸送人員前年度比較:-% R2 -(新設系統のため実績なし) R3 2千人	・受託元である聖籠町と連携し地域の意見を取り入れ、利便性を向上する。協議会と協議の上、ダイヤ改正を実施予定。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
新潟県生活交通確保対策協議会	共同運行 (①蒲原鉄道線、②泉観光バス線)	五泉高校前～さくらアリーナ前・村松支所～五泉高校前	・五泉市協議会と連携し、JRに合わせたダイヤ改正や、市内全世帯に公共交通時刻表冊子を配布及び市内各施設への時刻表掲示により利用促進を図った。実施主体の各ホームページに時刻表や路線図を掲載し、広く周知を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A	輸送人員前年度比較:102% R2 58千人 R3 59千人	・市内に開業する複合施設への一部乗入れを実施し、乗車利用目的の選択肢を増やすことにより、利用者増加を図る。 ・当該路線をGTFS化し、グーグルマップ検索が可能なシステムを構築することにより、広く周知できる体制を整える。 ・引き続き、JRとの接続可能なダイヤ改正を実施する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越佐観光バス線	長辰～燕三条駅	・市町村等と連携し、より効率的な運行となるよう運行計画の見直しを検討した。 ・新型コロナウイルスに対する対策を車内で掲示した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B	輸送人員前年度比較:92% R2 25千人 R3 23千人 ・新型コロナウイルス感染拡大の影響。 ・高齢者の利用が減少した。	・市町村等と連携し、より効率的な運行となるよう運行計画の見直しを検討する。 ・利用者からの要望を取り入れサービスの向上を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～三条	・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 ・1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B	輸送人員前年度比較:85% R2 53千人 R3 45千人 ・令和3年4月のダイヤ改正に減便し、経費削減と運行の効率化を図ったため。	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～分水	・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 ・1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B	輸送人員前年度比較:95% R2 44千人 R3 42千人 ・令和3年4月のダイヤ改正に減便し、経費削減と運行の効率化を図ったため。	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～今町	・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 ・1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B	輸送人員前年度比較:96% R2 27千人 R3 26千人 ・令和3年4月のダイヤ改正に減便し、経費削減と運行の効率化を図ったため。	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	(急行) 長岡～栃尾 ① ((急行)長岡駅前～百束～栃尾車庫前)	・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 ・1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 輸送人員前年度比較:93% R2 55千人 R3 51千人 ・令和3年4月のダイヤ改正に減便し、経費削減と運行の効率化を図ったため。	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	(急行) 長岡～栃尾 ② ((急行)長岡駅前～百束・楡原～栃尾車庫前)	・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 ・1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 輸送人員前年度比較:97% R2 73千人 R3 71千人 ・令和3年4月のダイヤ改正に減便し、経費削減と運行の効率化を図ったため。	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	(快速) 長岡～栃尾 ① ((快速)長岡駅東口～昭和通り・新榎～栃尾車庫前)	・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 ・1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 輸送人員前年度比較:77% R2 31千人 R3 24千人 ・令和3年4月のダイヤ改正に減便し、経費削減と運行の効率化を図ったため。	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	(快速) 長岡～栃尾 ② ((快速)長岡駅東口～東バイパス・新榎トンネル～栃尾車庫前)	・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 ・1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 輸送人員前年度比較:95% R2 37千人 R3 35千人 ・令和3年4月のダイヤ改正に減便し、経費削減と運行の効率化を図ったため。	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～見附 ① (長岡駅東口～新町・耳取～上見附車庫前)	・運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 ・1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 輸送人員前年度比較:93% R2 27千人 R3 25千人 ・令和3年4月のダイヤ改正に減便し、経費削減と運行の効率化を図ったため。	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～見附② (長岡駅東口～新町・浦瀬～上見附車庫前)	・運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 ・1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A	輸送人員前年度比較:103% R2 65千人 R3 67千人	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～見附③ (長岡駅東口～麻生田～上見附車庫前)	・運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 ・1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A	輸送人員前年度比較:104% R2 25千人 R3 26千人	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	(急行) 長岡～寺泊① (急行)長岡駅前～李崎・与板～坂井町)	・運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 ・1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A	輸送人員前年度比較:109% R2 53千人 R3 58千人	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	(急行) 長岡～寺泊② (急行)長岡駅前～李崎・与板～大野積終点)	・運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 ・1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B	輸送人員前年度比較:63% R2 40千人 R3 25千人 ・コロナ禍による沿線の通勤・通学及び病院への利用に関する利用者減のため。	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～小島谷	・運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 ・1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B	輸送人員前年度比較:90% R2 21千人 R3 19千人 ・コロナ禍による沿線の通勤・通学及び病院への利用に関する利用者減のため。	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～十日町	・運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 ・1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 輸送人員前年度比較:90% R2 105千人 R3 94千人 ・コロナ禍による沿線の通勤・通学及び病院への利用に関する利用者減のため。	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～小千谷① (長岡駅前～新国道～小千谷インター)	・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 ・1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 輸送人員前年度比較:93% R2 30千人 R3 28千人 ・令和3年4月のダイヤ改正に減便し、経費削減と運行の効率化を図ったため。	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～小千谷② (急行)長岡駅前～片貝・小栗田～小千谷車庫前)	・運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 ・1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 輸送人員前年度比較:94% R2 124千人 R3 116千人 ・コロナ禍による沿線の通勤・通学及び病院への利用に関する利用者減のため。	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～小千谷③ (急行)長岡駅前～片貝・坪野～小千谷車庫前)	・運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 ・1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 輸送人員前年度比較:110% R2 40千人 R3 44千人	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～出雲崎	・運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 ・1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 輸送人員前年度比較:97% R2 58千人 R3 56千人 ・コロナ禍による沿線の通勤・通学及び病院への利用に関する利用者減のため。	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～蓮花寺	・運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 ・1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 輸送人員前年度比較:92% R2 24千人 R3 22千人 ・コロナ禍による沿線の通勤・通学及び病院への利用に関する利用者減のため。	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～与板① (長岡駅前～三ツ郷屋・河根川～与板警察署前)	・運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 ・1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 輸送人員前年度比較:95% R2 22千人 R3 21千人 ・コロナ禍による沿線の通勤・通学及び病院への利用に関する利用者減のため。	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～柏崎① (快速)長岡駅前～曾地～柏崎駅前)	・運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 ・1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 輸送人員前年度比較:67% R2 66千人 R3 44千人 ・コロナ禍による沿線の通勤・通学及び病院への利用に関する利用者減のため。	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～柏崎② (急行)長岡駅前～西山～柏崎駅前)	・運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 ・1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 輸送人員前年度比較:62% R2 68千人 R3 42千人 ・コロナ禍による沿線の通勤・通学及び病院への利用に関する利用者減のため。	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～与板② (長岡駅前～関原三叉路～与板警察署前)	・運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 ・1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 輸送人員前年度比較:95% R2 37千人 R3 35千人 ・コロナ禍による沿線の通勤・通学及び病院への利用に関する利用者減のため。	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～小国	・運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 ・1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 輸送人員前年度比較:120% R2 56千人 R3 67千人	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	三条～八木ヶ鼻	・運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 ・1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 輸送人員前年度比較:95% R2 40千人 R3 38千人 ・コロナ禍による沿線の通勤・通学及び病院への利用に関する利用者減のため。	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	八木ヶ鼻～地場産	・運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 ・1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 輸送人員前年度比較:78% R2 27千人 R3 21千人 ・コロナ禍による沿線の通勤・通学及び病院への利用に関する利用者減のため。	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	小千谷～十日町	・運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 ・1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 輸送人員前年度比較:102% R2 44千人 R3 45千人	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	小千谷～小国	・運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 ・1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 輸送人員前年度比較:75% R2 20千人 R3 15千人 ・コロナ禍による沿線の通勤・通学及び病院への利用に関する利用者減のため。	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通㈱	柏崎～岡野町	・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 ・1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 輸送人員前年度比較:68% R2 74千人 R3 50千人 ・令和3年4月のダイヤ改正に減便し、経費削減と運行の効率化を図ったため。	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	南越後観光バス㈱	小千谷～小出	・運行回数を2.0回減回し、運行経費の削減を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 輸送人員前年度比較:73% R2 56千人 R3 41千人 ・減便したことによりバス利用者が減少。 ・コロナ禍による外出自粛の影響が大きく、バス利用者が減少。	・バス利用者の動態を精査し、運行時刻の見直し等を検討して利用者数の維持を目指す。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	南越後観光バス㈱	小出～栃尾又	・運行回数を0.5回減回し、運行経費の削減を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 輸送人員前年度比較:84% R2 32千人 R3 27千人 ・減便したことによりバス利用者が減少。 ・コロナ禍による外出自粛の影響が大きく、バス利用者が減少。	・バス利用者の動態を精査し、運行時刻の見直し等を検討して利用者数の維持を目指す。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	南越後観光バス㈱	六日町～小出	・運行時刻の見直しを検討したが、実施しなかった。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 輸送人員前年度比較:93% R2 46千人 R3 43千人 ・コロナ禍による外出自粛の影響が大きく、バス利用者が減少。	・令和3年10月より平日運行回数8.0回の内3.0回を実験的に魚沼基幹病院経由とし、輸送人員増加を目指す。 ・終点を魚沼市役所前へ変更し、市内他交通との乗り換え拠点とすることで輸送人員増加を目指す。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	南越後観光バス㈱	六日町～湯沢	・運行時刻の見直しを検討したが、実施しなかった。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 輸送人員前年度比較:108% R2 25千人 R3 27千人	・バス利用者の動態を精査し、運行時刻の見直し等を検討して利用者数の維持を目指す。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	南越後観光バス㈱	十日町～中里～津南	・運行時刻の見直しを行い、利便性の向上を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 輸送人員前年度比較:75% R2 88千人 R3 66千人 ・少子化の影響で通学利用が減少。 ・コロナ禍による外出自粛の影響が大きく、バス利用者が減少。	・バス利用者の動態を精査し、運行時刻の見直し等を検討して利用者数の維持を目指す。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
新潟県生活交通確保対策協議会	南越後観光バス(株)	十日町～宮中～津南	・運行時刻の見直しを検討したが、実施しなかった。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 輸送人員前年度比較:68% R2 25千人 R3 17千人 ・少子化の影響で通学利用が減少。 ・コロナ禍による外出自粛の影響が大きく、バス利用者が減少。	・バス利用者の動態を精査し、運行時刻の見直し等を検討して利用者数の維持を目指す。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	頸城自動車(株)	上越妙高駅前～市役所・労災病院前～鶴の浜	・H28.10～R2.3.31まで、再編実施計画に基づき運行。 ・R2.4.1～R10.3.31の間、第2次総合公共交通計画に基づき運行。 ・バス乗車体験キャンペーンやお得な乗車券のPR・販売等、バス利用促進を実施。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 輸送人員前年度比較:92% R2 179千人 R3 164千人 ・新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛及び大雪による運休の為、利用者が減少した。	・利用状況の把握に努め、より効率的な運行ができるよう検討する。 ・コロナ感染防止対策を継続し、安心して利用いただけるよう努める。 ・バス事業者、市町村等と連携し、バス利用促進に取り組む。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	頸城自動車(株)	上越モール前～上越妙高駅前～新井バスターミナル	・H28.10～R2.3.31まで、再編実施計画に基づき運行。 ・R2.4.1～R10.3.31の間、第2次総合公共交通計画に基づき運行。 ・バス乗車体験キャンペーンやお得な乗車券のPR・販売等、バス利用促進を実施。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 輸送人員前年度比較:96% R2 76千人 R3 73千人 ・新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛及び大雪による運休の為、利用者が減少した。	・利用状況の把握に努め、より効率的な運行ができるよう検討する。 ・コロナ感染防止対策を継続し、安心して利用いただけるよう努める。 ・バス事業者、市町村等と連携し、バス利用促進に取り組む。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	新潟交通佐渡(株)	両津～相川	・佐渡市活性協業として、観光客向けパンフレット、路線バスマップを作成し、乗り放題バスも販売し、観光客利用増に努めた。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 輸送人員前年度比較:98% R2 146千人 R3 143千人 ・新型コロナウイルスの影響でR3年も引き続き観光客数が伸び悩んだため。	・新型コロナウイルスが収まれば、観光客利用が増えるので、引き続きホームページ等でのPRに努め、利用客増を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
長野県公共交通活性化協議会	長電バス(株)	山田温泉線	バス車内の消毒や換気を実施し、お客様が安心して利用できるよう努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:31.4 に対して 実績輸送量22.2であった。	高齢者へのIC割引案内を周知し、利用促進を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	長電バス(株)	上林線 ※車両減価償却費等国庫補助金	地域住民に時刻表を配布し、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:25.3 に対して 実績輸送量9.7であった。	コロナ禍で需要が低迷しているため、高齢者乗車券を配布し、利用者の需要を喚起する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	長電バス(株)	永田線 ※車両減価償却費等国庫補助金	バス車内の消毒や換気を実施し、お客様が安心して利用できるよう努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:16.3 に対して 実績輸送量5.6であった。	利用者の少ない時期を減便し、経費節減に努める。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	長電バス(株)	屋島線 ※車両減価償却費等国庫補助金	バス車内の消毒や換気を実施し、お客様が安心して利用できるよう努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:21.8 に対して 実績輸送量20.1であった。	運賃表示やバス停表示が見やすいよう車内液晶表示器を設置し、利用者の利便向上を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	長電バス(株)	牟礼線 ※公有民営方式車両購入費国庫補助金	高齢の方でも見やすい液晶ディスプレイを導入し、利便向上に努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:31.6 に対して 実績輸送量24.6であった。	高齢者へのIC割引案内を周知し、利用促進を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点	評価結果	
長野県公共交通活性化協議会	長電バス(株)	野沢線	地域住民に時刻表を配布し、利用促進を図った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	目標輸送量:25.9 に対して 実績輸送量17.7であった。	電車との接続を改善し、利用者の利便向上を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	長電バス(株)	中野木島線	バス車内の消毒や換気を実施し、お客様が安心して利用できるよう努めた。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	目標輸送量:16.6 に対して 実績輸送量18.5であった。	利用者の少ない時期を減便し、経費節減に努める。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	長電バス(株)	屋代須坂線(須坂駅～屋代駅) ※車両減価償却費等国庫補助金	小学校でバスの乗り方教室を実施し、バスを多く利用して頂くよう努めた。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	目標輸送量:16.8 に対して 実績輸送量25.6であった。	コロナ禍で需要が低迷しているため、学生や高齢者に対しても、バス乗り方を実施し利用の底上げを図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	アルピコ交通(株)	高府線(善光寺大門～高府) ※車両減価償却費等国庫補助金	長野市及び小川村地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、中古等での低床車両の購入や沿線の学校等に時刻表等の配布を行いより一層の利用促進を図っているほか、令和3年度はバリア解消を目的としてノンステップバスを1台導入した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	目標輸送量34.3 に対して、利用者が伸びなかったことから、実績輸送量20.0であった。	長野市及び小川村地域公共交通会議と連携し、コロナ禍における感染防止対策の実施や周知を図るなどし、利用促進を図っていく。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	アルピコ交通(株)	高府線(善光寺大門～初引)	長野市及び小川村地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、中古等での低床車両の購入や沿線の学校等に時刻表等の配布を行いより一層の利用促進を図っている。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	目標輸送量20.0 に対して、利用者が伸びなかったことから、実績輸送量12.8であった。	長野市及び小川村地域公共交通会議と連携し、コロナ禍における感染防止対策の実施や周知を図るなどし、利用促進を図っていく。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	アルピコ交通(株)	鬼無里線 ※車両減価償却費等国庫補助金	長野市地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、中古等での低床車両の購入などを行い、より一層の利用促進を図っている。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	目標輸送量35.7 に対して、利用者が伸びなかったことから、実績輸送量18.0であった。	長野市地域公共交通会議と連携し、コロナ禍における感染防止対策の実施や周知を図るなどし、利用促進を図っていく。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
長野県公共交通活性化協議会	アルピコ交通(株)	県道戸隠線	長野市地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、中古等での車両の購入や沿線の学校等に時刻表等の配布を行いより一層の利用促進を図っている。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	目標輸送量37.2 に対して、利用者が伸びなかったことから、実績輸送量19.0であった。	長野市地域公共交通会議と連携し、コロナ禍における感染防止対策の実施や周知を図るなどし、利用促進を図っていく。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	アルピコ交通(株)	新町大原橋線(善光寺大門～新町)	長野市地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、中古等での低床車両の購入や沿線の学校等に時刻表等の配布を行いより一層の利用促進を図っている。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	目標輸送量27.8 に対して、利用者が伸びなかったことから、実績輸送量18.5であった。	長野市地域公共交通会議と連携し、コロナ禍における感染防止対策の実施や周知を図るなどし、利用促進を図っていく。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	アルピコ交通(株)	新町大原橋線(善光寺大門～大原橋・犀峽高校)	長野市地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、中古等での低床車両の購入や沿線の学校等に時刻表等の配布を行いより一層の利用促進を図っている。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	目標輸送量25.7 に対して、利用者が伸びなかったことから、実績輸送量18.8であった。	長野市地域公共交通会議と連携し、コロナ禍における感染防止対策の実施や周知を図るなどし、利用促進を図っていく。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	アルピコ交通(株)	山形線 ※車両減価償却費等国庫補助金	協議会と連携して全線時刻表を作成・配布を行ない公共交通利用促進を図っているほか、令和3年度はバリア解消を目的としてノンステップバスを1台導入した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	目標輸送量38.1 に対して、実績輸送量38.6であった。	山形村及び松本市地域公共交通会議と連携し、コロナ禍における感染防止対策の実施や周知を図るなどし、利用促進を図っていく。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	アルピコ交通(株)	四賀線 ※車両減価償却費等国庫補助金	協議会と連携して全線時刻表を作成・配布を行ない公共交通利用促進を図っている。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	目標輸送量27.9 に対して、利用者が伸びなかったことから、実績輸送量16.1であった。	松本市地域公共交通会議と連携し、コロナ禍における感染防止対策の実施や周知を図るなどし、利用促進を図っていく。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	アルピコ交通(株)	本線 岡谷～茅野線	市町村と連携し、時刻表冊子を作成・配布を行い、公共交通利用促進を図っている。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	目標輸送量35.8 に対して、利用者が伸びなかったことから、実績輸送量27.9であった。	慢性的に渋滞する国道20号線を走行する為、一部バス停での時刻見直しを進めるとともに、コロナ禍における感染防止対策の実施や周知を図るなどし、利用促進を図っていく。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
長野県公共交通活性化協議会	千曲バス(株)	佐久上田線	土日祝日の運休を引き続き実施して経費削減を図った。また、上田市運賃低減バス実証運行の利用促進活動を実施した。新しい生活様式に即した車内設備(感染予防対策)を施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 目標輸送量: 15.0 に対して 実績輸送量6.0であった コロナ禍の為に大幅に利用者が減少したと考えられる。	沿線自治体からの支援で路線存続を維持して来たが、令和3年9月末日をもって路線廃止に至った。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	千曲バス(株)	中仙道線	佐久市内循環バスとの接続を引き続き実施した。新しい生活様式に即した車内設備(感染予防対策)を施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 目標輸送量: 40.0 に対して 実績輸送量11.9であった コロナ禍の為に大幅に利用者が減少したと考えられる。	佐久市内循環バスが令和3年9月末日をもって廃止となった。令和3年10月より運賃低減バスが始まったことに伴い、利用促進活動を実施して行く。また、新しい生活様式に即した車内設備等を充実させてゆく。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	千曲バス(株)	鹿教湯線(鹿教湯車庫～下秋和)	高校への定期券出張販売や上田市運賃低減バス実証運行の利用促進活動を実施した。コロナ禍のため規模は縮小したがプレゼントキャンペーンなど実施した。新しい生活様式に即した車内設備(感染予防対策)を施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 目標輸送量: 50.0 に対して 実績輸送量42.1であった コロナ禍の為に大幅に利用客が減少したと考えられる。	運賃低減バスが継続されているため、季節に合わせた車内デコレーションやプレゼントキャンペーンなど、引き続き利用促進活動を実施する。また、新しい生活様式に即した車内設備等を充実させてゆく。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	千曲バス(株)	鹿教湯線(丸子～下秋和) ※公有民営方式車両購入費国庫補助金	高校への定期券出張販売や上田市運賃低減バス実証運行の利用促進活動を実施した。コロナ禍のため規模は縮小したがプレゼントキャンペーンなど実施した。新しい生活様式に即した車内設備(感染予防対策)を施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 目標輸送量: 60.0 に対して 実績輸送量50.8であった コロナ禍の為に大幅に利用客が減少したと考えられる。	運賃低減バスが継続されているため、季節に合わせた車内デコレーションやプレゼントキャンペーンなど、引き続き利用促進活動を実施する。また、新しい生活様式に即した車内設備等を充実させてゆく。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	千曲バス(株)	青木線 ※公有民営方式車両購入費国庫補助金	青木村・上田市と連携した運賃低減バス実証運行の利用促進活動を実施した。貨客混載バスも引き続き実施した。コロナ禍のため規模は縮小したがプレゼントキャンペーンなど実施した。新しい生活様式に即した車内設備(感染予防対策)を施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 目標輸送量: 70.0 に対して 実績輸送量56.0であった コロナ禍の為に大幅に利用客が減少したと考えられる。	運賃低減バスが継続されているため、季節に合わせた車内デコレーションやプレゼントキャンペーンなど、引き続き利用促進活動を実施する。貨客混載バスを有効活用し、生産性を向上させる。また、新しい生活様式に即した車内設備等を充実させてゆく。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
長野県公共交通活性化協議会	上田バス(株)	真田線	夏休みキッズパスの配布。モビリティマネジメントの実施。回数券、定期券購入者向けの粗品プレゼントキャンペーンの実施。車内装飾を期間限定で実施。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	目標輸送量は20.6人に対して輸送量は12.9人であった。	新型コロナウイルス感染症の拡大により乗車率が下がり、収支率も前年に比べ悪化した。感染症拡大防止対策を講じた上で、現状の運行を維持し、バスの乗り方教室等利用啓発を行う。QR決済の導入により利用率の向上を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	上田バス(株)	菅平高原線 ※車両減価償却費等国庫補助金	夏休みキッズパスの配布。沿線近隣の小中学生を対象としたバスの乗り方教室の実施、将来の利用者掘り起し。複数回乗車のお客様に高原野菜プレゼント企画実施。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	目標輸送量は41.4人に対して輸送量は27.3人であった。	新型コロナウイルス感染症の拡大により乗車率が下がったが、収支は前年とほぼ同額。感染症拡大防止対策を講じた上で、菅平観光協会と協力し、今後も高原野菜のプレゼント等の企画を実施していく。新たに開始したQR決済を周知し利便性向上を促し乗車率増加を目指す。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	上田バス(株)	真田自治センター入口線 ※公有民営方式車両購入費国庫補助金	夏休みキッズパスの配布。モビリティマネジメントの実施。回数券、定期券購入者向けの粗品プレゼントキャンペーンの実施。車内装飾を期間限定で実施。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	目標輸送量は33.2人に対して輸送量は11.6人であった。	新型コロナウイルス感染症の拡大により乗車率が下がり、収支率も前年に比べ悪化した。感染症拡大防止対策を講じた上で、上田市と協力し、観光客取り込みを目指す。又QR決済の導入により利用率の向上を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	信南交通(株)	駒場線(中村経由) ※公有民営方式車両購入費国庫補助金	利用者の利便性向上として「阿智村巡回バス乗車券」の共通利用を検討するが、精算方に課題があり継続検討する。	A	計画通りに事業は適切に実施された。	B	沿線高校2校において令和3年度より生徒数減少によりクラス数が減少となり輸送量42.4人の目標に対し実績30.1人と大きく下回ってしまう。	飯田市地域公共交通改善市民会議および南信州地域交通問題協議会と連携しコロナ禍における感染防止対策の実施および周知を行い利用促進を図って行く。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	信南交通(株)	駒場線(市立病院経由)	利用者の利便性向上として「阿智村巡回バス乗車券」の共通利用を検討するが、精算方に課題があり継続検討する。	A	計画通りに事業は適切に実施された。	B	目標輸送量24.8人に対しコロナ禍による市立病院への通院利用が大きく減少し実績輸送量15.6人であった。	飯田市地域公共交通改善市民会議および南信州地域交通問題協議会と連携しコロナ禍における感染防止対策の実施および周知を行い利用促進を図って行く。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
長野県公共交通活性化協議会	諏訪交通(株)	諏訪湖周スワンバス外回り線	今回初めての事業評価であるため反映状況無し。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 目標輸送量:15.0に対して実績輸送量29.5であった。	若年層(高校生)を対象とした乗車体験イベントを実施し利用促進を図る。観光客の取り込みをするため、観光マップ・時刻表を配布し利用拡大を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	ジェイアールバス関東(株)	諏訪湖周スワンバス内回り線	今回初めての事業評価であるため反映状況無し。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量:15.0に対して実績輸送量30.8であった。	二市一町(諏訪市、岡谷市、下諏訪町)と連携し利用促進を図る。お客様個々の利用状況に合わせた時刻表を提供するサービスの実施(乗り継ぎ等)。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
富山県生活路線バス協議会	富山地方鉄道㈱	滑川 ※車両減価償却費等国庫補助金	感染症防止対策を実施中である旨をHP等に掲出し、安心して利用できることをPRするとともに、夏休みの親子でおでかけキャンペーンなど関係自治体との利用促進に取り組み、利用者の増加に努めた。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 新型コロナウイルスや大雪の影響を受け、今年度の利用者は100,428人となり、前年比95%と減少した。新型コロナウイルスの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	新型コロナウイルスの影響により利用が減少している高齢者や通勤利用者向けに安価な定期券をPRし、沿線自治体や地元の大学と連携して、利用促進・効果把握に取り組む。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
富山県生活路線バス協議会	富山地方鉄道㈱	猪谷 ※車両減価償却費等国庫補助金	感染症防止対策を実施中である旨をHP等に掲出し、安心して利用できることをPRした。加えて、富山市民病院やアピタ富山店に時刻表を掲出するとともに、夏休みの親子でおでかけキャンペーンなど関係自治体との利用促進にも取り組み、利用者の増加に努めた。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 新型コロナウイルスや大雪の影響を受け、今年度の利用者は139,004人となり、前年比95%と減少した。新型コロナウイルスの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	新型コロナウイルスの影響により利用が減少している高齢者や通勤利用者向けに安価な定期券をPRし、富山市や地元の大学と連携して、利用促進・効果把握に取り組む。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
富山県生活路線バス協議会	富山地方鉄道㈱	富山～高岡 ※車両減価償却費等国庫補助金	感染症防止対策を実施中である旨を自社のHPや高岡市のHP等に掲出し、安心して利用できることをPRした。加えて、夏休みの親子でおでかけキャンペーンなど関係自治体との利用促進に取り組み、利用者の増加に努めた。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 新型コロナウイルスや大雪の影響を受け今年度の利用者は218,211人となり、前年比99%と微減した。新型コロナウイルスの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	新型コロナウイルスの影響により利用が減少している高齢者や通勤利用者向けに安価な定期券をPRし、沿線自治体や地元の大学と連携して、利用促進・効果把握に取り組む。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
富山県生活路線バス協議会	富山地方鉄道㈱	富山～小杉 ※車両減価償却費等 国庫補助金	感染症防止対策を実施中である旨をHP等に掲出し、安心して利用できることをPRした。加えて、夏休みの親子でおでかけキャンペーンなど関係自治体との利用促進に取り組み、利用者の増加に努めた。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	新型コロナウイルスや大雪の影響を受けたものの、沿線の学校の需要の多い時間帯に増発した結果、今年の利用者は107,712人で前年比115%と増加した。新型コロナウイルスの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	新型コロナウイルスの影響により利用が減少している高齢者や通勤利用者向けに安価な定期券をPRし、沿線自治体や地元の大学と連携して、利用促進・効果把握に取り組む。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
富山県生活路線バス協議会	富山地方鉄道㈱	山田 ※車両減価償却費等 国庫補助金	感染症防止対策を実施中である旨をHP等に掲出し、安心して利用できることをPRした。加えて、沿線の商業施設ファボーレへの利便性を保つため、休日は他の系統を含め、20分に1本のパターンダイヤを維持するなど、利用者の増加に努めた。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B	新型コロナウイルスや大雪の影響を受け、今年度の利用者は105,332人となり、前年比97%と減少した。新型コロナウイルスの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	新型コロナウイルスの影響により利用が減少している高齢者や通勤利用者向けに安価な定期券をPRし、富山市や地元の大学と連携して、利用促進・効果把握に取り組む。加えて、学校や地元の商業施設と連携して、利用促進に取り組む。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
富山県生活路線バス協議会	富山地方鉄道㈱	ファボーレ経 由萩の島 ※車両減価償却費等 国庫補助金	感染症防止対策を実施中である旨をHP等に掲出し、安心して利用できることをPRした。加えて、沿線の商業施設ファボーレへの利便性を保つため、休日は他の系統を含め、20分に1本のパターンダイヤを維持するなど、利用者の増加に努めた。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	新型コロナウイルスや大雪の影響を受けたものの、今年度の利用者は68,670人となり、前年比103%と増加した。新型コロナウイルスの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	新型コロナウイルスの影響により利用が減少している高齢者や通勤利用者向けに安価な定期券をPRし、富山市や地元の大学と連携して、利用促進・効果把握に取り組む。加えて、学校や地元の商業施設と連携して、利用促進に取り組む。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
富山県生活路線バス協議会	富山地方鉄道㈱	熊野經由八尾 ※車両減価償却費等 国庫補助金	感染症防止対策を実施中である旨をHP等に掲出し、安心して利用できることをPRした。加えて、沿線の商業施設ファボーレへの利便性を保つため、休日は他の系統を含め、20分に1本のパターンダイヤを維持するなど、利用者の増加に努めた。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B	新型コロナウイルスや大雪の影響を受け今年度の利用者は176,941人となり、前年比95%と減少した。新型コロナウイルスの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	新型コロナウイルスの影響により利用が減少している高齢者や通勤利用者向けに安価な定期券をPRし、富山市や地元の大学と連携して、利用促進・効果把握に取り組む。加えて、学校や地元の商業施設と連携して、利用促進に取り組む。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
富山県生活路線バス協議会	富山地方鉄道㈱	城端	沿線自治体から要望の出ている城端バス停を城端駅のターミナルへ移設し、利用者の待合環境を良くするなど、利便性の向上に努めた。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B	新型コロナウイルスや大雪の影響を受け、今年度の利用者は94,457人となり、前年比92%と減少した。	新型コロナウイルス感染防止対策をPRするとともに、沿線自治体と連携して、利用促進に取り組む。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
富山県生活路線バス協議会	富山地方鉄道(株)	富山-国立富山病院 ※車両減価償却費等国庫補助金	感染症防止対策を実施中である旨をHP等に掲出し、安心して利用できることをPRした。加えて、富山市のおでかけ定期券や親子でおでかけキャンペーンなど関係自治体と利用の促進に取り組む、利用者の増加に努めた。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	運行本数を増加させたことにより、今年度の利用者は77,113人となり、前年比105%と増加した。新型コロナウイルスの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	新型コロナウイルスの影響により利用が減少している高齢者や通勤利用者向けに安価な定期券をPRし、富山市や地元の大学と連携して、利用促進・効果把握に取り組む。加えて、学校や地元の商業施設と連携して、利用促進に取り組む。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
富山県生活路線バス協議会	富山地方鉄道(株)	布目経由新港東口 ※車両減価償却費等国庫補助金	感染症防止対策を実施中である旨をHP等に掲出し、安心して利用できることをPRした。加えて、沿線学校の利便性向上のため、運行本数を増やすとともに、学校付近にバス停を新設し、利用促進に努めたことに加え、親子でおでかけキャンペーンなど関係自治体と利用の促進に取り組む、利用者の増加に努めた。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	運行本数を増加させたことにより、今年の利用者は97,322人で前年比118%と増加した。新型コロナウイルスの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	引き続き、安心して利用できるよう、感染症防止対策に取り組むことに加え、沿線の学校と連携し、利便性の高いダイヤを検討し、利用促進に取り組む。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
富山県生活路線バス協議会	加越能バス(株)	脇 ※車両減価償却費等国庫補助金	各種割引定期券の販売、バス位置情報の提供等、沿線市町村と連携しPRに努め、利用促進に取り組んだが、新型コロナの影響を受け輸送人員・運送収入とも減少した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B	今年度の利用者数は108,385人で前年度比95.9%となり新型コロナの影響を受け輸送人員は減少した。新型コロナの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	新型コロナ感染防止対策等、安心安全な公共交通を沿線市と連携しPRに努め利用促進に取り組む回復を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
富山県生活路線バス協議会	加越能バス(株)	守山経由水見 ※車両減価償却費等国庫補助金	各種割引定期券の販売、バス位置情報の提供等、沿線市町村と連携しPRに努め利用促進に取り組む、輸送人員・運送収入とも微増した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	今年度の利用者数は53,478人で前年度比102.9%となり改善した。新型コロナの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	新型コロナ感染防止対策等、安心安全な公共交通を沿線市と連携しPRに努め利用促進に取り組む回復を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
富山県生活路線バス協議会	加越能バス(株)	新高岡守山 ※車両減価償却費等国庫補助金	各種割引定期券の販売、バス位置情報の提供等、沿線市町村と連携しPRに努め、利用促進に取り組んだが、新型コロナの影響を受け輸送人員・運送収入とも減少した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B	今年度の利用者数は128,417人で前年度比98.0%となり新型コロナの影響を受け輸送人員は減少した。新型コロナの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	新型コロナ感染防止対策等、安心安全な公共交通を沿線市と連携しPRに努め利用促進に取り組む回復を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
富山県生活路線バス協議会	加越能バス(株)	伏木經由水見 ※車両減価償却費等国庫補助金	各種割引定期券の販売、バス位置情報の提供等、沿線市町村と連携しPRに努め利用促進に取り組んだが、新型コロナウイルスの影響を受け輸送人員・運送収入とも減少した。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	今年度の利用者数は77,982人で前年度比81.9%となり新型コロナウイルスの影響を受け輸送人員は減少した。新型コロナウイルスの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	新型コロナウイルス感染防止対策等、安心安全な公共交通を沿線市と連携しPRに努め利用促進に取り組む回復を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
富山県生活路線バス協議会	加越能バス(株)	仏生寺 ※車両減価償却費等国庫補助金	各種割引定期券の販売、バス位置情報の提供等や沿線市町村と連携し沿線の学校等への利便性をPRし潜在的な利用者の掘り起こしに取り組んだが、新型コロナウイルスの影響を受け輸送人員・運送収入とも減少した。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	今年度の利用者数は68,627人で前年度比81.8%となり新型コロナウイルスの影響を受け輸送人員は減少した。新型コロナウイルスの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	新型コロナウイルス感染防止対策等、安心安全な公共交通を沿線市と連携しPRに努め利用促進に取り組む回復を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
富山県生活路線バス協議会	加越能バス(株)	石動 ※車両減価償却費等国庫補助金	各種割引定期券の販売、バス位置情報の提供等や沿線市町村と連携し沿線の学校等への利便性をPRし潜在的な利用者の掘り起こしを行ったが、新型コロナウイルスの影響により輸送人員・運送収入とも減少した。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	今年度の利用者数は51,088人で前年度比92.0%となり新型コロナウイルスの影響を受け輸送人員は減少した。新型コロナウイルスの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	新型コロナウイルス感染防止対策等、安心安全な公共交通を沿線市と連携し又、地元住民へのPRに努め利用促進に取り組む回復を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
富山県生活路線バス協議会	加越能バス(株)	済生会・中田団地 ※車両減価償却費等国庫補助金	各種割引定期券の販売、バス位置情報の提供等や沿線市町村と連携し沿線の学校等への利便性をPRし潜在的な利用者の掘り起こしを行ったが、新型コロナウイルスの影響により輸送人員・運送収入とも減少した。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	今年度の利用者数は29,026人で前年度比89.1%となり新型コロナウイルスの影響を受け輸送人員は減少した。新型コロナウイルスの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	新型コロナウイルス感染防止対策等、安心安全な公共交通を沿線市と連携し又、地元住民へのPRに努め利用促進に取り組む回復を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
富山県生活路線バス協議会	加越能バス(株)	城端白川郷 ※車両減価償却費等国庫補助金	国内外からの観光客にも分かり易いようバス位置情報やフリーWi-Fiの提供、また企画切符・商品の販売を継続し利用促進に取り組んだが、新型コロナウイルスの影響により輸送人員・運送収入とも減少した。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	今年度の利用者数は観光需要の落ち込みが大きく、18,808人で前年度比40.0%となり新型コロナウイルスの影響を受け輸送人員は減少した。新型コロナウイルスの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	新型コロナウイルス感染防止対策等、安心安全な公共交通を沿線市と連携しPRに努めるとともに、企画乗車券等を企画し国内観光需要の取り込み等利用促進に取り組む回復を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
富山県生活路線バス協議会	加越能バス(株)	庄川町 ※車両減価償却費等国庫補助金	各種割引定期券の販売、バス位置情報の提供等や沿線市町村と連携し沿線の学校等への利便性をPRし潜在的な利用者の掘り起こしを行ったが、新型コロナウイルスの影響により輸送人員・運送収入とも減少した。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	今年度の利用者数は90,969人で前年度比88.8%となり新型コロナウイルスの影響を受け輸送人員は減少した。新型コロナウイルスの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	新型コロナウイルス感染防止対策等、安心安全な公共交通を沿線市と連携しPRに努めるとともに、沿線観光地の情報発信により国内観光需要の取り込み等利用促進に取り組む回復を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
富山県生活路線バス協議会	西日本ジェイアールバス(株)	名金	バスロケーションシステム導入への参画や、青春18きっぷ利用者への割引施策実施等、幅広いニーズに対応した施策の実施や、継続した地域イベント等への参画等、モビリティマネジメントの取り組みにより、当該路線及び沿線地域のPRに努めた。	A 計画どおり適切に実行された。	B 前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受け利用者数が回復せず対前年93.2%に留まった。 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	引続きバスロケーションシステムへの参画、青春18きっぷ利用者への割引施策実施等、幅広いニーズに対応した施策の実施や、継続した地域イベント等への参画等、モビリティマネジメントの取り組みに加え、沿線施設と連携した企画乗車券の造成の検討を進めることにより、当該路線及び沿線地域のPRに努める。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
石川県生活交通の確保に関する地域協議会	北鉄金沢バス(株)	津幡(旧道)	社会情勢に注視しながら必要なダイヤ、便数の確保に努め、利用者のニーズに対応した。また、森本駅改修工事が完了したため乗り入れを行いJRとの接続を確保した。	B 計画どおり実行されていない点があった 理由: 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からバスの乗り方教室の開催および学生に対する通学ルートの周知活動を中止したため。	B 県内路線バス利用者数の維持(R1.10~R2.9) 48,175人→(R2.10~R3.9) 34,665人 ※減少理由: コロナ禍に伴い観光客を中心とした定期外利用が減少したため。	引き続き社会情勢に注視し必要なダイヤ、便数の確保を行っていく。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
石川県生活交通の確保に関する地域協議会	北鉄金沢バス(株)	津幡(新道)	社会情勢に注視しながら必要なダイヤ、便数の確保に努め、利用者のニーズに対応した。また、森本駅改修工事が完了したため乗り入れを行いJRとの接続を確保した。	B 計画どおり実行されていない点があった 理由: 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からバスの乗り方教室の開催および学生に対する通学ルートの周知活動を中止したため。	B 県内路線バス利用者数の維持(R1.10~R2.9) 85,553人→(R2.10~R3.9) 83,481人 ※減少理由: コロナ禍に伴い観光客を中心とした定期外利用が減少したため。	引き続き社会情勢に注視し必要なダイヤ、便数の確保を行っていく。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
石川県生活交通の確保に関する地域協議会	北鉄金沢バス(株)	内灘	社会情勢に注視しながら必要なダイヤや便数の確保に努め、利用者のニーズに沿ったものにするにより、旅客の利便性の確保を維持する。	B 計画どおり実行されていない点があった 理由: 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からバスの乗り方教室の開催および学生に対する通学ルートの周知活動を中止したため。	B 県内路線バス利用者数の維持(R1.10~R2.9) 72,291人→(R2.10~R3.9) 68,241人 ※減少理由: コロナ禍に伴い観光客を中心とした定期外利用が減少したため。	引き続き社会情勢に注視し必要なダイヤ、便数の確保を行っていく。 また、新たな潜在的な需要を掘り起こすため大友、県庁方面を経由する系統へ変更する予定。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
石川県生活交通の確保に関する地域協議会	西日本ジェイアールバス(株)	名金 ※車両減価償却費等国庫補助金	引続きバスロケーションシステムへの参画、青春18きっぷ利用者への割引施策を例年の夏、冬に加え春にも拡大して実施し需要喚起を行った。金沢カーフリーデー参加により、当該路線及び沿線地域のPRに努めた。	A 計画どおり実行された	B 県内路線バス利用者数の維持(R1.10~R2.9) 44,134人→(R2.10~R3.9) 41,111人 ※減少理由: 引き続き新型コロナウイルスの影響が続く利用者数が減少したため。	引き続きバスロケーションシステムへの参画による利便性向上や、青春18きっぷ利用者への割引施策継続、イベント等への参画等モビリティマネジメントによる当該路線及び沿線地域のPRに努める。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
石川県生活交通の確保に関する地域協議会	北鉄加賀バス(株)	温泉山中A	地元利用者向けにはJR接続等を重視したダイヤ編成及び時刻表全戸配布の継続の他、加賀市が推進するMaaSの取組へ適宜参画することにより、利便性の向上を図る。インバウンド対応はコロナ感染拡大の状況を見て実施するか否かを改めて判断する。	A 計画どおり実行された	B 県内路線バス利用者数の維持(R1.10～R2.9)99,124人→(R2.10～R3.9)76,588人 ※減少理由:コロナ禍の長期化で、観光客を中心とした定期外利用が減少し、回復も鈍いため。	地元利用者向けにはJR接続等を重視したダイヤ編成及び時刻表全戸配布の継続の他、加賀市が推進するMaaSの本格実施へ向けて積極的に参画することにより、利便性の向上(キャッシュレス決済、他の交通モード(乗合タクシー・CANBUS)との連携)を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
石川県生活交通の確保に関する地域協議会	北鉄加賀バス(株)	温泉山中H	地元利用者向けにはJR接続等を重視したダイヤ編成及び時刻表全戸配布の継続の他、加賀市が推進するMaaSの取組へ適宜参画することにより、利便性の向上を図る。インバウンド対応はコロナ感染拡大の状況を見て実施するか否かを改めて判断する。	A 計画どおり実行された	B 県内路線バス利用者数の維持(R1.10～R2.9)91,611人→(R2.10～R3.9)75,697人 ※減少理由:コロナ禍の長期化で、観光客を中心とした定期外利用が減少し、回復も鈍いため。	地元利用者向けにはJR接続等を重視したダイヤ編成及び時刻表全戸配布の継続の他、加賀市が推進するMaaSの本格実施へ向けて積極的に参画することにより、利便性の向上(キャッシュレス決済、他の交通モード(乗合タクシー・CANBUS)との連携)を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
石川県生活交通の確保に関する地域協議会	北鉄能登バス(株)	富来	沿線の幼稚園・保育園の園児が描いたバスの絵を車内に掲示する「ギャラリーバス」を令和3年1～3月に運行した。また、コロナにより開催が延期になっている「バスの乗り方教室」は今年度も開催できる状況ではなかったため、引き続き開催の可能性を探る。	B 計画どおり実行されていない点があった 理由:計画していた写真コンテストについて、他のグループ会社で既に開催されており、イベントの重複を避けるために実施を見送ったため。	B 県内路線バス利用者数の維持(R1.10～R2.9)人133,989人→(R2.10～R3.9)人130,033人 ※減少理由:新型コロナウイルス感染拡大及び2便減便による利用客の減少。	復刻カラーバスの期間限定運行等、話題性を上げることで地元以外からの利用客増を目指す。また、コロナにより開催が延期となっている「バスの乗り方教室」も引き続き開催の可能性を探る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
石川県生活交通の確保に関する地域協議会	能登島交通(株)	曲	和倉温泉観光協会と連携したお得な1日券の販売、七尾市による健康センター等を利用した場合の運賃割引制度、65歳以上の対象とした割引回数券の販売を継続するとともに、沿線上の観光資源(能登島周辺を周遊するイルカなど)の情報をSNS等の媒体で発信する他、高齢者への弁当の配送を目的とした貨客混載を検討する。	B 計画どおり実行されていない点があった 理由:新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から弁当の配送を取りやめたため。	A 県内路線バス利用者数の維持(R1.10～R2.9)46,617人→(R2.10～R3.9)46,909人	和倉温泉観光協会と連携したお得な1日券の販売継続、七尾市による健康センター等を利用した場合の運賃割引制度・65歳以上を対象とした割引回数券の販売継続、HPやSNSによる情報発信の継続。 また、貨客混載については、新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、実施するか否かを改めて判断する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであるが、計画に位置付けられたとおり適切に事業を実施し、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
中能登町地域公共交通協議会	北鉄能登バス(株)	中能登町コミュニティバス 通称:おりひめバス	<p>・免許返納者に進呈した回数券の利用状況の把握は継続できている。モニター的な協力については、今後実施予定。</p> <p>・観光施策との連携、交通系情報サイトへの情報提供の実施について、現在時刻表データのオープンデータ化に着手し、ダイヤ改正の処理も実施している。</p> <p>・総合時刻表マップを更新し、令和3年3月末に発行した。乗り方についての動画を編集し、令和3年3月末までに町のCATVで放映。また、YouTubeにも配信済。</p> <p>・バス無料の日などの利用啓発事業については、これまで町のイベント開催時に実施してきたが、コロナの影響で、イベント自体が開催できず実施できなかった。代わりに、ワクチン接種用の無料回数券を高齢者に配付し、延べ人数47名(幹線のみ、フィーダー107名)の利用があり、高齢者の方々の移動手段として貢献し、接種率向上の一助になった。</p>	A 事業は計画どおり適切に実施された。	B <p>・年間利用者数 目標31,200人 実績23,985人 (前年実績28,591人)</p> <p>・免許返納者利用者数 目標763人 実績747人 (前年実績666人)</p> <p>・収支率の達成状況 目標15.8% 実績12.3% (前年実績14.5%)</p> <p>年間利用者数はコロナの影響で大きく下回った。免許返納者の利用者数は、目標には届かなかったが、返納者の増により、前年を上回る実績となった。収支率は前年度比2.2%減少し、大きく下回った。未達成理由は、コロナの影響を大きく受け、利用者数が伸び悩んだため。</p>	<p>・コロナ禍において、大幅に利用者数が落ち込んでいるが、引き続きこれまでの取り組みを実施する。</p> <p>・引き続き免許返納者に対する取り組みを実施する。返納者からの意見を聞くため、利用後のアンケートをお願いする仕組みを構築する。</p> <p>・観光施策との連携、交通系情報サイトへの情報提供の実施についてはオープンデータ化に向けて取り組みを続ける。</p> <p>・総合時刻表マップの更新、乗り方教室(CATVの番組作成)やバス無料の日などの利用啓発事業は引き続き実施して行く。</p>	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
村上市地域公共交通活性化協議会	事業者名：新潟交通観光バス㈱	村上市まちなか循環バス(小回り循環)	利用促進に向けたPR活動として、時刻表の配布を継続して行った。 また、村上総合病院の移転に伴い、運行ルートの変更を実施し、利用者の利便性向上に努めた。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 1日当たりの平均利用者数を目標値として設定。新型コロナウイルス感染症等の影響により、計画に位置付けられた目標を達成することができなかった。計画に位置付けられた目標が45人/日に対して、実績が37人/日であった。	地域公共交通計画の施策に沿って、利用促進に向けたPR活動を行うと共に、利用者のニーズ調査、ダイヤの見直しやバス停留所の整備等、利用者の利便性向上を図り、利用者の増加を目指した見直しを進める。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、示された改善策と目標が達成されなかった理由との関連性が不明確であることから、目標が達成されなかった理由に対応した新たな具体策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となつて適切に進めていくとともに、今後も適切に検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
村上市地域公共交通活性化協議会	事業者名：新潟交通観光バス㈱	村上市まちなか循環バス(大回り～小回り循環)					協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、示された改善策と目標が達成されなかった理由との関連性が不明確であることから、目標が達成されなかった理由に対応した新たな具体策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となつて適切に進めていくとともに、今後も適切に検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
村上市地域公共交通活性化協議会	事業者名: 新潟交通観光バス(株)	村上～馬下～寒川線	沿線住民への市報・チラシ等の配布により利用を呼びかけました。また、学割半額制度の周知を行い、利用促進を図った。さらに、村上総合病院の移転に伴い、運行ルートの変更を実施し、利用者の利便性向上に努めた。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 1日当たりの平均利用者数を目標値として設定。新型コロナウイルス感染症等の影響により、計画に位置付けられた目標を達成することができなかった。計画に位置付けられた目標が15人/日に対して、実績が12人/日であった。	引き続き、市報・HP等による利用の呼びかけと、学割半額制度の周知を行い、利用促進を図る。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、示された改善策と目標が達成されなかった理由との関連性が不明確であることから、目標が達成されなかった理由に対応した新たな具体策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切に検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
村上市地域公共交通活性化協議会	事業者名: 新潟交通観光バス(株)	村上市せなみ巡回バス	利用促進に向けたPR活動として、時刻表の配布を継続して行った。また、村上総合病院の移転に伴い、運行ルートの変更を実施し、利用者の利便性向上に努めた。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 1日当たりの平均利用者数を目標値として設定。新型コロナウイルス感染症等の影響により、計画に位置付けられた目標を達成することができなかった。計画に位置付けられた目標が22人/日に対して、実績が17人/日であった。	地域公共交通計画の施策に沿って、利用促進に向けたPR活動を行うと共に、利用者のニーズ調査、ダイヤの見直しやバス停留所の整備等、利用者の利便性向上を図り、利用者の増加を目指した見直しを進める。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、示された改善策と目標が達成されなかった理由との関連性が不明確であることから、目標が達成されなかった理由に対応した新たな具体策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切に検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
村上市地域公共交通活性化協議会	事業者名: 新潟交通観光バス㈱	村上～塩野町～北中線	沿線住民に市報・チラシ等の配布により路線バスの利用を呼びかけました。また、学割半額制度の周知を行い、利用促進を図りました。 さらに、村上総合病院の移転に伴い、運行ルートの変更を実施し、利用者の利便性向上に努めました。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 1日当たりの平均利用者数を目標値として設定。新型コロナウイルス感染症等の影響により、計画に位置付けられた目標を達成することができなかった。 計画に位置付けられた目標が36人/日に対して、実績が28人/日であった。	引き続き、市報・HP等による利用の呼びかけと、学割半額制度の周知を行い、利用促進を図る。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、示された改善策と目標が達成されなかった理由との関連性が不明確であることから、目標が達成されなかった理由に対応した新たな具体策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切に検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
阿賀野市地域公共交通協議会	事業者名：阿賀野市運行系統名：前山線(700)	京和荘～前山～阿賀野市役所	路線別時刻表の作成・配布による利用啓発を行った。市のホームページにも時刻表と路線図を掲載し、周知した。自分の利用状況に合わせたルート・時刻だけを抽出したオリジナル時刻表(マイ時刻表)の作成サービスを実施した。高校新1年生向けに利用促進パンフレットを配布した。75歳以上高齢者の利用料を免除と高齢者運転免許証返納者への支援を継続実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標である1回平均2.0人に対し、1.3人で目標を達成できなかった。通院利用者が利用頻度を抑えた又は施設入所等により利用を終了したこと、高校生の通学利用が卒業により減少したことが考えられる。	・路線別時刻表の表現方法を工夫し、見やすさ、分かりやすさを図る。 ・前山地区の高校新1年生向け市営バス通学促進パンフレットの作成・配布を行う。 ・市の広報紙、ホームページ等で利用促進を図る。 ・朝の通勤・通学時間帯における鉄道への接続を引き続き確保する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
阿賀野市地域公共交通協議会	事業者名：阿賀野市運行系統名：前山線(702)	京和荘～前山～市野山(ウオロク脇)	路線別時刻表の作成・配布による利用啓発を行った。市のホームページにも時刻表と路線図を掲載し、周知した。自分の利用状況に合わせたルート・時刻だけを抽出したオリジナル時刻表(マイ時刻表)の作成サービスを実施した。75歳以上高齢者の利用料を免除と高齢者運転免許証返納者への支援を継続実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標である1回平均5.6人に対し、5.4人で目標を達成できなかった。通院利用者が利用頻度を抑えた又は施設入所等により利用を終了したことや買い物などでの利用者が外出を控えたことが考えられる。	・路線別時刻表の表現方法を工夫し、見やすさ、分かりやすさを図る。 ・市の広報紙、ホームページ等で利用促進を図る。 ・マイ時刻表作成サービスの周知や市営バスの利用方法がわからない方のための利用案内を実施する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
阿賀野市地域公共交通協議会	事業者名: 阿賀野市運行系統名:前山線(703)	市野山(ウオロク脇)～前山～京和荘	路線別時刻表の作成・配布による利用啓発を行った。市のホームページにも時刻表と路線図を掲載し、周知した。自分の利用状況に合わせたルート・時刻だけを抽出したオリジナル時刻表(マイ時刻表)の作成サービスを実施した。75歳以上高齢者の利用料を免除と高齢者運転免許証返納者への支援を継続実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標である1回平均7.5人に対し、6.2人で目標を達成できなかった。 通院利用者が利用頻度を抑えた又は施設入所等により利用を終了したことや介護施設入所者への訪問利用ができなくなったことが考えられる。	・路線別時刻表の表現方法を工夫し、見やすさ、分かりやすさを図る。 ・市の広報紙、ホームページ等で利用促進を図る。 ・マイ時刻表作成サービスの周知や市営バスの利用方法がわからない方のための利用案内を実施する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
阿賀野市地域公共交通協議会	事業者名: 阿賀野市運行系統名:神山線(902)	笹神支所～熊堂、神山駅前～阿賀野市役所	路線別時刻表の作成・配布による利用啓発を行った。市のホームページにも時刻表と路線図を掲載し、周知した。自分の利用状況に合わせたルート・時刻だけを抽出したオリジナル時刻表(マイ時刻表)の作成サービスを実施した。75歳以上高齢者の利用料を免除と高齢者運転免許証返納者への支援を継続実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標である1回平均11.1人に対し、9.4人で目標を達成できなかった。 通院利用者が利用頻度を抑えた又は施設入所等により利用を終了したことや買い物などでの利用者が外出を控えたこと、通勤利用者の減少が考えられる。	・路線別時刻表の表現方法を工夫し、見やすさ、分かりやすさを図る。 ・市の広報紙、ホームページ等で利用促進を図る。 ・マイ時刻表作成サービスの周知や市営バスの利用方法がわからない方のための利用案内を実施する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
阿賀野市地域公共交通協議会	事業者名: 阿賀野市 運行系統 名: 神山線 (903)	阿賀野市役 所～神山駅 前～笹神支 所	路線別時刻表の作成・配布による利用啓発を行った。市のホームページにも時刻表と路線図を掲載し、周知した。自分の利用状況に合わせたルート・時刻だけを抽出したオリジナル時刻表(マイ時刻表)の作成サービスを実施した。75歳以上高齢者の利用料を免除と高齢者運転免許証返納者への支援を継続実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標である1回平均4.9人に対し、4.0人で目標を達成できなかった。 利用者数は横ばいの状況であったが、新規の利用者を獲得できなかったためと考えられる。	・路線別時刻表の作成・配布を行う。 ・市の広報紙、ホームページ等で利用促進を図る。 ・マイ時刻表作成サービスの周知や市営バスの利用方法がわからない方のための利用案内を実施する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
阿賀野市地域公共交通協議会	事業者名: 阿賀野市 運行系統 名: 神山線 (904)	神山駅前～ 中ノ通～阿 賀野市役所	路線別時刻表の作成・配布による利用啓発を行った。市のホームページにも時刻表と路線図を掲載し、周知した。自分の利用状況に合わせたルート・時刻だけを抽出したオリジナル時刻表(マイ時刻表)の作成サービスを実施した。75歳以上高齢者の利用料を免除と高齢者運転免許証返納者への支援を継続実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標である1回平均8.7人に対し、7.6人で目標を達成できなかった。 通院利用者が利用頻度を抑えた又は施設入所等により利用を終了したことが考えられる。	・路線別時刻表の表現方法を工夫し、見やすさ、分かりやすさを図る。 ・市の広報紙、ホームページ等で利用促進を図る。 ・マイ時刻表作成サービスの周知や市営バスの利用方法がわからない方のための利用案内を実施する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
阿賀野市地域公共交通協議会	事業者名: 阿賀野市 運行系統 名:神山線 (901)	阿賀野市役 所~中ノ通 ~笹神支所	路線別時刻表の作成・配布による利用啓発を行った。市のホームページにも時刻表と路線図を掲載し、周知した。自分の利用状況に合わせたルート・時刻だけを抽出したオリジナル時刻表(マイ時刻表)の作成サービスを実施した。75歳以上高齢者の利用料を免除と高齢者運転免許証返納者への支援を継続実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標である1回平均6.0人に対し、6.2人で目標を達成した。 買い物や通院に利用できるダイヤを確保したことが利用者の需要と合致したと考えられる。	・路線別時刻表の表現方法を工夫し、見やすさ、分かりやすさを図る。 ・市の広報紙、ホームページ等で利用促進を図る。 ・マイ時刻表作成サービスの周知や市営バスの利用方法がわからない方のための利用案内を実施する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
阿賀野市地域公共交通協議会	事業者名: 阿賀野市 運行系統 名:神山線 (907)	阿賀野市役 所~熊堂、 中ノ通~笹 神支所	路線別時刻表の作成・配布による利用啓発を行った。市のホームページにも時刻表と路線図を掲載し、周知した。自分の利用状況に合わせたルート・時刻だけを抽出したオリジナル時刻表(マイ時刻表)の作成サービスを実施した。75歳以上高齢者の利用料を免除と高齢者運転免許証返納者への支援を継続実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標である1回平均9.1人に対し、8.1人で目標を達成できなかった。 通院利用者が利用頻度を抑えた又は施設入所等により利用を終了したことが考えられる。	・路線別時刻表の表現方法を工夫し、見やすさ、分かりやすさを図る。 ・市の広報紙、ホームページ等で利用促進を図る。 ・マイ時刻表作成サービスの周知や市営バスの利用方法がわからない方のための利用案内を実施する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
阿賀野市地域公共交通協議会	事業者名: 阿賀野市運行系統名: 神山線(951)	阿賀野市役所～熊堂、中ノ通、笹神支所～阿賀野市役所	路線別時刻表の作成・配布による利用啓発を行った。市のホームページにも時刻表と路線図を掲載し、周知した。自分の利用状況に合わせたルート・時刻だけを抽出したオリジナル時刻表(マイ時刻表)の作成サービスを実施した。75歳以上高齢者の利用料を免除と高齢者運転免許証返納者への支援を継続実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標である1回平均5.8人に対し、4.8人で目標を達成できなかった。通院利用者が利用頻度を抑えた又は施設入所等により利用を終了したことや買い物などでの利用者が外出を控えたことが考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・路線別時刻表の表現方法を工夫し、見やすさ、分かりやすさを図る。 ・市の広報紙、ホームページ等で利用促進を図る。 ・マイ時刻表作成サービスの周知や市営バスの利用方法がわからない方のための利用案内を実施する。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
阿賀野市地域公共交通協議会	事業者名: 阿賀野市運行系統名: 安田地域循環線(O2AB)	安田支所～宝珠温泉あかまつ荘～安田支所	路線別時刻表の作成・配布による利用啓発を行った。市のホームページにも時刻表と路線図を掲載し、周知した。自分の利用状況に合わせたルート・時刻だけを抽出したオリジナル時刻表(マイ時刻表)の作成サービスを実施した。75歳以上高齢者の利用料を免除と高齢者運転免許証返納者への支援を継続実施した。観光イベント等が新型コロナウイルス感染症防止対策で中止されている中ではあったが、日帰り温泉施設との連携事業として、施設で計画したイベント情報の車内PRを検討した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標である1回平均10.8人に対し、9.8人で目標を達成できなかった。買い物利用や日帰り温泉施設利用の増加が見られたが、目標を達成するだけの利用増には至らなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・路線別時刻表の表現方法を工夫し、見やすさ、分かりやすさを図る。 ・市の広報紙、ホームページ等で利用促進を図る。 ・マイ時刻表作成サービスの周知や市営バスの利用方法がわからない方のための利用案内を実施する。 ・日帰り温泉施設利用の回復に向けて情報収集を行い、新たな取り組みを検討する。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
阿賀野市地域公共交通協議会	事業者名: 阿賀野市運行系統名:安田地域循環線(04AB)	安田支所～宝珠温泉あかまつ荘～安田支所	路線別時刻表の作成・配布による利用啓発を行った。市のホームページにも時刻表と路線図を掲載し、周知した。自分の利用状況に合わせたルート・時刻だけを抽出したオリジナル時刻表(マイ時刻表)の作成サービスを実施した。75歳以上高齢者の利用料を免除と高齢者運転免許証返納者への支援を継続実施した。観光イベント等が新型コロナ感染防止対策で中止されている中ではあったが、日帰り温泉施設との連携事業として、施設で計画したイベント情報の車内PRを検討した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標である1回平均5.1人に対し、5.0人で目標を達成できなかった。日帰り温泉施設への利用者が外出を控えたことや小学校の下校利用において、沿線地域の児童数が減少したことが考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・路線別時刻表の表現方法を工夫し、見やすさ、分かりやすさを図る。 ・市の広報紙、ホームページ等で利用促進を図る。 ・マイ時刻表作成サービスの周知や市営バスの利用方法がわからない方のための利用案内を実施する。 ・日帰り温泉施設利用の回復に向けて情報収集を行い、新たな取り組みを検討する。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
阿賀野市地域公共交通協議会	事業者名: 阿賀野市運行系統名:安田地域循環線(05AB)	安田公民館～宝珠温泉あかまつ荘～安田支所	路線別時刻表の作成・配布による利用啓発を行った。市のホームページにも時刻表と路線図を掲載し、周知した。自分の利用状況に合わせたルート・時刻だけを抽出したオリジナル時刻表(マイ時刻表)の作成サービスを実施した。75歳以上高齢者の利用料を免除と高齢者運転免許証返納者への支援を継続実施した。観光イベント等が新型コロナ感染防止対策で中止されている中ではあったが、日帰り温泉施設との連携事業として、施設で計画したイベント情報の車内PRを検討した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標である1回平均2.0人に対し、1.5人で目標を達成できなかった。利用者数は横ばいの状況であったが、新規の利用者を獲得できなかったためと考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・路線別時刻表の表現方法を工夫し、見やすさ、分かりやすさを図る。 ・市の広報紙、ホームページ等で利用促進を図る。 ・マイ時刻表作成サービスの周知や市営バスの利用方法がわからない方のための利用案内を実施する。 ・日帰り温泉施設利用の回復に向けて情報収集を行い、新たな取り組みを検討する。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
阿賀野市地域公共交通協議会	事業者名: 阿賀野市 運行系統 名:安田地 域循環線 (22B)(03AB)	横町～宝珠 温泉あかま つ荘～安田 公民館	路線別時刻表の作成・配布による利用啓発を行った。市のホームページにも時刻表と路線図を掲載し、周知した。自分の利用状況に合わせたルート・時刻だけを抽出したオリジナル時刻表(マイ時刻表)の作成サービスを実施した。75歳以上高齢者の利用料を免除と高齢者運転免許証返納者への支援を継続実施した。 観光イベント等が新型コロナ感染防止対策で中止されている中ではあったが、日帰り温泉施設との連携事業として、施設で計画したイベント情報の車内PRを検討した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標である1回平均7.4人に対し、7.0人で目標を達成できなかった。 日帰り温泉施設利用の増加が見られたが、目標を達成するだけの利用増には至らなかった。	・路線別時刻表の表現方法を工夫し、見やすさ、分かりやすさを図る。 ・市の広報紙、ホームページ等で利用促進を図る。 ・マイ時刻表作成サービスの周知や市営バスの利用方法がわからない方のための利用案内を実施する。 ・日帰り温泉施設利用の回復に向けて情報収集を行い、新たな取り組みを検討する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
阿賀野市地域公共交通協議会	事業者名: 阿賀野市 運行系統 名:神山線 全系統	車両減価償却費等国庫補助金、H27年11月、マイクロスバス2台を14人乗りコムーター2台に更新(リース)	路線別時刻表の作成・配布による利用啓発を行った。市のホームページにも時刻表と路線図を掲載し、周知した。自分の利用状況に合わせたルート・時刻だけを抽出したオリジナル時刻表(マイ時刻表)の作成サービスを実施した。75歳以上高齢者の利用料を免除と高齢者運転免許証返納者への支援を継続実施した。 運行経費においては、運行維持や安全性確保の観点から削減余地を見つけることができなかった。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標である収支率2.1%以上及び3.4%以上に対し、0.4%及び1.2%で目標を達成できなかった。 75歳以上高齢者の無料化で運賃収入が増えないことが要因と考えられる。	・路線別時刻表の表現方法を工夫し、見やすさ、分かりやすさを図る。 ・市の広報紙、ホームページ等で利用促進を図る。 ・マイ時刻表作成サービスの周知や市営バスの利用方法がわからない方のための利用案内を実施する。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな具体策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
上越市地域公共交通活性化協議会	東頭バス(株)	運行路線：安塚線 うらがわら駅前～虫川大杉駅前～保健センター前	鉄道への接続に配慮したダイヤを設定し、学生を中心に利用者の移動手段を確保した。 安塚区総合事務所と連携し、お得な定期情報等を事務所日よりやチラシにより周知し利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 目標：前年度収支率より改善もしくは維持する。 前年度35.4%に対して実績30.5% (未達成) 事業効果：路線維持により、沿線住民及び学生等の移動手段を確保(達成) 目標未達成の要因：新型コロナウイルス感染症の影響による一般利用者の減少及び高田高校安塚分校へ通学する生徒の利用減により、収入全般(現金・回数券・定期券)が減り、収支率が悪化した。(運送収入前年度比▲528千円・収支率前年度比▲4.9%)	引き続き、鉄道や他のバス路線への接続に配慮したダイヤを維持することで、学生を中心に利用者の移動手段の維持確保に努める。また、安塚区総合事務所と連携し、お得な定期情報やバスロケーションシステムの案内を事務所日よりやチラシにより周知し、利用促進を図る。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
上越市地域公共交通活性化協議会	くびき野バス(株)	運行路線：島田線 高田駅前～岡原～菅根田	鉄道(高田駅)や幹線系統への接続に配慮したダイヤを設定し、沿線住民の移動手段を維持確保した。 令和3年4月に利用が少ない時間帯を減便し、効率化を図った。 また、板倉区総合事務所と連携し、お得な定期情報等を事務所日よりやチラシにより周知し利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 目標：前年度収支率より改善もしくは維持する。 前年度19.4%に対して実績22.9%(達成) 事業効果：路線維持により、沿線住民の通学、通院などの移動手段を確保(達成) 目標達成の要因：新型コロナウイルス感染症の影響より現金・回数券での利用者は減少したものの、通学利用が増加したため、定期券の運送収入は増加した。また路線再編により経常費用が減少した。(経常費用前年度比▲444千円・運送収入前年度比189千円・収支率前年度比3.5%)	引き続き、鉄道や幹線系統への接続に配慮したダイヤを維持することで、沿線住民の移動手段の維持確保に努めるとともに、観光客の需要などの確認のため、上越妙高駅へ乗り入れ実証実験を行う。また、板倉区総合事務所と連携し、お得な定期情報等を事務所日よりやチラシにより周知し利用促進を図る。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
上越市地域公共交通活性化協議会	頸城自動車(株)	運行路線: 佐内・直江津循環線 直江津駅前～労災病院前～佐内入口	鉄道(直江津駅)や幹線系統への接続に配慮したダイヤを設定し、高齢者を中心に利用者の移動手段を維持確保した。 お得な定期情報等を掲載した高齢者向けの啓発資料を労災病院や直江津ショッピングセンター前案内所へ設置し、利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 目標: 前年度収支率より改善もしくは維持する。 前年度10.2%に対して実績8.3%(未達成) 事業効果: 路線維持により、沿線高齢者を中心に通院及び買い物等の移動手段を確保(達成) 目標達成の要因: 新型コロナウイルス感染症の影響に伴う利用者の減少により、運送収入が減少したため、収支率が悪化した。(運送収入前年度比▲99千円・収支率前年度比▲1.9%)	引き続き、鉄道や幹線系統への接続に配慮したダイヤを維持することで、高齢者を中心に利用者の移動手段の維持確保に努める。また、お得な定期情報等を掲載した高齢者向けの啓発資料を労災病院へ設置するとともに、直江津ショッピングセンターでの買い物目的の利用者獲得のため、頸城自動車と連携して利用促進を図る。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、示された改善策と目標が達成されなかった理由との関連性が不明確であることから、目標が達成されなかった理由に対応した新たな具体策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切に検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
上越市地域公共交通活性化協議会	アイエムタクシー(株)	運行路線: 岡沢ルート 新井バスターミナル～中郷区総合事務所前～岡沢	鉄道や幹線系統への接続、通学に配慮したダイヤを設定し、沿線の中学生や高齢者を中心に利用者の移動手段の維持確保に努めた。 中郷区総合事務所と連携し、乗合タクシーの利用方法等をチラシにより周知し、利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 目標: 前年度収支率より改善もしくは維持する。 前年度8.6%に対して実績8.2%(未達成) 事業効果: 路線維持により、沿線の中学生や高齢者を中心に通学、通院及び買い物等の移動手段を確保(達成) 目標未達成の要因: 利用者の高齢化や学生の通学利用が減少したことにより、運送収入が減り、収支率が悪化した。(利用者数R2: 1,868人→R3: 1,285人・運送収入前年度比▲167千円・収支率前年度比▲0.4%)	引き続き、沿線の中学生や高齢者を中心に利用者の移動手段の維持確保に努める。中郷区総合事務所と連携し、乗合タクシーの利用方法等を事務所だよりやチラシにより周知し利用促進を図る。	協議会における事業評価結果の③及び⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
上越市地域公共交通活性化協議会	東頭バス(株)	<p>運行路線:月影・下保倉・末広ルート(1)、月影・下保倉・末広ルート(2)</p> <p>うらがわら駅～浦川原区中心部～谷</p> <p>運行路線:上柿野ルート</p> <p>うらがわら駅～上柿野～うらがわら駅</p> <p>運行路線:小麦平ルート</p> <p>うらがわら駅～小麦平～うらがわら駅</p>	<p>小学校の登下校時間、鉄道(うらがわら駅)との接続に配慮したダイヤを設定し、小学生を中心に沿線住民の移動手段を維持確保した。</p> <p>浦川原区総合事務所と連携し、お得な乗車券の情報を事務所だよりやチラシにより周知し利用促進を図った。</p> <p>なお、上柿野ルート・小麦平ルートは、利用実績が改善されなければ令和3年10月に廃止を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、利用者が大幅に減少したため、令和4年4月に再編を先送りすることとした。</p>	A	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	A	<p>目標:前年度収支率より改善もしくは維持する。 前年度18.1%に対して実績21.9%(達成)</p> <p>事業効果:路線維持により、沿線の小学生や高齢者を中心に通学、通院及び買い物等の移動手段を確保(達成)</p> <p>目標達成の要因:車両の減価償却が進み、固定資産償却費が減少したことにより、経常費用が減少し、収支率が改善した。(経常費用前年度比▲107千円・収支率前年度比3.8%)</p>	<p>引き続き、沿線の中学生や高齢者を中心に利用者の移動手段の維持確保に努める。浦川原区総合事務所と連携し、お得な定期情報等を事務所だよりやチラシにより周知し利用促進を図る。</p> <p>なお、上柿野ルート・小麦平ルートは、令和4年4月に路線廃止を予定している。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>
上越市地域公共交通活性化協議会	くびき野バス(株)	<p>運行路線:真砂線</p> <p>高田駅前～真砂寺前～三和体育館</p>	<p>鉄道(高田駅)との接続に配慮したダイヤを設定し、沿線住民の移動手段を維持確保した。</p> <p>三和区総合事務所と連携し、お得な定期情報等を事務所だよりやチラシにより周知し利用促進を図った。</p>	A	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	C	<p>目標:前年度収支率より改善もしくは維持する。 前年度18.9%に対して実績18.4%(未達成)</p> <p>事業効果:路線維持により、沿線住民及び学生等の移動手段を確保(達成)</p> <p>目標達成の要因:路線再編により人件費は減少したが、新型コロナウイルス感染症の影響により、運送収入全般(現金・回数券・定期券)が減少したことにより、収支率が悪化した。(経常費用前年度比▲835千円・運送収入前年度比▲247千円・収支率前年度比▲0.5%)</p>	<p>引き続き、鉄道との接続に配慮したダイヤを維持することで、沿線住民の移動手段の維持確保に努める。また、三和区総合事務所と連携し、お得な定期情報等を事務所だよりやチラシにより周知し利用促進を図る。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな具体策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
見附市地域公共交通活性化協議会	越後交通(株)	<p>コミュニティバス (おはようライナー)※補助対象外 (A直行)※補助対象外 (B通常) (B2通常名木野ルート)</p> <p>【運行期間 R2.10.1～ R3.9.30】</p>	<p>①コミュニティバスの効率的な運行を行うため、R3年4月のダイヤ改正では、利用者が多い朝夕のコアタイムの運行を増便し、20分間隔での運行を実現した(従来は30分間隔)。</p> <p>②利用者にとって分かりやすい情報提供を行うため、従来の時刻表の他、携帯版時刻表を作成した。またGTFSデータの作成を通して、時刻表をgooglemapやジョルダンに反映し、利用者がインターネットで経路検索できるよう整備した。</p> <p>③普段公共交通を利用しない人への、利用促進を目的としたモビリティマネジメントの取組みとして、市内アート美術教室に通う子どもたちや、市内小学生の作品を車内掲示し、乗車のきっかけ作りを行った(2回)。</p>	<p>A</p> <p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B</p> <p>コミュニティバス利用者 ・実績164,630人 ・前年167,243人</p> <p>※目標達成率84.4%、対前年比98.4%(計画目標数は195,000人)</p> <p>①上記による利用者実績は対前年比98.4%であるが、前年には新型コロナウイルスによる利用者減の影響を受けていない前年R1.10~R2.2月の実績も含まれている。影響を受けた期間に限定すれば、R3.3月~9月は前年同月比較で108%となり増加傾向となった。そのことから、コミュニティバスの効率的な運行のため実施した施策は効果的であったと判断し、利便性向上の目標は概ね達成できたものとする。</p> <p>②計画通り、分かりやすい情報提供に努めた。</p> <p>③計画通り、普段公共交通を利用しない人への、利用促進につとめた。</p>	<p>・利用者目標184,000人(地域公共交通計画の目標数)</p> <p>①公共交通計画により明らかとなった交通空白地域解消に向けた運行ルートの見直し。</p> <p>②モビリティマネジメントの推進。普段公共交通を利用しない人への、利用促進を行う。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
三条市地域公共交通協議会	越後交通株式会社	福沢線 (福沢～長沢駅跡)	三条市内の全中学校卒業生に対し、利用時間、利用方法、循環バスや自転車駐車場の案内などを記載したチラシを配布し、周知を図った。(R3.3)	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 福沢線については、目標に掲げた日平均利用者数2人に対し、3.6人/日と前年度の実績から0.3人/日減少したものの、目標をわずかに上回った。 高校生通学ライナーバス(東三条駅～県央工業高等学校)については、目標に掲げた日平均利用者数15人に対し、30.5人/日となり、目標を上回った。 前年度に行われた分散登校等の影響が減少したことにより、ライナーバスは前年度以上の実績となった。	下田地域の高校生の移動手段の確保といった観点から利用促進を図るよう、引き続きチラシの配布やホームページ等で情報発信に努める。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
		高校生通学ライナーバス (東三条駅～県央工業高等学校)	A 計画どおり事業は適切に実施された。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。			

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
三条市地域公共交通協議会	越後交通株式会社	市内循環バス南コース(市内)		A	<p>目標に掲げた日平均利用者数が45人に対し、61.7人/日であり、前年度の実績から3.4人/日減少したものの、目標を上回った。北コースのみ新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、目標値を0.7人下回った。※各コースの内訳(南コース 目標25人、実績39.9人)、(北コース 目標8人、実績7.3人)、(嵐北コース 目標6人、実績6.6人)、(嵐南コース 目標6人、実績7.9人)</p> <p>北コースについては、今後の路線のあり方を再度検討していく。</p>	<p>循環バスについて、利用者の減少や低調な利用実績といった実態がある反面、学生の通学手段としての利用もみられる。現在の運行については、学校等のアンケート結果を鑑み、バスの再編を視野に入れて、路線見直しの検討をしていく。また、利用促進策として、路線バスと循環バスの時刻表と経路図をセットにした「三条市バスマップ」を引き続き窓口に設置し、情報発信に努めていく。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。	
		市内循環バス北コース(市内)	路線バスと循環バスの時刻表と経路図をセットにした「三条市バスマップ」を引き続き窓口に設置し、情報発信に務めた。(R2.10～)	A			計画どおり事業は適切に実施された。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
		市内循環バス嵐南コース(市内)	また、更なる利用促進を図るため、南コース午前9:30東三条駅発の第2便を地場産先回りから大崎先回りに変更した。(R3.4)さらに市内高校・専門学校・大学等へ現運行に対する要望を聴き取りした結果、当該事業ではないが、授業に合わせた時間変更や増便の要望があった。そのため、交通事業者と協議し、バスの再編について検討中である。(R3.9)	A			計画どおり事業は適切に実施された。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
		市内循環バス嵐北コース(市内)		A			計画どおり事業は適切に実施された。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
三條市地域公共交通協議会	株式会社エス・タクシー	三條市デマンド交通(三條市内)	デマンド交通をより多くの方から利用していただけるよう、高齢者が集まる場に足を運び、デマンド交通の制度の概要や利用方法、停留所等について話をする出張説明会を13回開催した。(R2.10～R3.9)	A	B	<p>土日も含む全日運行について、目標に掲げた日平均利用者数が180人に対し、164.1人/日であり、目標を下回った。</p> <p>また、土日の運行について、目標に掲げた土曜日の日平均利用者数40人、日曜日の日平均利用者数15人/日に対し、土曜日が60.8人/日、日曜日が34.6人となった。前年度の実績と比較して、土曜日が6.3人、日曜日が6.3人の減少となったが、目標を上回った。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大により利用者数の落ち込みが続いている。</p>	<p>これまで続けてきている高齢者が集まる機会を捉えたデマンド交通出張説明会において、デマンド交通の使い方等も含めて丁寧に説明し、利用者の掘り起こしを図っていく。特に令和2年7月から運転免許証を返納した年に限り2人乗車時の料金が割引となる「おでかけバス」の購入費用を免除する取組を開始したため、その内容の周知を努めている。(令和3年12月24日現在82人の申請者)</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑥の事業の今後の改善点については、示された改善策と目標が達成されなかった理由との関連性が不明確であることから、目標が達成されなかった理由に対応した新たな具体策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切に検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>
	三條タクシー株式会社			A				

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
三条市地域公共交通協議会	中越交通株式会社	三条市デマンド交通(三条市内)	デマンド交通をより多くの方から利用していただけるよう、高齢者が集まる場に足を運び、デマンド交通の制度の概要や利用方法、停留所等について話をする出張説明会を13回開催した。(R2.10～R3.9)	A	計画どおり事業は適切に実施された。	<p>土日も含む全日運行について、目標に掲げた日平均利用者数が180人に対し、164.1人/日であり、目標を下回った。</p> <p>また、土日の運行について、目標に掲げた土曜日の日平均利用者数40人、日曜日の日平均利用者数15人/日に対し、土曜日が60.8人/日、日曜日が34.6人となった。前年度の実績と比較して、土曜日が6.3人、日曜日が6.3人の減少となったが、目標を上回った。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大により利用者数の落ち込みが続いている。</p>	<p>これまで続けてきている高齢者が集まる機会を捉えたデマンド交通出張説明会において、デマンド交通の使い方等も含めて丁寧に説明し、利用者の掘り起こしを図っていく。特に令和2年7月から運転免許証を返納した年に限り2人乗車時の料金が割引となる「おでかけバス」の購入費用を免除する取組を開始したため、その内容の周知を努めている。(令和3年12月24日現在82人の申請者)</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑥の事業の今後の改善点については、示された改善策と目標が達成されなかった理由との関連性が不明確であることから、目標が達成されなかった理由に対応した新たな具体策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切に検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>
	日の丸観光タクシー株式会社			A				

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
胎内市地域公共交通協議会	株式会社中条タクシー	区域運行(中条築地)	胎内市地域公共交通網形成計画に基づき、高齢者サロンによる出前講座の実施や検診時の回数券無料配布や施設、学校へのパンフレットの配架により「のれんす号」の利用促進を図った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	新型コロナウイルスの影響が出始めた前年と比較して、合計利用者数はほぼ横ばいで推移しており、目標155人としている平均利用者数も128.48人と引き続き低い水準となった。	新型コロナウイルスの感染予防策を継続しつつ、徐々に対面による利用説明会の場を増やし、「のれんす号」の周知・PRを推進するなど、今後も胎内市地域公共交通網形成計画に基づいた各種施策を実施していく。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
	株式会社中条タクシー	区域運行(乙)		A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B			協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
胎内市地域公共交通協議会	株式会社中条タクシー	区域運行(黒川)	胎内市地域公共交通網形成計画に基づき、高齢者サロンによる出前講座の実施や検診時の回数券無料配布や施設、学校へのパンフレットの配架により「のれんす号」の利用促進を図った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	新型コロナウイルスの影響が出始めた前年と比較して、合計利用者数はほぼ横ばいで推移しており、目標155人としている平均利用者数も128.48人と引き続き低い水準となった。 新型コロナウイルスの感染予防策を継続しつつ、徐々に対面による利用説明会の場を増やし、「のれんす号」の周知・PRを推進するなど、今後も胎内市地域公共交通網形成計画に基づいた各種施策を実施していく。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
	藤観光タクシー株式会社	区域運行(乙)		A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B		協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
柏崎市地域公共交通活性化協議会	越後交通(株)	東市街地循環線(ひまわり) ・比角先回り ・半田先回り	(1)路線バス高齢者割引制度を実施し、高齢者に対する利用促進を図った。 (2)高校生等通学割引キャンペーンを実施し、高校生の通学における路線バスの利用を促した。 (3)路線バス利用促進を図るため、ダイヤや路線図を掲載した公共交通ガイドブックを全世帯に配布した。 (4)ウィズコロナ時代に対応する新しい地域公共交通計画を策定するため、市民アンケートや市民・交通事業者ヒアリングなどを行った。	A 事業は、計画に基づき、適切に実施した。	C 収支率は、目標43%以上に対して、実績は31.0%(前年度比△11.7%)であった。収支率の減少要因としては、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う外出機会の低下によるところが大きいと分析する。 このほか、高齢の利用者がさらに歳を重ねることで、バス停までの移動における負担の増大など、路線バスを利用しづらい状況が増えている一方で、新規利用が多くないことが挙げられる。	新型コロナウイルスの感染拡大により、公共交通を取り巻く環境が大きく変化している。今後も生活交通を確保していくため、新たに策定する柏崎市地域公共交通計画に基づき、各年代に応じた利用促進事業など、様々な施策を実施していく。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな具体策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
柏崎市地域公共交通活性化協議会	越後交通(株)	柏崎駅前～野田線 ・日吉町経由 ・石塚経由 ・医療センター経由	(1)路線バス高齢者割引制度を継続実施し、高齢者に対する利用促進を図った。 (2)高校生等通学割引キャンペーンを実施し、高校生の通学における路線バスの利用を促した。 (3)路線バス利用促進を図るため、ダイヤや路線図を掲載した公共交通ガイドブックを全世帯に配布した。 (4)ウイズコロナ時代に対応する新しい地域公共交通計画を策定するため、市民アンケートや市民・交通事業者ヒアリングなどを行った。	A 事業は、計画に基づき、適切に実施した。	C 収支率は、目標25%以上に対して、実績は16.5%(前年度比△4.1%)であった。収支率の減少要因としては、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う外出機会の低下によるところが大きいと分析する。 このほか、高齢の利用者がさらに歳を重ねることで、バス停までの移動やステップの乗降における負担の増大など、路線バスを利用しづらい状況が増えている一方で、新規利用が多くないことが挙げられる。	新型コロナウイルスの感染拡大により、公共交通を取り巻く環境が大きく変化している。今後も生活交通を確保していくため、新たに策定する柏崎市地域公共交通計画に基づき、各年代に応じた利用促進事業など、様々な施策を実施していく。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな具体策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
	越後交通(株)	柏崎駅前～久米線	(1)路線バス高齢者割引制度を継続実施し、高齢者に対する利用促進を図った。 (2)高校生等通学割引キャンペーンを実施し、高校生の通学における路線バスの利用を促した。 (3)路線バス利用促進を図るため、ダイヤや路線図を掲載した公共交通ガイドブックを全世帯に配布した。 (4)ウイズコロナ時代に対応する新しい地域公共交通計画を策定するため、市民アンケートや市民・交通事業者ヒアリングなどを行った。	A 事業は、計画に基づき、適切に実施した。	C 収支率は、目標30%以上に対して、実績18.0%(前年度比△8.2%)であった。収支率の減少要因としては、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う外出機会の低下によるところが大きいと分析する。 このほか、高齢の利用者がさらに歳を重ねることで、バス停までの移動やステップの乗降における負担の増大など、路線バスを利用しづらい状況が増えている一方で、新規利用が多くないことが挙げられる。	新型コロナウイルスの感染拡大により、公共交通を取り巻く環境が大きく変化している。今後も生活交通を確保していくため、新たに策定する柏崎市地域公共交通計画に基づき、各年代に応じた利用促進事業など、様々な施策を実施していく。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな具体策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
新発田市地域公共交通活性化協議会	新潟交通観光バス株	あやめバス(外回り・内回り)申請番号1~7	<p>・高校生や高齢者の利用を促進するために、通学や通院に対応したパンフレットを作成、配布した。</p> <p>・四半期に一度行う動態調査結果を基に、運行内容の検証を継続した。</p> <p>・待合所の設置や待合ベンチ等を設置し、市街地におけるバス待合環境の改善を図り、利用者の維持につなげた。</p>	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B <p>事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。</p> <p><事業の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 年間利用者78,350人以上(前年度)67,067人→(今年度)64,851人 利用者のうち60代以上の乗車割合を44.9%以上とする。(平成30年度)41.8%→(今年度)46.8% ※令和元年、2年度は未実施 利用者のうち障害者手帳を提示した人の乗車割合を20.5%以上とする。(前年度)25.9%→(今年度)25.0% <p><事業の効果></p> <ul style="list-style-type: none"> 新発田市街地における公共施設や商業施設、医療機関といった施設や観光資源へのアクセス性の確保と回遊性の向上を図る。 <p><達成状況の分析></p> <ul style="list-style-type: none"> 目標を達成できなかった要因として新型コロナウイルス感染症に伴う外出自粛の影響が残っており、利用者が戻っていない現状にある。今年度は学校の休校はなく、昨年度大きく減少した3月~6月は今年度増加したが、令和元年度の水準には戻っていない。(令和元年度)78,184人→(令和3年度)64,851人 60代以上の乗車割合は年々増加しており、利用者のうちおよそ半数となっている。 障害者手帳を提示した人の割合は25%程度で推移している。 高齢者や障がいのある方などの交通弱者の方々が、中心市街地や商業施設、医療機関等を移動するための手段として定着してきている。 <p>【指標①】新発田駅停留所の利用率(前年度動態調査)13.8%→(今年度動態調査)13.4%</p> <p>【指標②】回数券利用率(前年度)34.4%→(今年度)34.5%</p>	<p>・高校生や高齢者の通学、通院利用を促進するため、パンフレットの作成、配布を継続する。</p> <p>・四半期に一度行う動態調査結果を基に、運行内容を検証する。</p> <p>・あやめバスの車両入替を行い、高齢者や障がいのある方へより利用しやすい環境を整備するとともに、燃費の向上や修繕費の削減など運行経費の削減を図る。</p>	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
新発田市地域公共交通活性化協議会	新潟交通観光バス㈱	川東コミュニティバス 申請番号8～13	<p>・バス停掲示物や車内掲示物の工夫などを検討し、高校生に対して通学に対応したパンフレットを作成、配布した。</p> <p>・地域住民と一体となり、運行内容の検証を行った。</p> <p>・小・中学校の通学に配慮したダイヤ設定を継続するとともに、安全安心な通学環境を確保するため、停留所を新設・移設をするなど、運行内容の見直しを進めた。</p> <p>・高校生の利用者が増加傾向にあることから、利用状況を確認し、実態に合わせた運行を行った。</p>	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A <p>事業が計画に位置付けられた目標を達成した。</p> <p><事業の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 年間利用者数を前年度比100%以上とする。 (昨年度)37,751人→(今年度)42,201人 利用者のうち障害者手帳を提示した人の乗車割合を20.6%以上とする。 (昨年度)24.3%→(今年度)22.5% <p><事業の効果></p> <ul style="list-style-type: none"> 川東地区における自家用車を運転できない高齢者や障がい者、高校生等の交通弱者の日常生活の移動ニーズに応じた移動手段を確保する。 <p><達成状況の分析></p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で学校の休校などで利用者が減少していたが、今年度は増加に転じた。2月～9月の全ての月で増加(計6,914人)しており通学や通院などで利用する方が多くなっている。 障害者手帳を提示した方の割合は22.5%で昨年度と概ね同じ割合で推移している。 <p>【指標①】川東地区高校生の自主通学率 (R2.7動態調査)30.6% → (R3.7動態調査)27.4%</p> <p>【指標②】回数券利用率 (前年度)46.4%→(今年度)52.0%</p>	<p>・バス停掲示物や車内掲示物の工夫を行うなど利用促進を図る。</p> <p>・地域住民と一体となり、運行内容の検証を行う。</p> <p>・小・中学校の通学に配慮したダイヤ設定を継続するとともに、安全安心な通学環境を確保するため、運行内容の見直しを進める。</p> <p>・高校生の利用者が増加傾向にあることから、利用状況を確認し、実態に合わせた運行を行う。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
佐渡市地域公共交通活性化協議会	新潟交通佐渡株	系統名：国仲・金丸線 運行区間：佐和田BS～佐渡病院～新町学校前～新穂小学校前～佐和田BS	前年に引き続き「病院乗り入れ便のご案内」を作成し、市内全戸及び各病院等へ配布した。学生のバス利用を取り込むため、新規の対象者(高校)へ中学校及び中等教育学校を通じて学生ワイドフリー定期券制度を案内し、利用促進を図った。	A 概ね事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 目標利用者数：20,000人 R3利用者数：17,110人 (達成率：85.6%) 前年を上回った月もあったが、新型コロナの影響による公共交通の需要減少が継続しており、利用者は昨年とほぼ同数であった。	病院乗り入れ便チラシや路線バス割引サービス利用証、学生ワイドフリー定期券などの路線バス利用促進施策について、引き続き周知、PRに努める。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
佐渡市地域公共交通活性化協議会	新潟交通佐渡株	<p>系統名:宿根木線① 運行区間:羽茂高校～小木港～宿根木～江積</p> <p>系統名:宿根木線② 運行区間:小木港～宿根木～江積</p>	<p>小木直江津航路や小木線との接続ダイヤを設定し、利用促進に努めた。</p> <p>R3.4からスマホ版バス乗り放題パスの販売を開始し、観光客等の利便性向上を図った。</p> <p>バス路線から離れた集落や市街地で低速小型電動車(グロスロ)を乗り入れし、バス停までの小さな輸送から路線バス利用へと繋げる実証事業を計画した。</p>	A	<p>概ね事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	C	<p>目標利用者数:7,000人 R3利用者数:3,519人 (達成率:50.3%)</p> <p>新型コロナによる住民の外出自粛のほか、小木直江津航路就航船の小型化(カーフェリー→ジェットフォイル)の影響による観光客減少もあり、目標を達成できなかった。</p>	<p>病院乗り入れ便チラシや路線バス割引サービス利用証、学生ワイドフリー定期券などの路線バス利用促進施策について、引き続き周知、PRに努める。</p> <p>また、佐渡汽船ダイヤとの接続や住民ニーズに合わせたデマンド交通の導入など、効率的な運行に努める。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
粟島浦村地域公共交通協議会	粟島浦村	県道ルート	<p>・頻繁に使用する停留所付近の風雨よけやその代替案等、引き続き利用しやすい環境づくりにむけ検討を行う。</p> <p>・コロナ渦で村内行事の抑制状況が続いていたため、当初、外出意欲の向上を図ることが困難であったが、新潟県内の移動制限の緩和で来島者数も幾分増加傾向に転じたことによる刺激や村内行事の復活で、住民の利用実績増となった。</p>	<p>A</p> <p>気象の悪化により、運行ができない日があったが、それ以外は概ね計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>A</p> <p>住民利用は2,597名(1名あたりの利用回数7.5回)となり、目標2,192人(一人あたりの利用回数6.3回)を達成することができた。これは当初、新型コロナウイルス感染症が村内の移動に不安をもたらしていたが、本感染症が小康状態に入り、外出意欲に拍車がかかったものと考えている。</p>	<p>・引き続き利用しやすい環境づくりのため、乗降場の在り方を検討する。</p> <p>・村内の事業者とも連携し、外出意欲が高まるような事業を推進する。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議 会名	①補助対象 事業者等	②事業 概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業 評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の 改善点	評価結果		
五泉市地域 公共交通活 性化協議会	(有)フラワー 観光 泉観光バス 株 みどりハイ ヤー(株)	ごせん乗合 タクシー「さく ら号」 (五泉東エリ ア)	<ul style="list-style-type: none"> ・車両内にオゾン発生装置を設 置する等感染症予防対策を講じ た。 ・市の広報や時刻表で感染症予 防を含めた公共交通のPRを行っ た。 ・高齢者を対象とした利用促進 活動を継続実施した。(免許返納 高齢者への制度説明) ・利用者数の少ない朝夕の便を 廃止し、要望の多い11:30～ 12:30便を創設した。 ・同時運行台数を7台から8台に 増やした。 	A	事業が計画に位置づけら れたとおり、適切に実施さ れた。	A	<ul style="list-style-type: none"> 輸送人員の目標値である前年比100%以上に対 し、109.2%を達成した。(コロナ前のR1対比100.2%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・市広報・HP・時刻表を活用した 各種周知活動を継続する。 ・時刻表の表現を見直し利用促 進を図る。(説明に絵を用いる、 混雑予想を掲載する等) ・高齢者向けに地域への出前講 座を実施し、新規利用者獲得に 努める。 ・利用者増加に繋がる取り組み の検討 	協議会における事業評価結果の③から⑥までにつ いては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の 実施について地域一体となって適切に進めていくと ともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の さらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待 する。
	(有)フラワー 観光 泉観光バス 株 みどりハイ ヤー(株)	ごせん乗合 タクシー「さく ら号」 (五泉西エリ ア)	<ul style="list-style-type: none"> ・車両内にオゾン発生装置を設 置する等感染症予防対策を講じ た。 ・市の広報や時刻表で感染症予 防を含めた公共交通のPRを行っ た。 ・高齢者を対象とした利用促進 活動を継続実施した。(免許返納 高齢者への制度説明) ・利用者数の少ない朝夕の便を 廃止し、要望の多い11:30～ 12:30便を創設した。 ・同時運行台数を7台から8台に 増やした。 	A	事業が計画に位置づけら れたとおり、適切に実施さ れた。	A	<ul style="list-style-type: none"> 輸送人員の目標値である前年比100%以上に対 し、106.9%を達成した。(コロナ前のR1対比117.6%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・市広報・HP・時刻表を活用した 各種周知活動を継続する。 ・時刻表の表現を見直し利用促 進を図る。(説明に絵を用いる、 混雑予想を掲載する等) ・高齢者向けに地域への出前講 座を実施し、新規利用者獲得に 努める。 ・利用者増加に繋がる取り組み の検討 	協議会における事業評価結果の③から⑥までにつ いては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の 実施について地域一体となって適切に進めていくと ともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の さらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待 する。

協議 会名	①補助対象 事業者等	②事業 概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業 評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の 改善点	評価結果
五泉市地域 公共交通活 性化協議会	(有)フラワー 観光 泉観光バス (株) みどりハイ ヤー(株)	ごせん乗合 タクシー「さく ら号」 (村松エリ ア)	<ul style="list-style-type: none"> ・車両内にオゾン発生装置を設置する等感染症予防対策を講じた。 ・市の広報や時刻表で感染症予防を含めた公共交通のPRを行った。 ・高齢者を対象とした利用促進活動を継続実施した。(免許返納高齢者への制度説明) ・利用者数の少ない朝夕の便を廃止し、要望の多い11:30～12:30便を創設した。 ・同時運行台数を7台から8台に増やした。 	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 輸送人員の目標値である前年比100%以上に対し、103.5%を達成した。(コロナ前のR1対比97.1%)	<ul style="list-style-type: none"> ・市広報・HP・時刻表を活用した各種周知活動を継続する。 ・時刻表の表現を見直し利用促進を図る。(説明に絵を用いる、混雑予想を掲載する等) ・高齢者向けに地域への出前講座を実施し、新規利用者獲得に努める。 ・利用者増加に繋がる取り組みの検討 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
魚沼市地域公共交通協議会	奥只見タクシー(株)	小出まちなか循環線(順回り)	・利用促進月間を設け、利用者の新規開拓等に努めた。 ・免許証自主返納者に対する利用促進に向けて、共通回数券の交付及び啓発物等の配布を行った。	A *計画通り、適切に実施された。	A 【達成状況】 輸送人員目標値比：109% 目標：1,260人→実績1,375人	・高齢者等に対して、移動方法等の認知度を高め、利用者の新規開拓を図る。 ・免許証自主返納者に対して、共通回数券の交付や啓発物等によって、引き続き利用を促す。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
		小出まちなか循環線(逆回り)	・利用促進月間を設け、利用者の新規開拓等に努めた。 ・免許証自主返納者に対する利用促進に向けて、共通回数券の交付及び啓発物等の配布を行った。	A *計画通り、適切に実施された。	A 【達成状況】 輸送人員目標値比：110% 目標：1,030人→実績1,131人	・高齢者等に対して、移動方法等の認知度を高め、利用者の新規開拓を図る。 ・免許証自主返納者に対して、共通回数券の交付や啓発物等によって、引き続き利用を促す。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
魚沼市地域公共交通協議会	(株)小出タクシー	小出地域乗合タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・利用促進月間を設け、利用者の新規開拓等に努めた。 ・免許証自主返納者に対する利用促進に向けて、共通回数券の交付及び啓発物等の配布を行った。 	A	* 計画通り、適切に実施された。	C	<p>【達成状況】 輸送人員目標値比:99% 目標:8,120人→実績8,036人</p> <p>【未達成の主な理由】 新型コロナウイルスの影響があったものの、横ばいで推移した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者等に対して、移動方法等の認知度を高め、利用者の新規開拓を図る。 ・免許証自主返納者に対して、共通回数券の交付や啓発物等によって、引き続き利用を促す。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
		湯之谷地域乗合タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・利用促進月間を設け、利用者の新規開拓等に努めた。 ・免許証自主返納者に対する利用促進に向けて、共通回数券の交付及び啓発物等の配布を行った。 	A	* 計画通り、適切に実施された。	C	<p>【達成状況】 輸送人員目標値比:89% 目標:380人→実績337人</p> <p>【未達成の主な理由】 新型コロナウイルスによる影響、人口減少や高齢化等の進展による減</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者等に対して、移動方法等の認知度を高め、利用者の新規開拓を図る。 ・免許証自主返納者に対して、共通回数券の交付や啓発物等によって、引き続き利用を促す。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
魚沼市地域公共交通協議会	(株)小出タクシー	田中・清本・長松・米沢乗合タクシー	・利用促進月間を設け、利用者の新規開拓等に努めた。 ・免許証自主返納者に対する利用促進に向けて、共通回数券の交付及び啓発物等の配布を行った。	A *計画通り、適切に実施された。	A 【達成状況】 輸送人員目標値比: 129% 目標: 450人→実績: 581人	・高齢者等に対して、移動方法等の認知度を高め、利用者の新規開拓を図る。 ・免許証自主返納者に対して、共通回数券の交付や啓発物等によって、引き続き利用を促す。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
		三ツ又乗合タクシー	・利用促進月間を設け、利用者の新規開拓等に努めた。 ・免許証自主返納者に対する利用促進に向けて、共通回数券の交付及び啓発物等の配布を行った。	A *計画通り、適切に実施された。	C 【達成状況】 輸送人員目標値比: 79% 目標: 860人→実績: 678人 【未達成の主な理由】 新型コロナウイルスによる影響、人口減少や高齢化等の進展による減	・高齢者等に対して、移動方法等の認知度を高め、利用者の新規開拓を図る。 ・免許証自主返納者に対して、共通回数券の交付や啓発物等によって、引き続き利用を促す。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルスによる影響、人口減少や高齢化等の進展以外の新たな利用者の掘り起こしや認知度向上といった利用促進の観点からも目標が達成されなかった理由についても分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
魚沼市地域公共交通協議会	ひかり交通(株)	上稲倉・魚野地乗合タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・利用促進月間を設け、利用者の新規開拓等に努めた。 ・免許証自主返納者に対する利用促進に向けて、共通回数券の交付及び啓発物等の配布を行った。 	A	* 計画通り、適切に実施された。	C	<p>【達成状況】 輸送人員目標値比: 86% 目標: 3,910人→実績3,368人</p> <p>【未達成の主な理由】 新型コロナウイルスによる影響、人口減少や高齢化等の進展による減</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者等に対して、移動方法等の認知度を高め、利用者の新規開拓を図る。 ・免許証自主返納者に対して、共通回数券の交付や啓発物等によって、引き続き利用を促す。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
		新道島乗合タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・利用促進月間を設け、利用者の新規開拓等に努めた。 ・免許証自主返納者に対する利用促進に向けて、共通回数券の交付及び啓発物等の配布を行った。 	A	* 計画通り、適切に実施された。	C	<p>【達成状況】 輸送人員目標値比: 95% 目標: 1,050人→実績: 1,000人</p> <p>【未達成の主な理由】 新型コロナウイルスによる影響、人口減少や高齢化等の進展による減</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者等に対して、移動方法等の認知度を高め、利用者の新規開拓を図る。 ・免許証自主返納者に対して、共通回数券の交付や啓発物等によって、引き続き利用を促す。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する
	奥只見タクシー(株)	滝之又乗合タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・利用促進月間を設け、利用者の新規開拓等に努めた。 ・免許証自主返納者に対する利用促進に向けて、共通回数券の交付及び啓発物等の配布を行った。 	A	* 計画通り、適切に実施された。	C	<p>【達成状況】 輸送人員目標値比: 95% 目標: 1,260人→実績: 1,193人</p> <p>【未達成の主な理由】 新型コロナウイルスによる影響、人口減少や高齢化等の進展による減</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者等に対して、移動方法等の認知度を高め、利用者の新規開拓を図る。 ・免許証自主返納者に対して、共通回数券の交付や啓発物等によって、引き続き利用を促す。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
魚沼市地域公共交通協議会	奥只見タクシー(株)	水沢・越又・泉沢乗合タクシー	・利用促進月間を設け、利用者の新規開拓等に努めた。 ・免許証自主返納者に対する利用促進に向けて、共通回数券の交付及び啓発物等の配布を行った。 ・老人会等において、利用方法や路線バス乗継等、利用促進に向けた説明を行った。	A	*計画通り、適切に実施された。	A	【達成状況】 輸送人員目標値比: 105% 目標: 910人→実績: 955人	・高齢者等に対して、移動方法等の認知度を高め、利用者の新規開拓を図る。 ・免許証自主返納者に対して、共通回数券の交付や啓発物等によって、引き続き利用を促す。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
	観光タクシー(株)	赤土乗合タクシー	・免許証自主返納者に対する利用促進に向けて、共通回数券の交付及び啓発物等の配布を行った。 ・地元区長会を通じて、今後の運行形態の見直しと利用促進等について協議を行った。	A	*計画通り、適切に実施された。	C	【達成状況】 輸送人員目標値比: 50% 目標: 30人→実績: 15人 【未達成の主な理由】 新型コロナウイルスによる影響、人口減少や高齢化等の進展による減	・免許証自主返納者に対して、共通回数券の交付や啓発物等によって、引き続き利用を促す。 ・地元区長会等と利用促進等に向けた協議を継続する。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルスによる影響、人口減少や高齢化等の進展以外の新たな利用者の掘り起こしや認知度向上といった利用促進の観点からも目標が達成されなかった理由についても分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
		福山新田乗合タクシー	・免許証自主返納者に対する利用促進に向けて、共通回数券の交付及び啓発物等の配布を行った。 ・地元区長会を通じて、今後の運行形態の見直しと利用促進等について協議を行った。	A	*計画通り、適切に実施された。	A	【達成状況】 輸送人員目標値比: 107% 目標: 1,190人→実績: 1,275人	・免許証自主返納者に対して、共通回数券の交付や啓発物等によって、引き続き利用を促す。 ・地元区長会等と利用促進等に向けた協議を継続する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
魚沼市地域公共交通協議会	観光タクシー(株)	高倉乗合タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・免許証自主返納者に対する利用促進に向けて、共通回数券の交付及び啓発物等の配布を行った。 ・地元区長会を通じて、今後の運行形態の見直しと利用促進等について協議を行った。 	A	* 計画通り、適切に実施された。	C	<p>【達成状況】 輸送人員目標値比: 77% 目標: 1,890人→実績: 1,455人</p> <p>【未達成の主な理由】 新型コロナウイルスによる影響、人口減少や高齢化等の進展による減</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・免許証自主返納者に対して、共通回数券の交付や啓発物等によって、引き続き利用を促す。 ・地元区長会等と利用促進等に向けた協議を継続する。 	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルスによる影響、人口減少や高齢化等の進展以外の新たな利用者の掘り起こしや認知度向上といった利用促進の観点からも目標が達成されなかった理由についても分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
		赤土・小出乗合タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・免許証自主返納者に対する利用促進に向けて、共通回数券の交付及び啓発物等の配布を行った。 ・地元区長会を通じて、今後の運行形態の見直しと利用促進等について協議を行った。 	A	* 計画通り、適切に実施された。	A	<p>【達成状況】 輸送人員目標値比: 179% 目標: 70人→実績: 125人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・免許証自主返納者に対して、共通回数券の交付や啓発物等によって、引き続き利用を促す。 ・地元区長会等と利用促進等に向けた協議を継続する。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
燕・弥彦地域公共交通会議	1.株式会社 燕タクシー	燕市デマンド交通おでかけきらん号	<p>③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況</p> <p>広報紙への掲載やパンフレットで周知を図った。また、予約受付時や窓口・電話での問い合わせ対応時において、比較的空いている時間帯での利用を案内し、予約の分散化を図った。また、新型コロナウイルス感染症対策として、車両の消毒や換気、利用者のマスク着用などを呼び掛けた。</p>	<p>④事業実施の適切性</p> <p>A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>⑤目標・効果達成状況</p> <p>C デマンド交通の1日平均利用者数が、目標の160人/日(年換算39,040人)に対し、実績が137.9人/日(年換算33,511人)と下回り、事業が計画に位置づけられた目標を達成できなかった。新型コロナウイルスの感染拡大により利用者数が一時的に落ち込んでいる状況が続いている。</p>	<p>⑥事業の今後の改善点</p> <p>気象状況によっては予約を制限することも必要であり、これからも利用者の安全を第一に考えた運行を行っていく。 また、利用時間帯の集中については、高齢者の通院利用が多いことが要因となっており、利用者数の増加に向け、今後も分散化を図る取組みを継続的に実施していく。 引き続き、新型コロナウイルス感染対策として、車両の消毒や換気、利用者のマスク着用などを呼びかけしていく。</p>	<p>地方運輸局等における二次評価結果</p> <p>評価結果</p> <p>協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p> <p>協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>
	2.株式会社 中央タクシー						

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
燕・弥彦地域公共交通会議	3.中越交通株式会社	燕市デマンド交通おでかけきらん号	<p>広報紙への掲載やパンフレットで周知を図った。また、予約受付時や窓口・電話での問い合わせ対応時において、比較的空いている時間帯での利用を案内し、予約の分散化を図った。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染対策として、車両の消毒や換気、利用者のマスク着用などを呼び掛けた。</p>	A	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	C	<p>気象状況によっては予約を制限することも必要であり、これからも利用者の安全を第一に考えた運行を行っていく。</p> <p>また、利用時間帯の集中については、高齢者の通院利用が多いことが要因となっており、利用者数の増加に向け、今後も分散化を図る取組みを継続的に実施していく。</p> <p>引き続き、新型コロナウイルス感染対策として、車両の消毒や換気、利用者のマスク着用などを呼びかけしていく。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
	4.まきタクシー有限会社							協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
	5.地蔵堂タクシー有限会社							協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
燕・弥彦地域公共交通会議	6.弥彦タクシー株式会社	燕市デマンド交通おでかけきらん号	<p>広報紙への掲載やパンフレットで周知を図った。また、予約受付時や窓口・電話での問い合わせ対応時において、比較的空いている時間帯での利用を案内し、予約の分散化を図った。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染対策として、車両の消毒や換気、利用者のマスク着用などを呼び掛けた。</p>	A	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	C	<p>デマンド交通の1日平均利用者数が、目標の160人/日(年換算39,040人)に対し、実績が137.9人/日(年換算33,511人)と下回り、事業が計画に位置づけられた目標を達成できなかった。</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大により利用者数が一時的に落ち込んでいる状況が続いている。</p>	<p>気象状況によっては予約を制限することも必要であり、これからも利用者の安全を第一に考えた運行を行っていく。</p> <p>また、利用時間帯の集中については、高齢者の通院利用が多いことが要因となっており、利用者数の増加に向け、今後も分散化を図る取組みを継続的に実施していく。</p> <p>引き続き、新型コロナウイルス感染対策として、車両の消毒や換気、利用者のマスク着用などを呼びかけしていく。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>
	7.越佐観光バス株式会社	弥彦・燕広域循環バスやひこ号	<p>広報紙への掲載や観光シーズンにチラシを作成し配布するなど、住民以外の人達にも広くPRし、利用促進のための啓発を行った。</p> <p>また、利便性向上のため、2020年10月にフリー乗降区間を追加した。</p> <p>さらに、新型コロナウイルス感染対策として、車両の消毒や換気、利用者のマスク着用などを呼び掛けた。</p>	A	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	C	<p>広域循環バスの1日平均利用者数が、目標の83人/日(年換算19,520人)に対し、実績が59.1人/日(年換算14,372人)と下回り、事業が計画に位置づけられた目標を達成できなかった。</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大により利用者数が一時的に落ち込んでいる状況が続いている。</p>	<p>より多くの方々に利用してもらえよう、今後も啓発等による利用促進を図り、利用者数の増加に努める。</p> <p>引き続き、新型コロナウイルス感染対策として、車両の消毒や換気などを実施していく。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
妙高市地域公共交通協議会	妙高市	杉野沢線C ・妙高原駅～いもり池入口～杉野沢上 杉野沢線E ・杉野沢上～関川関所前～妙高病院前 杉野沢線F ・妙高原駅～関川関所前～杉野沢上	・市ホームページの市営バスページに運行ダイヤとともに、R2に作成した路線図(公共交通マップ)を掲載し市民や来訪者への情報提供の充実を図った。 ・各種検索サイトと連携し、停留所の位置や乗換え情報等を提供し、利用者の利便向上を図った。 ・新型コロナウイルス感染防止対策として、アルコール消毒液を購入し、車内でも手指の消毒をお願いすることで感染防止の環境を整えた。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C	<ul style="list-style-type: none"> ●目標：直近年度(R1年度)の運賃収入水準を維持する。(R1:2,496千円) ●実績：1,234千円(▲50.5%、未達成) ●事業効果：路線維持により住民等の日常生活に必要な移動手段を確保 ●目標未達成の分析：前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が大幅に減少したため。また、日常的に利用していた高齢者等の自然減 	・引き続き、新型コロナウイルス感染防止対策を講じることで、利用者が安心して利用できる環境を整える。 ・引き続き、市ホームページ等でダイヤ改正などの情報を発信するとともにライン等のSNSを利用し、よりタイムリーな情報を提供することで、新規利用者の増加を図る。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。なお、⑤の目標・効果達成状況については、目標が達成されなかった理由について、新型コロナウイルスの影響や高齢者の自然減以外の理由についても分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
妙高市地域公共交通協議会	妙高市	関・燕温泉線 ・関山駅～大洞原～燕温泉	・市ホームページの市営バスページに運行ダイヤとともに、R2に作成した路線図(公共交通マップ)を掲載し市民や来訪者への情報提供の充実を図った。 ・各種検索サイトと連携し、停留所の位置や乗換え情報等を提供し、利用者の利便向上を図った。 ・新型コロナウイルス感染防止対策として、アルコール消毒液を購入し、車内でも手指の消毒をお願いすることで感染防止の環境を整えた。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C	<ul style="list-style-type: none"> ●目標：直近年度(R1年度)の運賃収入水準を維持する。(R1:1,624千円) ●実績：1,171千円(▲27.8%、未達成) ●事業効果：路線維持により住民等の日常生活に必要な移動手段を確保 ●目標未達成の分析：前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が大幅に減少したため。また、日常的に利用していた高齢者等の自然減 	・引き続き、新型コロナウイルス感染防止対策を講じることで、利用者が安心して利用できる環境を整える。 ・引き続き、市ホームページ等でダイヤ改正などの情報を発信するとともにライン等のSNSを利用し、よりタイムリーな情報を提供することで、新規利用者の増加を図る。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
妙高市地域公共交通協議会	新井タクシー株式会社	関山ルート ・妙高市新井地域及び関山地区、上越市中郷区 ・自社ホームページ及び市ホームページに乗合タクシーのページを設け、公共交通マップを確認できるようにする等情報発信に努めた。 ・お盆期間(8月15,16日)を運行することで利用者ニーズに対応し、利便性の向上に努めた。 ・新型コロナウイルス感染防止対策として、運転席と後部座席との間をビニールで仕切り、飛沫感染防止に努めるとともに、座席にビニールシートを設置し、感染防止の環境を整えた。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C	<ul style="list-style-type: none"> ●目標:直近年度(R1年度)の運賃収入水準を維持する。(R1:591千円) ●実績:269千円(未達成) ●事業効果:路線維持により住民等の日常生活に必要な移動手段を確保 ●目標未達成の分析:前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が大幅に減少したため。また、日常的に利用していた高齢者等の自然減 	・引き続き、新型コロナウイルス感染防止対策を講じることで、利用者が安心して利用できる環境を整える。 ・利用が見込まれる施設等に停留所を設ける等、乗降ポイントの見直しを行うことで、利便性を向上させ、新規利用者の増加を図る。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、目標が達成されなかった理由について、新型コロナウイルスの影響や高齢者の自然減以外の理由についても分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
南魚沼市地域公共交通協議会	南越後観光バス株式会社	・城内コース(南魚沼市役所～野際・若宮様～福祉センターしらゆり)	・市民バスの主な利用者である高齢者を対象としたバスの乗り方教室の開催を検討したが、新型コロナウイルス感染症の影響と開催希望がなかったことから乗り方教室を行わなかった。 ・令和2年12月に設置した六日町駅前停留所の利用が多くあった。交通結節点としての利便性が向上していると思われる。	A	計画通り適正に実施された。	B	利用者目標7,940人に対して6,962人であった。(達成率87.7%) 新型コロナウイルス及び大雪(特に12月、1月)の影響により、老人ホーム、福祉施設、文化施設、市役所、病院の利用が減少している。	・市民バス車内で感染防止対策を実施しているアピールを行う。 ・大雪のときでも利用者が市民バスを利用しやすいよう、交通結節点の除雪を実施する。 ・引き続き、運行事業者と市で、利用者の利便性を高めるための方策を検討する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
		・五十沢・大月コース(土沢入口～中川新田～福祉センターしらゆり)	・市民バスの主な利用者である高齢者を対象としたバスの乗り方教室の開催を検討したが、新型コロナウイルス感染症の影響と開催希望がなかったことから乗り方教室を行わなかった。 ・令和2年12月に設置した六日町駅前停留所の利用が多くあった。交通結節点としての利便性が向上していると思われる。 ・バス車内の感染対策にも役立ててもらうための補助金を交付した。医療施設、店舗は感染対策を実施していたが、協議会事務局としては利用者の感染防止を考慮し、積極的に利用を促すアピールはしなかった。	A	計画通り適正に実施された。	B	利用者目標4,000人に対して2,890人であった。(達成率72.3%) 新型コロナウイルス及び大雪(特に12月、1月)の影響により、福祉施設、市役所、病院の利用が減少している。固定客の利用状況の変化による減少も見られる。	・市民バス車内で感染防止対策を実施しているアピールを行う。 ・大雪のときでも利用者が市民バスを利用しやすいよう、交通結節点の除雪を実施する。 ・令和3年10月、地域から要望のあった停留所を設置し、利便性の高い時刻表に変更した。引き続き、運行事業者と市で、利用者の利便性を高めるための方策を検討する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
南魚沼市地域公共交通協議会	銀嶺タクシー株式会社	<p>・大巻・泉コース(泉新田・保育園バス停～庄之又～銀嶺タクシー前)</p>	<p>・市民バスの主な利用者である高齢者を対象としたバスの乗り方教室の開催を検討したが、新型コロナウイルス感染症の影響と開催希望がなかったことから乗り方教室を行わなかった。 ・令和2年12月に設置した六日町駅前停留所の利用が多くあった。交通結節点としての利便性が向上していると思われる。</p>	A	計画通り適正に実施された。	C	<p>利用者目標1,950人に対して1,271人であった。(達成率65.2%) 新型コロナウイルス及び大雪(特に2月)の影響により、文化施設、市役所の利用が減少している。固定客の利用の減少が大きい。</p>	<p>・市民バス車内で感染防止対策を実施しているアピールを行う。 ・大雪のときでも利用者が市民バスを利用しやすいよう、交通結節点の除雪を実施する。 ・引き続き、運行事業者と市で、利用者の利便性を高めるための方策を検討する。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス、大雪の影響また固定客の減少以外の新たな利用者の掘り起こしや認知度向上といった利用促進の観点からも目標が達成されなかった理由についても分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>
		<p>・上田・泉田コース(小松沢十字路～西泉田公民館～福祉センターしらゆり)</p>	<p>・市民バスの主な利用者である高齢者を対象としたバスの乗り方教室の開催を検討したが、新型コロナウイルス感染症の影響と開催希望がなかったことから乗り方教室を行わなかった。 ・令和2年12月に設置した六日町駅前停留所の利用が多くあった。交通結節点としての利便性が向上していると思われる。</p>	A	計画通り適正に実施された。	B	<p>利用者目標2,360人に対して1,976人であった。(達成率83.7%) 新型コロナウイルス及び大雪(特に12月)の影響により、市役所、病院の利用が減少している。固定客の利用状況の変化による減少も見られる。</p>	<p>・市民バス車内で感染防止対策を実施しているアピールを行う。 ・大雪のときでも利用者が市民バスを利用しやすいよう、交通結節点の除雪を実施する。 ・令和3年10月、地域から要望のあった停留所を設置した。引き続き、運行事業者と市で、利用者の利便性を高めるための方策を検討する。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
南魚沼市地域公共交通協議会	株式会社魚沼中央トランスポート	・石打・竹俣コース(五十嵐～塩沢庁舎～南魚沼市役所)	<p>・市民バスの主な利用者である高齢者を対象としたバスの乗り方教室の開催を検討したが、新型コロナウイルス感染症の影響と開催希望がなかったことから乗り方教室を行わなかった。</p> <p>・令和2年12月に設置した六日町駅前停留所の利用が多くあった。交通結節点としての利便性が向上していると思われる。</p> <p>・バス車内の感染対策にも役立ててもらうための補助金を交付した。医療施設、店舗は感染対策を実施していたが、協議会事務局としては利用者の感染防止を考慮し、積極的に利用を促すアピールはしなかった。</p>	A 計画通り適正に実施された。	B 利用者目標2,810人に対して2,314人であった。(達成率82.3%) 新型コロナウイルス及び大雪(特に12月、1月)の影響により、観光地、市役所、病院、福祉施設の利用が減少している。	<p>・市民バス車内で感染防止対策を実施しているアピールを行う。</p> <p>・大雪のときでも利用者が市民バスを利用しやすいよう、交通結節点の除雪を実施する。</p> <p>・引き続き、運行事業者と市で、利用者の利便性を高めるための方策を検討する。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
		・中之島・吉里コース(柄沢・来泉寺～塩沢庁舎～南魚沼市役所)	<p>・市民バスの主な利用者である高齢者を対象としたバスの乗り方教室の開催を検討したが、新型コロナウイルス感染症の影響と開催希望がなかったことから乗り方教室を行わなかった。</p> <p>・令和2年12月に設置した六日町駅前停留所の利用が多くあった。交通結節点としての利便性が向上していると思われる。</p>	A 計画通り適正に実施された。	B 利用者目標3,380人に対して2,944人であった。(達成率87.1%) 新型コロナウイルスの影響により、観光地の利用が減少している。固定客の利用状況の変化による減少も見られる。	<p>・市民バス車内で感染防止対策を実施しているアピールを行う。</p> <p>・引き続き、運行事業者と市で、利用者の利便性を高めるための方策を検討する。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
小千谷市地域公共交通協議会	越後交通株式会社	<p>循環バス 4便×2(内外回り)=計8便/日 ※土日祝日及び8/13～16、12/29～1/3計6便/日</p> <p>地域間幹線系統の他、市内バス路線の全てが停車する本町中央バス停で接続して運行</p>	<p>収支率向上のために利用促進の取組みを実施</p> <p>【事業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経常収支率12%以上 ・月間平均利用者数1,500人以上 <p>【利用促進の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通マップ作成全戸配布 ・道の駅におけるポイントサービス ・循環バス利用促進記事の市広報紙掲載 ・公共交通利用促進をテーマにした出前講座を学校や地域で実施 	A	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	B	<p>【事業実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経常収支率14%(目標達成) ・月間平均利用者数1,210人(目標未達成) <p>令和2年10月から令和3年3月までの月間平均利用者数は1,373人と目標に比較的近い水準を維持していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、4月以降の利用者数が大きく減少し、目標を達成できなかった。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けるまでの月間平均利用者数は、目標値に比較的近い水準を維持していたことから、利用促進の取組みは一定の効果を挙げている。</p> <p>引き続き、③に記載している利用促進の取組みの他、地域懇談会における住民説明、観光・商工会等との連携・協力により公共交通の利用促進に取り組む。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
長岡市地域公共交通協議会	秋葉タクシー(株)	栃尾地域(西谷地区ほか)デマンド型乗合タクシー	<p>実証実験(R1.10~R3.3)において、利用者の乗車時間が長くなる時間帯がみられたため、見直しを行い、R3.4からの本格運行では利用者が比較的多い1便を、地区ごとで2便に分割した。また本格運行より、学生・障害者割引制度の実施や回数券販売を開始した。</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された</p>	<p>A 1月あたりの利用者170名以上という目標に対し、実績は1月あたりの利用者337名であり、目標を大きく上回った。 本事業は、廃止された路線バスの代替交通として実証実験(R1.10~R3.3)を開始し、R3.4に本格運行へ移行した。その中で、地域住民にとって必要な生活交通として徐々に認識されるようになってきたことが、目標を大きく上回った一因と考えられる。</p>	<p>今後も利用者数を維持するため、割引制度や回数券販売など利用促進に努めるとともに、地域住民や交通事業者の意見等を踏まえた運行を検討していく。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
飯田市地域公共交通改善市民会議	信南交通(株)	系統名：路線バス遠山郷線 運行区間：かぐらの湯～上町～飯田駅	広報紙や時刻表、出前講座等により、高校生だけでなく外出控えをしている高齢者等が安心して利用していただけよう呼びかけ、利用の促進を図った。「公共交通の日」(運賃割引)を実施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 目標である1運行あたりの乗車人数8.6人に対し、6.5人となり、目標達成率は76%。少子化により、通学に利用する高校生の減少、新型コロナウイルス感染症による高校の休校、高齢者の外出控えによる影響。	市広報紙やSNS等を使い、運転免許自主返納者への回数券交付等により、新たな利用者確保に取り組む。 市民会議の部会において、利用促進の意見交換を行う。 R3.6に策定された新交通計画を着実に推進する。 引き続き車両の消毒と換気の徹底や乗車時のマスク着用や会話自粛のお願いなどコロナ感染拡大予防対策をとり、安全安心に利用いただけるようバス時刻表等を通じて広報していく。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
飯田市地域公共交通改善市民会議	信南交通(株)	系統名:路線バス平岡線 運行区間:和田~名古屋山~平岡	広報紙や時刻表、出前講座等により、高校生だけでなく外出控えをしている高齢者等が安心して利用していただけるよう呼びかけ、利用の促進を図った。「公共交通の日」(運賃割引)を実施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 目標である1運行あたりの乗車人数2.3人に対し、1.2人となり、目標達成率は52%。少子化により、通学に利用する高校生の減少による。	市広報紙やSNS等を使い、運転免許自主返納者への回数券交付等により、新たな利用者確保に取り組む。 市民会議の部会において、利用促進の意見交換を行う。 R3.6に策定された新交通計画を着実に推進する。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、示された改善策と目標が達成されなかった理由との関連性が不明確であることから、目標が達成されなかった理由に対応した新たな具体策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切に検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
飯田市地域公共交通改善市民会議	信南交通(株)	系統名:路線バス阿島循環線 運行区間:飯田病院前～イオン～飯田病院前	広報紙や時刻表、出前講座等により、高校生だけでなく外出控えをしている高齢者等が安心して利用していただけるよう呼びかけ、利用の促進を図った。「公共交通の日」(運賃割引)を実施した。	B 新型コロナウイルス感染症の影響により、お仕事体験イベントが中止となったが、環境イベントや地区公民館行事にバスを用いた企画を実施した。	C 目標である1運行あたりの乗車人数11.7人に対し、11.3人となり、目標達成率は97%。新型コロナウイルス感染症による高校の休校、高齢者の外出控えによる影響。	市広報紙やSNS等を使い、運転免許自主返納者への回数券交付等により、新たな利用者確保に取り組む。 市民会議の部会において、利用促進の意見交換を行う。 R3.6に策定された新交通計画を着実に推進する。 引き続き車両の消毒と換気の徹底や乗車時のマスク着用や会話自粛のお願いなどコロナ感染拡大予防対策をとり、安全安心に利用いただけるようバス時刻表等を通じて広報していく。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
飯田市地域公共交通改善市民会議	信南交通(株)	系統名:路線バス阿島循環線(ほっ湯アップル経由)運行区間:飯田病院前~ほっ湯アップル~飯田病院前	広報紙や時刻表、出前講座等により、高校生だけでなく外出控えをしている高齢者等が安心して利用していただけるよう呼びかけ、利用の促進を図った。「公共交通の日」(運賃割引)を実施した。	B 新型コロナウイルス感染症の影響により、お仕事体験イベントが中止となったが、環境イベントや地区公民館行事にバスを用いた企画を実施した。	C 目標である1運行あたりの乗車人数11.3人に対し、7.6人となり、目標達成率は67%。新型コロナウイルス感染症による高校の休校、高齢者の外出控えによる影響。	市広報紙やSNS等を使い、運転免許自主返納者への回数券交付等により、新たな利用者確保に取り組む。市民会議の部会において、利用促進の意見交換を行う。R3.6に策定された新交通計画を着実に推進する。引き続き車両の消毒と換気の徹底や乗車時のマスク着用や会話自粛のお願いなどコロナ感染拡大予防対策をとり、安全安心に利用いただけるようバス時刻表等を通じて広報していく。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
飯田市地域公共交通改善市民会議	南信州広域タクシー(有)	系統名:市民バス千代線 運行区間:法全寺~市立病院~飯田駅前	広報紙や時刻表、出前講座等により、高校生だけでなく外出控えをしている高齢者等が安心して利用していただけるよう呼びかけ、利用の促進を図った。「公共交通の日」(運賃割引)を実施した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	C	目標である1運行あたりの乗車人数5.8人に対し、5.7人となり、目標達成率は98%。新型コロナウイルス感染症による高校の休校、高齢者の外出控えによる影響。	市広報紙やSNS等を使い、運転免許自主返納者への回数券交付等により、新たな利用者確保に取り組む。 市民会議の部会において、利用促進の意見交換を行う。 R3.6に策定された新交通計画を着実に推進する。 引き続き車両の消毒と換気の徹底や乗車時のマスク着用や会話自粛のお願いなどコロナ感染拡大予防対策をとり、安全安心に利用いただけるようバス時刻表等を通じて広報していく。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
飯田市地域公共交通改善市民会議	南信州広域タクシー(有)	系統名:市民バス久堅線 運行区間:平栗車庫~市立病院~飯田駅前	広報紙や時刻表、出前講座等により、高校生だけでなく外出控えをしている高齢者等が安心して利用していただけるよう呼びかけ、利用の促進を図った。「公共交通の日」(運賃割引)を実施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 目標である1運行あたりの乗車人数5.0人に対し、3.9人となり、目標達成率は92%。少子化により、通学に利用する高校生の減少、新型コロナウイルス感染症による高校の休校、高齢者の外出控えによる影響。	市広報紙やSNS等を使い、運転免許自主返納者への回数券交付等により、新たな利用者確保に取り組む。 市民会議の部会において、利用促進の意見交換を行う。 R3.6に策定された新交通計画を着実に推進する。 引き続き車両の消毒と換気の徹底や乗車時のマスク着用や会話自粛のお願いなどコロナ感染拡大予防対策をとり、安全安心に利用いただけるようバス時刻表等を通じて広報していく。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
飯田市地域公共交通改善市民会議	南信州広域タクシー(有)	系統名:市民バス三種線 運行区間:立石~市立病院~飯田駅前	広報紙や時刻表、出前講座等により、高校生だけでなく外出控えをしている高齢者等が安心して利用していただけるよう呼びかけ、利用の促進を図った。「公共交通の日」(運賃割引)を実施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 目標である1運行あたりの乗車人数10.3人に対し、6.0人となり、目標達成率は58%。少子化により、通学に利用する高校生の減少、新型コロナウイルス感染症による高校の休校、高齢者の外出控えによる影響。	市広報紙やSNS等を使い、運転免許自主返納者への回数券交付等により、新たな利用者確保に取り組む。 市民会議の部会において、利用促進の意見交換を行う。 R3.6に策定された新交通計画を着実に推進する。 引き続き車両の消毒と換気の徹底や乗車時のマスク着用や会話自粛のお願いなどコロナ感染拡大予防対策をとり、安全安心に利用いただけるようバス時刻表等を通じて広報していく。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
飯田市地域公共交通改善市民会議	南信州広域タクシー(有)	系統名:乗合タクシー竜東線(千代)運行区間:千代、龍江、竜丘、松尾	乗合タクシーの利用方法について地域の会議などで説明を行った。広報紙や時刻表、出前講座等により、高校生だけでなく外出控えをしている高齢者等が安心して利用していただけるよう呼びかけ、利用の促進を図った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 目標である1運行あたりの乗車人数3.0人に対し、2.2人となり、目標達成率は73%。新型コロナウイルス感染症による高齢者の外出控えによる影響。	市広報紙やSNS等を使い、運転免許自主返納者への回数券交付等により、新たな利用者確保に取り組む。 市民会議の部会において、利用促進の意見交換を行う。 R3.6に策定された新交通計画を着実に推進する。 引き続き車両の消毒と換気の徹底や乗車時のマスク着用や会話自粛のお願いなどコロナ感染拡大予防対策をとり、安全安心に利用いただけるようバス時刻表等を通じて広報していく。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
飯田市地域公共交通改善市民会議	南信州広域タクシー(有)、(有)飯田タクシー	系統名:乗合タクシー竜東線(久堅)運行区間:上久堅、下久堅、松尾	乗合タクシーの利用方法について地域の会議などで説明を行った。広報紙や時刻表、出前講座等により、高校生だけでなく外出控えている高齢者等が安心して利用していただけるよう呼びかけ、利用の促進を図った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 目標である1運行あたりの乗車人数2.4人に対し、1.9人となり、目標達成率は79%。新型コロナウイルス感染症による高齢者の外出控えによる影響。	市広報紙やSNS等を使い、運転免許自主返納者への回数券交付等により、新たな利用者確保に取り組む。市民会議の部会において、利用促進の意見交換を行う。R3.6に策定された新交通計画を着実に推進する。引き続き車両の消毒と換気の徹底や乗車時のマスク着用や会話自粛のお願いなどコロナ感染拡大予防対策をとり、安全安心に利用いただけるようバス時刻表等を通じて広報していく。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
飯田市地域公共交通改善市民会議	南信州広域タクシー(有)	系統名:乗合タクシー遠山郷高校通学支援線運行区間:飯田高校前～和田	広報紙を使い、高校生利用の促進を図った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 目標である1運行あたりの乗車人数1.7人に対し、2.0人となり、目標達成率は118%。新型コロナウイルス感染症による高校の休校による影響もあったが、通学的手段として生徒に浸透してきている。	市広報紙やSNS等を使い、運転免許自主返納者への回数券交付等により、新たな利用者確保に取り組む。市民会議の部会において、利用促進の意見交換を行う。R3.6に策定された新交通計画を着実に推進する。引き続き車両の消毒と換気の徹底や乗車時のマスク着用や会話自粛のお願いなどコロナ感染拡大予防対策をとり、安全安心に利用いただけるようバス時刻表等を通じて広報していく。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
飯田市地域公共交通改善市民会議	朝日交通(株)	系統名: 乗合タクシー三穂線 運行区間: 三穂、山本、伊賀良	乗合タクシーの利用方法について地域の会議などで説明を行った。広報紙や時刻表、出前講座等により、高校生だけでなく外出控えをしている高齢者等が安心して利用していただけるよう呼びかけ、利用の促進を図った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 目標である1運行あたりの乗車人数2.9人に対し、2.4人となり、目標達成率は83%。新型コロナウイルス感染症による高齢者の外出控えによる影響。	市広報紙やSNS等を使い、運転免許自主返納者への回数券交付等により、新たな利用者確保に取り組む。 市民会議の部会において、利用促進の意見交換を行う。 R3.6に策定された新交通計画を着実に推進する。 引き続き車両の消毒と換気の徹底や乗車時のマスク着用や会話自粛のお願いなどコロナ感染拡大予防対策をとり、安全安心に利用いただけるようバス時刻表等を通じて広報していく。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
飯田市地域公共交通改善市民会議	遠山タクシー(有)	系統名: 乗合タクシー平岡線 運行区間: 南信濃地区、天龍村	乗合タクシーの利用方法について地域の会議などで説明を行った。広報紙や時刻表、出前講座等により、高校生だけでなく外出控えをしている高齢者等が安心して利用していただけるよう呼びかけ、利用の促進を図った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 目標である1運行あたりの乗車人数2.0人に対し、1.5人となり、目標達成率は67%。少子化により、通学に利用する高校生の減少、新型コロナウイルス感染症による高校の休校、高齢者の外出控え、観光客・登山客の減少による影響。	市広報紙やSNS等を使い、運転免許自主返納者への回数券交付等により、新たな利用者確保に取り組む。 市民会議の部会において、利用促進の意見交換を行う。 R3.6に策定された新交通計画を着実に推進する。 引き続き車両の消毒と換気の徹底や乗車時のマスク着用や会話自粛のお願いなどコロナ感染拡大予防対策をとり、安全安心に利用いただけるようバス時刻表等を通じて広報していく。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
飯田市地域公共交通改善市民会議	北部タクシー(有)、第一観光タクシー(株)	系統名: 乗合タクシー上市田線 運行区間: 高森町、座光寺、上郷	乗合タクシーの利用方法について地域の会議などで説明を行った。広報紙や時刻表、出前講座等により、高校生だけでなく外出控えをしている高齢者等が安心して利用していただけるよう呼びかけ、利用の促進を図った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 目標である1運行あたりの乗車人数2.1人に対し、1.7人となり、目標達成率は81%。新型コロナウイルス感染症による高齢者の外出控えによる影響。	市広報紙やSNS等を使い、運転免許自主返納者への回数券交付等により、新たな利用者確保に取り組む。 市民会議の部会において、利用促進の意見交換を行う。 R3.6に策定された新交通計画を着実に推進する。 引き続き車両の消毒と換気の徹底や乗車時のマスク着用や会話自粛のお願いなどコロナ感染拡大予防対策をとり、安全安心に利用いただけるようバス時刻表等を通じて広報していく。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
上田市公共交通活性化協議会	上田バス株式会社	信州上田医療センター 上田駅～信州上田医療センター	<p>前年度実施を見送った乗車体験や夏休みキッズバスは実施できた。</p> <p>公共交通の安全性を市ホームページや車内ポスターで周知を図った。ハード面として感染症拡大防止対策を講じた上での運行を実施した。</p> <p>高齢者向け講座については、コロナ禍であることを考慮し実施できなかった。</p>	A 計画に位置された事業は適切に実施された。	C キロ当たり運行コストは目標467円以内に対し、510円32銭で目標を達成できなかった。経常収支率は目標50%以上に対し、33.06%で目標を達成できなかった。乗車人員は目標18,073人以上に対し、26,920人となり目標を達成した。新型コロナウイルス感染症の影響にはあったもの車内における感染防止対策等が浸透し利用者増に結びついたと思われる。	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大による影響により、乗車率の減少に伴い運送収入も減り、昨年度以上に収支率が悪化することとなった。計画していたバス乗車体験・キッズバス施策といったバス利用を啓発するイベント等は本年度実施することが出来たのは喜ばしいことである。感染症拡大防止に配慮をしながら路線系統の減便等をすることなく現状を保ったまま運行を継続することで利用者の交通利便を確保し、また公共交通の安全性を周知し利用の促進を図る事を模索していく。新しい方針として他路線でQRコードを利用した決済方法の導入を検証することで、将来的にフィーダー系統路線に導入した際には直接的な接触を減らす感染症拡大防止対策と、現金を不要とする顧客の利便性向上の達成により相乗効果を図り、利用者増を目指す。また利用実態を注視し、ダイヤの改正の検討など事業改善に努力していく。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
上田市公共交通活性化協議会	上田バス株式会社	塩田線 上田駅～別所温泉	<p>前年度実施を見送った乗車体験や夏休みキッズバスは実施できた。公共交通の安全性を市ホームページや車内ポスターで周知を図った。ハード面として感染症拡大防止対策を講じた上での運行を実施した。</p> <p>高齢者向け講座については、コロナ禍であることを考慮し実施できなかった。</p>	A 計画に位置された事業は適切に実施された。	C キロ当り運行コストは目標467円以内に対し、510円32銭で目標を達成できなかった。経常収支率は目標15%以上に対し、6.08%で目標を達成できなかった。乗車人員は目標10,175人以上に対し、10,303人となり目標を達成した。新型コロナウイルス感染症の影響にはあったもの車内における感染防止対策等が浸透し利用者増に結びついたと思われる。	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大による影響により、乗車率の減少に伴い運送収入も減り、昨年度以上に収支率が悪化することとなった。計画していたバス乗車体験・キッズバス施策といったバス利用を啓発するイベント等は本年度実施することが出来たのは喜ばしいことである。感染症拡大防止に配慮をしながら路線系統の減便等を行うことなく現状を保ったまま運行を継続することで利用者の交通利便を確保し、また公共交通の安全性を周知し利用の促進を図る事を模索していく。新しい方針として他路線でQRコードを利用した決済方法の導入を検証することで、将来的にフィーダー系統路線に導入した際には直接的な接触を減らす感染症拡大防止対策と、現金を不要とする顧客の利便性向上の達成により相乗効果を図り、利用者増を目指す。また利用実態を注視し、ダイヤの改正の検討など事業改善に努力していく。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
上田市公共交通活性化協議会	上田バス株式会社	市街地循環バス(青バス・東回り) 上田駅～染谷高校～上田駅	前年度実施を見送った乗車体験や夏休みキッズバスは実施できた。公共交通の安全性を市ホームページや車内ポスターで周知を図った。ハード面として感染症拡大防止対策を講じた上での運行を実施した。	A 計画に位置された事業は適切に実施された。	C キロ当り運行コストは目標467円以内に対し、510円32銭で目標を達成できなかった。経常収支率は目標15%以上に対し、10.75%で目標を達成できなかった。乗車人員は目標13,315人以上に対し、11,629人となり目標を達成できなかった。依然として新型コロナウイルス感染症の影響が続いていると考えられる。	新型コロナウイルス感染症の拡大による影響により、乗車率の減少に伴い運送収入も減り、昨年度以上に収支率が悪化することとなった。計画していたバス乗車体験・キッズバス施策といったバス利用を啓発するイベント等は本年度実施することが出来たのは喜ばしいことである。感染症拡大防止に配慮をしながら路線系統の減便等をすることなく現状を保ったまま運行を継続することで利用者の交通利便を確保し、また公共交通の安全性を周知し利用の促進を図る事を模索していく。新しい方針として他路線でQRコードを利用した決済方法の導入を検証することで、将来的にフィーダー系統路線に導入した際には直接的な接触を減らす感染症拡大防止対策と、現金を不要とする顧客の利便性向上の達成により相乗効果を図り、利用者増を目指す。また利用実態を注視し、ダイヤの改正の検討など事業改善に努力していく。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
上田市公共交通活性化協議会	上田バス株式会社	市街地循環バス(青バス・西回り) 上田駅～西上田駅～上田駅	高齢者向け講座については、コロナ禍であることを考慮し実施できなかった。	A 計画に位置された事業は適切に実施された。			

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
上田市公共交通活性化協議会	上田バス株式会社	市街地循環バス(赤バス・西回り)上田駅～西上田駅～上田駅	前年度実施を見送った乗車体験や夏休みキッズバスは実施できた。公共交通の安全性を市ホームページや車内ポスターで周知を図った。ハード面として感染症拡大防止対策を講じた上での運行を実施した。	A 計画に位置された事業は適切に実施された。	C キロ当り運行コストは目標467円以内に対し、510円32銭で目標を達成できなかった。経常収支率は目標15%以上に対し、6.83%で目標を達成できなかった。乗車人員は目標10,799人以上に対し、8,340人となり目標を達成できなかった。依然として新型コロナウイルス感染症の影響が続いていると考えられる。	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大による影響により、乗車率の減少に伴い運送収入も減り、昨年度以上に収支率が悪化することとなった。計画していたバス乗車体験・キッズバス施策といったバス利用を啓発するイベント等は本年度実施することが出来たのは喜ばしいことである。感染症拡大防止に配慮をしながら路線システムの減便等をすることなく現状を保ったまま運行を継続することで利用者の交通利便を確保し、また公共交通の安全性を周知し利用の促進を図る事を模索していく。新しい方針として他路線でQRコードを利用した決済方法の導入を検証することで、将来的にフィーダー系統路線に導入した際には直接的な接触を減らす感染症拡大防止対策と、現金を不要とする顧客の利便性向上の達成により相乗効果を図り、利用者増を目指す。また利用実態を注視し、ダイヤの改正の検討など事業改善に努力していく。</p>	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
上田市公共交通活性化協議会	上田バス株式会社	市街地循環バス(赤バス・東回り)上田駅～染谷高校～上田駅	高齢者向け講座については、コロナ禍であることを考慮し実施できなかった	A 計画に位置された事業は適切に実施された。			

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
上田市公共交通活性化協議会	上田バス株式会社	久保林線 上田駅～イオン上田ショッピングセンター前～久保林公民館前	前年度実施を見送った乗車体験や夏休みキッズバスは実施できなかった。 公共交通の安全性を市ホームページや車内ポスターで周知を図った。ハード面として感染症拡大防止対策を講じた上での運行を実施した。 高齢者向け講座については、コロナ禍であることを考慮し実施できなかった。	A 計画に位置された事業は適切に実施された。	C キロ当り運行コストは目標467円以内に対し、510円32銭で目標を達成できなかった。経常収支率は目標15%以上に対し、7.38%で目標を達成できなかった。乗車人員は目標4,038人以上に対し、2,293人となり目標が達成できなかった。依然として新型コロナウイルス感染症の影響が続いていると考えられる。	新型コロナウイルス感染症の拡大による影響により、乗車率の減少に伴い運送収入も減り、昨年度以上に収支率が悪化することとなった。計画していたバス乗車体験・キッズバス施策といったバス利用を啓発するイベント等は本年度実施することが出来たのは喜ばしいことである。感染症拡大防止に配慮をしながら路線系統の減便等を行うことなく現状を保ったまま運行を継続することで利用者の交通利便を確保し、また公共交通の安全性を周知し利用の促進を図る事を模索していく。新しい方針として他路線でQRコードを利用した決済方法の導入を検証することで、将来的にフィーダー系統路線に導入した際には直接的な接触を減らす感染症拡大防止対策と、現金を不要とする顧客の利便性向上の達成により相乗効果を図り、利用者増を目指す。また利用実態を注視し、ダイヤの改正の検討など事業改善に努力していく。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
上田市公共交通活性化協議会	上田バス株式会社	上田城下線 上田駅～城下駅	<p>前年度実施を見送った乗車体験や夏休みキッズバスは実施できた。公共交通の安全性を市ホームページや車内ポスターで周知を図った。ハード面として感染症拡大防止対策を講じた上での運行を実施した。</p> <p>高齢者向け講座については、コロナ禍であることを考慮し実施できなかった。</p>	A 計画に位置された事業は適切に実施された。	A 令和3年3月28日に別所線が全線開通し、それに伴い、上田城下線は廃止となった。令和2年10月1日から令和3年3月27日までの1日あたりの輸送人員は1,669人となり、目標を達成した。	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大による影響により、乗車率の減少に伴い運送収入も減り、昨年度以上に収支率が悪化することとなった。計画していたバス乗車体験・キッズバス施策といったバス利用を啓発するイベント等は本年度実施することが出来たのは喜ばしいことである。感染症拡大防止に配慮をしながら路線系統の減便等をすることなく現状を保ったまま運行を継続することで利用者の交通利便を確保し、また公共交通の安全性を周知し利用の促進を図る事を模索していく。新しい方針として他路線でQRコードを利用した決済方法の導入を検証することで、将来的にフィーダー系統路線に導入した際には直接的な接触を減らす感染症拡大防止対策と、現金を不要とする顧客の利便性向上の達成により相乗効果を図り、利用者増を目指す。また利用実態を注視し、ダイヤの改正の検討など事業改善に努力していく。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、全線開通した上田電鉄別所線の具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
上田市公共交通活性化協議会	千曲バス株式会社	室賀線 下秋和～小泉～上室賀	<p>運賃低減バス事業実施中。また、前年度実施を見送った乗車体験や夏休みキッズバス、高校入学を控えた中学3年生に対し通学のための公共交通利用促進チラシの配布を実施した。</p> <p>新しい生活様式に即した車内設備の充実として、光触媒コーティングによる抗菌施工を実施した。</p>	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 運行コストは427円以内に対し443円62銭で目標を達成できなかった。収支率は目標27%以上に対し、30.89%と目標を達成できた。乗車人数25,866人以上に対し31,198人と目標を達成できた。原因としては、運行コストについては車内の感染防止対策費がかかることと燃料の高騰が考えられる。また、収支率、乗車人数については、コロナ禍の影響が徐々に回復傾向に向かっていると考えられる。	<p>運行コストは目標を達成できなかった。近年稀にみる燃料費の高騰と感染予防対策費などが考えられるが、感染予防は継続して行い、燃料費の経費を削減するためアイドリングストップなどを努めていく。</p> <p>また、利用者を増やすための利便性の向上については、今後も啓発活動を実施することにより利用実態を注視し、利用者の声を反映させたダイヤの見直しを継続していく。また、新しい生活様式に即した車内設備を充実させ安心・安全に利用してもらえるように継続して努める。</p> <p>さらに、市と連携した地域の取組として、普段公共交通を利用しない方に向けた講座を実施し、需要の掘り起こしを図る。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>
上田市公共交通活性化協議会	千曲バス株式会社	室賀線 上田新田～小泉～上室賀	<p>運賃低減バス事業実施中。また、前年度実施を見送った乗車体験や夏休みキッズバス、高校入学を控えた中学3年生に対し通学のための公共交通利用促進チラシの配布を実施した。</p> <p>新しい生活様式に即した車内設備の充実として、光触媒コーティングによる抗菌施工を実施した。</p>				

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
上田市公共交通活性化協議会	東信観光バス株式会社	丸子循環 丸子中央病院～東回り～丸子中央病院	運賃低減バス事業実施中。また、前年度実施を見送った乗車体験や夏休みキッズバス、高校入学を控えた中学3年生に対し通学のための公共交通利用促進チラシの配布を実施した。 高齢者向け講座については、コロナ禍であることを考慮し実施できなかった	A 事業が計画に位置付けられた通り、適切に実施された。	B 乗車人員は、目標3,405人以上に対し、合計2,869人となり目標を達成できなかった。運行コストは当初目標1kmあたり331円以内に対し、314円90銭となり達成できた。収支率は5%以上のところ、3.38%となり達成できなかった。新型コロナウイルス感染症の影響が残っており、昨年に引き続き利用者の多数を占める高齢者が外出を控えたことで、利用者の減少が進んだものと考えられる	新型コロナウイルスの影響はまだ継続するものと考えられるが、バスの安全性をアピールし外出を控えている利用者の利用を促していく。また、新型コロナウイルスの影響を鑑みた生活交通確保維持改善事業計画の目標値の設定のあり方についても、今後検討していくこととする。 利用者を増やすため利便性の向上については、ニーズに沿ったダイヤの見直し等事業改善を進めていく。運行コストは目標を達成しているが、さらなる経費節減に努めていく。 さらに、市と連携した地域の取組として、主に普段公共交通を利用しない高齢者向けの講座を感染症防止対策を徹底しつつ実施し、需要の掘り起こしを図る。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
上田市公共交通活性化協議会	東信観光バス株式会社	丸子循環 丸子中央病院～西回り～丸子中央病院	運賃低減バス事業実施中。また、前年度実施を見送った乗車体験や夏休みキッズバス、高校入学を控えた中学3年生に対し通学のための公共交通利用促進チラシの配布を実施した。 高齢者向け講座については、コロナ禍であることを考慮し実施できなかった。				

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
松川町地域公共交通対策協議会	伊那バス(株)	<ul style="list-style-type: none"> ・大島循環(午前1便) 西山～伊那大島駅 ・大島循環(午前2便) 伊那大島駅～キラヤ前 ・大島循環(午前3便)(午後便) 役場前～キラヤ前 	令和3年7月に高齢者を対象とした利用実態調査を実施し、利用実態や把握した。回数券の車内販売を令和3年4月から開始し、利便性の向上を図った。	A 事業は計画どおり適切に実施された。	C 4,000人目標のところ1,832人であった。コロナ禍による外出自粛、定期的にご利用する高齢者の減少が主な理由と考える。継続して運転手による車内消毒等を実施し、周知として車内掲示を行っている。	回数券の車内販売を継続して行い利便性の向上を図る。「自宅からバス停までの距離が遠い」「バスの時間が合わない」等の意見を踏まえた、利便性の向上に繋がる運行改善の検討を行う。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな具体策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
松川町地域公共交通対策協議会	伊那バス(株)	<ul style="list-style-type: none"> ・上片桐循環(午前1便) 役場前～役場前 ・上片桐循環(午前2便)(午後1・2便) 役場前～キラヤ前 	令和3年7月に高齢者を対象とした利用実態調査を実施し、高齢者の移動に関するニーズを把握した。回数券の車内販売を令和3年4月から開始し、利便性の向上を図った。	A 事業は計画どおり適切に実施された。	C 4,500人目標のところ2,861人であった。コロナ禍による外出自粛、定期的にご利用する高齢者の減少が主な理由と考える。継続して運転手による車内消毒等を実施し、周知として車内掲示を行っている。	回数券の車内販売を継続して行い利便性の向上を図る。「自宅からバス停までの距離が遠い」「バスの時間が合わない」等の意見を踏まえた、利便性の向上に繋がる運行改善の検討を行う。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな具体策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
松川町地域公共交通対策協議会	伊那バス(株)	・大島・上片桐通学便 役場前～伊那大島駅	令和2年10月に小中学生の通学定期券無料化を実施した。増野会所～椋原辻間をフリー降車区間に設定し利便性の向上を図った。	A 事業は計画どおり適切に実施された。	A 5,000人目標のところ8,976人であった。小中学生の通学定期券無料化の効果によるものと考え。継続して運転手による車内消毒等を実施し、周知として車内掲示を行っている。	新小学1年生、新高校1年生の保護者に対しバスの利用案内し、通学便の利用推進を図る。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
松川町地域公共交通対策協議会	丸茂自動車(有)	・生田循環峠部奈線(午前1便) 社協前～キラヤ前 ・生田循環峠部奈線(午前2便) 下峠～清流苑	利用が殆ど無い一部停留所の経由方法を予約制へと変更し、運行の効率化を図った。デマンドタクシーの実証運行期間を令和4年3月末まで延長した。	A 事業は計画どおり適切に実施された。	C 2,500人目標のところ1,292人であった。コロナ禍による外出自粛、定期的利用する高齢者の減少が主な理由と考え。継続して運転手による車内消毒等を実施し、周知として車内掲示を行っている。	回数券の車内販売を継続して行い利便性の向上を図る。デマンドタクシー実証運行の利用実績や利用者の意見等を踏まえ、地域に合った運行方法の検討を行う。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな具体策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
松川町地域公共交通対策協議会	丸茂自動車(有)	・生田循環中山柄山線(午前1便) 社協前～キラヤ前 ・生田循環中山柄山線(午前2便) 石橋～清流苑	利用が殆ど無い一部停留所の経由方法を予約制へと変更し、運行の効率化を図った。 デマンドタクシーの実証運行期間を令和4年3月末まで延長した。	A 事業は計画どおり適切に実施された。	C 2,000人目標のところ578人であった。コロナ禍による外出自粛、定期的に利用する高齢者の減少が主な理由と考えられる。継続して運転手による車内消毒等を実施し、周知として車内掲示を行っている。	回数券の車内販売を継続して行い利便性の向上を図る。 デマンドタクシー実証運行の利用実績や利用者の意見等を踏まえ、地域に合った運行方法の検討を行う。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな具体策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
伊那市地域公共交通協議会	事業社名 ・伊那バス㈱ 運行系統名 ・若宮・美原(若宮・美原・手良・福島循環バスの一部)	アビタ伊那～美原5～アビタ伊那	<p>【前回の事業評価結果】</p> <p>【1】高齢者教室等での説明(情報発信)による利用促進策を実施する。</p> <p>【2】バス育の市内保育園への横展開を計画する。</p> <p>【3】バス利用者アンケート等を実施し、運行内容の見直しや、地域にあった公共交通のあり方についての検討を進める。</p> <p>【4】利用促進の取組を継続する。</p> <p>【反映状況】</p> <p>【1】高齢者教室等での説明を実施した。</p> <p>【2】新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、対面型のイベントであるバス育の実施は見送った。</p> <p>【3】聞き取り調査等の結果や利用状況を踏まえ、R3.9月末をもって利用が低調な手良・福島方面への乗り入れを終了するとともに、R3.9月には、R3.10月からの本格運行を前提とした乗合タクシーの実証運行を実施した。</p> <p>【4】利用促進策として運転免許証自主返納者に係る運賃割引制度などを継続的に実施する一方、「10円バスの日」など、新型コロナウイルスの影響を鑑み、実施を見送った取組もあった。</p>	B 事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった	C <p>・R3年度目標7.16人/1運行(=1往復)に対して、R2年10月～R3年9月の実績は5.23人/1運行であり、未達成(参考:R2年度6.38人/1運行)。</p> <p>・通勤や買い物等での利用により、利用者は一定程度定着しているが、新型コロナウイルス感染拡大の影響(外出自粛等)で利用が低調となっている。</p> <p>・加えて、「8月は毎日10円バスの日」の実施の有無が影響した可能性も考えられる。比較的買い物等を目的とした利用が多い本系統において、R2年度は同取組の実施により、外出自粛等による影響を上回って利用が促進されたが、R3年度は未実施だったため、利用が低調となったことが推察される。</p>	<p>・既存の路線バスと、R3.10月から運行を開始する乗合タクシーの両方について、市報やHP等を活用した広報に加え、高齢者教室等での説明(情報発信)による利用促進策を実施する。</p> <p>・運行車両に乗り込み、利用者状況の聞き取り調査等を実施し、運行内容の見直しや、地域にあった公共交通のあり方についての検討を進める。(高齢化の進行や、運転免許証自主返納の推進等、社会情勢も考慮)</p> <p>・コロナ禍にあっても、地域住民が公共交通を日常の移動手段として安心して利用できる様、事業者と協力し感染拡大防止に取組むとともに、取組内容の積極的な情報発信に努める。(車内での案内やHP・広報誌・広報番組等の活用)</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
伊那市地域公共交通協議会	事業社名 ・伊那バス株式会社 運行系統名 ・若宮・美原・手良・福島循環バス	本社前～美原5～中坪～アピタ伊那	<p>【前回の事業評価結果】</p> <p>【1】高齢者教室等での説明(情報発信)による利用促進策を実施する。</p> <p>【2】バス育の市内保育園への横展開を計画する。</p> <p>【3】バス利用者アンケート等を実施し、運行内容の見直しや、地域にあった公共交通のあり方についての検討を進める。</p> <p>【4】利用促進の取組を継続する。</p> <p>【反映状況】</p> <p>【1】高齢者教室等での説明を実施した。</p> <p>【2】新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、対面型のイベントであるバス育の実施は見送った。</p> <p>【3】聞き取り調査等の結果や利用状況を踏まえ、R3.9月末をもって利用が低調な手良・福島方面への乗り入れを終了するとともに、R3.9月には、R3.10月からの本格運行を前提とした乗合タクシーの実証運行を実施した。</p> <p>【4】利用促進策として運転免許証自主返納者に係る運賃割引制度などを継続的に実施する一方、「10円バスの日」など、新型コロナウイルスの影響を鑑み、実施を見送った取組もあった。</p>	B 事業が計画に位置づけられたとおり実施されていない点があった	C <p>・R3年度目標7.16人/1運行(=1往復)に対して、R2年10月～R3年9月の実績は5.23人/1運行であり、未達成(参考：R2年度6.38人/1運行)。</p> <p>・通勤や買い物等での利用により、利用者は一定程度定着しているが、新型コロナウイルス感染拡大の影響(外出自粛等)で利用が低調となっている。</p> <p>・加えて、「8月は毎日10円バスの日」の実施の有無が影響した可能性も考えられる。比較的買い物を目的とした利用が多い本系統において、R2年度は同取組の実施により、外出自粛等による影響を上回って利用が促進されたが、R3年度は未実施だったため、利用が低調となったことが推察される。</p>	<p>・既存の路線バスと、R3.10月から運行を開始する乗合タクシーの両方について、市報やHP等を活用した広報に加え、高齢者教室等での説明(情報発信)による利用促進策を実施する。</p> <p>・運行車両に乗り込み、利用者状況の聞き取り調査等を実施し、運行内容の見直しや、地域にあった公共交通のあり方についての検討を進める。(高齢化の進行や、運転免許証自主返納の推進等、社会情勢も考慮)</p> <p>・コロナ禍にあっても、地域住民が公共交通を日常の移動手段として安心して利用できる様、事業者と協力し感染拡大防止に取組むとともに、取組内容の積極的な情報発信に努める。(車内での案内やHP・広報誌・広報番組等の活用)</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
伊那市地域公共交通協議会	事業社名 ・ジェイアルバス関東株 中央道支店 運行系統名 ・茅野・藤沢線	高遠～松倉～古屋敷 【公有民営方式車両購入費国庫補助金】	<p>【前回の事業評価結果】</p> <p>【1】高齢者教室等での説明(情報発信)による利用促進策を実施する。</p> <p>【2】バス育の市内保育園への横展開を計画する。</p> <p>【3】バス利用者アンケート等を実施し、運行内容の見直しや、地域にあった公共交通のあり方についての検討を進める。</p> <p>【4】利用促進の取組を継続する。</p> <p>【反映状況】</p> <p>【1】高齢者教室等での説明を実施した。</p> <p>【2】新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、対面型のイベントであるバス育の実施は見送った。</p> <p>【3】聞き取り調査等の結果を踏まえ、R3.9月末をもって利用が低調な便について、減便を実施するとともに、R3.9月には、R3.10月からの本格運行を前提とした乗合タクシーの実証運行を実施した。</p> <p>【4】利用促進策として運転免許証自主返納者に係る運賃割引制度などを継続的に実施する一方、「10円バスの日」など、新型コロナウイルスの影響を鑑み、実施を見送った取組もあった。</p>	B 事業が計画に位置づけられたとおり実施されていない点があった	C <p>・R3年度目標6.62人/1運行(=1往復)に対して、R2年10月～R3年9月の実績は4.56人/1運行であり、未達成(参考：R2年度3.30人/1運行)。</p> <p>・定期利用していた高齢者が身体状況の変化等によって利用しなくなる一方、その減少を補うだけの新規利用者数が増加していないという状況に加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響(外出自粛等)で利用が低調となっている。</p> <p>・過疎や通学利用の児童生徒の減少に伴って利用者が減少している。(小中学校よりも遠距離となる高校への通学にあたっては、保護者が通勤時等に送迎するケースも考えられる。)</p>	<p>・既存の路線バスと、R3.10月から運行を開始する乗合タクシーの両方について、市報やHP等を活用した広報に加え、高齢者教室等での説明(情報発信)による利用促進策を実施する。</p> <p>・利用状況や、利用者のニーズ分析を行い、より良い地域公共交通となるよう取組む。</p> <p>・コロナ禍にあっても、地域住民が公共交通を日常の移動手段として安心して利用できる様、事業者と協力し感染拡大防止に取組むとともに、取組内容の積極的な情報発信に努める。(車内での案内やHP・広報誌・広報番組等の活用)</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
伊那市地域公共交通協議会	事業社名 ・ジェイアールバス関東株 中央道支店 運行系統名 ・三義・長谷循環バス	高遠～非持山～高遠 【公有民営方式車両購入費 国庫補助金】	<p>【前回の事業評価結果】</p> <p>【1】高齢者教室等での説明(情報発信)による利用促進策を実施する。</p> <p>【2】バス育の市内保育園への横展開を計画する。</p> <p>【3】バス利用者アンケート等を実施し、運行内容の見直しや、地域にあった公共交通のあり方についての検討を進める。</p> <p>【4】利用促進の取組を継続する。</p> <p>【反映状況】</p> <p>【1】高齢者教室等での説明を実施した。</p> <p>【2】新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、対面型のイベントであるバス育の実施は見送った。</p> <p>【3】R3.9月末をもって、利用が低調な便について、減便を実施するとともに、R3.9月には、R3.10月からの本格運行を前提としたデマンド型乗合タクシーの実証運行を実施した。</p> <p>【4】利用促進策として運転免許証自主返納者に係る運賃割引制度などを継続的に実施する一方、「10円バスの日」など、新型コロナウイルスの影響を鑑み、実施を見送った取組もあった。</p>	B 事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった	C <ul style="list-style-type: none"> ・R3年度目標2.54人/1運行(=1往復)に対して、R2年10月～R3年9月の実績は2.26人/1運行であり、未達成(参考：R2年度2.07人/1運行)。 ・定期利用していた高齢者が身体状況の変化等によって利用しなくなる一方、その減少を補うだけの新規利用者数が増加していないという状況に加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響(外出自粛等)で利用が低調となっている。 ・過疎や通学利用の高校生の減少に伴って利用者が減少している。(高校への通学にあたっては、保護者が通勤時等に送迎するケースも考えられる。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の路線バスと、R3.10月から運行を開始する乗合タクシーの両方について、市報やHP等を活用した広報に加え、高齢者教室等での説明(情報発信)による利用促進策を実施する。 ・利用状況や、利用者のニーズ分析を行い、より良い地域公共交通となるよう取組む。 ・コロナ禍にあっても、地域住民が公共交通を日常の移動手段として安心して利用できる様、事業者と協力し感染拡大防止に取組むとともに、取組内容の積極的な情報発信に努める。(車内での案内やHP・広報誌・広報番組等の活用) 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
伊那市地域公共交通協議会	事業社名 ・ジェイアルバス関東株 中央道支店 運行系統名 ・長谷循環バス1	高遠～非持～岩入 【公有民営方式車両購入費国庫補助金】	<p>【前回の事業評価結果】</p> <p>【1】高齢者教室等での説明(情報発信)による利用促進策を実施する。</p> <p>【2】バス育の市内保育園への横展開を計画する。</p> <p>【3】バス利用者アンケート等を実施し、運行内容の見直しや、地域にあった公共交通のあり方についての検討を進める。</p> <p>【4】利用促進の取組を継続する。</p> <p>【反映状況】</p> <p>【1】高齢者教室等での説明を実施した。</p> <p>【2】新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、対面型のイベントであるバス育の実施は見送った。</p> <p>【3】聞き取り調査等の結果を踏まえ、R3.4月から新たに乗合タクシーの運行を開始するとともに、当該路線バスの一部減便を行い、朝夕は路線バス、日中は乗合タクシーという形で役割分担しつつ移動の確保を図った。</p> <p>【4】利用促進策として運転免許証自主返納者に係る運賃割引制度などを継続的に実施する一方、「10円バスの日」など、新型コロナウイルスの影響を鑑み、実施を見送った取組もあった。</p>	B	事業が計画に位置づけられたとおり実施されていない点があった	C	<p>・R3年度目標4.10人/1運行(=1往復)に対して、R2年10月～R3年9月の実績は1.50人/1運行であり、未達成(参考：R2年度2.41人/1運行)。</p> <p>・定期利用していた高齢者が身体状況の変化等によって利用しなくなる一方、その減少を補うだけの新規利用者数が増加していないという状況に加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響(外出自粛等)で利用が低調となっている。</p> <p>・過疎や通学利用の児童生徒の減少に伴って利用者が減少している。(小中学校よりも遠距離となる高校への通学にあたっては、保護者が通勤時等に送迎するケースも考えられる。)</p>	<p>・既存の路線バスと、R3.4月から運行を開始した乗合タクシーの両方について、市報やHP等を活用した広報に加え、高齢者教室等での説明(情報発信)による利用促進策を実施する。</p> <p>・利用状況や、利用者のニーズ分析を行い、より良い地域公共交通となるよう取組む。</p> <p>・コロナ禍にあっても、地域住民が公共交通を日常の移動手段として安心して利用できる様、事業者と協力し感染拡大防止に取組むとともに、取組内容の積極的な情報発信に努める。(車内での案内やHP・広報誌・広報番組等の活用)</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
伊那市地域公共交通協議会	事業社名 ・ジェイアールバス関東(株)中央道支店 運行系統名 ・長谷循環バス2	高遠～非持山～粟沢駐車場～岩入 【公有民営方式車両購入費国庫補助金】	<p>【前回の事業評価結果】</p> <p>【1】高齢者教室等での説明(情報発信)による利用促進策を実施する。</p> <p>【2】バス育の市内保育園への横展開を計画する。</p> <p>【3】バス利用者アンケート等を実施し、運行内容の見直しや、地域にあった公共交通のあり方についての検討を進める。</p> <p>【4】利用促進の取組を継続する。</p> <p>【反映状況】</p> <p>【1】高齢者教室等での説明を実施した。</p> <p>【2】新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、対面型のイベントであるバス育の実施は見送った。</p> <p>【3】聞き取り調査等の結果を踏まえ、R3.4月から新たに乗合タクシーの運行を開始するとともに、当該路線バスの一部減便を行い、朝夕は路線バス、日中は乗合タクシーという形で役割分担しつつ移動の確保を図った。</p> <p>【4】利用促進策として運転免許証自主返納者に係る運賃割引制度などを継続的に実施する一方、「10円バスの日」など、新型コロナウイルスの影響を鑑み、実施を見送った取組もあった。</p>	B 事業が計画に位置づけられたとおり実施されていない点があった	C <ul style="list-style-type: none"> ・R3年度目標4.10人/1運行(=1往復)に対して、R2年10月～R3年9月の実績は1.50人/1運行であり、未達成(参考：R2年度2.41人/1運行)。 ・定期利用していた高齢者が身体状況の変化等によって利用しなくなる一方、その減少を補うだけの新規利用者数が増加していないという状況に加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響(外出自粛等)で利用が低調となっている。 ・過疎や通学利用の児童生徒の減少に伴って利用者が減少している。(小中学校よりも遠距離となる高校への通学にあたっては、保護者が通勤時等に送迎するケースも考えられる。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の路線バスと、R3.4月から運行を開始した乗合タクシーの両方について、市報やHP等を活用した広報に加え、高齢者教室等での説明(情報発信)による利用促進策を実施する。 ・利用状況や、利用者のニーズ分析を行い、より良い地域公共交通となるよう取組む。 ・コロナ禍にあっても、地域住民が公共交通を日常の移動手段として安心して利用できる様、事業者と協力し感染拡大防止に取組むとともに、取組内容の積極的な情報発信に努める。(車内での案内やHP・広報誌・広報番組等の活用) 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
長野市公共交通活性化・再生協議会	長野市	中条線 中条支所～ 中条地区～ 中条支所	地区人口の減少に加え新型コロナウイルス感染症の影響によりさらに利用者は減少している状況を共有し、案内チラシの配布など地域への利用促進の依頼をした。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	C 令和5年度まで2,200人以上確保する目標に対し、令和3年度実績は1,617人であった。	地区人口の減少等により、利用者の減少に歯止めがかからなくなってきていることに加え、新型コロナウイルス感染症の影響によりさらに利用者が減少している。地域のニーズ調査を行い、運行内容の見直し及び利用促進策を検討する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
長野市公共交通活性化・再生協議会	アルピコタクシー株式会社	篠ノ井共和線 川中島駅～ Aコープ・篠ノ井店～篠ノ井病院前	支所、地区役員等に利用状況等を説明するとともに、案内チラシの配布などの利用促進を依頼した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	C 令和5年度まで1,900人以上確保する目標に対し、令和3年度実績は1,598人であった。	地域のニーズを反映した運行内容とするため、支所や地区役員等と連携しながらルートの見直しを検討する。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
長野市公共交通活性化・再生協議会	アルピコタクシー株式会社	安茂里線 安茂里駅～ 安茂里支所～ 長野ターミナル	支所、地区役員等に利用状況等を説明するとともに、案内チラシの配布などの利用促進を依頼した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	C 令和5年度まで3,700人以上確保する目標に対し、令和3年度実績は3,460人であった。	利用者を増加させ目標値を達成できるように、地区役員等と連携しながら利用促進を図る。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
安曇野市地域公共交通協議会	南安タクシー(有) 安曇観光タクシー(株) あづみの第一交通(株)	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンド交通「あづみん」区域型運行。 ・地域間幹線系統路線に接続する7系統を運行。 ・車両減価償却費国庫補助金(南安タクシー(有)2台)を受給。 	<p>令和2年度に実施した網形成計画の中間評価結果より、デマンドのサービス向上を図ることを確認。これを受け、デマンドの充実、具体的には、待ち時間の見える化、予約断り件数の改善、区域をまたぐ場合の運行導入、休日(土曜日)の運行導入について、検討を行った。</p> <p>また、R2年12月からR3年3月にかけて市民約600人を対象に対面式での聞き取り調査を実施。現在のデマンドのドアツードア方式が高く評価されていることを確認した一方で、デマンドを利用したことが無い市民が、デマンドの不便さ(乗継が必要な場合がある、休日に運行していない、待ち時間が長い)を口コミなどで聴き先入観を持っていることも分かった。</p> <p>こうした状況を踏まえ、デマンドの利便性や利用方法をより分かりやすくお知らせするためにデマンド案内チラシを刷新し、新規利用登録者を中心に周知を行った。</p>	A	当初の計画通り事業を実施することができた。	C	<p>年間目標利用者数を87,600人に設定していたが、R3年度の実績は、年間利用者数77,882人、日平均利用者数は320.5人であり、目標達成には至らなかった。</p> <p>未達成の要因の一つとして、コロナ禍によりライフスタイルが変化(公共交通から、自家用車や家族送迎にシフト)していることが考えられる。</p> <p>また、首都圏等における緊急事態宣言の発令および松本圏域における感染警戒レベルの引き上げに伴い、感染拡大防止対策として、期間中3度にわたり1台当たりの乗車人数の制限を行ったこともあり、利用者数が伸び悩んだ。</p> <p>一方で、障がい者等の通所や免許不保持者の利用は継続しており、一定の事業の効果は維持されている。</p>	<p>左記③の検討を踏まえ、R4年11月(予定)からデマンドの新運行(一部実証運行)を開始する計画であり、今後当協議会において決定していく。</p> <p>ワクチン接種の影響もあつたか、コロナ感染状況はR3年10月以降落ち着きをみせているが、利用者のライフスタイルの変化もあり、コロナ禍前の状況には戻らないと考えている。持続可能な公共交通としてデマンドを維持していくためには、既存の利用者に加えて新たな利用者を増やしていくことが求められる。</p> <p>従来の利用目的(高齢者や障がい者の移動手段)だけでなく、新たな利用目的(観光やビジネス、通園・通学などの移動手段)を持つ利用者を取り込むため、最新のモビリティサービスを導入するなど、機動性、柔軟性をもって事業展開する。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
信濃町地域公共交通協議会	長電バス(株)	<p>(路線名)熊坂・野尻線(運行区間)熊坂～信濃小中学校</p> <p>「利用者数の増加」、「利用者ひとりあたりの財政負担の抑制」を目標として事業を実施した。</p> <p>・運行回数の維持、利便性の確保に努めた。</p> <p>・乗降データや利用者アンケートを実施しニーズ把握に努めた。</p> <p>・広報誌や町HPにてデマンドタクシーのPRを行った。</p> <p>・コロナ感染防止のためバス等の感染防止策の徹底(換気や消毒)を継続、利用者のマスク着用の徹底を行い、安心・安全な利用環境整備に努めた。</p>	A	計画どおり事業は適切に実施された。	C	<p>1. 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 路線バスの一般利用者数目標値 6,910人/年 デマンドタクシー(ふれあいコスモス号)の利用者数目標値 13,600人/年 利用者ひとりあたり財政負担の抑制 <p>2. 目標・効果達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者数の増加 路線バス一般利用: 6,446人(前年6,309人)、デマンドタクシー: 8,903人(前年9,524人)と路線バス利用者が2.2%増加、デマンドタクシーの利用者が6.5%減少している。 財政負担の抑制 財政負担については、6,483円(R1年実績5,790円)であり12%上回った。利用者全体の減少に伴い運行収入の減収や運行委託費が増大した。(過去の推移: H30年5,309円/R元年5,790円/R2年5,998円) 路線バスについては自肅要請解除に伴い数名の利用増が見受けられた。しかし、デマンドタクシーについては減少傾向が続いており新規利用者の伸び悩みが考えられる。 路線バスの経路別では前年と比較し減少路線が複数あった。(4路線/8路線) デマンドタクシーでは乗降属性に大きな変化はなかったが、目的の8割が通院や帰宅であることから利用者の高齢化に伴う入院・死亡等による利用減少が要因として考えられる。 	<p>・乗り込み調査や利用者へのアンケート調査は継続して行い、運行内容の見直しや地域にあった公共交通の在り方について検討を進める。(高齢化の進行や、社会情勢等も考慮する)</p> <p>・利用促進施策として広報誌や町HPにてデマンドタクシーのPRを積極的に行い、高齢者の利用を促す。(乗り方講座などの開催を検討し利用方法の普及を図る。)</p> <p>・利用減少に歯止めが掛からない状況であるが、町民生活に不可欠な交通手段でもあることから町の公共交通網を存続するためにも真に必要な交通利用者を中心に効率的な再編を視野にいれ検討を図っていきたい。</p> <p>・収支状況については、今後も維持費や更新費の経費は増加すると考えられる。一方、収入は減少し続けているため、今後も利用促進に努めるとともに以前からの検討事項である財政負担の見直し(運行路線の縮小や統合等)についても引き続き慎重に検討を進める。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
信濃町地域公共交通協議会	長電バス(株)	<p>(路線名)石橋・板橋線(運行区間)石橋東～黒姫駅</p> <p>(路線名)国道線(黒姫駅～いこいの家)(運行区間)黒姫駅～いこいの家</p>	<p>「利用者数の増加」、「利用者ひとりあたりの財政負担の抑制」を目標として事業を実施した。</p> <p>・運行回数の維持、利便性の確保に努めた。</p> <p>・乗降データや利用者アンケートを実施しニーズ把握に努めた。</p> <p>・広報誌や町HPにてデマンドタクシーのPRを行った。</p> <p>・コロナ感染防止のためバス等の感染防止策の徹底(換気や消毒)を継続、利用者のマスク着用の徹底を行い、安心・安全な利用環境整備に努めた。</p>	A	<p>計画どおり事業は適切に実施された。</p>	C	<p>1. 目標 ・路線バスの一般利用者数目標値 6,910人/年 デマンドタクシー(ふれあいコスモス号)の利用者数目標値 13,600人/年 ・利用者ひとりあたり財政負担の抑制</p> <p>2. 目標・効果達成状況 ・利用者数の増加 路線バス一般利用:6,446人(前年6,309人)、デマンドタクシー:8,903人(前年9,524人)と路線バス利用者が2.2%増加、デマンドタクシーの利用者が6.5%減少している。 ・財政負担の抑制 財政負担については、6,483円(R1年実績5,790円)であり12%上回った。利用者全体の減少に伴い運行収入の減収や運行委託費が増大した。(過去の推移:H30年5,309円/R元年5,790円/R2年5,998円)</p> <p>路線バスについては自粛要請解除に伴い数名の利用増が見受けられた。しかし、デマンドタクシーについては減少傾向が続いており新規利用者の伸び悩みが考えられる。 路線バスの経路別では前年と比較し減少路線が複数あった。(4路線/8路線) デマンドタクシーでは乗降属性に大きな変化はなかったが、目的の8割が通院⇄帰宅であることから利用者の高齢化に伴う入院・死亡等による利用減少が要因として考えられる。</p>	<p>・乗り込み調査や利用者へのアンケート調査は継続して行い、運行内容の見直しや地域にあった公共交通の在り方について検討を進める。(高齢化の進行や、社会情勢等も考慮する)</p> <p>・利用促進施策として広報誌や町HPにてデマンドタクシーのPRを積極的に行い、高齢者の利用を促す。(乗り方講座などの開催を検討し利用方法の普及を図る。)</p> <p>・利用減少に歯止めが掛からない状況であるが、町民生活に不可欠な交通手段でもあることから町の公共交通網を存続するためにも真に必要な交通利用者を中心に効率的な再編を視野にいれ検討を図っていきたい。</p> <p>・収支状況については、今後も維持費や更新費の経費は増加すると考えられる。一方、収入は減少し続けているため、今後も利用促進に努めるとともに以前からの検討事項である財政負担の見直し(運行路線の縮小や統合等)についても引き続き慎重に検討を進める。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
信濃町地域公共交通協議会	長電バス(株)	<p>(路線名)国道線(黒姫駅-黒姫高原) (運行区間)黒姫駅~黒姫高原</p> <p>「利用者数の増加」、「利用者ひとりあたりの財政負担の抑制」を目標として事業を実施した。</p> <p>・運行回数の維持、利便性の確保に努めた。</p> <p>・乗降データや利用者アンケートを実施しニーズ把握に努めた。</p> <p>・広報誌や町HPにてデマンドタクシーのPRを行った。</p> <p>・コロナ感染防止のためバス等の感染防止策の徹底(換気や消毒)を継続、利用者のマスク着用の徹底を行い、安心・安全な利用環境整備に努めた。</p>	A	計画どおり事業は適切に実施された。	C	<p>1. 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 路線バスの一般利用者数目標値 6,910人/年 デマンドタクシー(ふれあいコスモス号)の利用者数目標値 13,600人/年 利用者ひとりあたり財政負担の抑制 <p>2. 目標・効果達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者数の増加 路線バス一般利用:6,446人(前年6,309人)、デマンドタクシー:8,903人(前年9,524人)と路線バス利用者が2.2%増加、デマンドタクシーの利用者が6.5%減少している。 財政負担の抑制 財政負担については、6,483円(R1年実績5,790円)であり12%上回った。利用者全体の減少に伴い運行収入の減収や運行委託費が増大した。(過去の推移:H30年5,309円/R元年5,790円/R2年5,998円) 路線バスについては自粛要請解除に伴い数名の利用増が見受けられた。しかし、デマンドタクシーについては減少傾向が続いており新規利用者の伸び悩みが考えられる。 路線バスの経路別では前年と比較し減少路線が複数あった。(4路線/8路線) デマンドタクシーでは乗降属性に大きな変化はなかったが、目的の8割が通院⇄帰宅であることから利用者の高齢化に伴う入院・死亡等による利用減少が要因として考えられる。 	<p>・乗り込み調査や利用者へのアンケート調査は継続して行い、運行内容の見直しや地域にあった公共交通の在り方について検討を進める。(高齢化の進行や、社会情勢等も考慮する)</p> <p>・利用促進施策として広報誌や町HPにてデマンドタクシーのPRを積極的に行い、高齢者の利用を促す。(乗り方講座などの開催を検討し利用方法の普及を図る。)</p> <p>・利用減少に歯止めが掛からない状況であるが、町民生活に不可欠な交通手段でもあることから町の公共交通網を存続するためにも真に必要な交通利用者を中心に効率的な再編を視野にいれ検討を図っていきたい。</p> <p>・収支状況については、今後も維持費や更新費の経費は増加すると考えられる。一方、収入は減少し続けているため、今後も利用促進に努めるとともに以前からの検討事項である財政負担の見直し(運行路線の縮小や統合等)についても引き続き慎重に検討を進める。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
信濃町地域公共交通協議会	長電バス(株)	<p>(路線名)国道線(黒姫駅-飯綱病院) (運行区間)黒姫駅-飯綱病院</p> <p>「利用者数の増加」、「利用者ひとりあたりの財政負担の抑制」を目標として事業を実施した。</p> <p>・運行回数の維持、利便性の確保に努めた。</p> <p>・乗降データや利用者アンケートを実施しニーズ把握に努めた。</p> <p>・広報誌や町HPにてデマンドタクシーのPRを行った。</p> <p>・コロナ感染防止のためバス等の感染防止策の徹底(換気や消毒)を継続、利用者のマスク着用の徹底を行い、安心・安全な利用環境整備に努めた。</p>	A	<p>計画どおり事業は適切に実施された。</p>	C	<p>1. 目標 ・路線バスの一般利用者数目標値 6,910人/年 デマンドタクシー(ふれあいコスモス号)の利用者数目標値 13,600人/年 ・利用者ひとりあたり財政負担の抑制</p> <p>2. 目標・効果達成状況 ・利用者数の増加 路線バス一般利用:6,446人(前年6,309人)、デマンドタクシー:8,903人(前年9,524人)と路線バス利用者が2.2%増加、デマンドタクシーの利用者が6.5%減少している。 ・財政負担の抑制 財政負担については、6,483円(R1年実績5,790円)であり12%上回った。利用者全体の減少に伴い運行収入の減収や運行委託費が増大した。(過去の推移:H30年5,309円/R元年5,790円/R2年5,998円)</p> <p>路線バスについては自粛要請解除に伴い数名の利用増が見受けられた。しかし、デマンドタクシーについては減少傾向が続いており新規利用者の伸び悩みが考えられる。 路線バスの経路別では前年と比較し減少路線が複数あった。(4路線/8路線) デマンドタクシーでは乗降属性に大きな変化はなかったが、目的の8割が通院や帰宅であることから利用者の高齢化に伴う入院・死亡等による利用減少が要因として考えられる。</p>	<p>・乗り込み調査や利用者へのアンケート調査は継続して行い、運行内容の見直しや地域にあった公共交通の在り方について検討を進める。(高齢化の進行や、社会情勢等も考慮する)</p> <p>・利用促進施策として広報誌や町HPにてデマンドタクシーのPRを積極的に行い、高齢者の利用を促す。(乗り方講座などの開催を検討し利用方法の普及を図る。)</p> <p>・利用減少に歯止めが掛からない状況であるが、町民生活に不可欠な交通手段でもあることから町の公共交通網を存続するためにも真に必要な交通利用者を中心に効率的な再編を視野にいれ検討を図っていきたい。</p> <p>・収支状況については、今後も維持費や更新費の経費は増加すると考えられる。一方、収入は減少し続けているため、今後も利用促進に努めるとともに以前からの検討事項である財政負担の見直し(運行路線の縮小や統合等)についても引き続き慎重に検討を進める。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
信濃町地域公共交通協議会	野尻湖タクシー(株)	(路線名)信濃町デマンドタクシー (運行区間)信濃町内及び妙高高原駅	<p>「利用者数の増加」、「利用者ひとりあたりの財政負担の抑制」を目標として事業を実施した。</p> <p>・運行回数の維持、利便性の確保に努めた。</p> <p>・乗降データや利用者アンケートを実施しニーズ把握に努めた。</p> <p>・広報誌や町HPにてデマンドタクシーのPRを行った。</p> <p>・コロナ感染防止のためバス等の感染防止策の徹底(換気や消毒)を継続、利用者のマスク着用の徹底を行い、安心・安全な利用環境整備に努めた。</p>	A	<p>計画どおり事業は適切に実施された。</p>	C	<p>1. 目標 ・路線バスの一般利用者数目標値 6,910人/年 デマンドタクシー(ふれあいコスモス号)の利用者数目標値 13,600人/年 ・利用者ひとりあたり財政負担の抑制</p> <p>2. 目標・効果達成状況 ・利用者数の増加 路線バス一般利用:6,446人(前年6,309人)、デマンドタクシー:8,903人(前年9,524人)と路線バス利用者が2.2%増加、デマンドタクシーの利用者が6.5%減少している。 ・財政負担の抑制 財政負担については、6,483円(R1年実績5,790円)であり12%上回った。利用者全体の減少に伴い運行収入の減収や運行委託費が増大した。(過去の推移:H30年5,309円/R元年5,790円/R2年5,998円)</p> <p>路線バスについては自粛要請解除に伴い数名の利用増が見受けられた。しかし、デマンドタクシーについては減少傾向が続いており新規利用者の伸び悩みが考えられる。 路線バスの経路別では前年と比較し減少路線が複数あった。(4路線/8路線) デマンドタクシーでは乗降属性に大きな変化はなかったが、目的の8割が通院⇄帰宅であることから利用者の高齢化に伴う入院・死亡等による利用減少が要因として考えられる。</p>	<p>・乗り込み調査や利用者へのアンケート調査は継続して行い、運行内容の見直しや地域にあった公共交通の在り方について検討を進める。(高齢化の進行や、社会情勢等も考慮する)</p> <p>・利用促進施策として広報誌や町HPにてデマンドタクシーのPRを積極的に行い、高齢者の利用を促す。(乗り方講座などの開催を検討し利用方法の普及を図る。)</p> <p>・利用減少に歯止めが掛からない状況であるが、町民生活に不可欠な交通手段でもあることから町の公共交通網を存続するためにも真に必要な交通利用者を中心に効率的な再編を視野にいれ検討を図っていきたい。</p> <p>・収支状況については、今後も維持費や更新費の経費は増加すると考えられる。一方、収入は減少し続けているため、今後も利用促進に努めるとともに以前からの検討事項である財政負担の見直し(運行路線の縮小や統合等)についても引き続き慎重に検討を進める。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
岡谷市地域公共交通活性化協議会	JRバス関東(株) アルピコタクシー(株)	今井・長地線 長地・今井線 市街地循環東ルート線【フィーダー系統】 市街地循環西ルート線 川岸線 川岸橋原線 やまびこ公園線【フィーダー系統】	令和元年度より、新型コロナウイルス感染症の影響により利用が激減している。令和2年度中に一部回復の兆しがあったものの、新型コロナウイルス感染症前の水準(令和元年12月間乗客10,737人)に回復することなく、現在では感染拡大前の1割～2割減で推移している。また、こうした状況であったため、利用促進活動も感染拡大状況にあわせて一部変更しながら以下の事業に取り組んだ(フィーダー系統に限らず、シルキーバス全線での取り組み)。 ①JRとの接続を考慮したダイヤ改正及び要望のあったバス停の新設(令和2年度～) ②わかりやすい時刻表の作成(令和2年度～) ③免許返納者に対して回数券の無料配布を1冊(12枚綴り)から3冊とした(令和2年度～) ④運転免許証自主返納者又は75歳以上の方を対象としたお得な回数券「おでかけパス」を発売(令和2年度～) ⑤65歳介護保険到達者説明会において、利用促進ポケットティッシュの配布(令和3年度) ⑥川岸線において、沿線保育園児の塗り絵を車内に展示するシルキーバス子ども美術館事業を実施した(令和3年度)	A 計画どおり事業は適切に実施された	C ①シルキーバス路線の1日平均利用者が目標の357人以上/日に対して280人で、目標達成率は、78.4%。 <理由> 利用者数の増加を図るため、これまでの取り組みとともに、新たにシルキーバス子ども美術館事業において親子無料乗車券等を配布したが、人口減少や自家用車の普及のほか、新型コロナウイルス拡大による外出控えの影響が大きく、バス利用者が減少した。 ②シルキーバス路線の収支状況については、目標の24.0%以上に対して、17.8%であった。 <理由> 利用者数減少による運賃収入の減少に加え、車両修繕費の上昇及び運賃箱更新費の計上があり他経費の縮小を図ったものの支出が増加した。	・1日平均利用者数が目標を下回ったことについては、目標数値の見直しや利用促進に努めることにより改善を図る必要がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染予防のための「新たな生活様式」における輸送需要を把握する必要がある。 ・収支状況については、運賃収入の減と車両の老朽化により、維持経費は増加する傾向にある。一層の利用促進に加え、以前からの検討事項である運賃の見直しについても引き続き慎重に検討を進める。 ・新型コロナウイルスによる高齢者の外出控えが長期化しており、利用客の回復の目途が立たない状況。また、乗客の感染予防に対する関心も高いため、引き続きバスの消毒等を徹底する。 ・地域の交通需要を調査するため、地域公共交通計画策定に必要な調査事業の実施を検討する。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、人口減少や自家用車の普及、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議 会名	①補助対象 事業者等	②事業 概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業 評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の 改善点	評価結果		
須坂市地域 公共交通会議	長電バス(株)	すざか市民 バス 運行系統 名：仙仁線、 米子線、明 徳団地線、 北相之島 線、おはよ うライナー仙 仁豊丘・おか えりライ ナー、おはよ うライナー米 子明徳	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のバス利用を促すため、65歳以上の運転免許証自主返納者に対し、ICカードKURURUを1枚贈呈 ・市で行っている出前講座の科目にバスの乗り方教室を掲載。 ・コロナ禍において、安全にバスを利用していただけのように、対策等をHP等で情報発信した。 ・利便性向上のため、バス接近表示システム、デジタルサイネージの導入にむけ検討を行った。 ・長野電鉄のこども無料デーに合わせ、バスこども無料デーを実施、利用促進を図った。 ・利便性向上のため、すざか市民バスGTFSデータをGoogleへ掲載するため準備を進めた。 	A	計画通り事業は適切に実施された。	C	<p>年間の利用者数と各路線のICカード利用者数の割合から利用者数を算出した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①仙仁線 目標：65,100人 実績：43,530人 ②米子線 目標：24,100人 実績：17,979人 ③明徳団地線 目標：13,700人 実績：8,030人 ④北相之島線 目標：7,100人 実績：5,618人 ⑤KURURU屋割利用者 目標：15,500人 実績：12,120人 ⑥KURURU乗継割引利用者 目標：3,500人 実績：3,146人 <p>全ての項目において、目標が達成されなかった。バス利用者全体から見たICカードの利用者は、昨年と比べ微増となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化及び人口減少による利用者減に加え、新型コロナウイルス感染症の影響が続き、通勤・通学の利用者が回復してこない。車内換気や消毒などのコロナ対策を実施し、安全に利用できることを周知する。 ・Googleへのすざか市民バスデータ掲載を実施。経路検索が容易に出来ることから、利用者の利便性向上を図る。また、他市内バス路線の掲載の準備を進める。 ・冬休み中のバスこども無料デーを実施し、利用促進を図る。 ・須坂駅前及び信州医療センターへバス時刻表のデジタルサイネージを設置する。また、観光施設付近のバス停留所に接近表示システムを設置し、利便性向上を図る。 	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、少子化及び人口減少、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議 会名	①補助対象 事業者等	②事業 概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果				
			③前回(又は類似事業)の事業 評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の 改善点	評価結果				
須坂市地域 公共交通会 議	北信タクシー (株) 長電タクシー (株)	すざか乗合 タクシー 日野・豊洲 地域及び福 島・中島町・ 松川町	<p>・運行地域の区長に利用状況等を説明し、地域での利用促進及び広報を依頼した。</p> <p>・利用促進策として、運行区域の地区に対し利用方法を掲載したチラシ等を全戸配布した。</p> <p>・ICカードKURURUを乗合タクシーへ導入し、利用者の利便性を図った。(R2.10～)</p>	A 計画通り事業は適切に実施された。	C <p>・1日当たりの平均利用者数</p> <table border="1"> <tr> <td>目標</td> <td>実績</td> </tr> <tr> <td>10人</td> <td>7.2人</td> </tr> </table> <p>KURURU利用者割合 90.3%</p>	目標	実績	10人	7.2人	<p>・引き続き、車内換気等によるコロナ対策を実施し、安心して利用できる事の周知を図っていく。</p> <p>・停留所設置の検討等により、利便性の向上、利用促進を図り、さらなる利用者増を目指す。</p> <p>・運行エリアでの乗合タクシー乗り方教室を実施し、利用者増を目指す。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤の目標・効果達成状況については、目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>
目標	実績										
10人	7.2人										

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
中野市地域公共交通対策協議会	長電バス株式会社	立ヶ花線 中野駅⇔ 立ヶ花駅	・利用促進を図るため、市内全世帯、基幹病院、飯山駅、信州中野駅等への「交通マップ/時刻表」の配布や小学生を対象とした「バスの乗り方教室」等を行った。	A ・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C ・事業が計画に位置付けられた目標を達成しなかった。 【1日あたり利用者数】 目標…22.0人 実績…16.2人	・新型コロナウイルス感染症の影響が続いており、利用者数は減少傾向が続いていたが、令和3年6月から昨年度比でプラスに転じてきているため、今後の回復に期待したい。 ・利用者減の対策として、運行事業者は消毒、換気の徹底を行っており、協議会としても、毎年10月に全戸へ配布する交通マップへ、コロナ感染症対策に配慮して運行している旨と、利用者へのマスク着用等の協力依頼を掲載し、周知を行い安心して利用いただけるよう取り組んでおり、今後も引き続き行うこととしている。 ・また、引き続き広報等を通じ利用促進を図るとともに、目標値やダイヤの見直しについても検討する。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
中野市地域公共交通対策協議会	中野市	ふれあいバス間山線 温泉公園⇔ 市役所	・利用促進を図るため、市内全世帯、基幹病院、飯山駅、信州中野駅等への「交通マップ/時刻表」の配布や小学生を対象とした「バスの乗り方教室」等を開催した。	A ・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C ・事業が計画に位置付けられた目標を達成しなかった。 【1日あたり利用者数】 目標…24.0人 実績…23.2人	・上期は前年度比で大きくマイナスとなったが、下期の前年度比はほぼ同程度に落ち着いているため、今後の回復に期待したい。 ・広報等を通じPRIに努めるとともに、利便性が向上するようなダイヤの見直しについても検討する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
中野市地域公共交通対策協議会	中野市	ふれあいバス優・科野地区 岩井東⇄市役所	・利用促進を図るため、市内全世帯、基幹病院、飯山駅、信州中野駅等への「交通マップ/時刻表」の配布や小学生を対象とした「バスの乗り方教室」等を開催した。	A ・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A ・事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 【1日あたり利用者数】 目標…10.0人 実績…10.8人	・目標を達成しているが、引き続き広報等を通じPRIに努めるとともに、利便性が向上するようなダイヤの見直しについても検討する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
中野市地域公共交通対策協議会	中野市	ふれあいバス豊田地域 三俣⇄上今井	・利用促進を図るため、市内全世帯、基幹病院、飯山駅、信州中野駅等への「交通マップ/時刻表」の配布や小学生を対象とした「バスの乗り方教室」等を開催した。	A ・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C ・事業が計画に位置付けられた目標を達成しなかった。 【1日あたり利用者数】 目標…4.0人 実績…3.9人	・目標は達成しなかったが、通年でコロナ禍の影響があったにもかかわらず、昨年度より利用者数は増加しているため、今後の伸びに期待したい。 ・広報等を通じPRIに努めるとともに、利便性が向上するようなダイヤの見直しについても検討する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
中野市地域公共交通対策協議会	中野ハイヤー株式会社 株式会社山田タクシー 長電タクシー株式会社 (共同運行)	お出かけタクシー 中野・高丘・平野・延徳地域	・利用促進を図るため、市内全世帯、基幹病院、飯山駅、信州中野駅等への「交通マップ/時刻表」の配布、「予約お願い券」の発行、老朽化した停留所の整備を行った。	A ・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C ・事業が計画に位置付けられた目標を達成しなかった。 【1日あたり利用者数】 目標…3.0人 実績…1.3人	・利用者数は前年度比でほぼ同程度となった。 ・利用者減の対策として、運行事業者は消毒、換気の徹底を行っており、協議会としても、毎年10月に全戸へ配布する交通マップへ、コロナ感染症対策に配慮して運行している旨と、利用者へのマスク着用等の協力依頼を掲載し、周知を行い安心安全に利用いただけるよう取り組んでおり、今後も引き続き行うこととしている。 ・固定化している利用者の減少が課題となっているため、根本的な運行形態の見直しを含めて検討する。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
生坂村地域公共交通協議会	生坂村	系統名：犀川線 運行区間：古坂～明科駅ほか	利用促進に向けて啓発活動の推進や利用者のニーズに沿った運行形態を目指し、要望の把握を行いなど誰もが利用しやすい環境づくりに努めた。また、高齢者にも分かりやすいよう乗換の例なども広報紙に掲載し、周知を図った。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。地域一体となった取組を通じて利用促進が図られている。	C 目標である直近5年間の平均年間利用者数26,900人の維持に対し、本年度は16,684人と大幅に減少している。減少の要因の一つとしては新型コロナウイルスの影響による利用の減少が考えられる。また、その他の要因では高齢者の施設等への入所入院などによる利用者が減った。また、新規利用者の増加が少なかった。	今後も引き続き、利用促進に係る効果的な啓発活動の検討・推進や、利用者のニーズを活かした運行形態の検討・協議、公共交通機関との連絡によるダイヤ改正に努め目標達成に向けた改善策を検討し持続可能な運行に努めていく。住民の通学・通院・買い物・通勤に極めて必要な事業であると判断する。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
生坂村地域公共交通協議会	生坂村	系統名：北回り、南回り 運行区間：北部、南部	利用促進に向けた啓発活動の推進や運行形態、懇談会での要望把握等に継続的に努め、利用方法についてはチラシや広報紙により広く周知を図り、住民が利用しやすい環境の整備に努めた。特に高齢者にも分かりやすいよう乗換の例なども取り上げ周知を図った。しかし利用者減少の改善策の検討協議が十分でなかった。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。地域一体となった取組を通じて利用促進が図られている。	C 目標である直近5年間の平均年間利用者数1,574人の維持に対し、本年度は1,262人と減少した。チラシの配布に加え広報紙により村民(高齢者等)に対する周知を行ってきたが、入院等で利用者が減る一方、新規利用者の増加が少なかった。また、免許返納者支援等の周知も行ったが、新規利用者増にはつながらなかった。	過疎化・高齢化の進む当村では、山間地がほとんどで犀川線との接続や日常の移動手段として欠かす事のできない路線であることから、今後も引き続き利用促進に向けたチラシ・広報紙による啓発活動や利用しやすい運行形態、ダイヤ改正を行うとともに、新規利用者確保に向けた効果的な取組みの検討・推進に努める。またアンケート調査を実施し改善に向けた具体策を検討し、目標達成に向け持続可能な運行に努めていく。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
生坂村地域公共交通協議会	生坂村	系統名:26便 運行区間:明科駅~古坂	利用促進に向けた啓発活動の推進や運行形態、懇談会での要望把握等に継続的に努めるとともに、チラシや広報紙により広く周知を図り、利用しやすい環境の整備に努めた。しかし利用者減少による改善策を具体化することができなかった。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。地域一体となった取組を通じて利用促進が図られている。	C 高校生専用の最終便として平成22年に新規に運行された便で、目標である直近5年間の平均年間利用者数392人の維持に対し、本年度は357人△9%と減少した。	高校生の通学に必要な事業であると判断することから、今後も引き続き、利用促進に向けたチラシ・広報紙による啓発活動や利用しやすい運行形態、ダイヤ改正を行うとともに、新規利用者確保に向けた効果的な取組みの検討・推進に努める。またアンケート調査を実施し改善に向けた具体策を検討し、目標達成に向けて持続可能な運行に努めていく。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
青木村地域公共交通会議	青木村	路線型 ・A路線(入奈良本・釜房方面) ・B路線(弘法・田沢方面) ・C路線(管社・当郷・殿戸方面) ・D路線(村松方面)	利用の少ない昼間の便を廃止し、フルデマンド運行に移行した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 輸送人員目標30.5人以上/日に対し、実績は36.9人/日となり、目標を達成した。	前年度の新型コロナウイルス感染症による利用者減から回復傾向にある。引き続き、適切な情報提供等に努め、主な利用者である子どもや高齢者の移動手段を確保していく。	協議会における事業評価結果の④及び⑤については自己評価のとおりである。 なお、③の前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況については、前年度の事業評価結果(⑥の事業の今後の改善点や地方運輸局等における二次評価結果など)の反映が十分ではないと考えられることから、これらの記載を踏まえた改善を行っていくことが必要である。その上で、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
青木村地域公共交通会議	青木村	区域型(全域デマンド)	R3年度事業(R2.10~)から運行を開始した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 輸送人員目標10.6人以上/日に対し、実績は15.0人/日となり、目標を達成した。	利用者数は徐々に増加しているため、住民の認知度も高まっていると考えられる。 今後は、まだ利用のない高齢者(免許返納者等)を中心に利用方法を周知し、住民の移動手段の確保に努める。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	<p>【申請番号1】 春日・智里西線第1便(月火木土)(駒場～智里西～駒場～春日～駒場～昼神)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・利用方法周知の手段を検討。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。 	C	<p>目標の1運行あたり平均乗車人数(2020年4月～2021年3月)3.3人に対し、実績2.7人であった。 コロナ禍の影響により学校の休校、施設の休業等があり、利用者が減少したが、今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。</p>	<p>引き続き、車内消毒・定期的な換気等の感染症対策を講じながら運行しつつ、利用者や運転手へのヒアリング等により現利用者へのニーズの把握に努める。また、新規利用者獲得のため、広報誌やケーブルテレビ等で実際の利用例を紹介するなど具体的に利用をイメージしてもらえよう手段を検討していく。 高齢者に対し、運転免許自主返納者支援制度について周知に努め、公共共通の利用促進を目指す。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	<p>【申請番号2】 春日・智里西線第1便(水金) (駒場～横川～智里西～駒場～春日～駒場～昼神)</p>	<p>・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・利用方法周知の手段を検討。</p>	A	<p>・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。</p>	C	<p>目標の1運行あたり平均乗車人数(2020年4月～2021年3月)6.3人に対し、実績4.6人であった。 コロナ禍の影響により学校の休校、施設の休業等があり、利用者が減少したが、今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。</p>	<p>引き続き、車内消毒・定期的な換気等の感染症対策を講じながら運行しつつ、利用者や運転手へのヒアリング等により現利用者ニーズの把握に努める。また、新規利用者獲得のため、広報誌やケーブルテレビ等で実際の利用例を紹介するなど具体的に利用をイメージしてもらえよう手段を検討していく。 高齢者に対し、運転免許自主返納者支援制度について周知に努め、公共共通の利用促進を目指す。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号3】 春日・智里西線第2便(月火木土)(昼神～駒場～春日～駒場～智里西～駒場)	・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補充を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・利用方法周知の手段を検討。	A	・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。	C	目標の1運行あたり平均乗車人数(2020年4月～2021年3月)3.2人に対し、実績2.0人であった。 コロナ禍の影響により学校の休校、施設の休業等があり、利用者が減少したが、今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指す。改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。	引き続き、車内消毒・定期的な換気等の感染症対策を講じながら運行しつつ、利用者や運転手へのヒアリング等により現利用者のニーズの把握に努める。また、新規利用者獲得のため、広報誌やケーブルテレビ等で実際の利用例を紹介するなど具体的に利用をイメージしてもらえよう手段を検討していく。 高齢者に対し、運転免許自主返納者支援制度について周知に努め、公共共通の利用促進を目指す。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号4】 春日・智里西線第2便(水金)(昼神～駒場～春日～駒場～智里西～横川～駒場)	・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補充を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・利用方法周知の手段を検討。	A	・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。	C	目標の1運行あたり平均乗車人数(2020年4月～2021年3月)5.0人に対し、実績2.8人であった。 コロナ禍の影響により学校の休校、施設の休業等があり、利用者が減少したが、今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指す。改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。	引き続き、車内消毒・定期的な換気等の感染症対策を講じながら運行しつつ、利用者や運転手へのヒアリング等により現利用者のニーズの把握に努める。また、新規利用者獲得のため、広報誌やケーブルテレビ等で実際の利用例を紹介するなど具体的に利用をイメージしてもらえよう手段を検討していく。 高齢者に対し、運転免許自主返納者支援制度について周知に努め、公共共通の利用促進を目指す。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号5】 春日・智里西線第3便(月火木土)(昼神～駒場～春日～駒場～智里西)	・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・利用方法周知の手段を検討。	A	・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。	C	目標の1運行あたり平均乗車人数(2020年4月～2021年3月)2.0人に対し、実績0.7人であった。 コロナ禍の影響により学校の休校、施設の休業等があり、利用者が減少したが、今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指すして改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。	引き続き、車内消毒・定期的な換気等の感染症対策を講じながら運行しつつ、利用者や運転手へのヒアリング等により現利用者のニーズの把握に努める。また、新規利用者獲得のため、広報誌やケーブルテレビ等で実際の利用例を紹介するなど具体的に利用をイメージしてもらえよう手段を検討していく。 高齢者に対し、運転免許自主返納者支援制度について周知に努め、公共共通の利用促進を目指す。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号6】 春日・智里西線第3便(水金)(昼神～駒場～春日～駒場～智里西～横川)	・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・利用方法周知の手段を検討。	A	・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。	C	目標の1運行あたり平均乗車人数(2020年4月～2021年3月)2.0人に対し、実績0.6人であった。 コロナ禍の影響により学校の休校、施設の休業等があり、利用者が減少したが、今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指すして改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。	引き続き、車内消毒・定期的な換気等の感染症対策を講じながら運行しつつ、利用者や運転手へのヒアリング等により現利用者のニーズの把握に努める。また、新規利用者獲得のため、広報誌やケーブルテレビ等で実際の利用例を紹介するなど具体的に利用をイメージしてもらえよう手段を検討していく。 高齢者に対し、運転免許自主返納者支援制度について周知に努め、公共共通の利用促進を目指す。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号7】 清内路線第1.5便 (清内路～駒場～清内路)	・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・利用方法周知の手段を検討。	A	・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。	C	目標の1運行あたり平均乗車人数(2020年4月～2021年3月)5.1人に対し、実績3.7人であった。 コロナ禍の影響により学校の休校、施設の休業等があり、利用者が減少したが、今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。	引き続き、車内消毒・定期的な換気等の感染症対策を講じながら運行しつつ、利用者や運転手へのヒアリング等により現利用者のニーズの把握に努める。また、新規利用者獲得のため、広報誌やケーブルテレビ等で実際の利用例を紹介するなど具体的に利用をイメージしてもらえらる手段を検討していく。 高齢者に対し、運転免許自主返納者支援制度について周知に努め、公共共通の利用促進を目指す。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号8】 清内路線第2.3便 (清内路～駒場～ラック～清内路)	・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・利用方法周知の手段を検討。	A	・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。	C	目標の1運行あたり平均乗車人数(2020年4月～2021年3月)6.4人に対し、実績5.8人であった。 コロナ禍の影響により学校の休校、施設の休業等があり、利用者が減少したが、今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。	引き続き、車内消毒・定期的な換気等の感染症対策を講じながら運行しつつ、利用者や運転手へのヒアリング等により現利用者のニーズの把握に努める。また、新規利用者獲得のため、広報誌やケーブルテレビ等で実際の利用例を紹介するなど具体的に利用をイメージしてもらえらる手段を検討していく。 高齢者に対し、運転免許自主返納者支援制度について周知に努め、公共共通の利用促進を目指す。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号9】 清内路線第4便 (清内路～駒場～ラック～清内路)	・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・利用方法周知の手段を検討。	A	・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。	C	目標の1運行あたり平均乗車人数(2020年4月～2021年3月)4.9人に対し、実績4.4人であった。 コロナ禍の影響により学校の休校、施設の休業等があり、利用者が減少したが、今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。	引き続き、車内消毒・定期的な換気等の感染症対策を講じながら運行しつつ、利用者や運転手へのヒアリング等により現利用者へのニーズの把握に努める。また、新規利用者獲得のため、広報誌やケーブルテレビ等で実際の利用例を紹介するなど具体的に利用をイメージしてもらえらるる手段を検討していく。 高齢者に対し、運転免許自主返納者支援制度について周知に努め、公共共通の利用促進を目指す。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号10】 伍和線第1便 (伍和～駒場) ※車両減価償却費等国庫補助金	・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・利用方法周知の手段を検討。	A	・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。	C	目標の1運行あたり平均乗車人数(2020年4月～2021年3月)3.5人に対し、実績1.7人であった。 コロナ禍の影響により学校の休校、施設の休業等があり、利用者が減少したが、今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。	引き続き、車内消毒・定期的な換気等の感染症対策を講じながら運行しつつ、利用者や運転手へのヒアリング等により現利用者へのニーズの把握に努める。また、新規利用者獲得のため、広報誌やケーブルテレビ等で実際の利用例を紹介するなど具体的に利用をイメージしてもらえらるる手段を検討していく。 高齢者に対し、運転免許自主返納者支援制度について周知に努め、公共共通の利用促進を目指す。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号11】 伍和線第2便(～R3.3.31) (駒場～伍和～駒場～屋神～駒場) ※車両減価償却費等国庫補助金	・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・利用方法周知の手段を検討。	A	・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。	C	目標の1運行あたり平均乗車人数(2020年9月～2021年3月)2.0人に対し、実績1.8人であった。 コロナ禍の影響により学校の休校、施設の休業等があり利用者が減少したが、今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。	住民アンケートや乗降調査等による路線再編により2021年3月で運行終了。 2021年4月から新系統(申請番号12)に変更。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、変更後の新系統にも活かせるように、目標が達成されなかった理由に対応した新たな具体策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切に検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号12】 伍和線第2便(R3.4.1～) (駒場～伍和～駒場～屋神～駒場) ※車両減価償却費等国庫補助金	・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・利用方法周知の手段を検討。	A	・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。	C	目標の1運行あたり平均乗車人数(2021年4月～2021年9月)2.0人に対し、実績1.7人であった。 コロナ禍の影響により学校の休校、施設の休業等があり、利用者が減少したが、今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。	住民アンケートや乗降調査等による路線再編により、2021年4月から運行開始(申請番号11系統変更)。 引き続き、車内消毒・定期的な換気等の感染症対策を講じながら運行しつつ、利用者や運転手へのヒアリング等により現利用者のニーズの把握に努める。また、引き続き路線の周知に努め、新規利用者獲得のため、広報誌やケーブルテレビ等で実際の利用例を紹介するなど具体的に利用をイメージしてもらえよう手段を検討していく。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号13】 伍和線第3便(～R3.3.31) (駒場～伍和～駒場～屋神～駒場) ※車両減価償却費等国庫補助金	・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・利用方法周知の手段を検討。	A	・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。	A	目標の1運行あたり平均乗車人数(2020年9月～2021年3月)2.0人に対し、実績2.9人であった。 今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。	住民アンケートや乗降調査等による路線再編により2021年3月で運行終了。 2021年4月から新系統(申請番号14)に変更。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号14】 伍和線第3便(R3.4.1～) (駒場～屋神～駒場～伍和～駒場～屋神～駒場) ※車両減価償却費等国庫補助金	・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・利用方法周知の手段を検討。	A	・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。	A	目標の1運行あたり平均乗車人数(2021年4月～2021年9月)2.9人に対し、実績3.3人であった。 コロナ禍の影響により学校の休校、施設の休業等があり、利者が減少したが、今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。	住民アンケートや乗降調査等による路線再編により、2021年4月から運行開始(申請番号13を系統変更)。 引き続き、車内消毒・定期的な換気等の感染症対策を講じながら運行しつつ、利用者・非利用者のニーズの把握を行い、現利用者の継続利用と、新規利用者の獲得をめざし、より利便性の高い運行形態を目指す。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号15】 伍和線第4便(～R3.3.31) (駒場～屋神～駒場～伍和～駒場～屋神～駒場) ※車両減価償却費等国庫補助金	・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・利用方法周知の手段を検討。	A	・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。	A	目標の1運行あたり平均乗車人数(2020年9月～2021年3月)2.0人に対し、実績2.1人であった。 コロナ禍の影響により学校の休校、施設の休業等があり、利用者が減少したが、今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。	住民アンケートや乗降調査等による路線再編により2021年3月で運行終了。 2021年4月から新系統(申請番号16)に変更。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号16】 伍和線第4便(R3.4.1～) (駒場～屋神～駒場～伍和～駒場) ※車両減価償却費等国庫補助金	・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・利用方法周知の手段を検討。	A	・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。	A	目標の1運行あたり平均乗車人数(2021年4月～2021年9月)2.1人に対し、実績2.5人であった。 今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。	住民アンケートや乗降調査等による路線再編により、2021年4月から運行開始(申請番号15を系統変更)。 引き続き、車内消毒・定期的な換気等の感染症対策を講じながら運行しつつ、利用者や運転手へのヒアリング等により現利用者へのニーズの把握に努める。また、引き続き路線の周知に努め、新規利用者獲得のため、広報誌やケーブルテレビ等で実際の利用例を紹介するなど具体的に利用をイメージしてもらえよう手段を検討していく。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号17】 伍和線第5便 (駒場～屋神～駒場～伍和～駒場) ※車両減価償却費等国庫補助金	・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・利用方法周知の手段を検討。	A	・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。	C	目標の1運行あたり平均乗車人数(2020年4月～2021年3月)2.0人に対し、実績0.5人であった。 コロナ禍の影響により学校の休校、施設の休業等があり、利用者が減少したが、今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。	引き続き、車内消毒・定期的な換気等の感染症対策を講じながら運行しつつ、利用者や運転手へのヒアリング等により現利用者のニーズの把握に努める。また、新規利用者獲得のため、広報誌やケーブルテレビ等で実際の利用例を紹介するなど具体的に利用をイメージしてもらえ手段を検討していく。 高齢者に対し、運転免許自主返納者支援制度について周知に努め、公共共通の利用促進を目指す。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号18】 浪合線第1、2便(～R3.31) (浪合～屋神～駒場～浪合)	・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・利用方法周知の手段を検討。	A	・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。	C	目標の1運行あたり平均乗車人数(2020年9月～2021年3月)3.8人に対し、実績3.1人であった。 コロナ禍の影響により学校の休校、施設の休業等があり、利用者が減少したが、今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。	住民アンケートや乗降調査等による路線再編により2021年3月で運行終了。 2021年4月から新系統(申請番号20)に変更。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号19】 混合線第3便(～R3.3.31) (浪合～屋神～駒場～屋神～浪合)	・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・利用方法周知の手段を検討。	A	・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。	C	目標の1運行あたり平均乗車人数(2020年9月～2021年3月)2.0人に対し、実績1.0人であった。 コロナ禍の影響により学校の休校、施設の休業等があり、利用者が減少したが、今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。	住民アンケートや乗降調査等による路線再編により2021年3月で運行終了。 2021年4月から新系統(申請番号20)に変更。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号20】 混合線第1便～第3便(R3.4.1～) (浪合～屋神～駒場～屋神～浪合)	・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・利用方法周知の手段を検討。	A	・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。	A	目標の1運行あたり平均乗車人数(2021年4月～2021年9月)2.4人に対し、実績2.5人であった。 今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。	住民アンケートや乗降調査等による路線再編により、2021年4月から運行開始(申請番号18及び19を系統変更)。 引き続き、車内消毒・定期的な換気等の感染症対策を講じながら運行しつつ、利用者や運転手へのヒアリング等により現利用者のニーズの把握に努める。現利用者の継続利用と新規利用者の獲得をめざし、より利便性の高い運行形態を目指す。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	<p>【申請番号21】 智里東線第1便(～R3.3.31) (智里東～駒場～屋神～駒場) ※車両減価償却費等国庫補助金</p>	<p>・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・利用方法周知の手段を検討。 ・新車両での運行に併せたラッピングにより、利用促進に努めた。</p>	A	<p>・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。</p>	C	<p>目標の1運行あたり平均乗車人数(2020年9月～2021年3月)2.0人に対し、実績0.9人であった。 コロナ禍の影響により学校の休校、施設の休業等があり、利用者が減少したが、今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。</p>	<p>住民アンケートや乗降調査等による路線再編により2021年3月で運行終了。 2021年4月から新系統(申請番号22)に変更。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	<p>【申請番号22】 智里東線第1便(R3.4.1～) (智里東～駒場～屋神～駒場) ※車両減価償却費等国庫補助金</p>	<p>・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・利用方法周知の手段を検討。 ・新車両での運行に併せたラッピングにより、利用促進に努めた。</p>	A	<p>・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。</p>	C	<p>目標の1運行あたり平均乗車人数(2021年4月～2021年9月)2.0人に対し、実績1.8人であった。 コロナ禍の影響により学校の休校、施設の休業等があり、利用者が減少したが、今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。</p>	<p>住民アンケートや乗降調査等による路線再編により、2021年4月から運行開始(申請番号21を系統変更)。 引き続き、車内消毒・定期的な換気等の感染症対策を講じながら運行しつつ、利用者や運転手へのヒアリング等により現利用者のニーズの把握に努める。また、引き続き路線の周知に努め、新規利用者獲得のため、広報誌やケーブルテレビ等で実際の利用例を紹介するなど具体的に利用をイメージしてもらえよう手段を検討していく。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号23】 智里東線第2便(～R3.3.31) (駒場～智里東～駒場) ※車両減価償却費等国庫補助金	・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・利用方法周知の手段を検討。 ・新車両での運行に併せたラッピングにより、利用促進に努めた。	A	・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。	A	目標の1運行あたり平均乗車人数(2020年9月～2021年3月)2.0人に対し、実績2.2人であった。 今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。	住民アンケートや乗降調査等による路線再編により2021年3月で運行終了。 2021年4月から新系統(申請番号24)に変更。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号24】 智里東線第2便(R3.4.1～) (駒場～智里東～駒場) ※車両減価償却費等国庫補助金	・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・利用方法周知の手段を検討。 ・新車両での運行に併せたラッピングにより、利用促進に努めた。	A	・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。	A	目標の1運行あたり平均乗車人数(2021年4月～2021年9月)2.2人に対し、実績2.4人であった。 今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。	住民アンケートや乗降調査等による路線再編により、2021年4月から運行開始(申請番号23を系統変更)。 引き続き、車内消毒・定期的な換気等の感染症対策を講じながら運行しつつ、利用者や運転手へのヒアリング等により現利用者のニーズの把握に努める。現利用者の継続利用と新規利用者の獲得をめざし、より利便性の高い運行形態を目指す。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	<p>【申請番号25】 智里東線第3便(～R3.3.31)(駒場～智里東～駒場) ※車両減価償却費等国庫補助金</p>	<p>・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・利用方法周知の手段を検討。 ・新車両での運行に併せたラッピングにより、利用促進に努めた。</p>	A	<p>・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。</p>	C	<p>目標の1運行あたり平均乗車人数(2020年9月～2021年3月)2.0人に対し、実績0.5人であった。 コロナ禍の影響により学校の休校、施設の休業等があり、利用者が減少したが、今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。</p>	<p>住民アンケートや乗降調査等による路線再編により2021年3月で運行終了。 2021年4月から新系統(申請番号26)に変更。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	<p>【申請番号26】 智里東線第3便(R3.4.1～) 「(駒場～智里東～駒場) ※車両減価償却費等国庫補助金</p>	<p>・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・利用方法周知の手段を検討。 ・新車両での運行に併せたラッピングにより、利用促進に努めた。</p>	A	<p>・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。</p>	C	<p>目標の1運行あたり平均乗車人数(2021年4月～2021年9月)2.0人に対し、実績0.7人であった。 コロナ禍の影響により学校の休校、施設の休業等があり、利用者が減少したが、今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。</p>	<p>住民アンケートや乗降調査等による路線再編により、2021年4月から運行開始(申請番号25を系統変更)。 引き続き、車内消毒・定期的な換気等の感染症対策を講じながら運行しつつ、利用者や運転手へのヒアリング等により現利用者のニーズの把握に努める。また、引き続き路線の周知に努め、新規利用者獲得のため、広報誌やケーブルテレビ等で実際の利用例を紹介するなど具体的に利用をイメージしてもらえよう期待していく。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
下伊那南部地域公共交通対策協議会	阿南町	(阿南線) 伝承センター前⇄川路駅2便 ※購入補助対象車両での運行(平成29年度購入)	・JR飯田線のダイヤ改正に伴いダイヤを調整し、鉄道との接続を強化した。 ・情報発信のために時刻表を協議会構成町村(阿南町、下條村、売木村、天龍村、泰阜村)管内の全戸へ配付した。	A 事業が計画に位置付けられたとおり適切に実施された。	A 【利用者数】 目標:294人/月 実績:373人/月 主に高校生の通学に利用される路線である。今年度は新型コロナウイルス感染症対策による分散登校、オンライン授業日があったものの、昨年度よりも登校日数が増えたことで、目標を達成することができた。	利用者が回復した路線もあるが、減少が続いている路線もある。当地域の公共交通は通院、通学に欠かせない移動手段であることから、情報提供による利用者の確保、運行の効率化に努め、運行を継続することを基本とする。 ただし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が長期化する中、以前の水準まで利用者数が戻らない可能性もある。利用者の減少が著しい場合は、利用者の移動にあわせて、運行内容の見直しを検討する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
下伊那南部地域公共交通対策協議会	阿南町	<p>(阿南線) 温田駅前⇄川路駅 6便</p> <p>※購入補助対象車両での運行(令和2年度購入)</p>	<p>・JR飯田線のダイヤ改正に伴いダイヤを調整し、鉄道との接続を強化した。</p> <p>・情報発信のために時刻表を協議会構成町村(阿南町、下條村、売木村、天龍村、泰阜村)管内の全戸へ配付した。</p>	<p>A</p> <p>事業が計画に位置付けられたとおり適切に実施された。</p>	<p>A</p> <p>【利用者数】 目標:1,079人/月 実績:1,117人/月</p> <p>高齢者の通院に主に利用される路線である。新型コロナウイルス感染症の拡大の影響があったものの、昨年度より外出をする人も増え始めたことで、目標を達成することができた。</p>	<p>利用者が回復した路線もあるが、減少が続いている路線もある。当地域の公共交通は通院、通学に欠かせない移動手段であることから、情報提供による利用者の確保、運行の効率化に努め、運行を継続することを基本とする。</p> <p>ただし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が長期化する中、以前の水準まで利用者数が戻らない可能性もある。利用の減少が著しい場合は、利用者の移動にあわせて、運行内容の見直しを検討する。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
下伊那南部地域公共交通対策協議会	阿南町	<p>(阿南線) 温田駅前⇄飯田病院前6便</p> <p>※購入補助対象車両での運行(平成30年度購入)</p>	<p>・JR飯田線のダイヤ改正に伴いダイヤを調整し、鉄道との接続を強化した。</p> <p>・情報発信のために時刻表を協議会構成町村(阿南町、下條村、売木村、天龍村、泰阜村)管内の全戸へ配付した。</p>	<p>A 事業が計画に位置付けられたとおり適切に実施された。</p>	<p>C 【利用者数】 目標:648人/月 実績:554人/月</p> <p>主に、高齢者の通院(阿南病院及び飯田市内の病院)に利用されている路線である。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受け、外出を自粛する高齢者もあり、利用者数が減少した。</p>	<p>利用者が回復した路線もあるが、減少が続いている路線もある。当地域の公共交通は通院、通学に欠かせない移動手段であることから、情報提供による利用者の確保、運行の効率化に努め、運行を継続することを基本とする。</p> <p>ただし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が長期化する中、以前の水準まで利用者数が戻らない可能性もある。利用の減少が著しい場合は、利用者の移動にあわせて、運行内容の見直しを検討する。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
下伊那南部地域公共交通対策協議会	阿南町	(温田線)こまどりの湯⇄温田駅前12便 ※購入補助対象車両での運行(平成27年度購入)	<p>・JR飯田線のダイヤ改正に伴いダイヤを調整し、鉄道との接続を強化した。15時台の便の運行時間を調節し、阿南高校生が利用しやす化した</p> <p>・情報発信のために時刻表を協議会構成町村(阿南町、下條村、売木村、天龍村、泰阜村)管内の全戸へ配付した。</p>	A 事業が計画に位置付けられたとおり適切に実施された。	C <p>【利用者数】 目標:755人/月 実績:599人/月</p> <p>主に、高齢者の通院(阿南病院)や高校生の通学(主に阿南高校)に利用されている路線である。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受け、これまで定期的に通院で利用していた高齢者の利用がなくなったことが、利用者が減少した要因のひとつと考えられる。</p>	<p>利用者が回復した路線もあるが、減少が続いている路線もある。当地域の公共交通は通院、通学に欠かせない移動手段であることから、情報提供による利用者の確保、運行の効率化に努め、運行を継続することを基本とする。</p> <p>ただし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が長期化する中、以前の水準まで利用者数が戻らない可能性もある。利用の減少が著しい場合は、利用者の移動にあわせて、運行内容の見直しを検討する。</p>	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
下伊那南部地域公共交通対策協議会	阿南町	(温田線) 車庫前⇒温田駅前 2便 ※購入補助対象車両での運行(令和2年度年度購入)	・JR飯田線のダイヤ改正に伴いダイヤを調整し、鉄道との接続を強化した。 ・情報発信のために時刻表を協議会構成町村(阿南町、下條村、売木村、天龍村、泰阜村)管内の全戸へ配付した。	A 事業が計画に位置付けられたとおり適切に実施された。	B 【利用者数】 目標:44人/月 実績:43人/月 日中に稼働することから、利用者が限られる路線である。 今年度は阿南高校の登校日が多く、昨年度よりも「阿南高校入口」から「温田駅前」まで利用する高校生がある程度回復し、目標とほぼ同水準の利用があった。	利用者が回復した路線もあるが、減少が続いている路線もある。当地域の公共交通は通院、通学に欠かせない移動手段であることから、情報提供による利用者の確保、運行の効率化に努め、運行を継続することを基本とする。 ただし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が長期化する中、以前の水準まで利用者数が戻らない可能性もある。利用の減少が著しい場合は、利用者の移動にあわせて、運行内容の見直しを検討する。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
朝日村地域公共交通協議会	アルピコタクシー(株)	村営バス広丘線 朝日村～JR広丘駅	<ul style="list-style-type: none"> ・主要利用者である高校生へアンケート調査実施 ・朝日村ホームページより、意見・要望受付実施 ・近隣松本市(バス路線地区)に対する利用促進のための広報活動実施 	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	C	<ul style="list-style-type: none"> 【事業の目標】 利用者数：R1年度に対して同等以上 【達成状況】 R1年度22,997人 R2年度18,697人 前年比：81.3% 主要利用者である高校生の人口の減少、コロナ禍によるオンライン化等の影響により、前年度比18.6%減となり目標は達成できなかった。地域住民に欠かせない交通手段として浸透している。	<ul style="list-style-type: none"> ・主要利用者である高校生へのアンケート調査により、利用者のニーズに沿うよう、またJRダイヤ改正に合わせダイヤの見直し等の改善を行う。 ・コロナ感染対策の実施 ・ホームページからの意見要望の受付 ・来年度より、長野県公共交通活性化協議会松本地域別部会として再編成されることとなり、朝日村公共交通協議会単独での協議会は本年度で最後となる。来年度以降は近隣市村と連携し、より充実した運行体系を検討する。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
朝日村地域公共交通協議会	アルピコタクシー(株)	デマンドタクシー(くるりん号) 朝日村全域	<ul style="list-style-type: none"> ・朝日村ホームページより、意見・要望受付実施 ・利用方法等のPR用動画とパンフレット活用による広報活動の実施 	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A	<ul style="list-style-type: none"> 【事業の目標】 利用者数：R1年度に対して同等以上 【達成状況】 R1年度7,261人 R2年度8,458人 前年比：116% コロナ禍の中、目標が達成できた。村の欠かせない交通手段として定着している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページからの意見要望の受付 ・利用方法動画及びパンフレットを利用して、積極的な広報活動を行い、利用向上を図る。 ・近隣市村と連携し、より充実した運行体系を検討する。 ・新型コロナウイルス感染症対策の実施 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
松本市地域公共交通協議会	アルピコタクシー(株) 平成交通(有)	西部地域コミュニティバス 【A線 島内・新村線】 なぎさライフサイト～新村駅 【B線 南松本・新村線】 イトヨーカドー～新村駅 【C線 梓川・波田線】 新村駅～八景山公民館～アイシティ21 【D線 村井・波田線】 まつもと医療センター～波田駅 【E線 平田・波田線】 ツルヤ平田店～松本市立病院	通勤者、通学者の利用促進及び利便性向上を目的に、バスカルテの作成、路線バスに関するアンケートを実施し、路線再編を検討するための情報収集を行い、路線再編等を方向性を確認した。 なお、E線の利用促進を目的として、計画していた工業団地組合等からの聞き取りは、今後実施予定である。	B 計画に位置づけられたとおり実施されていない点があった	C 【目標値】 R元年度実績値の現状維持 利用者数60,246人 【達成状況】(R2.10～R3.9) R2年度利用者数54,350人 (-9.8%)	現在の交通体系を改善し、持続可能なコミュニティバスとするため、公設民営化事業の中で、交通拠点の構築、長大な路線、収支率の低い路線の見直しを行い、地域の特性にあった利便性が高く、効率的な交通ネットワークの再編を行う。 再編にあたっては、各地域で意見交換会を実施し、広く意見聴取を行う。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、生活交通確保維持改善計画に位置付けられたとおり適切に事業を実施するとともに、実績向上に向けて改善策及びその具体化について引き続き検討する必要がある。その上で、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
松本市地域公共交通協議会	アルピコ交通(株)	アルピコ交通 四賀線 保福寺下町～化石館 四賀地区を運行し、基幹路線のアルピコ交通四賀線のフィーダー系統	利便性の向上を目的に統合した市営バス四賀線について、利用者の増加に繋がっているか検証を行うとともに、バスカルテの策定、路線バスに関するアンケートを実施し、山間地域の特性に合った交通体系の方向性を確認した。	A 計画どおり適切に事業が実施された	C 【目標値】 R元年度実績値の現状維持 利用者数28,799人 【達成状況】(R2.10～R3.9) R2年度利用者数22,182人 (-23.0%)	地域内の路線バスを統合し、利便性の向上を図ったが、利用者の増加には繋がっていない。 人口減少、高齢化により利用者が減少している過疎地域(山間地)において、利便性の高い交通体系への再編を、公設民営化事業の中で検討していく。 なお、再編にあたっては、地域の特性にあった持続可能な交通体系の構築するため、デマンド交通や自家用有償運送等、あらゆる制度や地域資源の活用を検討していく。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、人口減少や高齢化の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
松本市地域公共交通協議会	松本市	市営バス四賀線 会吉車庫～四賀支所～明科駅～保福寺下町 四賀地区を運行し、基幹路線のアルピコ交通四賀線と接続		A 計画どおり適切に事業が実施された	C 【目標値】 R元年度実績値の現状維持 利用者数20,321人 【達成状況】(R2.10～R3.9) R2年度利用者数20,042人 (-1.4%)		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
松本市地域公共交通協議会	松本市	市営バス奈川線 松本市立病院～八景山公民館～野麦峠スキー場～川浦 奈川地区を運行し、地区外はアルピコ交通上高地線波田駅と接続	人口減少により、一般利用、スクール利用ともに年々利用者が減少していることから、経費を削減し、利便性を向上させるため、バスカルテの作成、アンケートの実施し、現在の課題整理を行った。	A 計画どおり適切に事業が実施された	C 【目標値】 R元年度実績値の現状維持 利用者数11,512人 【達成状況】(R2.10～R3.9) R2年度利用者数7,571人 (-34.2%)	人口減少、高齢化により一般利用、スクール利用ともに減少は継続している。 地域内交通を持続可能なものとするため、公設民営化事業の中で、地域にあった効率的な交通体系を研究し、デマンド交通や自家用有償運送の導入等のあらゆる制度や地域資源の活用を検討していく。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、人口減少や高齢化の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
立科町立科町地域公共交通活性化協議会	立科町	<p>【運行系統名】 幹線ルート(1便) ※立科町役場前～蓼科高校～立科町役場前</p> <p>車両減価償却費等国庫補助金</p>	<p>当該系統は、日常的に利用者があるバス停を結ぶ「幹線ルート」の中で、朝の通学のための利用を想定している。年度毎の学生数により利用者が増減するため利用促進による効果は小さいが、特に寒さや降雪によって利用が増える冬季には対象となる地域の住民に対し、利用の呼びかけなどのPRを行った。併せて、通学に利用しやすいダイヤや経路などの地元からの要望に関する相談にも応じた。(結果、現行ダイヤで問題なかったが、地域住民の意向を聞くことができた。)その他、町内全域へバス利用案内(乗り方、時刻表掲載)の全戸配布。ホームページや町広報誌への運行情報掲載など利用促進に努めた。</p>	<p>A</p> <p>事業は、計画通り適切に実施された。</p>	<p>B</p> <p>幹線ルート全体で収支率12%という目標に対し、5.4%で目標を達成できなかったが、当該系統のみでは19.4%という結果になった。(前年度全体収支率6.7%、当該系統収支率15.1%) 路線全体としては目標を達成できていないが、当該系統においては「朝の通学利用を想定した移動確保」という役割は果たしているものとする。また、新型コロナウイルス感染拡大を受け緊急事態宣言下の休校等による影響を受けた昨年度に比べ、新たな生活様式が浸透し基本的な感染対策を実施した上で運行を行った結果、当該系統においては収支率の改善につながったと推測する。</p> <p>【車両減価償却費等国庫補助金に係る目標達成状況】 「車両修繕費30%以上削減」という目標に対し、97%削減し目標を達成した。(基準：令和元年度181千円、当該年度6千円)</p>	<p>当該系統は、幹線ルートの第1便として、主に朝の通学のための利用を想定しており、一定の役割は果たしている。 利用者からも苦情、要望等は出しておらず、ニーズに対応した運行を実施していると考えているが、今後の持続性向上や利便性、効率性の向上を図るため、適正な検証を行うとともに潜在的な利用者の発掘も視野に入れ利用促進策にも取り組んでいく。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
立科町立科町地域公共交通活性化協議会	立科町	<p>【運行系統名】 幹線ルート(2便) ※立科町役場前～塩沢公民館～立科町役場前</p> <p>車両減価償却費等国庫補助金</p>	<p>当該系統は、日常的に利用者がいるバス停を結ぶ「幹線ルート」の中で、朝の通学、通勤、通院での利用を想定している。特に障がい者作業所に通所する利用者は、延べ利用者数の大半を占めることを把握しており、運行計画の段階で同所の予定を基準にしたことで、利用者ニーズに沿った計画となった。</p> <p>その他、町内全域へバス利用案内(乗り方、時刻表掲載)の全戸配布、ホームページや町広報誌への運行情報掲載など利用促進に努めた。</p>	A	<p>事業は、計画通り適切に実施された。</p>	B	<p>幹線ルート全体で収支率12%という目標に対し、5.4%で目標を達成できなかったが、当該系統のみでは19.9%という結果になった。(前年度全体収支率6.7%、当該系統収支率27.4%)</p> <p>当該系統において、収支率は減少したものの依然として障がい者作業所への通所者が日常的に利用しており、ダイヤ等の設定も問題はないものとする。</p> <p>【車両減価償却費等国庫補助金に係る目標達成状況】 「車両修繕費30%以上削減」という目標に対し、97%削減し目標を達成した。(基準:令和元年度181千円、当該年度6千円)</p>	<p>当該系統の収支率が減少した原因は、新型コロナウイルス感染対策として障がい者作業所の利用者に対し、通所の条件を設けたことや、高齢化によってバス乗車が困難になり作業所職員による送迎が必要になった利用者がある等が考えられる。(施設担当者ヒアリングにより確認)</p> <p>利用者が限定的なため、日常的な利用者は概ね特定できる状況でありニーズに応えた運行を実施することができているが、日常的な利用者の高齢化という課題が明確であり系統維持のためには新たな利用者の獲得が必要であるため利用実態の把握、適正な検証を実施し、持続性向上のための利用促進策を講じた。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>
立科町立科町地域公共交通活性化協議会	立科町	<p>【運行系統名】 幹線ルート(3、7便) ※立科町役場前～駒形神社～立科町役場前</p> <p>車両減価償却費等国庫補助金</p>	<p>当該系統は、日常的に利用者がいるバス停を結ぶ「幹線ルート」の中で、3便は午前の早い時間、7便は午後の早い時間での外出(通院、買い物等)を想定しており、商業施設の開店時間や、病院の診察開始に間に合うようダイヤ設定をしている。前年度と同様に利用者が少ない系統ではあるが、バス利用案内(乗り方、時刻表掲載)の全戸配布、商業施設や病院への時刻表等貼付、ホームページや町広報誌への運行情報掲載など利用促進に努めた。</p>	A	<p>事業は、計画通り適切に実施された。</p>	C	<p>幹線ルート全体で収支率12%という目標に対し5.4%、当該系統のみでも2.8%で目標を達成できなかった。(前年度全体収支率6.7%、当該系統収支率4.7%)</p> <p>導入時には主な利用者である高齢者の1日の行動パターンを調査し、この結果からダイヤ設定を行っているが、当該路線の需要については再度検証が必要と考える。</p> <p>【車両減価償却費等国庫補助金に係る目標達成状況】 「車両修繕費30%以上削減」という目標に対し、97%削減し目標を達成した。(基準:令和元年度181千円、当該年度6千円)</p>	<p>3便は午前の早い時間、7便は午後の早い時間の外出に対応できるようダイヤ設定をしているが、コロナ禍においては利用対象として想定している高齢者の行動パターンが変化すると推測する。特に通院に関しては、感染症のリスクを回避するため公共交通機関の利用を避けている可能性もあるため、改めて利用実態や行動パターンの調査、検証を実施し、必要に応じて見直しを実施する必要がある。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
立科町立科町地域公共交通活性化協議会	立科町	<p>【運行系統名】 幹線ルート(4~6、8~10便) ※立科町役場前~駒形神社~立科町役場前</p> <p>車両減価償却費等国庫補助金</p>	<p>当該系統は、日常的に利用者がいるバス停を結ぶ「幹線ルート」の中で、日中及び夕方への移動に対応することを目的としている。便によっては極端に利用者が少ない状況だが、住民の生活のため必要な系統であるため、バス利用案内(乗り方、時刻表掲載)の全戸配布、ホームページや町広報誌への運行情報掲載など利用促進に努めた。</p>	A	<p>事業は、計画通り適切に実施された。</p>	C	<p>幹線ルート全体で収支率12%という目標に対し5.4%、当該系統のみでも3.9%で目標を達成できなかった。 (前年度全体収支率6.7%、当該系統収支率5.3%) 便別の延べ利用者数では4~6便(午前~お昼)が627人、8便~10便が1,587人となっており、更に詳細では第6便(11:23始、12:09終)が46人(全体の約2%)、第10便(16:22始、16:58終)が19人(全体の約0.9%)で全体の収支率を落とした原因となったと考える。</p> <p>【車両減価償却費等国庫補助金に係る目標達成状況】 「車両修繕費30%以上削減」という目標に対し、97%削減し目標を達成した。(基準:令和元年度181千円、当該年度6千円)</p>	<p>午前10時台~11時までの4、5便、午後3時台~4時までの9便については一定の利用者おり、需要がある。しかし、お昼の直前の時間帯や午後5時前後の時間帯にはほとんど利用者がおらず、目標を達成できなかった要因であることが明確である。主な利用対象として想定している高齢者の行動パターンに起因していると考えられるため、この便の必要性について、利用実態や行動パターンを利用者からのヒアリング等によって再度検証する必要がある。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>
立科町立科町地域公共交通活性化協議会	立科町	<p>【運行系統名】 西・南回り線(1、2便) ※立科町役場前~蟹窪~立科町役場前</p>	<p>当該系統は、当町の中心地である芦田地区をハブに、西部地区、南部地区を運行している「西・南回り線」の中で午前の早い時間帯に外出することを想定し設定している。運行対象の地域は過去の実績からバス利用者が限定的であるため乗車効率の向上のため、曜日運行(月、水、金曜)を導入している。利用者は少ないものの、地域住民の主に芦田地区への外出(買い物、通院等)のために欠かすことができない生活交通であり、維持が必要のためバス利用案内の全戸配布、ホームページや町広報誌への運行情報掲載など利用促進に努めた。</p>	A	<p>事業は、計画通り適切に実施された。</p>	C	<p>西・南回り線全体で収支率10%という目標に対し3.6%、当該系統のみでも5.0%で目標を達成できなかった。 (前年度全体収支率4.1%、当該系統収支率7.3%) 元々、利用者が少ない地域を曜日運行しているが、路線全体のバス停別利用者数から算出した地域別の利用者割合を比較すると公共施設や商業施設がある芦田地区58.5%、西部地区30%、南部地区11.5%となり南部地区の住民の利用が少ない。比較的町の中心部に近く徒歩での移動も可能なエリアであることが一因と考えるが、明確な実態の調査が必要である。また、効率化と収支改善のため公共交通サービスの維持及び向上に努める。</p>	<p>元々、利用者が少ない地域を運行する設定のため利用促進による効果は得ずらいが、系統維持のためには収支改善が必須であるため、粘り強くバス利用案内の全戸配布等PRを実施していく。また、目標値は再編前(令和元年度以前)の路線を基準に設定したが、今年度の実績から目標そのものを見直す必要がある。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
立科町立科町地域公共交通活性化協議会	立科町	【運行系統名】 西・南回り線(3~5便) ※老人福祉センター～蟹窪～立科町役場前	当該系統は、当町の中心地である芦田地区をハブに、西部地区、南部地区を運行している「西・南回り線」の中で日中の時間帯(概ね午前10時～午後4時)に外出することを想定し設定している。運行対象の地域は過去の実績からバス利用者が限定的であるため乗車効率の向上のため、曜日運行(月、水、金曜)を導入している。利用者は少ないものの、地域住民の主に芦田地区への外出(買い物、通院等)のために欠かすことができない生活交通であり、維持が必要のためバス利用案内の全戸配布、ホームページや町広報誌への運行情報掲載など利用促進に努めた。	A	事業は、計画通り適切に実施された。	C	西・南回り線全体で収支率10%という目標に対し3.6%、当該系統のみでも4.9%で目標を達成できなかった。 (前年度全体収支率4.1%、当該系統収支率4.6%) 元々、利用者が少ない地域を曜日運行しているが、路線全体のバス停別利用者数から算出した地域別の利用者割合を比較すると公共施設や商業施設がある芦田地区58.5%、西部地区30%、南部地区11.5%となり南部地区の住民の利用が少ない。比較的町の中心部に近く徒歩での移動も可能なエリアであることが一因と考えるが、明確な実態の調査が必要である。また、効率化と収支改善のため公共交通サービスの維持及び向上に努める。	元々、利用者が少ない地域を運行する設定のため利用促進による効果は得ずらいが、系統維持のためには収支改善が必須であるため、粘り強くバス利用案内の全戸配布等PRを実施していく。また、目標値は再編前(令和元年度以前)の路線を基準に設定したが、今年度の実績から目標そのものを見直す必要がある。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
立科町立科町地域公共交通活性化協議会	立科町	【運行系統名】 西・南回り線(6、7便) ※老人福祉センター～蟹窪～立科町役場前	当該系統は、当町の中心地である芦田地区をハブに、西部地区、南部地区を運行している「西・南回り線」の中で夕方時間帯(概ね午後4時～午後6時台)に外出先から帰宅することを想定し設定している。運行対象の地域は過去の実績からバス利用者が限定的であるため乗車効率の向上のため、曜日運行(月、水、金曜)を導入している。利用者は少ないものの、地域住民の主に芦田地区への外出(買い物、通院等)のために欠かすことができない生活交通であり、維持が必要のためバス利用案内の全戸配布、ホームページや町広報誌への運行情報掲載など利用促進に努めた。	A	事業は、計画通り適切に実施された。	C	西・南回り線全体で収支率10%という目標に対し3.6%、当該系統のみでも0.2%で目標を達成できなかった。 (前年度全体収支率4.1%、当該系統収支率0.4%) 元々、利用者が少ない地域を曜日運行しているが、路線全体のバス停別利用者数から算出した地域別の利用者割合を比較すると公共施設や商業施設がある芦田地区58.5%、西部地区30%、南部地区11.5%となり南部地区の住民の利用が少ない。比較的町の中心部に近く徒歩での移動も可能なエリアであることが一因と考えるが、明確な実態の調査が必要である。また、効率化と収支改善のため公共交通サービスの維持及び向上に努める。	目標値を大きく下回った原因としては、6、7便のダイヤ設定と利用者の行動パターンにミスマッチがあるものと推測する。6便は16:22始発、17:39到着、7便は17:39始発、18:30到着となっているが、当該系統の延べ利用者数は西・南回り線全体の約1.3%(1,104人中14人)に留まっており、需要はないと考えるが、改めて利用実態を把握し、利用者からヒアリング等実施のうえ必要性について再検討を行う。また、系統を継続する場合、目標値は再編前(令和元年度以前)の路線を基準に設定したが、今年度の実績から目標そのものを見直す必要がある。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
立科町立科町地域公共交通活性化協議会	立科町	【運行系統名】 東回り線(1~3、5便) ※立科町役場前~藤沢公民館~立科町役場前	当該系統は、当町の中心地である芦田地区と東部地区を結ぶ「東回り線」の中で午前中及び午後の一部の時間帯を運行している。運行対象の地域は過去の実績からバス利用者が限定的であるため乗車効率の向上のため、曜日運行(火、木、土曜)を導入している。利用者は少ないものの、地域住民の主に芦田地区への外出(買い物、通院等)のために欠かすことができない生活交通であり、維持が必要のためバス利用案内の全戸配布、ホームページや町広報誌への運行情報掲載など利用促進に努めた。	A 事業は、計画通り適切に実施された。	C 東回り線全体で収支率10%という目標に対し2.6%、当該系統のみでも3.8%で目標を達成できなかった。(前年度全体収支率2.0%、当該系統収支率3.1%)元々、利用者が少ない地域を曜日運行しており、利用実績から日常的な利用者はほとんどいないことが窺えるが、明確な理由については未調査である。新規利用者獲得のために利用促進施策の実施と併せ、効率化と収支改善のため公共交通サービスの維持及び向上に努める。	目標値は達成できなかったが、前年度から収支率が微増となった。再編前(令和元年度以前)には、バスが通っていなかった地域にも東回り線を運行させ、それまでバスを利用できなかった住民にも浸透しつつある結果と捉える。しかし、依然として利用者は少なく維持のためには収支改善が必要であるため、粘り強くバス利用案内の全戸配布等PRを実施していく。また、目標値は再編前の路線を基準に設定したが、今年度の実績から目標そのものを見直す必要がある。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
立科町立科町地域公共交通活性化協議会	立科町	【運行系統名】 東回り線(4便) ※権現の湯~藤沢公民館~立科町役場前	当該系統は、当町の中心地である芦田地区と東部地区を結ぶ「東回り線」の中で正午前後の時間帯を運行している。運行対象の地域は過去の実績からバス利用者が限定的であるため乗車効率の向上のため、曜日運行(火、木、土曜)を導入している。利用者は少ないものの、地域住民の主に芦田地区への外出(買い物、通院等)のために欠かすことができない生活交通であり、維持が必要のためバス利用案内の全戸配布、ホームページや町広報誌への運行情報掲載など利用促進に努めた。	A 事業は、計画通り適切に実施された。	C 東回り線全体で収支率10%という目標に対し2.6%、当該系統のみでも4.3%で目標を達成できなかった。(前年度全体収支率2.0%、当該系統収支率3.1%)元々、利用者が少ない地域を曜日運行しており、利用実績から日常的な利用者はほとんどいないことが窺えるが、明確な理由については未調査である。新規利用者獲得のために利用促進施策の実施と併せ、効率化と収支改善のため公共交通サービスの維持及び向上に努める。	目標値は達成できなかったが、前年度から収支率が微増となった。再編前(令和元年度以前)には、バスが通っていなかった地域にも東回り線を運行させ、それまでバスを利用できなかった住民にも浸透しつつある結果と捉える。しかし、依然として利用者は少なく維持のためには収支改善が必要であるため、粘り強くバス利用案内の全戸配布等PRを実施していく。また、目標値は再編前の路線を基準に設定したが、今年度の実績から目標そのものを見直す必要がある。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
立科町立科町地域公共交通活性化協議会	立科町	【運行系統名】 東回り線(6～8便) ※老人福祉センター～藤沢公民館～立科町役場前	当該系統は、当町の中心地である芦田地区と東部地区を結ぶ「東回り線」の中で夕方(6便15:36始～8便18:01終)の時間帯を運行し、外出先からの帰宅時の利用を想定している。運行対象の地域は過去の実績からバス利用者が限定的であるため乗車効率の向上のため、曜日運行(火、木、土曜)を導入している。利用者は少ないものの、地域住民の主に芦田地区への外出(買い物、通院等)のために欠かすことができない生活交通であり、維持が必要のためバス利用案内の全戸配布、ホームページや町広報誌への運行情報掲載など利用促進に努めた。	A 事業は、計画通り適切に実施された。	C 東回り線全体で収支率10%という目標に対し2.6%、当該系統のみでは0.1%で目標を達成できなかった。(前年度全体収支率2.0%、当該系統収支率0.1%)元々、利用者が少ない地域を曜日運行しており、特に当該系統は前年度同様に目標値を大きく下回る結果となった。6便～8便のいずれの便も利用者は極めて少なく、全体の収支率を落とした原因となったと考える。	運行対象地域の住民の行動パターンとのミスマッチが明確であり、当該系統の需要について、利用者及び地域住民へのヒアリング等により調査を行う必要がある。見直しが必要であると考え、東回り線全体の運行ダイヤ等に影響が生じるため、適正な検証を実施したうえで取り組みたい。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
立科町立科町地域公共交通活性化協議会	立科町	【運行系統名】 シラカバ線 ※立科町役場前～女神湖～東白樺湖	当該系統は、町民の生活交通と観光交通の両方を担っており、当町の中心地である芦田地区(立科町役場前)と観光地である白樺高原エリアを結んでいる。令和2年度の再編時には生活交通と観光交通のバランス考え、可能な限り両方に対応するため平日のみ午前中の買い物、通院での利用を想定した便を増設するなど、観光事業者として白樺高原エリアで生活する住民の意見を反映したダイヤ設定となっている。また、同エリアから通学、通園する子供たちは当該系統をスクールバスの代替として日常的に利用しており、学校等と連携して毎月の運行計画を立てるなど、地域のニーズに則した運行に努めた。また、観光客への対応として、町観光部署や観光協会と連携し、各施設に公共交通利用案内を配架したほか、ホームページや町広報誌に運行情報を掲載するなど利用促進も実施した。	A 学校や観光部署等との調整により、運行の増減はあったが、それ以外は適切に事業を実施された。	A 収支率25%という目標に対し、28.5%と目標を達成した。(前年度収支率19.1%) 新型コロナウイルスの影響を受け、通学利用及び観光客利用の両方が減少した前年度に比べ、新たな生活様式が浸透し、人の移動が回復したことにより収支率改善につながったと推測できる。 (緊急事態宣言により一斉休校となった3月、4月の利用者数前年度比:約216%、観光シーズンである5月、7月～9月の利用者数前年度比:約122%)	観光のハイシーズン(夏季)を除き、日常的な利用は通学での利用が主であるが、生活交通としての役割を強化するために増設した平日午前中の便も利用者がおり、一定の効果があつたと考える。 通学利用については、年度によって日常的な利用者数が増減するため利用促進による効果は小さいが、その他の町民の生活交通、観光客対応の観光交通としての役割を果たすため、継続的に双方機能のバランスに注視し、必要に応じて利用者意見の集約等を行っていく。 また、観光事業者、町観光部署、観光協会等の観光事業者関係者及び学校や保育園の町内施設等との連携を継続し、ニーズに応えた運行を実施するよう努める。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
豊丘村地域公共交通会議	豊丘村	堀越線(系統①) 役場～堀越～役場 堀越線(系統②) 役場～堀越～役場 佐原線(系統①) 役場～長沢～役場 佐原線(系統②) 役場～長沢～役場 福島線 役場～福島～役場 壬生沢線 役場～壬生沢～役場 壬生沢福島線(系統①) 役場～千駄木～役場 壬生沢福島線(系統②) 役場～千駄木～役場 滝川阿島北県道線 役場～阿島北～役場	<p>本年は、令和2年7月からの、道路工事に伴う一部路線変更とダイヤ改正の状況を継続する形となったが、利用者の利便性を減少させることなく事業を実施することができた。</p>	A	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	A	<p>令和3年度の生活交通確保維持改善計画における事業の目標数値は、豊丘村が運行する全9系統の年間利用者総数を人口の98.0%にするというもので、全9系統を包括した目標設定である。 事業実施期間(令和2年10月～令和3年9月)における年間利用者総数は8,736人で、令和3年9月末時点の人口が6,719人であることから130.0%という結果となり、新型コロナウイルス感染症の流行による、公共交通機関の利用者数への影響が懸念される状況下においても目標数値を達成することができた。 これは、高齢者への乗降無料乗車券発行数の増加と、高校生へのチャリ配布によるバス利用促進策実施の効果が大きいと分析している。 実績値は平成30年度100.1%(年間利用者数6,758人)、平成31年度131.0%(年間利用者数8,777人、令和2年度105.9%(年間利用者数7,118人)と推移しており、傾向としては、率・人数ともに上昇傾向である。</p>	<p>当村のような地方部では多くの方が自動車運転免許証を所持しているが、高齢化社会の進展に伴い、免許返納者等の交通弱者の増加が見込まれる。 当村においては、特に山間部の集落と村中心部を、また、圏域の中心市である飯田市へつながるJR飯田線市田駅とを結ぶ公共交通の役割は極めて重要であり、それを担う地域内フィーダー系統の必要性・重要性も増加しており、高校生等の通学等の利用増加も見込まれる。 近年は、平成30年4月開設の道の駅 南信州とよおかマルシェへの集客が、村内外から行えるよう、またJRや近隣自治体運行の広域バスなど他の公共交通との乗継がスムーズに行えるよう取り組みを行っている。 今後も利用者の利便性を考慮しつつ、必要なダイヤ改正の実施や、新型コロナウイルス感染症への対策を継続した上で、公共交通機関利用促進のPRIに一層力を入れていく。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
茅野市・原村地域公共交通活性化協議会	アルピコ交通(株)	御狩野線(通学支援便)	継続的に学校との協議を実施するとともに、学生、保護者会への呼びかけなどを実施した。また、利用促進に向け携帯版時刻表を茅野市内全戸に配布など取り組んだ。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標値：84人／日 達成状況：71人／日(84.5%) 原因としては、コロナ渦による家族の送迎があったものと考えられる。	新型コロナウイルスによる影響もあるが、学生の移動手段を確保するため、学校側との継続的な協議を行いつつ運行を継続していくとともに、新入学生なども含めたバス利用の呼びかけなど、利用者増加に向けた取り組みを行っていく。一方で、生徒数の減少などもあり、適切な目標値設定、運行便数の検討などにも取り組んでいく。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
茅野市・原村地域公共交通活性化協議会	アルピコ交通(株)	メルヘン街道バス	持続可能な公共交通に向け、従来から取り組んでいる市内全路線の時刻表作成や市HPに路線別の路線図、時刻表、バスの乗り方案内に加え、携帯版時刻表を改善し作成、全戸に配布するなど利用促進に向けた情報発信に取り組んだ。 また、事業評価結果を踏まえ、利用者アンケートを実施し問題点の把握に取り組んだ。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標値：25人／日 達成状況：15人／日(60.0%) 原因としては、月別の利用状況から新型コロナウイルスの第2波が終息した10月は目標値を上回っていたが、11月以降は目標値を下回っており、観光自粛の影響によるものと考えられる。	利用者アンケートでは運行本数、ダイヤに対する不満の声があり、今年度、持続可能な交通体系に向け、地域一帯で抜本的な交通体系の見直しを予定している。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
茅野市・原村地域公共交通活性化協議会	アルピコ交通㈱	市街地循環バス	持続可能な公共交通に向け、従来から取り組んでいる市内全路線の時刻表作成や市HPに路線別の路線図、時刻表、バスの乗り案内に加え、携帯版時刻表を改善し作成、全戸に配布するなど利用促進に向けた情報発信に取り組んだ。 また、事業評価結果を踏まえ、利用者アンケートを実施し問題点の把握に取り組んだ。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標値:40人/日 達成状況:38人/日(95.0%) 原因としては、月別の利用者数から、10～12月は目標値に達していたが、以降は下回り、特に、5月、8月、9月と新型コロナウイルスの第4波、第5波時に目標値の8割程度に落ち込んでいることからコロナ渦による外出自粛が影響しているものと考えられる。	利用者アンケートでは運行本数に対する不満の声があり、今年度、持続可能な交通体系に向け、地域一帯で抜本的な交通体系の見直しを予定している。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな具体策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
茅野市・原村地域公共交通活性化協議会	アルピコ交通㈱	北八ヶ岳ロープウェイ線	持続可能な公共交通に向け、従来から取り組んでいる市内全路線の時刻表作成や市HPに路線別の路線図、時刻表、バスの乗り案内に加え、携帯版時刻表を改善し作成、全戸に配布するなど利用促進に向けた情報発信に取り組んだ。 また、事業評価結果を踏まえ、利用者アンケートを実施し問題点の把握に取り組んだ。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標値:101人/日 達成状況:66人/日(65.3%) 原因としては、前年同月比で見ると、10～12月と4～7月は、100%を超え最大217%となっていたが、新型コロナウイルスの流行の波に伴い前年同月比が61%に落ち込むなどした月もあり、コロナ渦による観光自粛が大きく影響しているものと考えられる。	利用者アンケートでは運行本数、ダイヤ、運行経路に対する不満の声があり、今年度、持続可能な交通体系に向け、地域一帯で抜本的な交通体系の見直しを予定している。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
茅野市・原村地域公共交通活性化協議会	アルピコ交通(株)	白樺湖線	持続可能な公共交通に向け、従来から取り組んでいる市内全路線の時刻表作成や市HPに路線別の路線図、時刻表、バスの乗り案内に加え、携帯版時刻表を改善し作成、全戸に配布するなど利用促進に向けた情報発信に取り組んだ。 また、事業評価結果を踏まえ、利用者アンケートを実施し問題点の把握に取り組んだ。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標値:106人/日 達成状況:52人/日(49.1%) 原因としては、前年同月比で見ると、4～7月は100%を超え最大242%となっていたが、新型コロナウイルスの流行の波に伴い前年同月比が55%に落ち込むなどした月もあり、コロナ渦による観光自粛が大きく影響しているものと考えられる。	利用者アンケートでは運行本数、ダイヤに対する不満の声があり、今年度、持続可能な交通体系に向け、地域一帯で抜本的な交通体系の見直しを予定している。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
茅野市・原村地域公共交通活性化協議会	アルピコタクシー(株)	中沢線	持続可能な公共交通に向け、従来から取り組んでいる市内全路線の時刻表作成や市HPに路線別の路線図、時刻表、バスの乗り案内に加え、携帯版時刻表を改善し作成、全戸に配布するなど利用促進に向けた情報発信に取り組んだ。 また、事業評価結果を踏まえ、利用者アンケートを実施し問題点の把握に取り組んだ。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標値:40人/日 達成状況:31人/日(77.5%) 月別の利用状況より10～4月はコロナ渦の影響もあり月平均で目標値を下回っていたが、5月以降は目標値を上回る利用が見られてきている。	利用者アンケートでは運行経路、ダイヤに対する不満の声があり、今年度、持続可能な交通体系に向け、地域一帯で抜本的な交通体系の見直しを予定している。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
茅野市・原村地域公共交通活性化協議会	アルピコタクシー(株)	御狩野線(乗合タクシー)	持続可能な公共交通に向け、従来から取り組んでいる市内全路線の時刻表作成や市HPに路線別の路線図、時刻表、バスの乗り案内に加え、携帯版時刻表を改善し作成、全戸に配布するなど利用促進に向けた情報発信に取り組んだ。また、事業評価結果を踏まえ、利用者アンケートを実施し問題点の把握に取り組んだ。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標値:38人/日 達成状況:25人/日(65.8%) 原因としてはコロナ渦による外出自粛が考えられるが、前年同月比では100%を超える月も多く、徐々に回復傾向がみられている。	利用者アンケートでは運行本数、運行経路に対する不満の声があり、今年度、持続可能な交通体系に向け、地域一帯で抜本的な交通体系の見直しを予定している。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
茅野市・原村地域公共交通活性化協議会	アルピコタクシー(株)	原村循環線	持続可能な公共交通に向け、従来から取り組んでいる時刻表の全戸配布や村HPに路線別の路線図、時刻表掲載など利用促進に向けた情報発信に取り組んだ。また、事業評価結果を踏まえ、利用者アンケートを実施し問題点の把握に取り組んだ。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標値:73人/日 達成状況:49人/日(67.1%) 原因としては、朝夕の通学支援便は小中学生の通学にも利用していたが、大幅に利用者が増えすぎたことにより、急遽、令和2年10月より通学臨時便を運行し分散されたことによるものとなっている。	当該路線としての目標は達成していないが、臨時便による対応も踏まえると大幅な減少には至っていない。しかし、今後も、さらに利用促進、利用者、住民の意見に基づく改善に取り組んでいくため、新たな会議も発足・検討を進めており、地域一帯で持続可能な交通体系の検討を進展させる。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
茅野市・原村地域公共交通活性化協議会	茅野バス観光(株)	丸山線	持続可能な公共交通に向け、従来から取り組んでいる市内全路線の時刻表作成や市HPに路線別の路線図、時刻表、バスの乗り案内に加え、携帯版時刻表を改善し作成、全戸に配布するなど利用促進に向けた情報発信に取り組んだ。 また、事業評価結果を踏まえ、利用者アンケートを実施し問題点の把握に取り組んだ。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標値:54人/日 達成状況:48人/日(88.9%) 月別の利用状況より、10~3月まではコロナ渦の影響もあり、月平均で目標値を下回っていたが、4月からはほとんどの月で目標値を上回る傾向が見え、60人/日を超える月もあった。	利用者アンケートでは、全体的に満足度が高く、今後も、朝夕の通学に関しては、学校側とも連携しつつ、新入学生も含めた児童のバス利用に向けた呼びかけをしていく。また、日中の生活利用者に向けての運行については、今年度、持続可能な交通体系に向け、地域一帯で抜本的な交通体系の見直しを予定している。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
茅野市・原村地域公共交通活性化協議会	茅野バス観光(株)	穴山・原村線	持続可能な公共交通に向け、従来から取り組んでいる市内全路線の時刻表作成や市HPに路線別の路線図、時刻表、バスの乗り案内に加え、携帯版時刻表を改善し作成、全戸に配布するなど利用促進に向けた情報発信に取り組んだ。 また、事業評価結果を踏まえ、利用者アンケートを実施し問題点の把握に取り組んだ。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標値:35人/日 達成状況27人/日(77.1%) 原因としてはコロナ渦による外出自粛が考えられるが、前年同月比では、ほとんどの月で100%を超え徐々に回復傾向がみられている。	茅野市と原村を結ぶ重要な路線であるが、利用者アンケートでは、運行本数とダイヤに対する不満の声があり、さらに、利用状況を注視しつつ、利用者、住民の意見も聴取しながら必要に応じた利用者行動に合わせた利便性の向上、利用促進に取り組んでいく。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
茅野市・原村地域公共交通活性化協議会	茅野バス観光線	豊平・泉野線	持続可能な公共交通に向け、従来から取り組んでいる市内全路線の時刻表作成や市HPに路線別の路線図、時刻表、バスの乗り案内に加え、携帯版時刻表を改善し作成、全戸に配布するなど利用促進に向けた情報発信に取り組んだ。 また、事業評価結果を踏まえ、利用者アンケートを実施し問題点の把握に取り組んだ。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標値:24人/日 達成状況:19人/日(79.2%) 原因としてはコロナ渦による外出自粛が考えられるが、前年同月比では100%を超える月も多く、徐々に回復傾向がみられている。	利用者アンケートではダイヤに対する不満の声があり、今年度、持続可能な交通体系に向け、地域一帯で抜本的な交通体系の見直しを予定している。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
茅野市・原村地域公共交通活性化協議会	茅野バス観光線	西茅野・安国寺線	持続可能な公共交通に向け、従来から取り組んでいる市内全路線の時刻表作成や市HPに路線別の路線図、時刻表、バスの乗り案内に加え、携帯版時刻表を改善し作成、全戸に配布するなど利用促進に向けた情報発信に取り組んだ。 また、事業評価結果を踏まえ、利用者アンケートを実施し問題点の把握に取り組んだ。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 利用者目標は新型コロナウイルスの終息を想定し5人/日と設定したが、実績は5人/日と目標を達成している。	利用者アンケートでは運行本数、ダイヤに対する不満の声があり、今年度、持続可能な交通体系に向け、地域一帯で抜本的な交通体系の見直しを予定している。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、さらなる実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
川上村地域公共交通活性化協議会	事業者名：川上村運行システム：川上村営バス	川上村内(川端下地区～樋沢地区)の運行	<p>運営側、利用者側共に安心して公共交通が利用できるよう、車内消毒の徹底、定期的な換気等コロナ感染拡大予防対策を実施した。また、利用者にも乗車時の手指消毒、マスクの着用や会話の自粛を周知、協力していただき感染防止対策を実施した。</p> <p>中学校卒業生や保護者を対象にバス利用のメリットや高校生通学バス助成制度の説明を実施し、バス利用の促進を図った。</p> <p>村営バスとJRの時刻表を掲載したオリジナルカレンダーを引き続き作成し、利用PRについての記載と、無料お試し乗車券を備えつけるなどして新規利用者の開拓に取り組んだ。</p> <p>外国人観光客や外国人農業実習生向けに村営バス利用促進チラシと観光パンフレットを駅待合室及びバス車内に設置し、実習生や観光客等の利用レポート率の向上に取り組んだ。</p> <p>また、実習生対しては、村内で実施された講習会や住民登録の際に村営バス利用促進チラシを配付した。</p> <p>JR小海線と村営バスとの接続改善のダイヤ改正をJR東日本に要望した。</p>	<p>A 計画に位置付けられた事業は適切に実施した。しかしながら、地域間幹線系統であるJR小海線の上下線の発着の時差が解消されず、その双方と村営バスとを接続することが引き続き困難であり、地域間交通ネットワークを充足することができなかった。</p>	<p>B 一日平均利用者数は、春夏季70.6人、秋冬季47.7人で春夏季は目標値に設定した70人をクリアしたが秋冬季はクリアできなかった。主な原因としては、両季とも新型コロナウイルス感染状況による影響が増減原因として考えられる。</p>	<p>運営側、利用者側共に安心して公共交通が利用できるよう、車内消毒の徹底、定期的な換気等コロナ感染拡大予防対策を引き続き実施する。</p> <p>高校生の通学利用者のさらなる増加を図るため、バスダイヤの見直しを検討し、利用促進PRを引き続き実施する。</p> <p>外国人実習生や外国人観光客等の利用促進、レポート率の向上に向け、周知方法や利用チラシの改善を図る。</p> <p>JR小海線と村営バスとの接続改善を目指し、信濃川上駅での同時発着のダイヤ改正について、引き続きJR東日本に要望していく。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、また、生活交通確保維持改善計画に掲げる「村営バス利用者の満足度」に関する目標の達成状況についても分析し、これらを明らかにするとともに、実績向上に向けて具体策及びその具体化について改めて検討し、これを⑥の事業の今後の改善点に反映するよう期待する。その上で、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
辰野町地域公共交通会議	事業者:辰野町運行系統名:町営バス川島線	○辰野町役場~デリシア・かやぶきの館~中谷	昨年度開催できなかった会議を開催できた。また、停留所の時刻表が古く見えにくい状況となりましたが、新調しました。ドライバーや利用者の声を聞き現状把握に努めた。公共交通利用者にお買い物優待券があることも周知した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 輸送人員は目標10,912人/年に対し、8,866人の利用者があった。収支率12.14%に対し、8.32%であった。新型コロナの影響で普段利用していた方が利用しなくなったことが目標未達成の理由として挙げられる。	新型コロナウイルスの関係もあると思うが、利用者が減っている。利用状況調査を行った。その結果を基に今後の運営の検討をしたい。新型コロナの対策では、乗車内の換気、除菌、乗車している方のマスクの徹底を引き続き行っていく。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
辰野町地域公共交通会議	事業者:辰野町運行系統名:町営バス飯沼線	○小野駅前~明倫館~JA支所前	昨年度開催できなかった会議を開催できた。また、停留所の時刻表が古く見えにくい状況となりましたが、新調しました。ドライバーや利用者の声を聞き現状把握に努めた。公共交通利用者にお買い物優待券があることも周知した。例年は対象外の飯沼線も新型コロナの影響で国庫補助事業の対象になった。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 輸送人員2,927人/年に対し、941人の利用者があった。収支率10.04%に対し、1.62%であった。新規の利用者が少ないことが目標未達成の理由として挙げられる。また新型コロナの影響も受けている。	新型コロナウイルスの関係もあると思うが、利用者が減っている。利用状況調査を行った。その結果を基に今後の運営の検討をしたい。新型コロナの対策では、乗車内の換気、除菌、乗車している方のマスクの徹底を引き続き行っていく。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、目標値と実績値が大幅に乖離している要因について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
辰野町地域公共交通会議	事業者名: 辰野タクシー(株)運行系統名:デマンド型乗合タクシー	○集落～町交通不便地域～JR辰野駅	利用者の声を聞き居住側停留所を増やし、利用者の利便性向上に努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 輸送人員は目標4,376人/年に対し、3,530人の利用者があった。収支率10.92%に対し、9.29%であった。免許返納者が増え登録者数も年々増加傾向にあるが新型コロナ影響も受け目標未達成となった。	利便性向上のため、聞き取り調査を行った。調査結果や、住民ニーズに合わせた交通体系とするために今後は実証実験を行いたい。新型コロナの対策として、乗車内の換気、除菌、乗車している方のマスクの徹底を今後も行っていく。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
佐久市地域公共交通確保維持改善協議会	千曲バス株式会社	山手線 中込駅～前山～望月バスターミナル【～R3.3.31】	新型コロナウイルス感染症の完全な収束が見えない中であったが、安心して利用してもらうため感染拡大の防止に向けた取組(乗務員のマスク着用、健康管理の徹底、車内への抗菌コーティング処理等)の周知を図った。また、満足度については感染症対策を徹底した上で調査員がバスに乗りし直接利用者から聞き取る方式で調査を実施した。	A	B	【利用者数】 目標:21,000人/年 実績:11,445人/年 【満足度】 目標:53.8% 実績:78.3% 【収支割合】 目標:14.8% 実績:15.3% 収支割合及び満足度については目標達成できたが、利用者数については目標を達成出来なかった。利用者数の未達については、前年に引き続き感染症の影響により主な利用者である高校生の通学日が減少したことのほか、自家用車での送迎による通学によって利用者数が回復しなかったことが考えられる。	主な利用者である高校生や、バス通学を利用する可能性のある地域の保護者に対し、感染症対策の徹底やバス通学のメリットを周知し、利用者数の増加を図る。 また、利便性の向上を図るためのアンケート調査を実施しながら、今後のルートやダイヤ変更に向けて事業者と協議をしていく。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
		A		計画通り事業は適切に実施された。				
		A		計画通り事業は適切に実施された。				
		A		計画通り事業は適切に実施された。				

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
佐久市地域公共交通確保維持改善協議会	千曲バス株式会社	市内循環バス北循環線(右回り) 佐久医療センター～佐久平駅～佐久医療センター 「車両減価償却費等国庫補助金」	新型コロナウイルス感染症の完全な収束が見えない中であつたが、安心して利用してもらうため感染拡大の防止に向けた取組(乗務員のマスク着用、健康管理の徹底、車内への抗菌コーティング処理等)の周知を図つた。ダイヤの見直しなどにより利便性向上を図ってきたが、利用者が少ない状況やデマンド交通の見直しに伴い、本路線を廃止とした。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 【利用者数】 目標:15,000人/年 実績:16,569人/年 【満足度】 目標:53.8% 実績:-% 【収支割合】 目標:14.8% 実績:3.6% 利用者数が目標を上回ったことについては、循環バスの利用に関する協定に基づく佐久大学生の無料乗車が前年に比べ増加したことが要因として考えられる。 満足度については、感染症の状況により路線廃止前の調査ができなかったため数値無しとなっている。 収支率については、運行便数に対して利用者が少ないために目標未達成となった。	令和3年9月末を以て廃止とした。 10月以降は循環バスが運行していた地域にデマンド交通の運行範囲を拡大し、市民の移動手段を確保・維持していく。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、循環バス廃止地域に運行範囲を拡大したデマンド交通の実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
		市内循環バス南循環線右回り+北循環線右回り 佐久医療センター～佐久総合病院～佐久医療センター 「車両減価償却費等国庫補助金」					
		市内循環バス北循環線左回り+南循環線左回り 佐久医療センター～佐久総合病院～佐久医療センター 「車両減価償却費等国庫補助金」					

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
佐久市地域公共交通確保維持改善協議会	有限会社高原タクシー	臼田地域デマンドタクシー 湯原新田線 湯原地区	新型コロナウイルス感染症の完全な収束が見えない中であつたが、安心して利用してもらうため感染拡大の防止に向けた取組(乗務員のマスク着用、健康管理の徹底等)の周知を図つた。利用促進として募集した愛称「デマンド交通さくっと」を令和3年4月から使用開始した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B	<p>【利用者数】 目標:3,900人/年 実績:3,499人/年</p> <p>【満足度】 目標:53.8% 実績:63.7%</p> <p>【収支率】 目標:14.8% 実績:2.9%</p> <p>利用者数及び収支率について目標未達成となつた。 生活に必要な移動が主な利用目的であるが、感染症の影響による受診控えなどの外出回数の減少が理由と考えられる。 収支率については、運行便数に対して乗合率が上らず目標未達成となつた。</p>	<p>新たなデマンド交通として、市内全域コールセンターの設置、AIによる配車管理システムの導入などにより事業の効率化及び収支率の改善を図るとともに利便性の向上を図る。 上記の変更点などについて、市広報誌への掲載や地域への出前講座などにより周知を図るとともに、アンケートなどにより住民意見を反映していく。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
		臼田地域デマンドタクシー 十二新田線 切原地区						
		臼田地域デマンドタクシー 岩水線 岩水・青沼地区						
		臼田地域デマンドタクシー 田口線 田口地区						

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
佐久市地域公共交通確保維持改善協議会	ニュー交通 有限会社	旧佐久・浅科地域デマ ンドタクシー 平根エリア 平根地区	新型コロナウイルス感染症の完全な収束が見えない中であつたが、安心して利用してもらうため感染拡大の防止に向けた取組(乗務員のマスク着用、健康管理の徹底等)の周知を図った。利用促進として募集した愛称「デマンド交通さくっと」を令和3年4月から使用開始した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 【利用者数】 目標:7,000人/年 実績:11,213人/年 【満足度】 目標:53.8% 実績:63.7% 【収支率】 目標:14.8% 実績:3.9% 利用者数については、目標を大きく上回ることができた。令和3年3月末を以て路線バスが廃止された地区の利用者の増加などが主な要因と考えられる。収支率については、運行便数に対して乗合率が上がらず目標未達成となった。	新たなデマンド交通として、市内全域コールセンターの設置、AIによる配車管理システムの導入などにより事業の効率化及び収支率の改善を図るとともに利便性の向上を図る。 上記の変更点などについて、市広報誌への掲載や地域への出前講座などにより周知を図るとともに、アンケートなどにより住民意見を反映していく。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
	岩村田観光 タクシー株式 会社	旧佐久・浅科地域デマ ンドタクシー 東エリア 東地区					
		旧佐久・浅科地域デマ ンドタクシー 平賀エリア 平賀地区					

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
佐久市地域公共交通確保維持改善協議会	東信観光バス株式会社	旧佐久・浅科地域デマンドタクシー野沢エリア野沢地区	新型コロナウイルス感染症の完全な収束が見えない中であつたが、安心して利用してもらうため感染拡大の防止に向けた取組(乗務員のマスク着用、健康管理の徹底等)の周知を図つた。利用促進として募集した愛称「デマンド交通さくっと」を令和3年4月から使用開始した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 【利用者数】 目標:7,000人/年 実績:11,213人/年 【満足度】 目標:53.8% 実績:63.7% 【収支率】 目標:14.8% 実績:3.9% 利用者数については、目標を大きく上回ることができた。令和3年3月末を以て路線バスが廃止された地区の利用者の増加などが主な要因と考えられる。 収支率については、運行便数に対して乗合率が上がらず目標未達成となった。	新たなデマンド交通として、市内全域コールセンターの設置、AIによる配車管理システムの導入などにより事業の効率化及び収支率の改善を図るとともに利便性の向上を図る。 上記の変更点などについて、市広報誌への掲載や地域への出前講座などにより周知を図るとともに、アンケートなどにより住民意見を反映していく。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
	浅科観光ハイヤー有限公司	旧佐久・浅科地域デマンドタクシー浅科エリア浅科地区					
	松葉タクシー有限公司	旧佐久・浅科地域デマンドタクシー中佐都エリア中佐都地区					

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
飯山市地域公共交通会議	長電バス株式会社	小境線(デマンド)	当該路線を含めた公共交通の時刻表を市内全戸に配布し、広くPRを行った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり適切に実施された。	B 1便平均2.0人の利用者を目標としたが、当年度の実績値は1.5人であった。昨年1.7人であった。	<p>運行事業者からの利用状況報告を基に乗降場所別で年度(4月から3月)毎の利用状況を比較すると、一部の乗降場所での利用が大きく減少していることが分かった。</p> <p>また、利用状況報告からは、継続利用者の多くが前年度よりも利用頻度を減らしている傾向が伺えた。</p> <p>今後は、引き続き利用状況報告を基に利用状況の分析を行うほか、時刻表の配布を行うなどして利用者の増加に努めたい。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤の目標・効果達成状況については、一部乗降場所や継続利用者の利用減少の根本的な理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>
飯山市地域公共交通会議	長電バス株式会社	温井線(デマンド)	従前は民営の路線バスが1日をととして運行していたが、「利用サービス水準の向上」と「運行経費軽減」を目的に、沿線住民と協議を重ねた結果、通勤・通学目的の利用が多い朝と夕方は従前通りの路線バスを運行し、昼間の時間帯の運行をデマンド方式に移行した。	A 事業が計画に位置付けられたとおり適切に実施された。	A 1便平均2.0人の利用者を目標としたが、当年度の実績値は2.4人であった。	<p>期間の後半は、前半よりも1便あたりの利用者が減少していることから、今後は、引き続き利用状況報告を基に利用状況の分析を行うほか、引き続き時刻表の配布を行うなどして利用者の増加に努めたい。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
塩尻市地域公共交通会議	アルピコタクシー(株)	<p>・北小野線(勝弦先廻り)塩尻駅前～塩尻東保育園前～勝弦詰所前～小野駅～憑生鮮食品館前～塩尻東保育園前～塩尻駅前(古町先廻り)塩尻駅前～塩尻東保育園前～憑生鮮食品館前～小野駅～勝弦詰所前～塩尻東保育園前～塩尻駅前</p>	<p>前回計画では、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う行動規制を背景として、利用者が落ち込み目標値を下回る結果となったため、概ね同水準の目標値を設定した。</p> <p>利用者回復に向けた取り組みとしては、令和3年7月1日に公表した地域公共交通計画に基づき令和4年度に予定しているダイヤ改正及び経路の見直しに向けた基礎調査としてOD調査や住民意見交換会を実施した。</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された</p>	<p>C 1便当たり11.1人、年間利用者数目標15,184人の目標値に対し、それぞれ8.5人、10,338人と目標値を下回る結果となった。</p> <p>背景としては新型コロナウイルス感染症拡大に伴い外出機会が減少したことに加え、チロルの森の廃止に伴い計画で予定していた運行日数よりも運行日が減少したことが大きな要因としてあげられる。</p>	<p>令和4年度に予定しているダイヤ改正及び経路の見直しによって利便性の向上を図る。</p> <p>また、利用促進に向けては、改正と合わせて時刻表を全戸配布するなど周知徹底を図る。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな具体策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
諏訪市地域公共交通活性化協議会	<p>■事業者名 ・アルピコ交通株式会社</p> <p>■運行系統名 ・すわライナー時計回り線 ・西山線</p>	<p>・すわライナー時計回り線 (※原則毎日運行) 日赤病院⇒上諏訪駅(霧ヶ峰口)・上社⇒上諏訪駅(諏訪湖口)</p> <p>・西山線(火・金運行) みどり区⇒大熊⇒みどり区</p>	<p>■平成29年10月ダイヤ路線改正により利用者より寄せられた意見等を反映して、令和3年4月に新たにかりんちゃんバス子バス東西線を新設し運行した。</p> <p>■市内を運行する公共交通全体の利用促進を図るため、市民に対しての周知活動やイベント等でのモビリティマネジメントを行った。</p> <p>・「広報すわ」を活用した利用案内</p> <p>・諏訪市社会福祉協議会と連携し、高齢者を対象とした無料体験乗車企画</p> <p>・市内小中学生を対象にバス乗り方教室を計画</p> <p>・利用促進企画として夏休み小中学生無料体験乗車券を配布</p>	<p>B</p> <p>■新型コロナウイルス感染防止対策により、諏訪市社会福祉協議会との連携で実施予定だった高齢者無料体験乗車企画は延期することとなった。</p> <p>・小中学生を対象とした乗り方教室と夏休み無料体験乗車券配布事業は実施することができた</p>	<p>B</p> <p>■平成29年2月に当市で策定した「第五次諏訪市総合計画後期基本計画」に記載されている、対象路線を含むかりんちゃんバス全体の目標値である362日運行は達成することが出来たが、年間利用者数88,269人及び、1便当たりの利用者目標数値(7.5人/便)は達成することが出来なかった。</p> <p>かりんちゃんバス7系統利用者実績(補助対象期間中) 365日運行、14,111便、利用者数76,849人、5.4人/便</p> <p>■新型コロナウイルス感染症に伴う移動自粛によるものとする。</p>	<p>■利用者の利便性向上を目的としたデマンド交通の見直しを図る。</p> <p>■目標値の維持及び向上に向け、市内で運行する公共交通全体の利用促進を図るため、コロナ対策をしたうえで、引き続き市民に対しての周知活動やイベント等でのモビリティマネジメント事業を継続的に実施する。</p> <p>・市高齢者福祉課や諏訪市社会福祉協議会と連携した、高齢者を対象にした体験乗車企画</p> <p>・安心安全にバスを利用できるよう、換気装置等を整備し「新しい生活様式」に対応した車両を順次配備する。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
諏訪市地域公共交通活性化協議会	<p>■事業者名 ・諏訪交通株式会社</p> <p>■運行系統名 ・かりんちゃんバス東山線反時計回り ・かりんちゃんバス東山線時計回り ・かりんちゃんバス東西線反時計回り ・かりんちゃんバス東西線時計回り</p>	<p>・東山線反時計回り (※原則毎日運行) 上諏訪駅(諏訪湖口) ⇒日赤病院⇒上諏訪駅(諏訪湖口)</p> <p>・東山線時計回り (※原則毎日運行) 上諏訪駅(諏訪湖口) ⇒茶臼山⇒上諏訪駅(諏訪湖口)</p> <p>・東西線反時計回り (※原則毎日運行) 新田上⇒上諏訪駅(諏訪湖口) ⇒大熊⇒上諏訪駅(諏訪湖口) ⇒新田上</p> <p>・東西線時計回り (※原則毎日運行) 新田上⇒上諏訪駅(諏訪湖口) ⇒大熊⇒上諏訪駅(諏訪湖口) ⇒新田上</p>	<p>■平成29年10月ダイヤ路線改正により利用者より寄せられた意見等を反映して、令和3年4月に新たにかりんちゃんバス子バス東西線を新設し運行した。</p> <p>■市内を運行する公共交通全体の利用促進を図るため、市民に対するの周知活動やイベント等でのモビリティマネジメントを行った。</p> <p>・「広報すわ」を活用した利用案内</p> <p>・諏訪市社会福祉協議会と連携し、高齢者を対象とした無料体験乗車企画</p> <p>・市内小中学生を対象にバス乗り方教室を計画</p> <p>・利用促進企画として夏休み小中学生無料体験乗車券を配布</p>	<p>B ■新型コロナウイルス感染防止対策により、諏訪市社会福祉協議会との連携で実施予定だった高齢者無料体験乗車企画は延期することとなった。</p> <p>・小中学生を対象とした乗り方教室と夏休み無料体験乗車券配布事業は実施することができた</p>	<p>B ■平成29年2月に当市で策定した「第五次諏訪市総合計画後期基本計画」に記載されている、対象路線を含むかりんちゃんバス全体の目標値である362日運行は達成することが出来たが、年間利用者数88,269人及び、1便当たりの利用者目標数値(7.5人/便)は達成することが出来なかった。</p> <p>かりんちゃんバス7系統利用者実績(補助対象期間中) 365日運行、14,111便、利用者数76,849人、5.4人/便</p> <p>■新型コロナウイルス感染症に伴う移動自粛によるものと考える。</p>	<p>■利用者の利便性向上を目的としたデマンド交通の見直しを図る。</p> <p>■目標値の維持及び向上に向け、市内で運行する公共交通全体の利用促進を図るため、コロナ対策をしたうえで、引き続き市民に対するの周知活動やイベント等でのモビリティマネジメント事業を継続的に実施する。</p> <p>・市高齢者福祉課や諏訪市社会福祉協議会と連携した、高齢者を対象にした体験乗車企画</p> <p>・安心安全にバスを利用できるよう、換気装置等を整備し「新しい生活様式」に対応した車両を順次配備する。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
諏訪市地域公共交通活性化協議会	<p>■事業者名 ・諏訪交通株式会社 ・アルビコタクシー株式会社 ・第一交通株式会社</p> <p>■運行系統名 ・かりんちゃん子バス大和四賀線</p>	<p>・かりんちゃん子バス大和四賀線 (※原則毎日運行) 聖母寮前⇒上諏訪駅(霧ヶ峰口)⇒神戸公民館前</p>	<p>■平成29年10月ダイヤ路線改正により利用者より寄せられた意見等を反映して、令和3年4月に新たにかりんちゃんバス子バス東西線を新設し運行した。</p> <p>■市内を運行する公共交通全体の利用促進を図るため、市民に対するの周知活動やイベント等でのモビリティマネジメントを行った。</p> <p>・「広報すわ」を活用した利用案内</p> <p>・諏訪市社会福祉協議会と連携し、高齢者を対象とした無料体験乗車企画</p> <p>・市内小中学生を対象にバス乗り方教室を計画</p> <p>・利用促進企画として夏休み小中学生無料体験乗車券を配布</p>	B	<p>■新型コロナウイルス感染防止対策により、諏訪市社会福祉協議会との連携で実施予定だった高齢者無料体験乗車企画は延期することとなった。</p> <p>・小中学生を対象とした乗り方教室と夏休み無料体験乗車券配布事業は実施することができた</p>	B	<p>■平成29年2月に当市で策定した「第五次諏訪市総合計画後期基本計画」に記載されている、対象路線を含むかりんちゃんバス全体の目標値である362日運行は達成することが出来たが、年間利用者数88,269人及び、1便当たりの利用者目標数値(7.5人/便)は達成することが出来なかった。</p> <p>かりんちゃんバス7系統利用者実績(補助対象期間中) 365日運行、14,111便、利用者数76,849人、5.4人/便</p> <p>■新型コロナウイルス感染症に伴う移動自粛によるものと考ええる。</p>	<p>■利用者の利便性向上を目的としたデマンド交通の見直しを図る。</p> <p>■目標値の維持及び向上に向け、市内で運行する公共交通全体の利用促進を図るため、コロナ対策をしたうえで、引き続き市民に対するの周知活動やイベント等を継続的に実施する。</p> <p>・市高齢者福祉課や諏訪市社会福祉協議会と連携した、高齢者を対象にした体験乗車企画</p> <p>・安心安全にバスを利用できるよう、換気装置等を整備し「新しい生活様式」に対応した車両を順次配備する。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
西部コミュニティバスを守り育てる会	事業者: 根羽村	運行系統名: 西部コミュニティバス(阿智中学校行き) 運行区間: 根羽村~阿智中学校	一般利用者の増を図るため、昨年度から検討を開始した高齢者の利用料無料化について引き続き検討を進めたが、共同で運行する3村で高齢者への支援内容が相違するため引き続き他事業との調整を含め検討を継続する。	A 学校の長期休業実施期間と事業計画と比較し運行回数は増となった。	C 令和2年6月の計画策定時の年間利用者目標9,367人(令和2年6月から令和3年5月)に対し、12月から3月の利用者が目標を大きく下回ったこともあり、8,777人となった。	新型コロナウイルス感染予防から密を避けるため、公共交通機関の利用者が更に減少することも予想されるが、地域で唯一の公共交通機関として適切な感染予防対策を行った上で、定期路線運行を維持させる必要がある。学生の利用については毎年の学生数に影響され、適切な目標設定が難しい部分もあるが、適正な目標設定に努める。一般利用者の利用促進策の一環として、高齢者の利用料無料化等、より具体的な対策を検討していく。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
西部コミュニティバスを守り育てる会	事業者：根羽村	運行系統名：西部コミュニティバス(阿智高校止まり) 運行区間：根羽村～阿智高校	一般利用者の増を図るため、昨年度から検討を開始した高齢者の利用料無料化について引き続き検討を進めたが、共同で運行する3村で高齢者への支援内容が相違するため引き続き他事業との調整を含め検討を継続する。	A 国道での車輛横転事故により臨時運休が1日(3便)発生したが、その他については適切に実施された。	C 令和2年6月の計画策定時の年間利用者目標9,367人(令和2年6月から令和3年5月)に対し、12月から3月の利用者が目標を大きく下回ったこともあり、8,777人となった。	新型コロナウイルス感染予防から密を避けるため、公共交通機関の利用者が更に減少することも予想されるが、地域で唯一の公共交通機関として適切な感染予防対策を行った上で、定期路線運行を維持させる必要がある。 学生の利用については毎年の学生数に影響され、適切な目標設定が難しい部分もあるが、適正な目標設定に努める。 一般利用者の利用促進策の一環として、高齢者の利用料無料化等、より具体的な対策を検討していく。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
駒ヶ根市地域公共交通協議会	伊南乗用自動車有限会社	<p><「ア・イ・ウ」エリア> 【こまタク】竜東地区～共通指定目的地(JR駒ヶ根駅含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■平日毎日運行を継続的に実施 ■バス部会・タクシー部会での改善策検討、公共交通利用促進イベントを実施 ■市報やHP等で広報活動を展開 ■運転免許証自主返納支援事業を継続的に実施し、利用登録者数の増加に寄与 ■高齢者関連部署と連携した割引タクシー券・福祉タクシー券の交付を通年実施 ■通学困難世帯への対応検討を実施、具体的な事業実施には至らず ■住民意見交換会はコロナ禍のため実施せず、代わりに利用促進番組を放送 ■公共交通案内パンフレット等の更新・配布は実施せず、代わりに利用促進番組を放送 ■公共交通フォーラム・ワークショップの開催はせず、代わりに利用促進番組を放送 ■停留所・待合所案内表示等の更新は実施せず ■こまタク利用者カード作成・セット乗車券の検討を実施、継続検討 	A	計画どおり適切に実施された	B	<ul style="list-style-type: none"> 1. 利用登録者数 【目標】1,620人以上 【実績】1,711人 【考察】運転免許証自主返納支援事業の推進により、堅調に増加 2. 総利用者数 【目標】6,470人以上 【実績】5,018人 【考察】新型コロナウイルスの影響により、低調に推移 3. 運行率 【目標】91%以上 【実績】86% 【考察】新型コロナウイルスの影響により、低調に推移 4. 人口カバー率 【目標】100% 【実績】100% 【考察】現状維持を継続 	登録者数・利用者数の増加に向けて、引き続き「平日毎日運行」及び「運転免許証自主返納支援事業」を実施するとともに、利便性の向上や、より効果的な広報活動を展開する。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、利用登録者数の増加に対して総利用者数が低調である要因について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
駒ヶ根市地域公共交通協議会	赤穂タクシー有限公司	<p><「エ・オ」エリア> 【こまタク】竜西地区～共通指定目的地(JR駒ヶ根駅含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■平日毎日運行を継続的に実施 ■バス部会・タクシー部会での改善策検討、公共交通利用促進イベントを実施 ■市報やHP等で広報活動を展開 ■運転免許証自主返納支援事業を継続的に実施し、利用登録者数の増加に寄与 ■高齢者関連部署と連携した割引タクシー券・福祉タクシー券の交付を通年実施 ■通学困難世帯への対応検討を実施、具体的な事業実施には至らず ■住民意見交換会はコロナ禍のため実施せず、代わりに利用促進番組を放送 ■公共交通案内パンフレット等の更新・配布は実施せず、代わりに利用促進番組を放送 ■公共交通フォーラム・ワークショップの開催はせず、代わりに利用促進番組を放送 ■停留所・待合所案内表示等の更新は実施せず ■こまタク利用者カード作成・セット乗車券の検討を実施、継続検討 	A	計画どおり適切に実施された	B	<p>1. 利用登録者数 【目標】1,620人以上 【実績】1,711人 【考察】運転免許証自主返納支援事業の推進により、堅調に増加</p> <p>2. 総利用者数 【目標】6,470人以上 【実績】5,018人 【考察】新型コロナウイルスの影響により、低調に推移</p> <p>3. 運行率 【目標】91%以上 【実績】86% 【考察】新型コロナウイルスの影響により、低調に推移</p> <p>4. 人口カバー率 【目標】100% 【実績】100% 【考察】現状維持を継続</p>	登録者数・利用者数の増加に向けて、引き続き「平日毎日運行」及び「運転免許証自主返納支援事業」を実施するとともに、利便性の向上や、より効果的な広報活動を展開する。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、利用登録者数の増加に対して総利用者数が低調である要因について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
中川村地域公共交通会議	中川村	地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金 1)南回り線 大草～JR伊那大島駅	コロナ禍の影響が大きかった前回は評価が難しい状況にあった。今年度も引き続きのコロナ禍であるが、感染対策を継続しながら利用を呼びかけ。運行内容の大枠は変更はせず前回通り。	A 事業は計画に位置付けられたとおり適切に実施された	C 月平均利用者目標値1,353人に対して、実績値991人(73%)。コロナの影響が大きかった昨年に比べ2割改善。利用者満足度は目標値80%に対して74%(R3調査値)で下回る。	利用は低調であるが、現行の網形成計画の期間内はこの運行形態を継続。現在、R4からの5ヶ年計画を策定中であるが、日中デマンド化に向けて実証運行を行い、移行していく見込み。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。また、生活確保維持改善計画に掲げる「年間乗車券および年間定期券購入者数」に関する目標の達成状況等についても調査、分析した上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
中川村地域公共交通会議	中川村	地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金 2)北回り線 大草～JR飯島駅	コロナ禍の影響が大きかった前回は評価が難しい状況にあった。今年度も引き続きのコロナ禍であるが、感染対策を継続しながら利用を呼びかけ。運行内容の大枠は変更はせず前回通り。	A 事業は計画に位置付けられたとおり適切に実施された	C 月平均利用者数目標値1,092人に対して、実績値835人(76%)。コロナに加え、北方面へ通学する高校生の少ない年代で昨年は低調であったが、14割改善。満足度は同上。	利用は低調であるが、現行の網形成計画の期間内はこの運行形態を継続。現在、R4からの5ヶ年計画を策定中であるが、日中デマンド化に向けて実証運行を行い、移行していく見込み。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。また、生活確保維持改善計画に掲げる「年間乗車券および年間定期券購入者数」に関する目標の達成状況等についても調査、分析した上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
千曲市地域公共交通活性化協議会	更埴観光タクシー株式会社	系統名: 東部地区デマンド型乗合タクシー 運行エリア: 千曲市東部地区	平成26年度から取り組んでいる、地元商店街と連携し、商店街のスタンプカードとバスの回数券との交換事業、平成27年度から取り組んでいる利用予約支援サービス、平成29年度から取り組んでいる運転免許自主返納者への3,600円分の補助については、今年度も引き続き実施した。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者を集めての事業実施はできなかった。令和2年度に実施した調査事業において、総合交通マップを作成し市内全戸へ配布した。また、市内鉄道4駅にある総合交通案内版を更新した。	B 計画にある事業はおおむね実施できた。新型コロナウイルスの感染状況を注視しながら、乗車体験会など、利用者と対面する事業の開催を検討していく。	C 計画に位置づけられた目標を達成できなかった 目標値: 1便あたり2.0人 実績値: 1便あたり1.8人 乗合が進まなかったため、目標値に達しなかった。新型コロナウイルス感染対策として、密を避けた運行形態が好まれたと推察する。 R2 1便あたり1.9人 運行回数: 1,464回 利用者数: 2,905人 R3 1便あたり1.8人 運行回数: 1,462回 利用者数: 2,643人	新型コロナウイルス感染症予防対策(アルコール消毒、マスク着用、ソーシャルディスタンス)を行いながら事業実施ができるよう工夫していく。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
大鹿村地域公共交通会議	伊那バス株式会社	(1)大鹿線(鹿塩・大河原) (2)大鹿線(松川インター・日赤) (3)大鹿線(松川インター)	<p>南信州公共交通会議としてコロナ対策ステッカーを車両に貼ることで感染症対策をしている旨を継続的にPRしている。その他にもHPへの時刻表・運賃表の掲載は継続して実施し、新たに公共交通のリーフレットを役場内に設置している。</p>	<p>B</p> <p>感染症拡大防止の観点から、例年実施していた中学校3年生によるワークショップの開催は行われなかったが、代わりとして、南信州公共交通会議で作成したリーフレットを全員に配布した。本路線は高校生等の通学や隣町の病院へ通院するための主な手段であり、地域内唯一の公共交通である。高齢者等交通弱者の交通手段確保のため、大鹿線を維持する必要がある。</p>	<p>B</p> <p>(対人口比の利用率向上を目標として設定) 目標値：7.13 実績：6.19 (利用者数5,961人/人口963人) 新型コロナウイルスにより、高校の休校や、公共交通を利用した外出機会が減りつつあることが大きく影響したため、目標を達成できなかった。</p>	<p>新型感染症については今後落ち着きを見せる兆しがある。当地区においては本事業が唯一の公共交通手段のため、高校生や日常的に利用している方が安心して今後も利用してもらえるよう、引き続き感染予防の徹底と周知を図る。 また現在利用者が雨風を凌げるバス停が少ないため、設置等検討を行う。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、生活交通確保維持改善計画に位置付けられたとおり適切に事業を実施するとともに、実績向上に向けて改善策及びその具体化について引き続き検討する必要がある。その上で、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
喬木村地域公共交通会議	北部タクシー(有) (R1.9～R2.4)	氏乗線(第5・6便) 矢笠こんにやく～飯田駅前	高齢者に対してバスの利用促進を行うことから、新規の65歳以上の村民の利用を28名程度見込んで目標利用設定並びに計画の策定を行った。 関連して、バス利用方法等について、後期高齢者の医療制度説明会で毎月説明を行った他、高齢者の集会でも説明を行った。その他、中学3年生の保護者向けにバス利用に関するチラシを配布した。 また、利用目標者数の推計に際しては新型コロナウイルス感染症の影響を考慮した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	C 目標利用人数3,085人に対して、利用者は2,372人と目標値の76.9%となった。65歳以上の村民の方に発行する無料バスは83名から申請があり新規利用につながった。一方で、目標利用人数が達成できなかった主な原因としては、新型コロナウイルス感染症の影響による外出及び公共交通機関の利用控えと思われる。目標利用人数の推計の際には利用者のうち5%程度が利用減となることを想定していたが、推計よりも大幅な利用減となった。 実績は以下のとおり。 (括弧内は、村内在住65歳以上の利用者) 【氏乗線】 R2: 2,575人(1,596人) R3: 2,372人(1,212人)	新型コロナウイルス感染症の感染防止策として、利用者への体温計測やマスク着用、消毒液の噴霧を徹底する。また、感染対策をバス内で徹底しており、安心して利用できる旨を周知する。 高齢者の利用促進を図るため、引き続き、高齢者の集会等において、無料バスやバス利用方法の周知を行う。また、毎月1回の後期高齢者医療制度の説明会においても周知する。加えて、自身が利用する便を分かりやすくまとめた「マイバスポート」の作成支援を行うことで、継続的なバス利用者の増加を図る。 高校進学予定の中学3年生に対し、更なる利用促進のためバス利用に関する周知を実施する。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
高山村地域公共交通協議会	北信タクシー株式会社 長電タクシー株式会社	高井中山線	<p>デマンド乗合タクシーの運行開始から3年が経過した。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響が想定外のものとなり、相次ぐイベントの中止や外出控えの傾向により、利用者の減少が顕著であったことから、状況を注視していたが、感染症の終息が見られず、改善には至らなかった。従来からの各地区への利用方法に関する説明会は継続して実施した。</p>	B 事業が計画に位置付けられたとおりに実施されていない点があった	B <p>【利用者数(人/日)】</p> <p>目標値 2.0人/日 実績値 1.6人/日</p> <p>(延利用者271人÷計画日数168日)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、今年度においても特定の利用者が大半の中で、主要因であると考えられる医療機関の通院利用者や温泉施設利用者の減少、また高齢者サロンの中止に伴う利用者数の減少が継続している状態である。</p>	<p>デマンド乗合タクシー(高井中山線)は、幹線系統が行き届かない地域内移動の円滑性を確保するために、平成30年10月から新たに導入したものである。利用者は概ね高齢者であり、高齢者センターの温泉利用、診療所等の通院、保健福祉総合センターで開催されるサロンに行くための足として特定の者が利用している。現状においては、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化していることから、不透明な点も多いが、今後も感染の状況や影響を注視していく中で、本系統を維持するため各地区への説明会を継続していくことや、老人クラブや民生委員等の会議や研修会の場を活用するなど、あらゆる機会を捉えながら周知を行い、新規利用者の増加を図っていきたい。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、生活交通確保維持改善計画に位置付けられたとおり適切に事業を実施するとともに、実績向上に向けて改善策及びその具体化について引き続き検討する必要がある。その上で、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
山ノ内町地域公共交通会議	山ノ内町	西部・北部ルート①	<p>前回評価の改善点として挙げた、利用促進の啓発および、回数券の周知について、毎月の利用促進の広報の内容を、実際の利用者の数を周知する内容に改善し、利用者のみならず、地域住民の意識の啓発に取り組んだ。また、回数券について、その詳細内容を広報することとし、購買促進に取り組んだ。</p>	A 計画どおり適切に実施された。	C 設定した目標値11.0人以上/日に対し、9.0人/日であった。	<p>午後の時間帯における復路増便の要望などがあるため、ダイヤの見直しを検討し、利用者の要望に沿った運行に努める。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>
山ノ内町地域公共交通会議	山ノ内町	西部・北部ルート②	<p>前回評価の改善点として挙げた、利用促進の啓発および、回数券の周知について、毎月の利用促進の広報の内容を、実際の利用者の数を周知する内容に改善し、利用者のみならず、地域住民の意識の啓発に取り組んだ。また、回数券について、その詳細内容を広報することとし、購買促進に取り組んだ。</p>	A 計画どおり適切に実施された。	A 設定した目標値5.0人以上/日に対し、6.5人/日であった。	<p>引き続き、利用促進のための広報や、利用者聞き取り調査で上がった要望に沿った運行に努めるため、ダイヤの見直しを検討する。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
山ノ内町地域公共交通会議	山ノ内町	南部ルート	<p>前回評価の改善点として挙げた、利用促進の啓発および、回数券の周知について、毎月の利用促進の広報の内容を、実際の利用者の数を周知する内容に改善し、利用者のみならず、地域住民の意識の啓発に取り組んだ。また、回数券について、その詳細内容を広報することとし、購買促進に取り組んだ。</p>	<p>A 計画どおり適切に実施された。</p>	<p>C 設定した目標値5.0人以上/日に対し、4.2人/日であった。</p>	<p>最終便について、路線バス及び鉄軌道との時間的な接続が確保されていないことが、要望としてあがっており、ダイヤの見直しを検討する。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
高森町地域公共交通協議会	北部タクシー有限公司	系統名: 柿丸あったかバス市田上段先回り(～R3. 3. 31) 運行区間: 下伊那厚生病院～とよおかマルシェ～下伊那厚生病院	【前回の改善点①】 バスを利用してもらえるよう、乗り方教室など町民の方と直接お話しする機会をつくる 《反映状況》 バスの乗り方等について住民に直接説明する機会を設けることができなかった 《できなかった理由》 バスの運行改善への取組ばかりに注力したことバスの宣伝のみで実際の乗り方等の説明活動を怠ってしまったこと	A 運休や大幅な遅延はなく、所定の事業計画通りの運行が実施された	C 【目標】 1運行あたりの平均乗車人数2. 5名 年間利用者数4, 928名	【目標達成できなかった理由】 ①新型コロナウイルス感染症による高齢者の医療機関受診数減少及び外出控え、通学者のバス利用控えが影響 ②住民へのバスの周知不足(広報誌等の紙媒体やSNS等でバスを紹介するだけとなり、実際の利用方法や乗り方について住民に説明する機会を設けることができなかった)	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
高森町地域公共交通協議会	北部タクシー有限公司	系統名: 柿丸あったかバス市田下段先回り(～R3. 3. 31) 運行区間: 下伊那厚生病院～高森ショッピングセンターバス～下伊那厚生病院	【前回の改善点②】 新型コロナウイルス感染症の安全対策がされていることを知らう 《反映状況》 ・新型コロナウイルス感染症予防のため、バス車内に仕切りシートと消毒液自動噴霧器を設置した ・バスに新型コロナウイルス感染症対策がされていることを時刻表に記載した	A 運休や大幅な遅延はなく、所定の事業計画通りの運行が実施された	C ～事業期間中～ バスの運行改善への取組ばかりに注力したほか、バスの宣伝のみで実際の乗り方等の説明活動を実施できず利用促進活動が十分でなかった	【今後の改善点】 住民の移動手段の確保のために、バスの乗り方を知らう活動をする 【取り組むこと】 バスの乗り方を説明するなど住民と直接話す機会をつくる ↓ ①地域と連携し、地域の集会等に参加して利用方法を説明する	
高森町地域公共交通協議会	北部タクシー有限公司	系統名: 柿丸あったかバス山吹上段先回り(～R3. 3. 31) 運行区間: 下伊那厚生病院～高森ショッピングセンターバス～下伊那厚生病院	【前回の改善点③】 バス利用による特典を検討する 《反映状況》 ・ポイント付与型のキャッシュレス決済システムを導入した(ふくまるくんカード) ・バスPRのため利用者にドリンクを配布した(2か月間) 【その他】 ・利用者からの要望をうけ、停留所を7箇所新設した ・14箇所の停留所にベンチを設置した	A 運休や大幅な遅延はなく、所定の事業計画通りの運行が実施された	C 【結果】 1運行あたりの平均乗車人数2. 1名 年間利用者数4, 155名となった。	②中学3年生にバスの利用方法を説明する ③時刻表を見やすくする(このバスに乗ればこの電車に乗れるといった利用のイメージができるようにする) 【その他取り組むこと】 朝便のJR接続時間と運行ダイヤを見直し、夕方便をデマンド運行に変更して利便性を上げる。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
高森町地域公共交通協議会	北部タクシー有限会社	系統名：柿丸あったかバス山吹下段先回り(～R3. 3. 31) 運行区間：下伊那厚生病院～よおかマルシェ～下伊那厚生病院	【前回の改善点①】 バスを利用してもらえるよう、乗り方教室など町民の方と直接お話しする機会をつくる 《反映状況》 バスの乗り方等について住民に直接説明する機会を設けることができなかった 《できなかった理由》 バスの運行改善への取組ばかりに注力したこと、バスの宣伝のみで実際の乗り方等の説明活動を怠ってしまったこと	A	運休や大幅な遅延はなく、所定の事業計画通りの運行が実施された	C	【目標達成できなかった理由】 ①新型コロナウイルス感染症による高齢者の医療機関受診数減少及び外出控え、通学者のバス利用控えが影響 ②住民へのバスの周知不足(広報誌等の紙媒体やSNS等でバスを紹介するだけとなり、実際の利用方法や乗り方について住民に説明する機会を設けることができなかった) 【今後の改善点】 住民の移動手段の確保のために、バスの乗り方を知ってもらう活動をする 【取り組むこと】 バスの乗り方を説明するなど住民と直接話す機会をつくる ↓ ①地域と連携し、地域の集会等に参加して利用方法を説明する	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
高森町地域公共交通協議会	北部タクシー有限会社	系統名：柿丸あったかバス市田上段先回り(R3. 4. 1～) 運行区間：下伊那厚生病院～高森ショッピングセンターバス～下伊那厚生病院 【前回の改善点②】 新型コロナウイルス感染症の安全対策がされていることを知ってもらう 《反映状況》 ・新型コロナウイルス感染症予防のため、バス車内に仕切りシートと消毒液自動噴霧器を設置した ・バスに新型コロナウイルス感染症対策がされていることを時刻表に記載した 【前回の改善点③】 バス利用による特典を検討する 《反映状況》 ・ポイント付与型のキャッシュレス決済システムを導入した(ふくまるくんカード) ・バスPRのため利用者にドリンクを配布した(2か月間) 【その他】 ・利用者からの要望をうけ、停留所を7箇所新設した ・14箇所の停留所にベンチを設置した	A	運休や大幅な遅延はなく、所定の事業計画通りの運行が実施された	C	【目標】 1運行あたりの平均乗車人数2.5名 年間利用者数4,928名 ～事業期間中～ バスの運行改善への取組ばかりに注力したほか、バスの宣伝のみで実際の乗り方等の説明活動を実施できず利用促進活動が十分でなかった 【結果】 1運行あたりの平均乗車人数2.1名 年間利用者数4,155名となった。		
高森町地域公共交通協議会	北部タクシー有限会社	系統名：柿丸あったかバス市田下段先回り(R3. 4. 1～) 運行区間：下伊那厚生病院～高森ショッピングセンターバス～下伊那厚生病院	【前回の改善点③】 バス利用による特典を検討する 《反映状況》 ・ポイント付与型のキャッシュレス決済システムを導入した(ふくまるくんカード) ・バスPRのため利用者にドリンクを配布した(2か月間) 【その他】 ・利用者からの要望をうけ、停留所を7箇所新設した ・14箇所の停留所にベンチを設置した	A	運休や大幅な遅延はなく、所定の事業計画通りの運行が実施された	C	②中学3年生にバスの利用方法を説明する ③時刻表を見やすくする(このバスに乗ればこの電車に乗れるといった利用のイメージができるようにする) 【その他取り組むこと】 朝便のJR接続時間と運行ダイヤを見直し、夕方便をデマンド運行に変更して利便性を上げる。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
高森町地域公共交通協議会	北部タクシー有 限会社	系統名: 柿丸 あつたかバス山 吹上段先回り (R3. 4. 1~) 運行区間: 下伊 那厚生病院~ 高森ショッピング センターバス ~ 下伊那厚生病 院	【前回の改善点①】 バスを利用してもらえるよう、乗り方 教室など町民の方と直接お話しする 機会をつくる 《反映状況》 バスの乗り方等について住民に直 接説明する機会を設けることができ なかった 《できなかった理由》 バスの運行改善への取組ばかりに 注力したこと、バスの宣伝のみで実際 の乗り方等の説明活動を怠ってし まったこと 【前回の改善点②】 新型コロナウイルス感染症の安全対 策がされていることを知ってもらう 《反映状況》 ・新型コロナウイルス感染症予防の ため、バス車内に仕切りシートと消 毒液自動噴霧器を設置した ・バスに新型コロナウイルス感染症 対策がされていることを時刻表に記 載した	A 運休や大幅な遅延はなく、所 定の事業計画通りの運行が 実施された	C 【目標】 1運行あたりの平均乗車人数2.5名 年間利用者 数4,928名 ~事業期間中~	【目標達成できなかった理由】 ①新型コロナウイルス感染症に よる高齢者の医療機関受診数減 少及び外出控え、通学者のバス 利用控えが影響 ②住民へのバスの周知不足(広 報誌等の紙媒体やSNS等でバ スを紹介するだけとなり、実際の 利用方法や乗り方について住民 に説明する機会を設けることが できなかった) 【今後の改善点】 住民の移動手段の確保のため に、バスの乗り方を知ってもら う活動をする	協議会における事業評価結果の③から⑥までにつ いては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて 具体的な改善策について引き続き検討し、その実施 について地域一体となって適切に進めていくととも に、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさら なる持続性向上や利用促進が図られるよう期待す る。
高森町地域公共交通協議会	北部タクシー有 限会社	系統名: 柿丸 あつたかバス山 吹下段先回り (R3. 4. 1~) 運行区間: 下伊 那厚生病院~と よおかマルシェ ~下伊那厚生 病院	【前回の改善点③】 バス利用による特典を検討する 《反映状況》 ・ポイント付与型のキャッシュレス決 済システムを導入した(ふくまるくん カード) ・バスPRのため利用者にドリンクを 配布した(2か月間) 【その他】 ・利用者からの要望をうけ、停留所 を7箇所新設した ・14箇所の停留所にベンチを設置し た	A 運休や大幅な遅延はなく、所 定の事業計画通りの運行が 実施された	C バスの運行改善への取組ばかりに注力したほか、バ スの宣伝のみで実際の乗り方等の説明活動を実施 できず利用促進活動が十分でなかった 【結果】 1運行あたりの平均乗車人数2.1名 年間利用者 数4,155名となった。	【取り組むこと】 バスの乗り方を説明するなど住 民と直接話す機会をつくる ↓ ①地域と連携し、地域の集会等 に参加して利用方法を説明する ②中学3年生にバスの利用方法 を説明する ③時刻表を見やすくする(このバ スに乗ればこの電車に乗れると いった利用のイメージができるよ うにする) 【その他取り組むこと】 朝便のJR接続時間と運行ダイ ヤを見直し、夕方便をデマンド運 行に変更して利便性を上げる。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
高森町地域公共交通協議会	北部タクシー有限公司	系統名:おはようたぐいまバス 下平 運行区間:JAみなみ信州山吹事業所~下町辻~下平駅	【前回の改善点】 中学校保護者会等でバス利用の説明をする。 《反映状況》 ・中学3年生に通勤・通学バスの案内を送付した(新型コロナの影響により、生徒に直接説明する機会を設けることができなかった) ・高校生を対象にアンケート調査を実施し、JR線の利用状況を調査した	A 運休や大幅な遅延はなく、所定の事業計画通りの運行が実施された	C 【目標】 1運行あたりの平均乗車人数2.5名 年間利用者数4,928名 ~事業期間中~ 【結果】 1運行あたりの平均乗車人数2.1名 年間利用者数4,155名となった。	【目標達成できなかった理由】 ①新型コロナウイルス感染症による高齢者の医療機関受診数減少及び外出控え、通学者のバス利用控えが影響 ②住民へのバスの周知不足(広報誌等の紙媒体やSNS等でバスを紹介するだけとなり、実際の利用方法や乗り方について住民に説明する機会を設けることができなかった) 【今後の改善点】 住民の移動手段の確保のために、バスの乗り方を知ってもらう活動をする 【取り組むこと】 バスの乗り方を説明するなど住民と直接話す機会をつくる ↓ ①地域と連携し、地域の集会等に参加して利用方法を説明する ②中学3年生にバスの利用方法を説明する ③時刻表を見やすくする(このバスに乗ればこの電車に乗れるといった利用のイメージができるようにする) 【その他取り組むこと】 朝便のJR接続時間と運行ダイヤを見直し、夕方便をデマンド運行に変更して利便性を上げる。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
高森町地域公共交通協議会	北部タクシー有限公司	系統名:おはようたぐいまバス 市田 運行区間:こぐるみ~吉田区民会館~市田駅(お祭り広場)	【前回の改善点】 中学校保護者会等でバス利用の説明をする。 《反映状況》 ・中学3年生に通勤・通学バスの案内を送付した(新型コロナの影響により、生徒に直接説明する機会を設けることができなかった) ・高校生を対象にアンケート調査を実施し、JR線の利用状況を調査した	A 運休や大幅な遅延はなく、所定の事業計画通りの運行が実施された	C バスの運行改善への取組ばかりに注力したほか、バスの宣伝のみで実際の乗り方等の説明活動を実施できず利用促進活動が十分でなかった 【結果】 1運行あたりの平均乗車人数2.1名 年間利用者数4,155名となった。	【目標達成できなかった理由】 ①新型コロナウイルス感染症による高齢者の医療機関受診数減少及び外出控え、通学者のバス利用控えが影響 ②住民へのバスの周知不足(広報誌等の紙媒体やSNS等でバスを紹介するだけとなり、実際の利用方法や乗り方について住民に説明する機会を設けることができなかった) 【今後の改善点】 住民の移動手段の確保のために、バスの乗り方を知ってもらう活動をする 【取り組むこと】 バスの乗り方を説明するなど住民と直接話す機会をつくる ↓ ①地域と連携し、地域の集会等に参加して利用方法を説明する ②中学3年生にバスの利用方法を説明する ③時刻表を見やすくする(このバスに乗ればこの電車に乗れるといった利用のイメージができるようにする) 【その他取り組むこと】 朝便のJR接続時間と運行ダイヤを見直し、夕方便をデマンド運行に変更して利便性を上げる。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
魚津市公共交通活性化会議	事業者名：魚津市運行システム名：松倉ルート	鹿熊～魚津駅	<p>ルート及びダイヤを決定するにあたっては、各地区において利用者の意見を聴取し決定した。</p> <p>市内バス交通全体の利用促進を目的として、令和2年4月から運転免許証を自主返納した方に、魚津市内のバス1年間無料乗車証を交付し、市民バスの乗車機会の創出を図り、市民バス利用者数の向上に努めた。</p> <p>市民バス20周年であり、記念イベントを実施した。その際、地域公共交通計画の策定と運動し、アンケート調査やヒアリングを実施し、利用実態やニーズ調査を行った。</p>	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B <p>定量的な目標・効果 【目標①】市内バス交通の延べ利用者数 17,845人／月(平成27年6月～平成28年5月)の維持 令和3年度実績 12,619人／月(令和2年10月～令和3年9月) 【目標②】公共交通満足度 60.0% 令和2年度実績 48.1%(令和3年度は調査未実施) ※交通計画策定の際の利用者アンケートでは83.5%の方が満足している。 【目標③】市内バス交通の乗車密度 0.37人／km 令和3年度実績 0.31人／km</p> <p>富山地方鉄道(株)や沿線自治体と共同で、夏休みに保護者と同伴の小学生を無料とする「親子でお出かけ事業」や小学生以下の運賃を無料とする「こどもの日キャンペーン」を実施した。これらの事業の目的は、公共交通の利用啓発及び、利用方法の習得である。これらの取り組みを通じて、将来の需要の掘り起こしが図られた。地区でも自主的にバス停の清掃や時刻表の貼り替えなどを行い、継続して利用促進に努めている。コロナ禍において文化祭など行事を中止した際も、代替行事を行う際の移動は、バスの利用を促すなど、啓発活動にも努めた。</p> <p>また、利便性の向上策として、とやまロケーションシステムを導入している。バスの遅延情報等を提供し、県内の交通情報を一元的に確認できる状態としている。</p> <p>一方で、コロナウイルスの感染拡大やそれに伴う外出自粛、終息後も公共交通を利用しない生活様式の変化等により、利用者数はコロナ禍前の数字へ回復してない。特にその傾向は人口の少ない地区で顕著である。 令和元年度(平成30年10月～令和元年9月)12,164人 令和2年度(令和元年10月～令和2年9月)8,748人 令和3年度(令和2年10月～令和3年9月)7,627人</p>	<p>今後も地域住民の通院・買物等、日常生活に必要な路線として、利便性の高い運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指し、利用者や非利用者の声を聴く活動を行い、運行ルートやダイヤも利用者ニーズを活かした形に見直していく。</p> <p>沿線地域の人口は年々減少しており、利用者となる可能性のある人数自体が減少しているが、自家用車の利用からバスの利用に切り替えてもらえるよう、利用促進活動の検討が必要である。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
魚津市公共交通活性化会議	事業者名: 魚津市 運行系統 名:坪野ルー T	坪野～魚津 駅	<p>ルート及びダイヤを決定するにあたっては、各地区において利用者の意見を聴取し決定した。</p> <p>市内バス交通全体の利用促進を目的として、令和2年4月から運転免許証を自主返納した方に、魚津市内のバス1年間無料乗車証を交付し、市民バスの乗車機会の創出を図り、市民バス利用者数の向上に努めた。</p> <p>市民バス20周年であり、記念イベントを実施した。その際、地域公共交通計画の策定と連動し、アンケート調査やヒアリングを実施し、利用実態やニーズ調査を行った。</p>	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B <p>定量的な目標・効果</p> <p>【目標①】市内バス交通の延べ利用者数 17,845人 ／月(平成27年6月～平成28年5月)の維持 令和3年度実績 12,619人／月(令和2年10月～令和3年9月)</p> <p>【目標②】公共交通満足度 60.0% 令和2年度実績 48.1%(令和3年度は調査未実施)</p> <p>※交通計画策定の際の利用者アンケートでは83.5%の方が満足している。</p> <p>【目標③】市内バス交通の乗車密度 0.37人／km 令和3年度実績 0.31人／km</p> <p>富山地方鉄道(株)や沿線自治体と共同で、夏休みに保護者と同伴の小学生を無料とする「親子でお出かけ事業」や小学生以下の運賃を無料とする「こどもの日キャンペーン」を実施した。これらの事業の目的は、公共交通の利用啓発及び、利用方法の習得である。これらの取り組みを通じて、将来の需要の掘り起こしが図られた。地区でも自主的にバス停の清掃や時刻表の貼り替えなどを行い、継続的に利用促進に努めている。コロナ禍において、文化祭など行事を中止した際も、代替行事を行う際の移動はバスの利用を促すなど、啓発活動にも努めた。</p> <p>また、利便性の向上策として、とやまロケーションシステムを導入している。バスの遅延情報等を提供し、県内の交通情報を一元的に確認できる状態としている。</p> <p>一方で、コロナウイルスの感染拡大やそれに伴う外出自粛、終息後も公共交通を利用しない生活様式の変化等により、利用者数はコロナ禍前の数字へ回復してない。特にその傾向は人口の少ない地区で顕著である。</p> <p>令和元年度(平成30年10月～令和元年9月)10,486人 令和2年度(令和元年10月～令和2年9月)8,173人 令和3年度(令和2年10月～令和3年9月)7,269人</p>	<p>今後も地域住民の通院・買物等、日常生活に必要な路線として、利便性の高い運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指し、利用者や非利用者の声を聴く活動を行い、運行ルートやダイヤも利用者ニーズを活かした形に見直していく。</p> <p>沿線地域の人口は年々減少しており、利用者となる可能性のある人数自体が減少しているが、自家用車の利用からバスの利用に切り替えてもらえるよう、利用促進活動の検討や車両の小型化、ルートの再編を検討する。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
魚津市公共交通活性化会議	事業者名: 魚津市運行システム: 上野方ルート	魚津消防署前～魚津駅	<p>ルート及びダイヤを決定するにあたっては、各地区において利用者の意見を聴取し決定した。</p> <p>市内バス交通全体の利用促進を目的として、令和2年4月から運転免許証を自主返納した方に、魚津市内のバス1年間無料乗車証を交付し、市民バスの乗車機会の創出を図り、市民バス利用者数の向上に努めた。</p> <p>市民バス20周年であり、記念イベントを実施した。その際、地域公共交通計画の策定と運動し、アンケート調査やヒアリングを実施し、利用実態やニーズ調査を行った。</p>	<p>A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。</p>	<p>B 定量的な目標・効果 【目標①】市内バス交通の延べ利用者数 17,845人/月(平成27年6月～平成28年5月)の維持 令和3年度実績 12,619人/月(令和2年10月～令和3年9月) 【目標②】公共交通満足度 60.0% 令和2年度実績 48.1% ※交通計画策定の際の利用者アンケートでは83.5%の方が満足している。 【目標③】市内バス交通の乗車密度 0.37人/km 令和3年度実績 0.31人/km 富山地方鉄道(株)や沿線自治体と共同で、夏休みに保護者と同伴の小学生を無料とする「親子でおでかけ事業」や小学生以下の運賃を無料とする「こどもの日キャンペーン」を実施した。これらの事業の目的は、公共交通の利用啓発及び、利用方法の習得である。これらの取り組みを通じて、将来の需要の掘り起こしが図られた。地区でも自主的にバス停の清掃や時刻表の貼り替えを実施し、地区広報でもバスの利用を案内し、継続的に利用促進に努めている。コロナ禍において、文化祭など行事を中止した際も、代替行事を行う際の移動はバスの利用を促すなど、啓発活動にも努めた。 また、利便性の向上策として、とやまロケーションシステムを導入している。バスの遅延情報等を提供し、県内の交通情報を一元的に確認できる状態としている。 一方で、コロナウイルスの感染拡大やそれに伴う外出自粛、終息後も公共交通を利用しない生活様式の変化等により、利用者数はコロナ禍前の数字へ回復していない。 令和元年度(平成30年10月～令和元年9月)13,470人 令和2年度(令和元年10月～令和2年9月)11,395人 令和3年度(令和2年10月～令和3年9月)11,831人</p>	<p>今後も、運行に関し幅広い年代を対象にした啓発活動とともに利用者や非利用者の声を聴く活動を継続し、沿線住民や隣接地域住民にとって、身近で利便性の高い路線として持続可能な運行形態を目指す。 路線内に学校が複数あることから若年層の利用促進に努め、減少傾向に歯止めがかかっている状態が一時的なものにならないよう、更なる利用の定着と促進に努める必要がある。そのため、平成30年度に設置した停留所等の利用状況を見ながら、更なる利便性について検討していく。 また、同じ路線を走る地域のある片貝ルートが廃線することから、その利用者の利便も考慮したルートや時間を検討しなければならない。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
魚津市公共交通活性化会議	事業者名: 富山地方鉄道(株) 運行系統名:東蔵	東蔵～ 電鉄魚津 駅	<p>魚津市民バス制度と同様に、令和2年4月から運転免許証を自主返納した方に、魚津市民バス1年間無料乗車証を交付し、地鉄バスの乗車機会の創出を図り、地鉄バス利用者数の向上に努めた。</p> <p>鉄道との接続を考慮し、令和3年4月1日にダイヤ改正を行い、利便性向上を図った。</p> <p>市民バス20周年であり、記念イベントを実施した。その際、地域公共交通計画の策定と連動し、アンケート調査やヒアリングを実施し、利用実態やニーズ調査を行った。</p>	A	<p>計画に位置付けられた事業は適切に実施された。</p>	<p>定量的な目標・効果</p> <p>【目標①】市内バス交通の延べ利用者数 17,845人／月(平成27年6月～平成28年5月)の維持 令和3年度実績 12,619人／月(令和2年10月～令和3年9月)</p> <p>【目標②】公共交通満足度 60.0% 令和2年度実績 48.1%(令和3年度は調査未実施)</p> <p>※交通計画策定の際の利用者アンケートでは83.5%の方が満足している。</p> <p>【目標③】市内バス交通の乗車密度 0.37人／km 令和3年度実績 0.31人／km</p> <p>親子参加型イベント等の移動で積極的にバス利用を行うなど、地域が一体となった取り組みを通じて利用促進が図られている。</p> <p>あわせて、夏休みに保護者と同伴の小中学生を無料とする「親子でおでかけ事業」や小学生以下の運賃を無料とする「こどもの日キャンペーン」を実施した。これらの事業の目的は、公共交通の利用啓発及び、利用方法の習得である。これらの取り組みを通じて、将来の需要の掘り起こしが図られた。</p> <p>また、令和元年11月より、バス本体にGPS機能の付いた無線機を取り付け、バスの遅延情報等を提供することで利用者の利便性を向上させている。</p> <p>地域との連携では、沿線地域の要望を反映し、平成29年4月1日からは、平日の一部路線のダイヤを変更し、中学生利用者の利便性を高め、新たな利用者の獲得を目指した。また、平成30年4月1日より魚津市民バスの回数券の利用をできるようにし、さらに中・高生の料金を100円に値下げした。なお、利用者数の減少は、沿線人口の減少と新たな利用者の獲得ができていないことが要因として考えられる。</p> <p>更には、コロナウイルスの感染拡大やそれに伴う外出自粛、終息後も公共交通を利用しない生活様式の変化等により、利用者数はコロナ禍前の数字へ回復していない。</p> <p>令和元年度(平成30年10月～令和元年9月)21,316人 令和2年度(令和元年10月～令和2年9月)19,531人 令和3年度(令和2年10月～令和3年9月)19,715人</p>	<p>沿線人口が減少し、65歳以上高齢者の免許保有率が高まることが想定されるが、今後も沿線利用者等のニーズに合わせた運行形態、ダイヤの見直し等を行いながら、利用者の確保を続けていくことが必要である。</p> <p>今後も引き続き、地区会合や老人会等で利用者等の声を聴き、潜在的な利用者の掘り起こしや、必要であれば利用者ニーズを活かした運行形態、ダイヤの見直しや、魚津市民バスと一体となった利用促進策を検討していくことが必要である。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
魚津市公共交通活性化会議	事業者名: 富山地方鉄道㈱ 運行系統名:黒沢・大沢	大沢～ 電鉄魚津 駅	<p>魚津市民バス制度と同様に、令和2年4月から運転免許証を自主返納した方に、魚津市民バス1年間無料乗車証を交付し、地鉄バスの乗車機会の創出を図り、地鉄バス利用者数の向上に努めた。</p> <p>令和3年4月1日にダイヤ改正を行い、利便性向上を図った。</p> <p>市民バス20周年であり、記念イベントを実施した。その際、地域公共交通計画の策定と連動し、アンケート調査やヒアリングを実施し、利用実態やニーズ調査を行った。</p>	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B <p>定量的な目標・効果</p> <p>【目標①】市内バス交通の延べ利用者数 17,845人／月(平成27年6月～平成28年5月)の維持 令和3年度実績 12,619人／月(令和2年10月～令和3年9月)</p> <p>【目標②】公共交通満足度 60.0% 令和2年度実績 48.1% ※交通計画策定の際の利用者アンケートでは83.5%の方が満足している。</p> <p>【目標③】市内バス交通の乗車密度 0.37人／km 令和3年度実績 0.31人／km</p> <p>当該路線地域では、地域が一体となった取り組みを通じて利用促進が図られている。</p> <p>平成30年4月1日より魚津市民バスの回数券の利用をできるようにし、さらに中・高生の料金を100円に値下げした。これにより、利用者数、運賃収入とも前年度比で増加していることから、新たな中学生・高校生の需要が掘り起こされ、高校生以下の利用率が高まっている。</p> <p>あわせて、夏休みに保護者と同伴の小学生を無料とする「親子でおでかけ事業」や小学生以下の運賃を無料とする「こどもの日キャンペーン」を実施した。これらの事業の目的は、公共交通の利用啓発及び、利用方法の習得である。これらの取り組みを通じて、将来の需要の掘り起こしが図られた。</p> <p>また、令和元年11月より、バス本体にGPS機能の付いた無線機を取り付け、バスの遅延情報等を提供することで利用者の利便性を向上させている。</p> <p>これらの取り組みによって、7月までの実績はコロナ禍以前を越えていたものの、8月～9月において富山県内でまん延防止等重点措置が発令された影響を受け、最終的にはコロナ禍以前の利用者を下回ることとなった。</p> <p>令和元年度(平成30年10月～令和元年9月)15,482人 令和2年度(令和元年10月～令和2年9月)12,966人 令和3年度(令和2年10月～令和3年9月)14,665人</p>	<p>今後も、地区会合や老人会等で利用者等の声を聴き、潜在的な利用者の掘り起こしや、必要であれば利用者ニーズを活かした運行形態、ダイヤの見直し、魚津市民バスと一体となった利用促進策を検討していくことが必要である。</p> <p>沿線人口の減少及び65歳以上高齢者の免許保有率が高まっていくことが想定されることから、通勤や通学での利用者の増加が見込めるよう、利用者の声が反映され、より利便性の高いダイヤとなるよう努める。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
小矢部市地域公共交通活性化協議会	小矢部市 1. 津沢線(津沢発)	津沢～水島～石動駅南口 車両減価償却費等国庫補助金	1. バス情報広報活動 バス情報広報活動については、引続きホームページに掲載するとともに時刻表を公共施設等に配置し、ケーブルテレビのデータ放送を実施した。また、新たに広報誌等を利用した広報活動を実施することで新たな利用者の掘り起こしを行った。 2. 市内施設関連イベント 市内施設と連携して市営バスに関連したイベントを実施することで新たな利用者の掘り起こしを行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 1. 目標・効果 令和2年度に策定した地域内フィーダー系統確保維持計画【令和3年度～令和5年度】において、令和3年度における1便あたり利用者数を5.0人/便とする目標を設定した。 2. 達成状況 新型コロナウイルス感染症の感染拡大(以下コロナ禍という)による乗り控えや、8～9月の県内感染拡大に伴う公共施設休館、店舗の時短営業による不要不急の外出自粛、さらには代替交通手段へのシフト増なども重なり、令和3年度の1便あたり利用者数は4.2人/便と目標を下回った。 なお、1便あたり利用者数の推移は以下のとおりである。 平成29年度: 3.9人/便 平成30年度: 4.6人/便 令和元年度: 5.1人/便 令和2年度: 4.5人/便 令和3年度: 4.2人/便 前年度同様、路線ごとの利用者数の格差は大きいままであり、宮島及び南谷線は3.0人/便を下回っている。この2地区は、平成30年度のダイヤ改正で一部区間を延長するとともに1便減としており、今後も利用推移を注視する。 なお、利用者数の推移は以下のとおりである。 平成29年度: 43,667人 平成30年度: 51,587人 令和元年度: 54,231人 令和2年度: 46,990人 令和3年度: 43,471人	1. 市内施設関連イベント 市民図書館における無料乗車券配布は122枚、利用は14枚であり、利用促進効果は不十分であったと考える。効果の不振については、前述のコロナ禍による影響等と見受けられる。については、感染防止及び費用対効果の観点から、コロナ禍終息までイベントによる利用促進を休止する。 2. バス情報広報活動 上述の市民図書館関連イベントに合わせて作成・配布した「1ページ時刻表(A3両面印刷)」が、5日間で200枚超の配布となり、好評であった。 については、令和4年度の時刻表更新に際し、従来のA4厚紙冊子から1ページ時刻表に切替え、配布促進による利用者の掘り起こしを行う。 3. 利用実態調査 コロナ禍における有効な利用促進策を検討するため、令和4年度はコロナ禍における利用者の公共交通機関の利用目的・頻度の変化などを調査する。調査結果を踏まえ、ウイズコロナにおける利用者目線の利用促進策を改めて検討する。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。そのためには、⑥の事業の今後の改善点で掲げられる3. 利用実態調査を整理し今後の具体的改善策として反映するよう期待する。その上で、具体的な改善策の実施について地域一帯となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
小矢部市地域公共交通活性化協議会	小矢部市 2. 津沢線(循環)	石動駅北口～水島～石動駅北口 車両減価償却等国庫補助金	1. バス情報広報活動 バス情報広報活動については、引続きホームページに掲載するとともに時刻表を公共施設等に配置し、ケーブルテレビのデータ放送を実施した。また、新たに広報誌等を利用した広報活動を実施することで新たな利用者の掘り起こしを行った。 2. 市内施設関連イベント 市内施設と連携して市営バスに関連したイベントを実施することで新たな利用者の掘り起こしを行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 1. 目標・効果 令和2年度に策定した地域内フィーダー系統確保維持計画【令和3年度～令和5年度】において、令和3年度における1便あたり利用者数を5.0人/便とする目標を設定した。 2. 達成状況 新型コロナウイルス感染症の感染拡大(以下コロナ禍という)による乗り控えや、8～9月の県内感染拡大に伴う公共施設休館、店舗の時短営業による不要不急の外出自粛、さらには代替交通手段へのシフト増なども重なり、令和3年度の1便あたり利用者数は4.2人/便と目標を下回った。 なお、1便あたり利用者数の推移は以下のとおりである。 平成29年度: 3.9人/便 平成30年度: 4.6人/便 令和元年度: 5.1人/便 令和2年度: 4.5人/便 令和3年度: 4.2人/便 前年度同様、路線ごとの利用者数の格差は大きいままであり、宮島及び南谷線は3.0人/便を下回っている。この2地区は、平成30年度のダイヤ改正で一部区間を延長するとともに1便減としており、今後も利用推移を注視する。 なお、利用者数の推移は以下のとおりである。 平成29年度: 43,667人 平成30年度: 51,587人 令和元年度: 54,231人 令和2年度: 46,990人 令和3年度: 43,471人	1. 市内施設関連イベント 市民図書館における無料乗車券配布は122枚、利用は14枚であり、利用促進効果は不十分であったと考える。効果の不振については、前述のコロナ禍による影響等と見受けられる。 については、感染防止及び費用対効果の観点から、コロナ禍終息までイベントによる利用促進を休止する。 2. バス情報広報活動 上述の市民図書館関連イベントに合わせて作成・配布した「1ページ時刻表(A3両面印刷)」が、5日間で200枚超の配布となり、好評であった。 については、令和4年度の時刻表更新に際し、従来のA4厚紙冊子から1ページ時刻表に切替え、配布促進による利用者の掘り起こしを行う。 3. 利用実態調査 コロナ禍における有効な利用促進策を検討するため、令和4年度はコロナ禍における利用者の公共交通機関の利用目的・頻度の変化などを調査する。調査結果を踏まえ、ウィズコロナにおける利用者目線の利用促進策を改めて検討する。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。そのためには、⑥の事業の今後の改善点で掲げられる3. 利用実態調査を整理し今後の具体的改善策として反映するよう期待する。その上で、具体的な改善策の実施について地域一帯となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
小矢部市地域公共交通活性化協議会	小矢部市 3. 津沢線(石動駅発)	石動駅南口～水島～箕輪口 車両減価償却等国庫補助金	1. バス情報広報活動 バス情報広報活動については、引続きホームページに掲載するとともに時刻表を公共施設等に配置し、ケーブルテレビのデータ放送を実施した。また、新たに広報誌等を利用した広報活動を実施することで新たな利用者の掘り起こしを行った。 2. 市内施設関連イベント 市内施設と連携して市営バスに関連したイベントを実施することで新たな利用者の掘り起こしを行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 1. 目標・効果 令和2年度に策定した地域内フィーダー系統確保維持計画【令和3年度～令和5年度】において、令和3年度における1便あたり利用者数を5.0人/便とする目標を設定した。 2. 達成状況 新型コロナウイルス感染症の感染拡大(以下コロナ禍という)による乗り控えや、8～9月の県内感染拡大に伴う公共施設休館、店舗の時短営業による不要不急の外出自粛、さらには代替交通手段へのシフト増なども重なり、令和3年度の1便あたり利用者数は4.2人/便と目標を下回った。 なお、1便あたり利用者数の推移は以下のとおりである。 平成29年度: 3.9人/便 平成30年度: 4.6人/便 令和元年度: 5.1人/便 令和2年度: 4.5人/便 令和3年度: 4.2人/便 前年度同様、路線ごとの利用者数の格差は大きいままであり、宮島及び南谷線は3.0人/便を下回っている。この2地区は、平成30年度のダイヤ改正で一部区間を延長するとともに1便減としており、今後も利用推移を注視する。 なお、利用者数の推移は以下のとおりである。 平成29年度: 43,667人 平成30年度: 51,587人 令和元年度: 54,231人 令和2年度: 46,990人 令和3年度: 43,471人	1. 市内施設関連イベント 市民図書館における無料乗車券配布は122枚、利用は14枚であり、利用促進効果は不十分であったと考える。効果の不振については、前述のコロナ禍による影響等と見受けられる。 については、感染防止及び費用対効果の観点から、コロナ禍終息までイベントによる利用促進を休止する。 2. バス情報広報活動 上述の市民図書館関連イベントに合わせて作成・配布した「1ページ時刻表(A3両面印刷)」が、5日間で200枚超の配布となり、好評であった。 については、令和4年度の時刻表更新に際し、従来のA4厚紙冊子から1ページ時刻表に切替え、配布促進による利用者の掘り起こしを行う。 3. 利用実態調査 コロナ禍における有効な利用促進策を検討するため、令和4年度はコロナ禍における利用者の公共交通機関の利用目的・頻度の変化などを調査する。調査結果を踏まえ、ウィズコロナにおける利用者目線の利用促進策を改めて検討する。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。そのためには、⑥の事業の今後の改善点で掲げられる3. 利用実態調査を整理し今後の具体的改善策として反映するよう期待する。その上で、具体的な改善策の実施について地域一帯となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
小矢部市地域公共交通活性化協議会	小矢部市 4. 正得線(七社発)	七社～保健福祉センター～石動駅南口 車両減価償却等国庫補助金	1. バス情報広報活動 バス情報広報活動については、引続きホームページに掲載するとともに時刻表を公共施設等に配置し、ケーブルテレビのデータ放送を実施した。また、新たに広報誌等を利用した広報活動を実施することで新たな利用者の掘り起こしを行った。 2. 市内施設関連イベント 市内施設と連携して市営バスに関連したイベントを実施することで新たな利用者の掘り起こしを行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 1. 目標・効果 令和2年度に策定した地域内フィーダー系統確保維持計画【令和3年度～令和5年度】において、令和3年度における1便あたり利用者数を5.0人/便とする目標を設定した。 2. 達成状況 新型コロナウイルス感染症の感染拡大(以下コロナ禍という)による乗り控えや、8～9月の県内感染拡大に伴う公共施設休館、店舗の時短営業による不要不急の外出自粛、さらには代替交通手段へのシフト増なども重なり、令和3年度の1便あたり利用者数は4.2人/便と目標を下回った。 なお、1便あたり利用者数の推移は以下のとおりである。 平成29年度: 3.9人/便 平成30年度: 4.6人/便 令和元年度: 5.1人/便 令和2年度: 4.5人/便 令和3年度: 4.2人/便 前年度同様、路線ごとの利用者数の格差は大きいままであり、宮島及び南谷線は3.0人/便を下回っている。この2地区は、平成30年度のダイヤ改正で一部区間を延長するとともに1便減としており、今後も利用推移を注視する。 なお、利用者数の推移は以下のとおりである。 平成29年度: 43,667人 平成30年度: 51,587人 令和元年度: 54,231人 令和2年度: 46,990人 令和3年度: 43,471人	1. 市内施設関連イベント 市民図書館における無料乗車券配布は122枚、利用は14枚であり、利用促進効果は不十分であったと考える。効果の不振については、前述のコロナ禍による影響等と見受けられる。 については、感染防止及び費用対効果の観点から、コロナ禍終息までイベントによる利用促進を休止する。 2. バス情報広報活動 上述の市民図書館関連イベントに合わせて作成・配布した「1ページ時刻表(A3両面印刷)」が、5日間で200枚超の配布となり、好評であった。 については、令和4年度の時刻表更新に際し、従来のA4厚紙冊子から1ページ時刻表に切替え、配布促進による利用者の掘り起こしを行う。 3. 利用実態調査 コロナ禍における有効な利用促進策を検討するため、令和4年度はコロナ禍における利用者の公共交通機関の利用目的・頻度の変化などを調査する。調査結果を踏まえ、ウィズコロナにおける利用者目線の利用促進策を改めて検討する。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。そのためには、⑥の事業の今後の改善点で掲げられる3. 利用実態調査を整理し今後の具体的改善策として反映するよう期待する。その上で、具体的な改善策の実施について地域一帯となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
小矢部市地域公共交通活性化協議会	小矢部市 5. 正得線(循環)	循環系統 石動駅北口～道明～石動駅北口 車両減価償却費等国庫補助金	1. バス情報広報活動 バス情報広報活動については、引続きホームページに掲載するとともに時刻表を公共施設等に配置し、ケーブルテレビのデータ放送を実施した。また、新たに広報誌等を利用した広報活動を実施することで新たな利用者の掘り起こしを行った。 2. 市内施設関連イベント 市内施設と連携して市営バスに関連したイベントを実施することで新たな利用者の掘り起こしを行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 1. 目標・効果 令和2年度に策定した地域内フィーダー系統確保維持計画【令和3年度～令和5年度】において、令和3年度における1便あたり利用者数を5.0人/便とする目標を設定した。 2. 達成状況 新型コロナウイルス感染症の感染拡大(以下コロナ禍という)による乗り控えや、8～9月の県内感染拡大に伴う公共施設休館、店舗の時短営業による不要不急の外出自粛、さらには代替交通手段へのシフト増なども重なり、令和3年度の1便あたり利用者数は4.2人/便と目標を下回った。 なお、1便あたり利用者数の推移は以下のとおりである。 平成29年度: 3.9人/便 平成30年度: 4.6人/便 令和元年度: 5.1人/便 令和2年度: 4.5人/便 令和3年度: 4.2人/便 前年度同様、路線ごとの利用者数の格差は大きいままであり、宮島及び南谷線は3.0人/便を下回っている。この2地区は、平成30年度のダイヤ改正で一部区間を延長するとともに1便減としており、今後も利用推移を注視する。 なお、利用者数の推移は以下のとおりである。 平成29年度: 43,667人 平成30年度: 51,587人 令和元年度: 54,231人 令和2年度: 46,990人 令和3年度: 43,471人	1. 市内施設関連イベント 市民図書館における無料乗車券配布は122枚、利用は14枚であり、利用促進効果は不十分であったと考える。効果の不振については、前述のコロナ禍による影響等と見受けられる。 については、感染防止及び費用対効果の観点から、コロナ禍終息までイベントによる利用促進を休止する。 2. バス情報広報活動 上述の市民図書館関連イベントに合わせて作成・配布した「1ページ時刻表(A3両面印刷)」が、5日間で200枚超の配布となり、好評であった。 については、令和4年度の時刻表更新に際し、従来のA4厚紙冊子から1ページ時刻表に切替え、配布促進による利用者の掘り起こしを行う。 3. 利用実態調査 コロナ禍における有効な利用促進策を検討するため、令和4年度はコロナ禍における利用者の公共交通機関の利用目的・頻度の変化などを調査する。調査結果を踏まえ、ウィズコロナにおける利用者目線の利用促進策を改めて検討する。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。そのためには、⑥の事業の今後の改善点で掲げられる3. 利用実態調査を整理し今後の具体的改善策として反映するよう期待する。その上で、具体的な改善策の実施について地域一帯となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
小矢部市地域公共交通活性化協議会	小矢部市 6. 正得線 (石動駅発)	石動駅南口～道明～大谷小学校 車両減価償却等国庫補助金	1. バス情報広報活動 バス情報広報活動については、引続きホームページに掲載するとともに時刻表を公共施設等に配置し、ケーブルテレビのデータ放送を実施した。また、新たに広報誌等を利用した広報活動を実施することで新たな利用者の掘り起こしを行った。 2. 市内施設関連イベント 市内施設と連携して市営バスに関連したイベントを実施することで新たな利用者の掘り起こしを行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 1. 目標・効果 令和2年度に策定した地域内フィーダー系統確保維持計画【令和3年度～令和5年度】において、令和3年度における1便あたり利用者数を5.0人/便とする目標を設定した。 2. 達成状況 新型コロナウイルス感染症の感染拡大(以下コロナ禍という)による乗り控えや、8～9月の県内感染拡大に伴う公共施設休館、店舗の時短営業による不要不急の外出自粛、さらには代替交通手段へのシフト増なども重なり、令和3年度の1便あたり利用者数は4.2人/便と目標を下回った。 なお、1便あたり利用者数の推移は以下のとおりである。 平成29年度: 3.9人/便 平成30年度: 4.6人/便 令和元年度: 5.1人/便 令和2年度: 4.5人/便 令和3年度: 4.2人/便 前年度同様、路線ごとの利用者数の格差は大きいままであり、宮島及び南谷線は3.0人/便を下回っている。この2地区は、平成30年度のダイヤ改正で一部区間を延長するとともに1便減としており、今後も利用推移を注視する。 なお、利用者数の推移は以下のとおりである。 平成29年度: 43,667人 平成30年度: 51,587人 令和元年度: 54,231人 令和2年度: 46,990人 令和3年度: 43,471人	1. 市内施設関連イベント 市民図書館における無料乗車券配布は122枚、利用は14枚であり、利用促進効果は不十分であったと考える。効果の不振については、前述のコロナ禍による影響等と見受けられる。 については、感染防止及び費用対効果の観点から、コロナ禍終息までイベントによる利用促進を休止する。 2. バス情報広報活動 上述の市民図書館関連イベントに合わせて作成・配布した「1ページ時刻表(A3両面印刷)」が、5日間で200枚超の配布となり、好評であった。 については、令和4年度の時刻表更新に際し、従来のA4厚紙冊子から1ページ時刻表に切替え、配布促進による利用者の掘り起こしを行う。 3. 利用実態調査 コロナ禍における有効な利用促進策を検討するため、令和4年度はコロナ禍における利用者の公共交通機関の利用目的・頻度の変化などを調査する。調査結果を踏まえ、ウィズコロナにおける利用者目線の利用促進策を改めて検討する。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。そのためには、⑥の事業の今後の改善点で掲げられる3. 利用実態調査を整理し今後の具体的改善策として反映するよう期待する。その上で、具体的な改善策の実施について地域一帯となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
小矢部市地域公共交通活性化協議会	小矢部市 7. 宮島線 (スクールバス便)	宮島温泉～西中野～石動駅北口	1. バス情報広報活動 バス情報広報活動については、引続きホームページに掲載するとともに時刻表を公共施設等に配置し、ケーブルテレビのデータ放送を実施した。また、新たに広報誌等を利用した広報活動を実施することで新たな利用者の掘り起こしを行った。 2. 市内施設関連イベント 市内施設と連携して市営バスに関連したイベントを実施することで新たな利用者の掘り起こしを行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 1. 目標・効果 令和2年度に策定した地域内フィーダー系統確保維持計画【令和3年度～令和5年度】において、令和3年度における1便あたり利用者数を5.0人/便とする目標を設定した。 2. 達成状況 新型コロナウイルス感染症の感染拡大(以下コロナ禍という)による乗り控えや、8～9月の県内感染拡大に伴う公共施設休館、店舗の時短営業による不要不急の外出自粛、さらには代替交通手段へのシフト増なども重なり、令和3年度の1便あたり利用者数は4.2人/便と目標を下回った。 なお、1便あたり利用者数の推移は以下のとおりである。 平成29年度: 3.9人/便 平成30年度: 4.6人/便 令和元年度: 5.1人/便 令和2年度: 4.5人/便 令和3年度: 4.2人/便 前年度同様、路線ごとの利用者数の格差は大きいままであり、宮島及び南谷線は3.0人/便を下回っている。この2地区は、平成30年度のダイヤ改正で一部区間を延長するとともに1便減としており、今後も利用推移を注視する。 なお、利用者数の推移は以下のとおりである。 平成29年度: 43,667人 平成30年度: 51,587人 令和元年度: 54,231人 令和2年度: 46,990人 令和3年度: 43,471人	1. 市内施設関連イベント 市民図書館における無料乗車券配布は122枚、利用は14枚であり、利用促進効果は不十分であったと考える。効果の不振については、前述のコロナ禍による影響等と見受けられる。 については、感染防止及び費用対効果の観点から、コロナ禍終息までイベントによる利用促進を休止する。 2. バス情報広報活動 上述の市民図書館関連イベントに合わせて作成・配布した「1ページ時刻表(A3両面印刷)」が、5日間で200枚超の配布となり、好評であった。 については、令和4年度の時刻表更新に際し、従来のA4厚紙冊子から1ページ時刻表に切替え、配布促進による利用者の掘り起こしを行う。 3. 利用実態調査 コロナ禍における有効な利用促進策を検討するため、令和4年度はコロナ禍における利用者の公共交通機関の利用目的・頻度の変化などを調査する。調査結果を踏まえ、ウィズコロナにおける利用者目線の利用促進策を改めて検討する。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。そのためには、⑥の事業の今後の改善点で掲げられる3. 利用実態調査を整理し今後の具体的改善策として反映するよう期待する。その上で、具体的な改善策の実施について地域一帯となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
小矢部市地域公共交通活性化協議会	小矢部市 8. 宮島線	石動駅北口～西中野～森屋 車両減価償却費等国庫補助金	1. バス情報広報活動 バス情報広報活動については、引続きホームページに掲載するとともに時刻表を公共施設等に配置し、ケーブルテレビのデータ放送を実施した。また、新たに広報誌等を利用した広報活動を実施することで新たな利用者の掘り起こしを行った。 2. 市内施設関連イベント 市内施設と連携して市営バスに関連したイベントを実施することで新たな利用者の掘り起こしを行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 1. 目標・効果 令和2年度に策定した地域内フィーダー系統確保維持計画【令和3年度～令和5年度】において、令和3年度における1便あたり利用者数を5.0人/便とする目標を設定した。 2. 達成状況 新型コロナウイルス感染症の感染拡大(以下コロナ禍という)による乗り控えや、8～9月の県内感染拡大に伴う公共施設休館、店舗の時短営業による不要不急の外出自粛、さらには代替交通手段へのシフト増なども重なり、令和3年度の1便あたり利用者数は4.2人/便と目標を下回った。 なお、1便あたり利用者数の推移は以下のとおりである。 平成29年度: 3.9人/便 平成30年度: 4.6人/便 令和元年度: 5.1人/便 令和2年度: 4.5人/便 令和3年度: 4.2人/便 前年度同様、路線ごとの利用者数の格差は大きいままであり、宮島及び南谷線は3.0人/便を下回っている。この2地区は、平成30年度のダイヤ改正で一部区間を延長するとともに1便減としており、今後も利用推移を注視する。 なお、利用者数の推移は以下のとおりである。 平成29年度: 43,667人 平成30年度: 51,587人 令和元年度: 54,231人 令和2年度: 46,990人 令和3年度: 43,471人	1. 市内施設関連イベント 市民図書館における無料乗車券配布は122枚、利用は14枚であり、利用促進効果は不十分であったと考える。効果の不振については、前述のコロナ禍による影響等と見受けられる。 については、感染防止及び費用対効果の観点から、コロナ禍終息までイベントによる利用促進を休止する。 2. バス情報広報活動 上述の市民図書館関連イベントに合わせて作成・配布した「1ページ時刻表(A3両面印刷)」が、5日間で200枚超の配布となり、好評であった。 については、令和4年度の時刻表更新に際し、従来のA4厚紙冊子から1ページ時刻表に切替え、配布促進による利用者の掘り起こしを行う。 3. 利用実態調査 コロナ禍における有効な利用促進策を検討するため、令和4年度はコロナ禍における利用者の公共交通機関の利用目的・頻度の変化などを調査する。調査結果を踏まえ、ウィズコロナにおける利用者目線の利用促進策を改めて検討する。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。そのためには、⑥の事業の今後の改善点で掲げられる3. 利用実態調査を整理し今後の具体的改善策として反映するよう期待する。その上で、具体的な改善策の実施について地域一帯となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
小矢部市地域公共交通活性化協議会	小矢部市 9. 南谷線	石動駅北口～南谷公民館～嘉例谷車両減価償却費等国庫補助金	1. バス情報広報活動 バス情報広報活動については、引続きホームページに掲載するとともに時刻表を公共施設等に配置し、ケーブルテレビのデータ放送を実施した。また、新たに広報誌等を利用した広報活動を実施することで新たな利用者の掘り起こしを行った。 2. 市内施設関連イベント 市内施設と連携して市営バスに関連したイベントを実施することで新たな利用者の掘り起こしを行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 1. 目標・効果 令和2年度に策定した地域内フィーダー系統確保維持計画【令和3年度～令和5年度】において、令和3年度における1便あたり利用者数を5.0人/便とする目標を設定した。 2. 達成状況 新型コロナウイルス感染症の感染拡大(以下コロナ禍という)による乗り控えや、8～9月の県内感染拡大に伴う公共施設休館、店舗の時短営業による不要不急の外出自粛、さらには代替交通手段へのシフト増なども重なり、令和3年度の1便あたり利用者数は4.2人/便と目標を下回った。 なお、1便あたり利用者数の推移は以下のとおりである。 平成29年度: 3.9人/便 平成30年度: 4.6人/便 令和元年度: 5.1人/便 令和2年度: 4.5人/便 令和3年度: 4.2人/便 前年度同様、路線ごとの利用者数の格差は大きいままであり、宮島及び南谷線は3.0人/便を下回っている。この2地区は、平成30年度のダイヤ改正で一部区間を延長するとともに1便減としており、今後も利用推移を注視する。 なお、利用者数の推移は以下のとおりである。 平成29年度: 43,667人 平成30年度: 51,587人 令和元年度: 54,231人 令和2年度: 46,990人 令和3年度: 43,471人	1. 市内施設関連イベント 市民図書館における無料乗車券配布は122枚、利用は14枚であり、利用促進効果は不十分であったと考える。効果の不振については、前述のコロナ禍による影響等と見受けられる。 については、感染防止及び費用対効果の観点から、コロナ禍終息までイベントによる利用促進を休止する。 2. バス情報広報活動 上述の市民図書館関連イベントに合わせて作成・配布した「1ページ時刻表(A3両面印刷)」が、5日間で200枚超の配布となり、好評であった。 については、令和4年度の時刻表更新に際し、従来のA4厚紙冊子から1ページ時刻表に切替え、配布促進による利用者の掘り起こしを行う。 3. 利用実態調査 コロナ禍における有効な利用促進策を検討するため、令和4年度はコロナ禍における利用者の公共交通機関の利用目的・頻度の変化などを調査する。調査結果を踏まえ、ウィズコロナにおける利用者目線の利用促進策を改めて検討する。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。そのためには、⑥の事業の今後の改善点で掲げられる3. 利用実態調査を整理し今後の具体的改善策として反映するよう期待する。その上で、具体的な改善策の実施について地域一帯となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
小矢部市地域公共交通活性化協議会	小矢部市 10. 蟹谷線	石動駅北口～安養寺～コミュニティプラザ	<p>1. バス情報広報活動 バス情報広報活動については、引続きホームページに掲載するとともに時刻表を公共施設等に配置し、ケーブルテレビのデータ放送を実施した。また、新たに広報誌等を利用した広報活動を実施することで新たな利用者の掘り起こしを行った。</p> <p>2. 市内施設関連イベント 市内施設と連携して市営バスに関連したイベントを実施することで新たな利用者の掘り起こしを行った。</p>	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B <p>1. 目標・効果 令和2年度に策定した地域内フィーダー系統確保維持計画【令和3年度～令和5年度】において、令和3年度における1便あたり利用者数を5.0人/便とする目標を設定した。</p> <p>2. 達成状況 新型コロナウイルス感染症の感染拡大(以下コロナ禍という)による乗り控えや、8～9月の県内感染拡大に伴う公共施設休館、店舗の時短営業による不要不急の外出自粛、さらには代替交通手段へのシフト増なども重なり、令和3年度の1便あたり利用者数は4.2人/便と目標を下回った。 なお、1便あたり利用者数の推移は以下のとおりである。 平成29年度: 3.9人/便 平成30年度: 4.6人/便 令和元年度: 5.1人/便 令和2年度: 4.5人/便 令和3年度: 4.2人/便</p> <p>前年度同様、路線ごとの利用者数の格差は大きいままであり、宮島及び南谷線は3.0人/便を下回っている。この2地区は、平成30年度のダイヤ改正で一部区間を延長するとともに1便減としており、今後も利用推移を注視する。 なお、利用者数の推移は以下のとおりである。 平成29年度: 43,667人 平成30年度: 51,587人 令和元年度: 54,231人 令和2年度: 46,990人 令和3年度: 43,471人</p>	<p>1. 市内施設関連イベント 市民図書館における無料乗車券配布は122枚、利用は14枚であり、利用促進効果は不十分であったと考える。効果の不振については、前述のコロナ禍による影響等と見受けられる。 については、感染防止及び費用対効果の観点から、コロナ禍終息までイベントによる利用促進を休止する。</p> <p>2. バス情報広報活動 上述の市民図書館関連イベントに合わせて作成・配布した「1ページ時刻表(A3両面印刷)」が、5日間で200枚超の配布となり、好評であった。 については、令和4年度の時刻表更新に際し、従来のA4厚紙冊子から1ページ時刻表に切替え、配布促進による利用者の掘り起こしを行う。</p> <p>3. 利用実態調査 コロナ禍における有効な利用促進策を検討するため、令和4年度はコロナ禍における利用者の公共交通機関の利用目的・頻度の変化などを調査する。調査結果を踏まえ、ウィズコロナにおける利用者目線の利用促進策を改めて検討する。</p>	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。そのためには、⑥の事業の今後の改善点で掲げられる3. 利用実態調査を整理し今後の具体的改善策として反映するよう期待する。その上で、具体的な改善策の実施について地域一帯となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
滑川市地域公共交通会議	滑川市	養輪① (みのわ温泉～中新～市民交流プラザエール前)	新規利用者獲得のため、市内公共交通の路線図や時刻を掲載したコミュニティバスの時刻表を全世帯に配布したほか、市内の学校、病院、商業施設、観光施設等に時刻表を設置した。また、コミュニティバスの時刻を掲載した利用を呼び掛けるポスターを作成し市内中学校及び高等学校にて掲示した。 コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みを実施した。 通勤・通学者の利便性向上のため、滑川駅での鉄道との乗り継ぎを検証しダイヤに反映させた。また、「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図っている。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 利用者数は8,588人(前年同期10,251人)、1便あたりの輸送人員は4.4人(目標8.4人)であった。目標・効果が未達成な理由として、新型コロナウイルス感染症の影響や入院・死亡等による既存利用者の減少、高齢ドライバーの増加による新規利用者の伸び悩みが考えられる。また、魚津方面へ通勤・通学する方にとって滑川駅での鉄道との乗り継ぎは更なる検証と工夫により、より利便性が向上されるものと考えられる。	感染症対策を確実にしながら、新規利用者獲得のための事業を継続する。必要に応じて停留所やルートの見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗り継ぎの利便性を向上できるよう、コミュニティバスのダイヤを検証する。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
滑川市地域公共交通会議	滑川市	義輪② (滑川駅前～みのわ温泉～市民交流プラザエール前)	新規利用者獲得のため、市内公共交通の路線図や時刻を掲載したコミュニティバスの時刻表を全世帯に配布したほか、市内の学校、病院、商業施設、観光施設等に時刻表を設置した。また、コミュニティバスの時刻を掲載した利用を呼び掛けるポスターを作成し市内中学校及び高等学校にて掲示した。 コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みに実施した。 通勤・通学者の利便性向上のため、滑川駅での鉄道との乗り継ぎを検証しダイヤに反映させた。また、「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図っている。	A	計画通り事業は適切に実施された。	C	利用者数は8,588人(前年同期10,251人)、1便あたりの輸送人員は4.4人(目標8.4人)であった。 目標・効果が未達成な理由として、新型コロナウイルス感染症の影響や入院・死亡等による既存利用者の減少、高齢ドライバーの増加による新規利用者の伸び悩みが考えられる。 また、魚津方面へ通勤・通学する方にとって滑川駅での鉄道との乗り継ぎは更なる検証と工夫により、より利便性が向上されるものと考えられる。	感染症対策を確実にいながら、新規利用者獲得のための事業を継続する。 必要に応じて停留所やルートの見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗り継ぎの利便性を向上できるよう、コミュニティバスのダイヤを検証する。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
滑川市地域公共交通会議	滑川市	義輪③ (滑川駅前～中新～みのわ温泉)	新規利用者獲得のため、市内公共交通の路線図や時刻を掲載したコミュニティバスの時刻表を全世帯に配布したほか、市内の学校、病院、商業施設、観光施設等に時刻表を設置した。また、コミュニティバスの時刻を掲載した利用を呼び掛けるポスターを作成し市内中学校及び高等学校にて掲示した。 コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みに実施した。 通勤・通学者の利便性向上のため、滑川駅での鉄道との乗り継ぎを検証しダイヤに反映させた。また、「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図っている。	A	計画通り事業は適切に実施された。	C	利用者数は8,588人(前年同期10,251人)、1便あたりの輸送人員は4.4人(目標8.4人)であった。 目標・効果が未達成な理由として、新型コロナウイルス感染症の影響や入院・死亡等による既存利用者の減少、高齢ドライバーの増加による新規利用者の伸び悩みが考えられる。 また、魚津方面へ通勤・通学する方にとって滑川駅での鉄道との乗り継ぎは更なる検証と工夫により、より利便性が向上されるものと考えられる。	感染症対策を確実にいながら、新規利用者獲得のための事業を継続する。 必要に応じて停留所やルートの見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗り継ぎの利便性を向上できるよう、コミュニティバスのダイヤを検証する。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
滑川市地域公共交通会議	滑川市	大日室山①(博物館前～大日～市民交流プラザエール前)車両減価償却費等国庫補助金	新規利用者獲得のため、市内公共交通の路線図や時刻を掲載したコミュニティバスの時刻表を全世帯に配布したほか、市内の学校、病院、商業施設、観光施設等に時刻表を設置した。また、コミュニティバスの時刻を掲載した利用を呼び掛けるポスターを作成し市内中学校及び高等学校にて掲示し、その他博物館及び博物館caféの車内掲示による宣伝を行い、コミュニティバス利用促進を図った。コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みに実施した。通勤・通学者の利便性向上のため、滑川駅での鉄道との乗り継ぎを検証しダイヤに反映させた。また、「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図っている。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 利用者数は8,662人(前年同期9,885人)、1便あたりの輸送人員は4.4人(目標8.4人)であった。目標・効果が未達成な理由として、新型コロナウイルス感染症の影響や入院・死亡等による既存利用者の減少、高齢ドライバーの増加による新規利用者の伸び悩みが考えられる。また、魚津方面へ通勤・通学する方にとって滑川駅での鉄道との乗り継ぎは更なる検証と工夫により、より利便性が向上されるものと考えられる。	感染症対策を確実にしながら、新規利用者獲得のための事業を継続する。必要に応じて停留所やルートの見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗り継ぎの利便性を向上できるよう、コミュニティバスのダイヤを検証する。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
滑川市地域公共交通会議	滑川市	大日室山②(滑川駅前～大日～市民交流プラザエール前)車両減価償却費等国庫補助金	新規利用者獲得のため、市内公共交通の路線図や時刻を掲載したコミュニティバスの時刻表を全世帯に配布したほか、市内の学校、病院、商業施設、観光施設等に時刻表を設置した。また、コミュニティバスの時刻を掲載した利用を呼び掛けるポスターを作成し市内中学校及び高等学校にて掲示し、その他博物館及び博物館cafeの車内掲示による宣伝を行い、コミュニティバス利用促進を図った。コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みに実施した。通勤・通学者の利便性向上のため、滑川駅での鉄道との乗り継ぎを検証しダイヤに反映させた。また、「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図っている。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 利用者数は8,662人(前年同期9,885人)、1便あたりの輸送人員は4.4人(目標8.4人)であった。目標・効果が未達成な理由として、新型コロナウイルス感染症の影響や入院・死亡等による既存利用者の減少、高齢ドライバーの増加による新規利用者の伸び悩みが考えられる。また、魚津方面へ通勤・通学する方にとって滑川駅での鉄道との乗り継ぎは更なる検証と工夫により、より利便性が向上されるものと考えられる。	感染症対策を確実にしながら、新規利用者獲得のための事業を継続する。必要に応じて停留所やルートの見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗り継ぎの利便性を向上できるよう、コミュニティバスのダイヤを検証する。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
滑川市地域公共交通会議	滑川市	大日室山③(滑川駅前～大日～中開)車両減価償却費等国庫補助金	新規利用者獲得のため、市内公共交通の路線図や時刻を掲載したコミュニティバスの時刻表を全世帯に配布したほか、市内の学校、病院、商業施設、観光施設等に時刻表を設置した。また、コミュニティバスの時刻を掲載した利用を呼び掛けるポスターを作成し市内中学校及び高等学校にて掲示し、その他博物館及び博物館caféの車内掲示による宣伝を行い、コミュニティバス利用促進を図った。コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みに実施した。通勤・通学者の利便性向上のため、滑川駅での鉄道との乗り継ぎを検証しダイヤに反映させた。また、「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図っている。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 利用者は8,662人(前年同期9,885人)、1便あたりの輸送人員は4.4人(目標8.4人)であった。目標・効果が未達成な理由として、新型コロナウイルス感染症の影響や入院・死亡等による既存利用者の減少、高齢ドライバーの増加による新規利用者の伸び悩みが考えられる。また、魚津方面へ通勤・通学する方にとって滑川駅での鉄道との乗り継ぎは更なる検証と工夫により、より利便性が向上されるものと考えられる。	感染症対策を確実にしながら、新規利用者獲得のための事業を継続する。必要に応じて停留所やルートの見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗り継ぎの利便性を向上できるよう、コミュニティバスのダイヤを検証する。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
滑川市地域公共交通会議	滑川市	小森① (田林公民館前～小森～市民交流プラザエール前)	新規利用者獲得のため、市内公共交通の路線図や時刻を掲載したコミュニティバスの時刻表を全世帯に配布したほか、市内の学校、病院、商業施設、観光施設等に時刻表を設置した。また、コミュニティバスの時刻を掲載した利用を呼び掛けるポスターを作成し市内中学校及び高等学校にて掲示した。 コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みに実施した。 通勤・通学者の利便性向上のため、滑川駅での鉄道との乗り継ぎを検証しダイヤに反映させた。また、「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図っている。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 利用者数は12,479人(前年同期12,649人)、1便あたりの輸送人員は6.4人(目標8.4人)であった。 目標・効果が未達成な理由として、新型コロナウイルス感染症の影響や入院・死亡等による既存利用者の減少、高齢ドライバーの増加による新規利用者の伸び悩みが考えられる。 また、魚津方面へ通勤・通学する方にとって滑川駅での鉄道との乗り継ぎは更なる検証と工夫により、より利便性が向上されるものと考えられる。	感染症対策を確実にいながら、新規利用者獲得のための事業を継続する。 必要に応じて停留所やルートの見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗り継ぎの利便性を向上できるよう、コミュニティバスのダイヤを検証する。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
滑川市地域公共交通会議	滑川市	小森② (滑川駅前～小森～市民交流プラザエール前)	新規利用者獲得のため、市内公共交通の路線図や時刻を掲載したコミュニティバスの時刻表を全世帯に配布したほか、市内の学校、病院、商業施設、観光施設等に時刻表を設置した。また、コミュニティバスの時刻を掲載した利用を呼び掛けるポスターを作成し市内中学校及び高等学校にて掲示した。 コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みに実施した。 通勤・通学者の利便性向上のため、滑川駅での鉄道との乗り継ぎを検証しダイヤに反映させた。また、「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図っている。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 利用者数は12,479人(前年同期12,649人)、1便あたりの輸送人員は6.4人(目標8.4人)であった。 目標・効果が未達成な理由として、新型コロナウイルス感染症の影響や入院・死亡等による既存利用者の減少、高齢ドライバーの増加による新規利用者の伸び悩みが考えられる。 また、魚津方面へ通勤・通学する方にとって滑川駅での鉄道との乗り継ぎは更なる検証と工夫により、より利便性が向上されるものと考えられる。	感染症対策を確実にいながら、新規利用者獲得のための事業を継続する。 必要に応じて停留所やルートの見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗り継ぎの利便性を向上できるよう、コミュニティバスのダイヤを検証する。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
滑川市地域公共交通会議	滑川市	小森③ (滑川駅前～小森～本江)	新規利用者獲得のため、市内公共交通の路線図や時刻を掲載したコミュニティバスの時刻表を全世帯に配布したほか、市内の学校、病院、商業施設、観光施設等に時刻表を設置した。またコミュニティバスの時刻を掲載した利用を呼び掛けるポスターを作成し市内中学校及び高等学校にて掲示した。 コミュニティバスの認知度向上のため県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みに実施した。 通勤・通学者の利便性向上のため、滑川駅での鉄道との乗り継ぎを検証しダイヤに反映させた。また、「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図っている。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 利用者数は12,479人(前年同期12,649人)、1便あたりの輸送人員は6.4人(目標8.4人)であった。 目標・効果が未達成な理由として、新型コロナウイルス感染症の影響や入院・死亡等による既存利用者の減少、高齢ドライバーの増加による新規利用者の伸び悩みが考えられる。 また、魚津方面へ通勤・通学する方にとって滑川駅での鉄道との乗り継ぎは更なる検証と工夫により、より利便性が向上されるものと考えられる。	感染症対策を確実にいながら、新規利用者獲得のための事業を継続する。 必要に応じて停留所やルートの見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗り継ぎの利便性を向上できるよう、コミュニティバスのダイヤを検証する。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
滑川市地域公共交通会議	滑川市	栗山① (グリーンタウン北野口～杉本～市民交流プラザエール前)	新規利用者獲得のため、市内公共交通の路線図や時刻を掲載したコミュニティバスの時刻表を全世帯に配布したほか、市内の学校、病院、商業施設、観光施設等に時刻表を設置した。また、コミュニティバスの時刻を掲載した利用を呼び掛けるポスターを作成し市内中学校及び高等学校にて掲示した。 コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みに実施した。 また、「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図っている。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 利用者数は8,954人(前年同期10,036人)、1便あたりの乗車人数は4.6人(目標8.4人)であった。 目標・効果が未達成な理由として、新型コロナウイルス感染症の影響や入院・死亡等による既存利用者の減少、高齢ドライバーの増加による新規利用者の伸び悩みが考えられる。 また、魚津方面へ通勤・通学する方にとって滑川駅での鉄道との乗り継ぎは更なる検証と工夫により、より利便性が向上されるものと考えられる。	感染症対策を確実にいながら、新規利用者獲得のための事業を継続する。 必要に応じて停留所やルートの見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗り継ぎの利便性を向上できるよう、コミュニティバスのダイヤを検証する。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
滑川市地域公共交通会議	滑川市	栗山② (滑川駅前～杉本～市民交流プラザエール前)	新規利用者獲得のため、市内公共交通の路線図や時刻を掲載したコミュニティバスの時刻表を全世帯に配布したほか、市内の学校、病院、商業施設、観光施設等に時刻表を設置した。また、コミュニティバスの時刻を掲載した利用を呼び掛けるポスターを作成し市内中学校及び高等学校にて掲示した。 コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みを実施した。 また、「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図っている。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 利用者数は8,954人(前年同期10,036人)、1便あたりの乗車人数は4.6人(目標8.4人)であった。 目標・効果が未達成な理由として、新型コロナウイルス感染症の影響や入院・死亡等による既存利用者の減少、高齢ドライバーの増加による新規利用者の伸び悩みが考えられる。 また、魚津方面へ通勤・通学する方にとって滑川駅での鉄道との乗り継ぎは更なる検証と工夫により、より利便性が向上されるものと考えられる。	感染症対策を確実にいながら、新規利用者獲得のための事業を継続する。 必要に応じて停留所やルートの見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗り継ぎの利便性を向上できるよう、コミュニティバスのダイヤを検証する。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
滑川市地域公共交通会議	滑川市	栗山③ (滑川駅前～杉本～栗山北)	新規利用者獲得のため、市内公共交通の路線図や時刻を掲載したコミュニティバスの時刻表を全世帯に配布したほか、市内の学校、病院、商業施設、観光施設等に時刻表を設置した。また、コミュニティバスの時刻を掲載した利用を呼び掛けるポスターを作成し市内中学校及び高等学校にて掲示した。 コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みを実施した。 また、「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図っている。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 利用者数は8,954人(前年同期10,036人)、1便あたりの乗車人数は4.6人(目標8.4人)であった。 目標・効果が未達成な理由として、新型コロナウイルス感染症の影響や入院・死亡等による既存利用者の減少、高齢ドライバーの増加による新規利用者の伸び悩みが考えられる。 また、魚津方面へ通勤・通学する方にとって滑川駅での鉄道との乗り継ぎは更なる検証と工夫により、より利便性が向上されるものと考えられる。	感染症対策を確実にいながら、新規利用者獲得のための事業を継続する。 必要に応じて停留所やルートの見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗り継ぎの利便性を向上できるよう、コミュニティバスのダイヤを検証する。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
滑川市地域公共交通会議	滑川市	市街地循環(滑川駅前～西滑川駅～市民交流プラザエール前)車両減価償却費等国庫補助金	新規利用者獲得のため、市内公共交通の路線図や時刻を掲載したコミュニティバスの時刻表を全世帯に配布したほか、市内の学校、病院、商業施設、観光施設等に時刻表を設置した。また、コミュニティバスの時刻を掲載した利用を呼び掛けるポスターを作成し市内中学校及び高等学校にて掲示し、その他図書館及び図書館caféの車内掲示による宣伝を行い、コミュニティバス利用促進を図った。 コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みに実施した。 また、「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図っている。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 利用者は7,593人(前年同期8,642人)、1便あたりの輸送人員は5.7人(目標8.4人)であった。 目標・効果が未達成な理由として、新型コロナウイルス感染症の影響や既存利用者の入院・死亡等による利用者の減少、高齢ドライバーの増加による新規利用者の伸び悩みが考えられる。	感染症対策を確実にしながら、新規利用者獲得のための事業を継続する。 必要に応じて停留所やルートの見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗り継ぎの利便性を向上または維持できるよう、コミュニティバスのダイヤを検証する。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
滑川市地域公共交通会議	滑川市	寺町(滑川駅前～寺町～市民交流プラザエール前)車両減価償却費等国庫補助金	新規利用者獲得のため、市内公共交通の路線図や時刻を掲載したコミュニティバスの時刻表を全世帯に配布したほか、市内の学校、病院、商業施設、観光施設等に時刻表を設置した。また、コミュニティバスの時刻を掲載した利用を呼び掛けるポスターを作成し市内中学校及び高等学校にて掲示した。 コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みに実施した。 また、「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図っている。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 利用者は10,297人(前年同期10,109人)、1便あたりの輸送人員は7.7人(目標8.4人)であった。 目標・効果が未達成な理由として、新型コロナウイルス感染症の影響や既存利用者の入院・死亡等による利用者の減少、高齢ドライバーの増加による新規利用者の伸び悩みが考えられる。	感染症対策を確実にしながら、新規利用者獲得のための事業を継続する。 必要に応じて停留所やルートの見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗り継ぎの利便性を向上または維持できるよう、コミュニティバスのダイヤを検証する。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
滑川市地域公共交通会議	滑川市	北部循環(滑川駅前～水族館前～市役所前)車両減価償却費等国庫補助金	新規利用者獲得のため、市内公共交通の路線図や時刻を掲載したコミュニティバスの時刻表を全世帯に配布したほか、市内の学校、病院、商業施設、観光施設等に時刻表を設置した。コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みを実施した。また、「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図っている。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 利用者数は4,565人(前年同期5,697人)、1便あたりの輸送人員は3.4人(目標8.4人)であった。目標・効果が未達成な理由として、新型コロナウイルス感染症の影響や既存利用者の入院・死亡等による利用者の減少、高齢ドライバーの増加による新規利用者の伸び悩みが考えられる。	感染症対策を確実にしながら、新規利用者獲得のための事業を継続する。必要に応じて停留所やルートの見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗り継ぎの利便性を向上または維持できるよう、コミュニティバスのダイヤを検証する。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
黒部市公共交通戦略推進協議会	事業者名 桜井交通(株)	運行系統名 ・愛本本線 運行区間 ・愛本新下区公民館～イラッセ ・通勤・通学による定時定路線運行 ・平日のみ運行	・利用促進策(時刻表・ニュースレターの配布、回数券の販売)を実施した。 ・愛本連絡線の予約制に伴う地元住民による利用促進の取組を実施した。 ・新型コロナウイルスの流行に伴い、間仕切りやアルコールの設置等の感染症対策を実施し、利用者が安全に利用できるよう努めた。 ・運行事業者間でのワークショップを実施し、利用者の増加に向けた課題の整理や、課題の解決に向けた取組について検討を行っている。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B (1)市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数 令和3年度目標値： 190,000人 令和3年度実績値： 123,861人 (参考) 当該系統利用者数 令和2年度：2,797人 令和3年度：2,793人 (2)公共交通利用圏域内 町内会人口率(交通空白地域の解消) 令和3年度目標値：99.9% 令和3年度実績値：99.9%	・コロナ禍の中で市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数は目標を達成することができなかったが、当該系統の利用者数は地元住民による利用促進の取組が奏功し増加していることから、引き続き、新規利用者の開拓・利用頻度の増大に向けて、利用者ニーズの把握に努めたい。 ・新型コロナウイルスの影響による利用者減少を改善するため、感染症防止対策を実施する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
黒部市公共交通戦略推進協議会	事業者名 桜井交通(株)	<p>運行系統名 ・石田三日月線</p> <p>運行区間 ・にいかわ総合支援学校～黒部市役所 ・黒部市役所～黒部市役所</p> <p>・通勤・通学による定時定路線型運行 ・平日のみ運行</p>	<p>・利用促進策(時刻表・ニュースレターの配布、回数券の販売)を実施した。</p> <p>・新型コロナウイルスの流行に伴い、間仕切りやアルコールの設置等の感染症対策を実施し、利用者が安全に利用できるよう努めた。</p> <p>・昨年度の二次評価の結果にもあったように、利用者数が減少している状況を鑑みて、運行事業者間でのワークショップを実施し、利用者数増加に向けた取組だけでなく、バス路線見直しや運行手法の変更等の持続可能な運行に向けた取組について検討を行っている。</p> <p>・また、事業者とは、具体的なバス停配置、ブランディング等、集客力向上に向けて検討した。</p>	<p>A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。</p>	<p>B</p> <p>(1)市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数 令和3年度目標値: 190,000人 令和3年度実績値: 123,861人</p> <p>(参考) 当該系統利用者数 令和2年度:6,588人 令和3年度:5,913人</p> <p>(2)公共交通利用圏域内 町内会人口率(交通空白地域の解消) 令和3年度目標値:99.9% 令和3年度実績値:99.9%</p>	<p>・コロナ禍の中で市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数は目標を達成することができず、当該系統の利用者数も減少している。</p> <p>・今後はワークショップ(実務担当者間での検討会議)におけるバス路線見直しの方向性をもとに、利用者数増加に向けた取組を行う。</p> <p>・また、石田三日月線経路に開業する大型商業施設や道の駅に合わせ、新規利用者の確保を図るほか、必要であればルート変更等の検討を行う。</p> <p>・新型コロナウイルスの影響による利用者減少を改善するため、引き続き感染症防止対策を実施する。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
黒部市公共交通戦略推進協議会	事業者名 くろべ交通(株)	<p>運行系統名 ・田家野ー中山エリア</p> <p>運行区間 ・田家地区～三日市地区</p> <p>・予約型デマンドタクシーとして運行 ・月・水・金に運行</p>	<p>・地域住民と協議を行いながら、利用促進策(時刻表・ニュースレターの配布、回数券の販売、出前講座の開催)を実施した。</p> <p>・新型コロナウイルスの流行に伴い、間仕切りやアルコールの設置等の感染症対策を実施し、利用者が安全に利用できるよう努めた。</p> <p>・昨年度の二次評価の結果を受けて、持続可能な運行形態の確立に向け、路線の最適化を含めた検討を行った。また、事業者とは、接客方法やブランディング等、集客力向上に向けて検討した。</p>	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B <p>(1)市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数</p> <p>令和3年度目標値: 190,000人 令和3年度実績値: 123,861人</p> <p>(参考) 当該系統利用者数 令和2年度:373人 令和3年度:583人</p> <p>(2)公共交通利用圏域内 町内会人口率(交通空白地域の解消)</p> <p>令和3年度目標値:99.9% 令和3年度実績値:99.9%</p>	<p>・コロナ禍の中で市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数は目標を達成することができなかったが、地元住民による利用促進の取組等が功を奏し当該系統の利用者数は増加しているため、引き続き、地域住民との協議やワークショップ等により利用者数増加を持続するための取組を進める。</p> <p>・新型コロナウイルスの影響による利用者減少を改善するため、引き続き感染症防止対策を実施する。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
黒部市公共交通戦略推進協議会	事業者名 くろべ交通(株)	<p>運行系統名 前沢－宮野エリア</p> <p>運行区間 ・前沢地区～三日市地区</p> <p>・予約型デマンドタクシーとして運行 ・月・水・金に運行</p>	<p>・地域住民と協議を行いながら、利用促進策(時刻表・ニュースレターの配布、回数券の販売、出前講座の開催)を実施した。</p> <p>・新型コロナウイルスの流行に伴い、間仕切りやアルコールの設置等の感染症対策を実施し、利用者が安全に利用できるよう努めた。</p> <p>・持続可能な運行形態の確立に向け、路線の最適化を含めた検討を行った。また、事業者とは、接客方法やブランディング等、集客力向上に向けて検討した。</p>	A	<p>計画に位置付けられた事業は適切に実施された。</p>	B	<p>(1)市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数</p> <p>令和3年度目標値: 190,000人 令和3年度実績値: 123,861人</p> <p>(参考) 当該系統利用者数 令和2年度:799人 令和3年度:1,009人</p> <p>(2)公共交通利用圏域内 町内会人口率(交通空白地域の解消)</p> <p>令和3年度目標値:99.9% 令和3年度実績値:99.9%</p>	<p>・コロナ禍の中で市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数は目標を達成することができなかったが、地元住民による利用促進の取組等が功を奏し当該系統の利用者数は増加しているため、引き続き、地域住民との協議やワークショップ等により利用者数増加を持続するための取組を進める。</p> <p>・新型コロナウイルスの影響による利用者減少を改善するため、引き続き感染症防止対策を実施する。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
黒部市公共交通戦略推進協議会	事業者名 くろべ交通(株)	<p>運行系統名 ・村椿・大布施地区</p> <p>運行区間 ・村椿・大布施地区～三日市地区</p> <p>・予約型デマンドタクシーとして運行 ・火・木・土に運行</p>	<p>・地域住民と協議を行いながら、利用促進策(時刻表・ニュースレターの配布、回数券の販売、出前講座の開催)を実施した。</p> <p>・新型コロナウイルスの流行に伴い、間仕切りやアルコールの設置等の感染症対策を実施し、利用者が安全に利用できるよう努めた。</p> <p>・昨年度の二次評価の結果を受けて、持続可能な運行形態の確立に向け、路線の最適化を含めた検討を行った。また、事業者とは、接客方法やブランディング等、集客力向上に向けて検討した。</p>	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B <p>(1)市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数</p> <p>令和3年度目標値: 190,000人 令和3年度実績値: 123,861人</p> <p>(参考) 当該系統利用者数 令和2年度:969人 令和3年度:789人</p> <p>(2)公共交通利用圏域内 町内会人口率(交通空白地域の解消)</p> <p>令和3年度目標値:99.9% 令和3年度実績値:99.9%</p>	<p>・コロナ禍の中で市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数は目標を達成することができず、当該系統の利用者数も減少している。</p> <p>・なお、当該系統の利用者数の減少は、隣接地区の大型商業施設の開業が主要因であると考えられる。</p> <p>・このため、地域住民との協議やワークショップ等により、持続可能な運行形態について検討を進めるほか、利用促進策のより一層強化を図る。</p> <p>・新型コロナウイルスの影響による利用者減少を改善するため、引き続き感染症防止対策を実施する。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
黒部市公共交通戦略推進協議会	事業者名 くろべ交通(株)	<p>運行系統名 ・荻生地区</p> <p>運行区間 ・荻生地区 ～三日市地区</p> <p>・予約型デマンドタクシーとして運行 ・火・木・土に運行</p>	<p>・地域住民と協議を行いながら、利用促進策(時刻表・ニュースレターの配布、回数券の販売、出前講座の開催)を実施した。</p> <p>・新型コロナウイルスの流行に伴い、間仕切りやアルコールの設置等の感染症対策を実施し、利用者が安全に利用できるよう努めた。</p> <p>・昨年度の二次評価の結果を受けて、持続可能な運行形態の確立に向け、路線の最適化を含めた検討を行った。また、事業者とは、接客方法やブランディング等、集客力向上に向けて検討した。</p>	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B	<p>(1)市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数</p> <p>令和3年度目標値: 190,000人 令和3年度実績値: 123,861人</p> <p>(参考) 当該系統利用者数 令和2年度:462人 令和3年度:421人</p> <p>(2)公共交通利用圏域内 町内会人口率(交通空白地域の解消)</p> <p>令和3年度目標値:99.9% 令和3年度実績値:99.9%</p>	<p>・コロナ禍の中で市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数は目標を達成することができず、当該系統の利用者数も減少している</p> <p>・このため、地域住民との協議やワークショップ等により、持続可能な運行形態について検討を進めるほか、利用促進策のより一層強化を図る。</p> <p>・新型コロナウイルスの影響による利用者減少を改善するため、引き続き感染症防止対策を実施する。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
氷見市地域公共交通会議	加越能バス株式会社	<p>運行系統名： ひみ番屋街経由氷見市民病院</p> <p>運行区間： JR氷見駅～ひみ番屋街～氷見市民病院</p>	<p>1 現状分析と計画策定の基礎データとして乗降調査を実施した。</p> <p>2 コロナ禍において利用者は減少したが、氷見市公共交通感染防止運行協力事業費補助金を活用しつつ、利便性確保・維持のために運行本数を維持した。</p> <p>3 利用者の安心・安全のため、バス車内に新型コロナウイルス不活化コーティングを行った。</p> <p>4 氷見市内の散策マップ等に当該バスの紹介や時刻表にアクセスできる二次元コードを掲載した。</p>	A	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された</p>	A	<p>1 目標 ・1便あたりの利用者数目標値 平日4.0人、土日祝日6.0人 ・系統別の利用者数 1,400人</p> <p>2 効果達成状況 ・1便あたりの利用者数 平日6.3人、土日祝日6.3人 ・系統別の年間利用者数 1,994人</p> <p>通勤・通院等の日常生活に必要な不可欠な利用が多い時間帯(平日夕方や土曜日の病院診療時間帯)に運行する路線であるため、新型コロナウイルスの影響が比較的小さく、全体として目標を上回った。</p>	<p>1 コロナ禍により平日・土日祝を問わず利用者が減少、今後の回復は不透明なため、コロナ禍の状況を踏まえ、目標値を適切に設定する。</p> <p>2 乗降調査と利用実態の把握を継続し、コロナ禍が終息した後に、あるいはコロナ禍の中にあっても、利用者数が早期に回復するよう利便性を確保・維持する。</p> <p>3 ポスト・コロナに向けた利用者数確保のための取り組みとして ・バス車内のウィルス不活化コーティングをはじめとしたバスに普段から安心して乗っていただける環境整備 ・JR氷見線をご利用の方が「氷見つまみ食いクーポン」を購入時にフィーダーバスの一日フリー乗車券が付いてくる特典等の、JR氷見線と連携した利用促進事業を今後も継続して実施する。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
氷見市地域公共交通会議	加越能バス株式会社	運行系統名:ひみ番屋街 運行区間:JR氷見駅~ひみ番屋街	1 現状分析と計画策定の基礎データとして乗降調査を実施した。 2 コロナ禍において利用者は減少したが、氷見市公共交通感染防止運行協力事業費補助金を活用しつつ、利便性確保・維持のために運行本数を維持した。 3 利用者の安心・安全のため、バス車内に新型コロナウイルス不活化コーティングを行った。 4 氷見市内の散策マップ等に当該バスの紹介や時刻表にアクセスできる二次元コードを掲載した。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された	B 1 目標 <ul style="list-style-type: none"> ・1便あたりの利用者数目標値 平日4.0人、土日祝日6.0人 ・系統別の利用者数 4,400人 2 効果達成状況 <ul style="list-style-type: none"> ・1便あたりの利用者数 土日祝日のみ運行4.9人 ・系統別の年間利用者数 3,640人 新型コロナウイルスの影響を受け、生活利用者、観光利用者ともに減少し、目標を下回った。	1 コロナ禍により平日・土日祝を問わず利用者が減少、今後の回復は不透明なため、コロナ禍の状況を踏まえ、目標値を適切に設定する。 2 乗降調査と利用実態の把握を継続し、コロナ禍が終息した後に、あるいはコロナ禍の中にあっても、利用者数が早期に回復するよう利便性を確保・維持する。 3 ポスト・コロナに向けた利用者数確保のための取り組みとして <ul style="list-style-type: none"> ・バス車内のウィルス不活化コーティングをはじめとしたバスに普段から安心して乗っていただける環境整備 ・JR氷見線をご利用の方が「氷見つまみ食いクーポン」を購入時にフィーダーバスの一日フリー乗車券が付いてくる特典等の、JR氷見線と連携した利用促進事業を今後も継続して実施する。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
氷見市地域公共交通会議	加越能バス株式会社	運行系統名：市街地循環左回り 運行区間：氷見市民病院～JR氷見駅～氷見市民病院	1 現状分析及び計画策定の基礎データとして乗降調査を実施した。 2 コロナ禍において利用者は減少したが、氷見市公共交通感染防止運行協力事業費補助金を活用しつつ、利便性確保・維持のために運行本数を維持した。 3 利用者の安心・安全のため、バス車内に新型コロナウイルス不活化コーティングを行った。 4 氷見市内の散策マップ等に当該バスの紹介や時刻表にアクセスできる二次元コードを掲載した。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された	B	1 目標 ・1便あたりの利用者数目標値 平日4.0人、土日祝日6.0人 ・系統別の利用者数 6,000人 2 効果達成状況 ・1便あたりの利用者数 平日3.2人、土日祝日2.3人 ・系統別の年間利用者数 4,319人 新型コロナウイルスの影響を受け、生活利用者、観光利用者ともに減少し、目標を下回った。	1 コロナ禍により平日・土日祝を問わず利用者が減少、今後の回復は不透明なため、コロナ禍の状況を踏まえ、目標値を適切に設定する。 2 乗降調査と利用実態の把握を継続し、コロナ禍が終息した後に、あるいはコロナ禍の中にあっても、利用者数が早期に回復するよう利便性を確保・維持する。 3 ポスト・コロナに向けた利用者数確保のための取り組みとして ・バス車内のウィルス不活化コーティングをはじめとしたバスに普段から安心して乗っていただける環境整備 ・JR氷見線をご利用の方が「氷見つまみ食いクーポン」を購入時にフィーダーバスの一日フリー乗車券が付いてくる特典等の、JR氷見線と連携した利用促進事業を今後も継続して実施する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
氷見市地域公共交通会議	加越能バス株式会社	運行系統名：市街地循環右回り 運行区間：氷見市民病院～JR氷見駅～氷見市民病院	1 現状分析及び計画策定の基礎データとして乗降調査を実施した。 2 コロナ禍において利用者は減少したが、氷見市公共交通感染防止運行協力事業費補助金を活用しつつ、利便性確保・維持のために運行本数を維持した。 3 利用者の安心・安全のため、バス車内に新型コロナウイルス不活化コーティングを行った。 4 氷見市内の散策マップ等に当該バスの紹介や時刻表にアクセスできる二次元コードを掲載した。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された	B	1 目標 ・1便あたりの利用者数目標値 平日4.0人、土日祝日6.0人 ・系統別の利用者数 5,200人 2 効果達成状況 ・1便あたりの利用者数 平日3.5人、土日祝日2.0人 ・系統別の年間利用者数 4,348人 新型コロナウイルスの影響を受け、生活利用者、観光利用者ともに減少し、目標を下回った。	1 コロナ禍により平日・土日祝を問わず利用者が減少、今後の回復は不透明なため、コロナ禍の状況を踏まえ、目標値を適切に設定する。 2 乗降調査と利用実態の把握を継続し、コロナ禍が終息した後に、あるいはコロナ禍の中にあっても、利用者数が早期に回復するよう利便性を確保・維持する。 3 ポスト・コロナに向けた利用者数確保のための取り組みとして ・バス車内のウィルス不活化コーティングをはじめとしたバスに普段から安心して乗っていただける環境整備 ・JR氷見線をご利用の方が「氷見つまみ食いクーポン」を購入時にフィーダーバスの一日フリー乗車券が付いてくる特典等の、JR氷見線と連携した利用促進事業を今後も継続して実施する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
砺波市地域公共交通会議	砺波市	東部循環線～麦秋苑・油田駅前～砺波駅～砺波市役所前	<p>・市民の利用ニーズに対応するため、令和2年10月に市営バスダイヤの改正を行った。</p> <p>・令和3年8月30日に富山県内全域の路線バス等の位置情報を確認できる「とやまロケーションシステム」をリニューアルし、利便性の向上を図った。</p> <p>・前回の事業評価では、公共交通マップ作成、配布やバスの乗り方教室といった取組も計画していたが、新型コロナウイルスの影響等もあり実施できなかった。その代替として令和3年8月20日から令和3年9月30日まで「公共交通もりあげキャンペーン」と題し、市営バスの運転手にJR城端線の利用をPRするTシャツを着用してもらい、期間中、利用者にはJR城端線の利用促進を目的に活動する市民団体「城端線もりあげ隊」のオリジナルうちわを配布した。JR城端線の利用促進を図るとともに、市営バス運転手のクールビズ促進と運転効率の向上、市営バスのイメージアップにもつながったと考えている。</p>	A	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	C	<p>①東部循環線の1便あたりの乗車人数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標：2.0人/便 ・実績：1.8人/便 <p>→新型コロナウイルス感染症の影響で福祉センター等の休館もあったことから乗車人数の大幅な増加は見込めなかったが、昨年度の1.7人/便は上回った。</p> <p>④市営バス全体の利用者数及び収支率(会計年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標：利用者50,000人、収支率15% ・実績：利用者27,647人、収支率4.0% <p>→新型コロナウイルス感染症の影響による市民の外出自粛や以前は小学生が市営バスを利用して通学していたが、車内の3密を避けるため、一部の小学生は市教育委員会が手配したスクールバスを活用して通学していること、学校での授業時間が弾力的に変更されていることで、定時運行の市営バスの時間帯に下校時間が合わなくなっていること等が利用者の増加や収支率の改善につながらなかった要因として考えられる。</p>	<p>①②③④ 令和3年7月に実施した市民アンケートをもとに市民ニーズを分析し、令和4年4月から計画期間とする地域公共交通計画のなかで持続可能な公共交通の構築に向けた方向性を示したうえで、令和5年10月に実施予定のダイヤ改編に向けて調査研究、取組を行う。</p> <p>①④ 市内でイベントが開催される際などには、主催者等と連携して、市営バスを移動手段のひとつとして利用してもらえよう、情報発信に努める。</p> <p>①②③④ 市職員が地区の会合等に出向いて地域と情報交換を行う「アンテナ隊」活動や行政出前講座、高齢者がグループで介護予防に取り組む「いきいき百歳体操」など地域に出向く機会を利用して市営バスやデマンドタクシーの利用方法を説明し、普及促進につなげる。</p> <p>①②③④ 市営バスやデマンドタクシーの利用料金の支払いについて、キャッシュレス決済など現金以外の支払い方法にも対応し、利用者の利便性向上を図る。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑥の事業の今後の改善点については、示された改善策と目標が達成されなかった理由との関連性が不明確であることから、目標が達成されなかった理由に対応した新たな具体策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
砺波市地域公共交通会議	となみ観光交通(株)	デマンドタクシー(愛のりくん)庄東・雄神区域	庄東・雄神区域以外の区域においてもデマンドタクシーを導入することに合わせて、市の広報誌やホームページ等でPRIに努めた。また、市の介護担当課とも連携を図り、ニーズのある方への情報提供を続けている。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C ②1便あたりの乗車率 ・目標:3.6人/便 ・実績:2.8人/便 →新型コロナウイルス感染症の影響による市民の外出自粛に加え、車内の3密を回避するための増車を行ったことが目標未達成の要因と考えられる。 ③計画運行回数に対する実績運行回数の割合 ・目標:63.7% ・実績:59.5% →新型コロナウイルス感染症の影響による市民の外出自粛や相乗りになることに対する抵抗感、前日予約が必要なことに対する煩雑さが目標未達成の要因として考えられる。	①②③④ 令和3年7月に実施した市民アンケートをもとに市民ニーズを分析し、令和4年4月から計画期間とする地域公共交通計画のなかで持続可能な公共交通の構築に向けた方向性を示したうえで、令和5年10月に実施予定のダイヤ改編に向けて調査研究、取組を行う。 ①②③④ 市職員が地区の会合等に出向いて地域と情報交換を行う「アンテナ隊」活動や行政出前講座、高齢者がグループで介護予防に取り組む「いきいき百歳体操」など地域に出向く機会を利用して市営バスやデマンドタクシーの利用方法等を説明し、普及促進につなげる。 ①②③④ 市営バスやデマンドタクシーの利用料金の支払いについて、キャッシュレス決済など現金以外の支払い方法にも対応し、利用者の利便性向上を図る。 ②③ 利用者等からの意見を受け、現行の「前日15時まで」の予約から「当日」予約にも対応できるようデマンドタクシーにAI予約配車システムを導入する。	協議会における事業評価結果の③及び⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
上市町地域公共交通活性化協議会	上市町	上市町営バス「白萩線」「陽南線」区域型運行	令和元年10月から1年間の実証運行を経て、本格運行に移した。(前回評価結果なし(今回が初めての評価)) 実証運行当初は「完全前日予約」としていたが、その後、地元への利用状況報告会や運行委託先である町内タクシー事業者との意見交換などにより、課題が浮き彫りとなった。例えば、前日予約では急な予定変更に対応できないことなどから予約を控える方がいること、クルマのステップが高く乗りにくい(地元)、利用状況を見てみると日中であれば当日予約も可能(運行委託者)など。 こうした調査結果を受けて、予約のりあいバスの運用等を柔軟に対応した。 具体的には ○日中運行便(朝1便を除く3便)の当日予約対応可(1時間前までの予約) ○補助ステップがついた新型車両の導入(乗ってみたくなるように車両にラッピングも施工)	A 当初の計画通り事業を実施することができた。	B 計画に位置付けた事業目標は計画運行便数に対する実績稼働率としており ○白萩線 60%以上 ○陽南線 30%以上 に設定していたところ、 ○白萩線 64.31% ○陽南線 15.40% と運行系統により、目標達成と未達成路線が生まれた。 未達成路線の主な要因は、陽南線が新設路線(白萩線は区域型の前は定時定路線で運行)であり、「バスに乗る」ということ自体に慣れていない住民が多く、利用者の半数以上が免許返納者であった。また、これに加えてコロナ禍による外出控えも要因の一つになったのではないかと考える。(令和3年5月に富山県が感染拡大特別警報を発出したが、その月の稼働割合は年間最低の6.8%)	未達成路線については、実証運行開始時から利用状況が芳しくなかったことから、本格運行に移行する際に『本格運行後1年間で一定の基準(運行稼働割合(30%))を達成できない場合はR3年度末をもって廃止せざるを得ない』旨、事前に説明のうえで本格運行に移した。これを受けて沿線自治会では独自に利用料金の還元キャンペーンなども行ったが、コロナ禍の影響もあってか未達成となった。 このため、地元と本年度末の路線廃止も含めた協議を行った結果、コロナ禍の影響が大きかったこと等を考慮し、コロナ対策として富山県が発令した感染拡大特別警報等の期間(約5か月間)を利用状況確認期間から控除し、【改めて本年1月から5月の間の利用状況を調査し、その期間中に一定の基準(運行稼働割合(30%))を満たせない場合には、本年9月末で当該路線は廃止する】こととした。(廃止に関する決定時期について実質半年間の延長) 町としては、当該地域は交通不便地域であり、一定数の住民が存在し、バス利用者には免許返納者が多いこと、今後も高齢者が増え免許返納者が増えるであろうと考えているが、町全体のバランス(道路が狭隘で公共交通が入れない地域)や今後の財政負担を考慮した場合、一定の基準を設定せざるを得ないと考えている。なお、沿線自治会ではバス利用促進に関して協議が加速している。 今後、町としてはバスにおける日常的なコロナ対策やバス利用に関するチラシを作成・周知するなど利用促進に努めたい。	協議会における事業評価結果の③及び⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
加賀市地域公共交通活性化・再生協議会	北鉄加賀バス(株)	(路線名) 温泉片山津線 (運行区間) 加賀温泉駅～片山津温泉～石川病院～湖城団地～加賀温泉駅	今年度も引き続き、MM施策として加賀市の協力のもと、加賀市内全世帯と高校の新生児に時刻表を配布した。 周遊クーポンは「いしかわまるごとおでかけきっぷ」を北陸鉄道(株)にて新設することとなり、北鉄グループ他西日本JRバス(株)、のと鉄道(株)とも連携し石川県全域で販促を行うこととした。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B コロナ禍の長期化により、定期外の観光利用が回復しなかったことが影響し、1便あたり乗車人員は9.78人と目標の12人を下回った。	引き続き、MM施策として加賀市の協力のもと、加賀市内全世帯と高校の新生児に時刻表を配布する。また、新年度より展開を見込んでいる加賀市版MaaSを活用し、キャッシュレス決済・他の交通モードとの連携等利便性の向上を図る。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
加賀市地域公共交通活性化・再生協議会	北鉄加賀バス(株)	(路線名) 山代大聖寺線 (運行区間) 山中温泉～山代温泉東口～上河崎～大聖寺駅～大聖寺実業高校～かが交流プラザさくら	今年度も引き続き、MM施策として加賀市の協力のもと、加賀市内全世帯と高校の新生児に時刻表を配布した。 ただし、予定していたダイヤ変更や運賃制度の変更は見送った。	B 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施していない点があった。	A コロナ禍長期化による影響はあったものの、通学利用が安定的にあり、1便あたり乗車人員は9.49人と目標の8人を上回った。	引き続き、MM施策として加賀市の協力のもと、加賀市内全世帯と高校の新生児に時刻表を配布する。学生の利用促進のため、登下校に使いやすいダイヤ編成及び運賃制度を検討する。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点としては、生活交通確保維持改善計画に位置付けられたとおり適切に事業を実施し、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
加賀市地域公共交通活性化・再生協議会	加賀温泉バス(株)	(路線名) 温泉大聖寺線 (運行区間) 加賀温泉駅～松が丘～大聖寺駅～かが交流プラザさくら	今年度も引き続き、MM施策として加賀市の協力のもと、加賀市内全世帯と高校の新生入生に時刻表を配布した。ただし、予定していたダイヤ変更や運賃制度の変更は見送った。	B 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施していない点があった。	B コロナ禍の長期化により、定期外の利用が減少したことが影響し、1便あたり乗車人員は3.55人と目標の5人を下回った。	引き続き、MM施策として加賀市の協力のもと、加賀市内全世帯と高校の新生入生に時刻表を配布する。学生の利用促進のため、登下校に使いやすいダイヤ編成及び運賃制度を検討する。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、生活交通確保維持改善計画に位置付けられたとおり適切に事業を実施するとともに、実績向上に向けて新たな具体策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
加賀市地域公共交通活性化・再生協議会	北鉄加賀バス(株)	(路線名) 吉崎線 (運行区間) 加賀温泉駅～上河崎～大聖寺駅～塩屋	今年度も引き続き、MM施策として加賀市の協力のもと、加賀市内全世帯と高校の新生入生に時刻表を配布した。ただし、予定していたダイヤ変更や運賃制度の変更は見送った。	B 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施していない点があった。	B 生活路線の要素が強いためコロナ禍の影響は軽微で昨年度より乗車人員が増加したが、少子化による通学定期利用の減少が影響し、1便あたり乗車人員は10.11人と目標の11人を下回った。	引き続き、MM施策として加賀市の協力のもと、加賀市内全世帯と高校の新生入生に時刻表を配布する。学生の利用促進のため、登下校に使いやすいダイヤ編成及び運賃制度を検討する。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、生活交通確保維持改善計画に位置付けられたとおり適切に事業を実施するとともに、実績向上に向けて改善策及びその具体化について引き続き検討する必要がある。その上で、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
加賀市地域公共交通活性化・再生協議会	日本海観光バス(株)	(系統名) キャンパス空港線 運行区間 加賀温泉駅～片山津温泉～空港	沿線住民に割安回数券の利用促進。 Wi-Fi設置によるサービス向上。 大手航空会社とのバック商品化による利用促進に努めた。	B 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、観光客の激減と、航空機運行減便により、令和2年11月～令和3年1月までは全便運行しました。それ以外の期間は全便運休しました。	B 令和2年11月～運行を再開し、令和2年12月末に緊急事態宣言発出となり、この間、令和3年1月までの3か月では、1便当たりの乗車は、1.09人と低迷した。	小松空港への直通路線は生活路線として重要と考える。他の路線との兼ね合いを考慮しながら改善に努めたい。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、生活交通確保維持改善計画に位置付けられたとおり適切に事業を実施するとともに、実績向上に向けて新たな具体策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
内灘町地域公共交通協議会	日本海観光バス(株)	系統名：南部ルート 運行区間：内灘駅～内灘町役場～内灘駅(町内循環)	高齢者運転免許証自主返納支援事業において、返納者にコミュニティバスの定期券や回数券を交付するなど、新規利用者の創出を図った。また、利便性向上に向け、運行計画の見直しを検討している。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 前年同時期(R1.10～R2.9)に比べ利用者数は3%、収入は7%減少しており、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外出自粛等の影響が続いているとみられる。 また、平成30年4月の運行ルート改編によって、バス1台の増台に伴う減価償却費の増加や、走行距離が延びたことによる運行委託費の増加もあり、収支率は目標30%に対し16.2%であった。	策定した内灘町地域公共交通計画に基づき、多様な公共交通の連携・分担による交通網の利便性・効率性の向上や、コミュニティバスの分かりやすく効率的な再編に取り組みほか、多様な公共交通の情報を一元的に提供するなど利用者目線に立った情報発信や、住民におけるマイバス意識の醸成に取り組み、利用増加と収支率の改善に努める。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
内灘町地域公共交通協議会	日本海観光バス(株)	系統名：全町ルート 運行区間：内灘駅～西荒屋公民館前～内灘駅(町内循環)	高齢者運転免許証自主返納支援事業において、返納者にコミュニティバスの定期券や回数券を交付するなど、新規利用者の創出を図った。また、利便性向上に向け、運行計画の見直しを検討している。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 前年同時期(R1.10～R2.9)に比べ利用者数は3%、収入は7%減少しており、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外出自粛等の影響が続いているとみられる。 また、平成30年4月の運行ルート改編によって、バス1台の増台に伴う減価償却費の増加や、走行距離が延びたことによる運行委託費の増加もあり、収支率は目標30%に対し16.2%であった。	策定した内灘町地域公共交通計画に基づき、多様な公共交通の連携・分担による交通網の利便性・効率性の向上や、コミュニティバスの分かりやすく効率的な再編に取り組みほか、多様な公共交通の情報を一元的に提供するなど利用者目線に立った情報発信や、住民におけるマイバス意識の醸成に取り組み、利用増加と収支率の改善に努める。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
内灘町地域公共交通協議会	日本海観光バス(株)	系統名：にしルート 運行区間：ほのぼの湯～千鳥台1丁目～ほのぼの湯(町内循環)	高齢者運転免許証自主返納支援事業において、返納者にコミュニティバスの定期券や回数券を交付するなど、新規利用者の創出を図った。また、利便性向上に向け、運行計画の見直しを検討している。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 前年同時期(R1.10～R2.9)に比べ利用者数は3%、収入は7%減少しており、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外出自粛等の影響が続いているとみられる。 また、平成30年4月の運行ルート改編によって、バス1台の増台に伴う減価償却費の増加や、走行距離が延びたことによる運行委託費の増加もあり、収支率は目標30%に対し16.2%であった。	策定した内灘町地域公共交通計画に基づき、多様な公共交通の連携・分担による交通網の利便性・効率性の向上や、コミュニティバスの分かりやすく効率的な再編に取り組みほか、多様な公共交通の情報を一元的に提供するなど利用者目線に立った情報発信や、住民におけるマイバス意識の醸成に取り組み、利用増加と収支率の改善に努める。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
内灘町地域公共交通協議会	日本海観光バス(株)	系統名:ひがしルート 運行区間: ほのぼの湯～少年の家 ～ほのぼの湯(町内循環)	高齢者運転免許証自主返納支援事業において、返納者にコミュニティバスの定期券や回数券を交付するなど、新規利用者の創出を図った。また、利便性向上に向け、運行計画の見直しを検討している。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 前年同時期(R1.10～R2.9)に比べ利用者数は3%、収入は7%減少しており、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外出自粛等の影響が続いているとみられる。 また、平成30年4月の運行ルート改編によって、バス1台の増台に伴う減価償却費の増加や、走行距離が延びたことによる運行委託費の増加もあり、収支率は目標30%に対し16.2%であった。	策定した内灘町地域公共交通計画に基づき、多様な公共交通の連携・分担による交通網の利便性・効率性の向上や、コミュニティバスの分かりやすく効率的な再編に取り組むほか、多様な公共交通の情報を一元的に提供するなど利用者目線に立った情報発信や、住民におけるマイバス意識の醸成に取り組み、利用増加と収支率の改善に努める。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
内灘町地域公共交通協議会	日本海観光バス(株)	系統名:白帆台ルート 運行区間: 白帆台2丁目北～ハマナス1丁目～内灘駅(町内循環)	高齢者運転免許証自主返納支援事業において、返納者にコミュニティバスの定期券や回数券を交付するなど、新規利用者の創出を図った。また、利便性向上に向け、運行計画の見直しを検討している。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 前年同時期(R1.10～R2.9)に比べ利用者数は3%、収入は7%減少しており、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外出自粛等の影響が続いているとみられる。 また、平成30年4月の運行ルート改編によって、バス1台の増台に伴う減価償却費の増加や、走行距離が延びたことによる運行委託費の増加もあり、収支率は目標30%に対し16.2%であった。	策定した内灘町地域公共交通計画に基づき、多様な公共交通の連携・分担による交通網の利便性・効率性の向上や、コミュニティバスの分かりやすく効率的な再編に取り組むほか、多様な公共交通の情報を一元的に提供するなど利用者目線に立った情報発信や、住民におけるマイバス意識の醸成に取り組み、利用増加と収支率の改善に努める。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
津幡町地域公共交通活性化協議会	津幡町	系統名：旭山線 運行区間(津幡駅～石川高専前～旭山公園前) ※車両減価償却費等国庫補助金対象路線	旭山工業団地内企業の従業員の通勤や石川工業高等専門学校への通学等の利便性を考慮し、ダイヤ改正を行った。また、利用者の意見等から分析を行い、ダイヤ改正に反映した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B (a目標達成、b目標達せず) a運行コストを1km当たり250円以内(R2.10～R3.9)232.96円 b平均乗車人数/1回 9.77人(R2.10～R3.9)9.25人	新型コロナウイルスの影響もあり、期間の前半は平均乗車人数も低調だったが、後半は工業団地従業員の利用も増加しコロナ禍前より伸びがあった。数値的には目標達成とはならなかったが、今後は後半の状況を維持出来るよう利用者の意見等も参考に更なる利用促進を図る。	協議会における事業評価結果の④及び⑤については自己評価のとおりである。 なお、③の前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況については、前年度の事業評価結果(⑥の事業の今後の改善点や地方運輸局等における二次評価結果など)の反映が十分ではないと考えられることから、これらの記載を踏まえた改善を行うことが必要である。その上で、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
津幡町地域公共交通活性化協議会	津幡町	系統名：湯端線 運行区間(津幡駅～湯端陽香台口～津幡駅、津幡駅～湯端陽香台口～役場前) ※車両減価償却費等国庫補助金対象路線	鉄道との接続を考慮するなど、利用者の利便性を考慮したダイヤ改正を行った。また、ダイヤ改正の時刻表を地域内全戸に配布し利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B (a目標達成、b目標達せず) a運行コストを1km当たり250円以内(R2.10～R3.9)232.96円 b平均乗車人数/1回 2.21人(R2.10～R3.9)2.12人	新型コロナウイルスの影響により、前年に続き目標を達成出来なかったが、前年と比べると微増であった。しかしながら、鉄道との乗継ダイヤ等の調整を行っているにも関わらず利用者が少ない系統もあることから、今後はより利便性及び効率性が高い運行等を検討する。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな具体策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
津幡町地域公共交通活性化協議会	津幡町	系統名: 太田線 運行区間 (役場前～津幡中央～太田～津幡駅、役場前～太田～津幡駅、津幡検問所前～津幡駅～津幡南中学校前) ※車両減価償却費等国庫補助金対象路線	鉄道との接続を考慮するなど、利用者の利便性を考慮したダイヤ改正を行った。また、ダイヤ改正の時刻表を地域内全戸に配布し利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A (a目標達成、b目標達成) a運行コストを1km当たり250円以内 (R2.10～R3.9)232.96円 b平均乗車人数/1回 3.45人 (R2.10～R3.9)3.51人	新型コロナウイルスの影響もあったが、目標は達成出来た。しかしながら、利用者が少ない系統もあるため、引き続き利用促進の広報に努めるほか、利用者への聞き取り調査等から、より利便性及び効率性が高い運行等を検討する。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、さらなる実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
津幡町地域公共交通活性化協議会	津幡町	系統名: 井上線 運行区間 (津幡駅～津幡中央～井上小学校前、津幡駅～役場前～井上小学校前、井上保育園前～役場前～津幡駅、井上保育園前～津幡中央～津幡駅) ※車両減価償却費等国庫補助金対象路線	鉄道との接続を考慮するなど、利用者の利便性を考慮したダイヤ改正を行った。また、ダイヤ改正の時刻表を地域内全戸に配布し利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B (a目標達成、b目標達せず) a運行コストを1km当たり250円以内 (R2.10～R3.9)232.96円 b平均乗車人数/1回 4.60人 (R2.10～R3.9)2.33人	新型コロナウイルスの影響により、前年に続き目標を達成出来なかった。また、他路線は回復傾向にある中、本路線は前年より減となった。今後は、減となった理由を検証し、更なる利用促進の広報に努めるほか、利用者への聞き取り調査等から、より利便性及び効率性が高い運行等を検討する。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
津幡町地域公共交通活性化協議会	津幡町	系統名:緑が丘線 運行区間(津幡駅～緑が丘～森林公園南口、津幡駅～白鳥神社前～近憩館前、4丁目公園前～白鳥神社前～津幡駅、エクセルタウン～役場前～津幡駅) ※車両減価償却費等国庫補助金対象路線	鉄道との接続を考慮するなど、利用者の利便性を考慮したダイヤ改正を行った。また、ダイヤ改正の時刻表を地域内全戸に配布し利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B (a目標達成、b目標達せず) a運行コストを1km当たり250円以内(R2.10～R3.9)232.96円 b平均乗車人数/1回 4.40人(R2.10～R3.9)3.71人	新型コロナウイルスの影響により、前年に続き目標を達成出来なかった。また、他路線は回復傾向にある中、本路線は前年より減となった。今後は、減となった理由を検証し、更なる利用促進の広報に努めるほか、利用者への聞き取り調査等から、より利便性及び効率性が高い運行等を検討する。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
津幡町地域公共交通活性化協議会	津幡町	系統名:領家線 運行区間(津幡駅～本津幡駅～裏舟橋) ※車両減価償却費等国庫補助金対象路線	鉄道との接続を考慮するなど、利用者の利便性を考慮したダイヤ改正を行った。また、ダイヤ改正の時刻表を地域内全戸に配布し利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B (a目標達成、b目標達せず) a運行コストを1km当たり250円以内(R2.10～R3.9)232.96円 b平均乗車人数/1回 2.15人(R2.10～R3.9)1.37人	新型コロナウイルスの影響により、前年に続き目標を達成出来なかった。また、他路線は回復傾向にある中、本路線は前年より減となった。今後は、減となった理由を検証し、更なる利用促進の広報に努めるほか、利用者への聞き取り調査等から、より利便性及び効率性が高い運行等を検討する。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
輪島市地域公共交通会議	輪島市	おでかけバス安代原・西円山コース ※申請番号1	前回の事業評価を踏まえ、令和3年度も引き続き現行の料金体系及び便数を維持し、利用者の利便性を確保した。	A 計画通り事業は実施された	C 沿線住民の減少、新型コロナウイルスの感染拡大による外出機会の減少等により乗車人数は目標を達成できなかった 乗車人数 【目標】922人以上 【実績】560人 ⇒目標未達成 1kmあたりのコスト 【目標】123.07円以内 【実績】120.72円 ⇒目標達成	急激な人口減少が進む中で、利用者の確保は困難な状況にあるが、利用促進のため、引き続き情報発信を行い、利用促進に向けて、対応を検討する。 運行コストについては、現状に応じた目標設定とし、引き続き抑制に努める。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、目標未達成の要因を沿線住民の減少や新型コロナウイルス感染症の影響としているが、運行ルート、時間帯がニーズと合っているかという面からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。 その上で、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
輪島市地域公共交通会議	北鉄奥能登バス株式会社	のらんけバス兼コース ※申請番号2	前回の事業評価を踏まえ、令和3年度も引き続き現行の料金体系及び便数を維持し、利用者の利便性を確保した。	A 計画通り事業は実施された	C 沿線住民の減少、新型コロナウイルスの感染拡大による外出機会の減少等、燃料費の高騰により目標を達成できなかった 乗車人数 【目標】994人以上 【実績】524人 ⇒目標未達成 1kmあたりのコスト 【目標】239.06円 【実績】261.96円 ⇒目標未達成	急激な人口減少が進む中で、利用者の確保は困難な状況にあるが、利用促進のため、引き続き情報発信を行い、利用促進に向けて、対応を検討する。 運行コストについては、より現状に応じた目標設定とし、運行コストの抑制に努める。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、目標未達成の要因を沿線住民の減少や新型コロナウイルス感染症の影響としているが、運行ルート、時間帯がニーズと合っているかという面からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。 その上で、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
宝達志水町地域交通協議会	株式会社敷浪タクシー	(1)運行系統名 デマンドタクシー (2)運行区域 宝達志水町全域及び羽咋市の一部	<p>昨年度の事業評価総括表では、地方運輸局等における二次評価結果において、実績向上に向けて具体的な改善策の継続検討、及び地域一体となった推進、適切な検証による持続性向上や利用促進の旨の評価結果であった。</p> <p>今年度は、H29から引き続き高齢者の運転免許自主返納に対するデマンドタクシー5,000円分の利用券配布に加え、高齢者への新型コロナウイルスワクチン接種の際のデマンドタクシー無料利用券2回分の配布、町CATVでのデマンドタクシー紹介番組の作成を行っている。</p> <p>また、利用者アンケートを踏まえて地域公共交通計画を策定し、実績向上に向けた具体的な改善策を検討しており、協議会の審議を通じ、持続性向上、利用促進を図ることとしている。</p>	A R3.1には豪雪もあったが、計画どおり運行するなど、事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施されたと評価している。	C 生活交通確保維持改善事業では、利用者の目標はH28からH31の平均値を参考に7,300人以上の利用人数を設定していたが、下記のとおりの実績となった。 R2.10月～R3.9月の実績 5,427人(▲9.1%) 【参考】 R1.10月～R2.9月の実績 5,968人 利用者の減少については、コロナ禍による外出抑制の影響が大きいと評価している。また、アンケート結果から、料金の高さに対する改善要望が多いことから、無料のコミュニティバスへの利用に移行していると推測している。	<p>運転免許証の返納者の増加に伴い、公共交通のニーズは高まっていることが推測される。しかしながら、デマンドタクシーの利用者は、年々減少傾向にあることから、利用者のニーズを満たす公共交通になっていない可能性が高い。</p> <p>令和2年度から、当協議会において地域公共交通計画策定に取り組んでおり、デマンドタクシーを含めた公共交通の現況をアンケートにより整理した結果、利用者の満足度は総じて高いものの、利用料金の高さに対する改善要望が多かった。</p> <p>そのため、地域公共交通計画において、旧町区域内の運行価格を引下げることによる改善策を講じる方向で調整している。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、示された改善策と目標が達成されなかった理由との関連性が不明確であることから、目標が達成されなかった理由に対応した新たな具体策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
珠洲市地域公共交通活性化協議会	珠洲市(まちなかバスすずらん)	市街地循環路線 起終点「すずなり館前」 経由地「市役所」	現在進めている公共交通再編の取組みにおける地区説明会等の機会(R2.10月頃)において、既存フィーダー系統の周知も併せて実施。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A <目標> 利用者数 12.0人/日以上 <実績> 利用者数 12.0人/日	人口減少に伴い公共交通の利用者数も減少していくことが想定されるが、当路線は高齢者の重要な移動手段となっている。このような中で、本市においては、地域の状況に即した持続可能な公共交通を目指し、令和4年3月度末から公共交通の無償化を実施する予定としている。これにより、当路線を維持するとともに、利用者数の増加に努めていく。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
珠洲市地域公共交通活性化協議会	珠洲市(市営バス三崎線)	スクールバスの回送を利用 起点「大屋」 終点「飯田高校下」	現在進めている公共交通再編の取組みにおける地区説明会等の機会(R2.10月頃)において、既存フィーダー系統の周知も併せて実施。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C <目標> 利用者数 2.5人/日以上 <実績> 利用者数 1.7人/日 目標値は令和元年度の実績を基に設定しているが、新型コロナウイルスの感染拡大とともに、利用者数が大きく減少している。(R1比70%)	人口減少に伴い公共交通の利用者数も減少していくことが想定されるが、当路線は高齢者の重要な移動手段となっている。このような中で、本市においては、地域の状況に即した持続可能な公共交通を目指し、令和4年3月度末から公共交通の無償化を実施する予定としている。これにより、当路線を維持するとともに、利用者数の増加に努めていく。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
珠洲市地域公共交通活性化協議会	珠洲市(市営バス小屋線)	「鵜飼本町」、「大町」間を往復にて運行	現在進めている公共交通再編の取組みにおける地区説明会等の機会(R2.10月頃)において、既存フィーダー系統の周知も併せて実施。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C <目標> 利用者数 2.8人/日以上 <実績> 利用者数 2.1人/日 目標値は令和元年度の実績を基に設定しているが、新型コロナウイルスの感染拡大とともに、利用者数が大きく減少している。(R1比76%)	人口減少に伴い公共交通の利用者数も減少していくことが想定されるが、当路線は高齢者の重要な移動手段となっている。このような中で、本市においては、地域の状況に即した持続可能な公共交通を目指し、令和4年3月度末から公共交通の無償化を実施する予定としている。これにより、当路線を維持するとともに、利用者数の増加に努めていく。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
穴水町地域公共交通協議会	穴水町	運行系統名：四村線 穴水駅前～穴水総合病院	利用者の増加や利便性向上を図るため、駅等において、時刻表などを確認しやすいスペースに配置した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 事業が計画に位置づけられた目標を達成できなかった。 ・1km当たりの運行コスト 145.67円 (目標124.56円以内) ・1便当たりの乗車人員 四村線A:3.8人 (目標5.8人以上) 四村線C:0.9人 (目標2.0人以上) [理由] 人口減少による沿線住民の減少、加えて新型コロナウイルス感染症の影響(感染防止のための利用控え)等により利用者及び収入が減ったため。	利用者減少の原因として、主な利用者である路線沿線の通学、通院者の減少があげられるが、人口減少が進む近年において利用者増は難しい状況である。また、今年に入り穴水町においても新型コロナウイルス感染症の感染者が確認されて以降、利用者が更に減少していることから、感染防止のために利用を控える動きがあると考えられる。しかし、利用者にとっては、必要不可欠な路線であるため、引き続き感染症対策を徹底し、関係者と協議しながら、利用者の確保に努めるとともに、効率的な運行により、運行経費の削減に努める。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、③の前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況については、前年度の事業評価結果(⑥の事業の今後の改善点や運輸局等における二次評価結果など)の反映が十分ではないと考えられることから、これらの記載を踏まえた改善を行っていくことが必要である。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな具体策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
小松市地域公共交通活性化協議会	日本海観光バス(株)	運行系統名： 市内循環線 ブルーこまち (市役所先行、園町先行)	・コロナ禍でも安心して利用していただけるよう抗菌コーティングや空気清浄器の設置等感染予防の徹底を図った。	A 事業は計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 目標利用者数 30,000人に対し、22,140人であった。 <要因> コロナ禍による緊急事態宣言等による外出自粛や学生のバス利用自粛等により、利用者数が減少した。 【10月～9月】 R2 23,856人 R3 22,140人 -1,716人	・コロナ禍でも安心して利用していただけるよう感染予防の徹底を継続して実施する ・利用実態を踏まえ、利用の少ない区間や路線バスとの競合区間を短縮するなどして、よりコンパクトなルートにすることで、利便性の向上を図る。 ・引き続き、広報やHP等での周知、バスマップの配布等により利用の促進を図る。	協議会における事業評価結果の④及び⑤については自己評価のとおりである。 なお、③の前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況については、前年度の事業評価(⑥の事業の今後の改善点や運輸局等における二次評価結果など)の反映が十分ではないと考えられることから、これらの記載を踏まえた改善を行っていくことが必要である。その上で、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
七尾市地域公共交通協議会	七尾市	<p>中島げんきバス ※車両減価償却費等国庫補助金 補助対象バス2台</p> <p>①鉦打・熊木方面 すこやか～横田バス停～別所集会所</p> <p>②鉦打・熊木方面(朝・夜便) 古江入り口～横田バス停～中島地区コミュニティセンター前</p> <p>③西岸方面 すこやか～瀬嵐集会所～横見集会所</p> <p>④西岸方面(朝・夜便) 横見集会所～瀬嵐集会所～中島地区コミュニティセンター前</p> <p>⑤豊川方面 すこやか～土川バス停～萩谷バス停</p> <p>⑥豊川方面(朝・夜便) 萩谷バス停～土川バス停～中島地区コミュニティセンター前</p> <p>⑦笠師保方面 第1便 筆染神社～塩津神社前～すこやか</p> <p>⑧笠師保方面 第2・4便 すこやか～塩津神社前～大覚寺前バス停</p> <p>⑨笠師保方面 第3便 すこやか～塩津神社前～すこやか</p> <p>⑩笠師保方面(朝・夜便) 笠師保駅～笠師保保育園～上笠師集会所</p>	<p>・前回の事業評価以降、のと鉄道の大幅なダイヤ改正はなく、現行の時刻表で乗り継ぎ利便性が確保できるため、運行ダイヤの変更は行わなかった。</p> <p>・実績向上に向けた具体的な改善策としては、バスのオーブンデータ(GTFS)化に取り組み、交通系大手検索サイトでバス停の位置や時刻の閲覧が可能になり、利用促進及び利便性向上を図った。</p>	<p>A</p> <p>・計画通り適切に実施している。</p>	<p>A</p> <p>(1) 事業の目標 輸送人員について、16,674人(平成28年度実績値)を上回った。 (令和2年10月～令和3年9月輸送人員18,020人) ※増加要因: 新型コロナウイルスの影響を受けたものの、生活の足として利用している乗客が定着しているため、目標値を上回ることができた。</p> <p>・車両の取得に係る目標について、運行コスト1kmあたり222円以下という目標を達成できた。 (令和2年10月～令和3年9月1kmあたり運行コスト158.6円) ※達成要因: 前年度に比べ、修繕費や燃料費などの支出を抑制することができたため。</p>	<p>・今後も、のと鉄道のダイヤ改正に対応し、乗り継ぎ利便性を考慮するとともに、コロナ禍の情勢を注視したうえで、利用状況を確認し、路線の見直し等を検討していく。</p> <p>・引き続き、市HPや交通系サイトを活用し利用促進及び利便性向上を図る。</p> <p>・通学利用について、学生が乗車しやすいダイヤやバス停の設置状況などについて、教育委員会部局と連携し検討していく。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、さらなる実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
七尾市地域公共交通協議会	北鉄能登バス(株)	<p>まりん号順回り 七尾駅～ミナ.クル～七尾駅</p> <p>まりん号逆回り ミナ.クル～七尾駅～ミナ.クル</p> <p>※車両減価償却費等国庫補助金 補助対象バス2台</p>	<p>・利用促進の取り組みとしては、バスのオープンデータ(GTFS)化を行い、交通系大手検索サイトにデータを提供し、バス停の位置や時刻の閲覧が可能になった。</p> <p>・引き続き、利便性向上に向けたダイヤ改正などを検討していく。</p>	<p>A</p> <p>・計画通り適切に実施している。</p>	<p>B</p> <p>(1)事業の目標 輸送人員について、68,200人(平成28年度実績値)を下回った。 (令和2年10月～令和3年9月輸送人員45,713人) ※減少要因:新型コロナウイルスの影響を受けたものであり、特にR2.10月～R3.2月にかけて乗客の減少があった。</p> <p>・車両の取得に係る目標について、運行コスト1kmあたり239円以下という目標を達成できなかった。(令和2年10月～令和3年9月1kmあたり運行コスト280.7円) ※未達成要因:前年度に比べ、燃料費や修繕費などの支出を抑制することができなかったため。</p>	<p>・コロナ禍の情勢を注視したうえで、利用状況を確認し、路線の見直し等を検討していく。</p> <p>・引き続き、市HPや交通系サイトを活用し利用促進及び利便性向上を図る。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
中能登町地域公共交通協議会	北鉄能登バス株式会社	中能登町コミュニティバス 通称: おりひめバス とりやコース、ろくせいコース	<p>・免許返納者に進呈した回数券の利用状況の把握は継続できている。モニター的な協力については、今後実施予定。</p> <p>・観光施策との連携、交通系情報サイトへの情報提供の実施について、現在時刻表データのオープンデータ化に着手し、ダイヤ改正の処理も実施している。</p> <p>・総合時刻表マップを更新し、令和3年3月末に発行した。乗り方についての動画を編集し、令和3年3月末までに町のCATVで放映。また、YouTubeにも配信済。</p> <p>バス無料の日などの利用啓発事業については、これまで町のイベント開催時に実施してきたが、コロナの影響で、イベント自体が開催できず実施できなかった。代わりに、ワクチン接種用の無料回数券を高齢者に配付し、延べ人数107名(フィーダーのみ、幹線47名)の利用があり、高齢者の方々の移動手段として貢献し、接種率向上の一助になった。</p>	A 事業は計画どおり適切に実施された。	B <p>・年間利用者数 目標20,700人 実績18,931人 (前年実績19,602人)</p> <p>・免許返納者利用者数 目標580人 実績505人 (前年実績544人)</p> <p>・収支率 目標12.5% 実績11.8% (前年12.0%)</p> <p>年間利用者数はコロナの影響で大きく下回った。免許返納者の利用者数は、目標には届かなかった。収支率は前年度比0.7%減少し、大きく下回った。未達成理由は、いずれもコロナの影響を大きく受け、利用者数が伸び悩んだため。</p>	<p>・コロナ禍において、大幅に利用者数が落ち込んでいるが、引き続きこれまでの取り組みを実施する。</p> <p>・引き続き免許返納者に対する取り組みを実施する。返納者からの意見を聞くため、利用後のアンケートをお願いする仕組みを構築する。</p> <p>・観光施策との連携、交通系情報サイトへの情報提供の実施についてはオープンデータ化に向けて取り組みを続ける。</p> <p>・総合時刻表マップの更新、乗リ方教室(CATVの番組作成)やバス無料の日などの利用啓発事業は引き続き実施して行く。</p>	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
中能登町地域公共交通協議会	株式会社中能登タクシー	<p>デマンドタクシー</p> <p>瀬戸・花見月コース(おでかけ便)</p> <p>瀬戸・花見月コース(おかえり便)</p> <p>上後山・下後山コース(おでかけ便)</p> <p>上後山・下後山コース(おかえり便)</p>	<p>・免許返納者に進呈した回数券の利用状況の把握は継続できている。モニター的な協力については、今後実施予定。</p> <p>・総合時刻表マップを更新し、令和3年3月末に発行した。利用啓発事業については、これまで町のイベント開催時に実施してきたが、コロナの影響で、イベント自体が開催できず実施できなかった。</p>	<p>A</p> <p>事業は計画どおり適切に実施された。</p>	<p>B</p> <p>・年間利用者数 目標3,300人 実績934人 (前年実績2,585人)</p> <p>・免許返納者利用者数 目標75人 実績63人 (前年実績94人)</p> <p>・収支率 目標7.5% 実績7.5% (前年6.8%)</p> <p>年間利用者数はコロナの影響で大きく下回った。免許返納者の利用者数は、目標には届かなかった。収支率は目標を達成しているが、当町のデマンドの特性上、利用が増えれば悪化する傾向があるため、手放しに喜べない。未達成理由は、いずれもコロナの影響を大きく受け、利用者数が伸び悩んだため。</p>	<p>・引き続き免許返納者に対する取り組みを実施する。返納者からの意見を聞くため、利用後のアンケートをお願いする仕組みを構築する。</p> <p>・総合時刻表マップの更新や、無料の日などの利用啓発事業は引き続き実施して行く。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
志賀町地域公共交通活性化協議会	(株)高浜タクシー	志賀町コミュニティバス まちなか循環線志賀の郷ルート	地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう、民間事業者との定住促進の取り組みとの連携(ルート延伸を行った住宅地でのPR等)、公共交通活用のための意識醸成(町広報紙掲載)、わかりやすい情報提供(時刻表等の配布、検索サイトへ情報提供)等に努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標の達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が大きく減少し、目標の達成には至らなかった。また、利用者数の分析についても非常に難しい状況であり、継続して利用状況を把握し評価していきたい。 【まちなか循環線の年間利用者数】 ・令和3年度目標11,664人 ・計画運行期間実績(R2.10.1～R3.9.30) 7,062人	ひきつづき志賀町地域公共交通網形成計画に基づき、以下の取組を実施する。 ・民間事業者との定住促進の取り組みとの連携 ・老人会等への公共交通利用のための意識醸成 ・わかりやすい時刻表の配布 ・運行情報のオープンデータ化	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：離島航路運営費等補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
佐渡航路確保維持改善協議会	佐渡汽船株式会社	小木直江津航路	<p>前回の評価を踏まえ、輸送量確保・拡大に向けて、また、令和3年4月からの就航船舶変更(高速カーフェリー「あかね」からジェットフォイルに変更)後の継続的な誘客促進に向けて、周遊コースの宣伝強化、レンタカー等を含めた新しい日帰り商品等の販売、教育旅行の誘致強化、有人国境離島法(滞在型観光)の活用、新商品開発を含む観光素材の磨き上げ、情報発信強化等を計画するとともに、修繕費等の経費削減に取り組む、新型コロナウイルス感染症の影響の中ではあったが、状況を見極めながら、佐渡汽船を中心に概ね計画に沿って事業を実施することができた。</p> <p>(実施例) ○旅行会社に対する個人商品向けの旅客割引運賃の提供(就航船舶変更後も継続) ○就航船舶変更後、日帰りレンタカー・自転車バックの販売 ○島内バス満車時の島外バス受入支援(航送運賃無料) ○修学旅行を取り扱う旅行会社に対し、佐渡を提案 ○Instagram、YouTube等の活用による情報発信強化 ○チケットレス乗船に向けたシステム改修</p>	<p>計画に位置付けられたとおり適切に実施された。</p> <p>・令和3年4月末、「あかね」からジェットフォイルへの変更にあたって、二次交通を含めたバック商品販売を行い、輸送量確保・拡大に努めるとともに、修繕費等の経費削減にも取り組んだ。</p> <p>・なお、「あかね」については、令和3年6月に売却(30.5億円でスペイン海運会社へ売却)。</p> <p>・輸送量確保のため、セールス活動に努めるものなか、団体客が減少傾向のなか、営業所の必要性が相対的に低下し、また、早急に経営改善に取り組む必要から、令和3年3月に名古屋営業所を廃止した。</p> <p>・また、航路収支改善に向けて、令和3年1月にバンカーサーチャージを改定した。</p> <p>・離島航路3カ年計画の「3.収入の増加・確保に関する情報発信強化」については、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったイベント等、実施できなかった取組もあったものの、実施可能な取組は行った。</p>	<p>目標を達成できなかった。</p> <p>・輸送人員は計画(就航船舶変更後の計画)57,946人に対して実績は27,227人となった(計画比47.0%)。前年比では64.7%、14,831人減となり、新型コロナウイルス感染症の長期化が影響し、輸送実績は前年比で減少した。</p> <p>・このような状況のなか、佐渡汽船では本航路において、国のGotoトラベルキャンペーンや佐渡市の「さどまる俱樂部」を活用したキャンペーン、教育旅行の誘致など、行政等と連携し、輸送需要の掘り起こしに努めたが、コロナ再拡大等により、「こいがた県民割キャンペーン」など各種施策が一時停止になるなど、期間を通じてコロナ影響を受ける結果となった。</p> <p>・なお、教育旅行は、上越市、長野県を中心に、行き先を東京から佐渡に変更する学校があり、3,554人(前年比+1,584人)と前年増となった。</p>	<p>・佐渡汽船は、コロナの影響により、令和2年12月期において債務超過に陥り、会社全体の抜本的な経営改善を図る必要があると判断し、就航船舶を高速カーフェリー「あかね」からジェットフォイルに変更し、「あかね」を売却するとともに、運賃割引の見直しや第三者出資による資本増強策について、関係市や金融機関と協議を行っている。</p> <p>・引き続き、経費削減に努めるとともに、輸送量確保・拡大に向け、外国人観光客や、小木直江津航路利用が期待される中部・関西地区からの誘客を図り、新型コロナウイルスの影響で佐渡に行き先を変更した教育旅行の継続的な獲得などに取り組むこととする。</p> <p>・船舶変更により、これまでの車両航送利用者に影響が生じることから、関係者においては、利用客の動向や、新たなニーズ等を把握するとともに、分析を行い、利用者の二次交通の需要等も注視しながら、他の施策・事業や佐渡汽船の取組との連携を深め、航路利用者の増加を図っていくこととする。</p> <p>・また、航路事業者である佐渡汽船は、2021年12月期の連結決算において、2期連続の債務超過が見込まれることから、今後、県・地元市等においては、同社の経営状況や就航船舶変更による影響について、定期的な状況把握に努めることにより、佐渡汽船とともに本航路を含む佐渡航路の維持・確保に努めることとする。</p>	<p>目標はコロナの影響等により達成できておらず、使用船舶変更により航路運営の合理化を進めるも、引き続き厳しい状況にある。 今後もコロナの状況に応じた対応により、利用者確保に向けた取組が継続的に進展するよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：離島航路運営費等補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
粟島浦村地域公共交通協議会	粟島汽船株式会社	粟島と本土(岩船)を結ぶ唯一の交通手段で、通院や買い物などで利用する島民のほか、公共工事関係者や観光客が主となり、利用者には欠かすことができない役割を担っている。	新型コロナウイルス感染症拡大の影響長期化により、渡航の自粛が継続している中、運航ダイヤの変更による減便を実施したが、その一方、利用者の多い曜日を2便体制とし、少ない曜日を1便とし、利用客の利便性向上に努めた。	A 新型コロナウイルス感染症拡大対策に伴う減便運航により、計画通りの運航回数を実施できなかったが、必要最小限の運航を実施し、事業は適切に実施された。	C R3年度の目標に対する実績【旅客人数】 目標56,000人、実績24,018人(達成率42.9%) 【当初運航計画】 普通船 1,077便 高速船 835便 【変更後計画】 普通船 1,093便 高速船 223便	・今後も安定的な運航を維持するため、船員の確保・育成に努める。 ・利用者を増やすため島内のイベントを実施し利用促進に取り組む。 ・観光客の誘致増加に向けて観光協会と連携し「あわしま自然体験」での学習を目的とした利用者の誘致や県の支援事業を活用し、学生対象のイベント等を企画し実施していく。 ・一層の経費削減を行い、欠損額の抑制に努める。	目標はコロナの影響等により達成できていないが、経費の削減等により収支全般は前年度に比べ改善傾向にある。 今後もコロナの状況に応じた対応により、利用者確保に向けた取組みが継続的に進展するよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：離島航路運営費等補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
輪島市離島航路改善協議会	へぐら航路株式会社	輪島～舩倉島	<p>前回の事業評価を踏まえ、令和3年度は利用促進及び経費の節減を引き続き継続する内容の計画とした。</p> <p>利便性確保のため、1日1往復の運航を維持した。</p> <p>無駄な支出がないよう、経費削減に努めた。特に、資金繰りのための借入金を輪島市から借り入れることにより、利息額を抑制した。</p>	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	<p>事業が計画に位置づけられた目標を達成できていない点があった。</p> <p>・年間旅客運賃 【目標】 17,660,320円 【実績】 13,041,922円 ⇒未達成</p> <p>・年間貨物運賃 【目標】 13,041,922円 【実績】 12,452,510円 ⇒未達成</p> <p>・収支率 【目標】 31.1%以上 【実績】 27.9% ⇒未達成</p> <p>・料金体系及び運行体制の維持 【目標】 料金体系の維持及び1日1往復の運航体系の維持 【実績】 維持した ⇒達成</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により実績減となった。感染防止を図りつつ目標を達成できるよう、利用促進を図る。</p> <p>貨物運賃収入の大部分は舩倉島の水揚量に左右される。前年度に比べて減少しており、目標を達成することができなかった。貨物運賃は重要な収入源であることから、安全最優先のもと、確実な輸送を行う。</p> <p>収入を増加させつつ、費用を削減できるよう努める。</p> <p>島民の利便性並びに観光誘客のため、1日1往復の運航を確保していく。</p>	<p>目標のうち旅客運賃、貨物運賃、収支率はいずれもコロナの影響等により達成できていないが、全般的に前年度に比べ改善傾向にある。今後もコロナの状況に応じた対応により、利用者確保に向けた取組みが継続的に進展するよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果	
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果	
長岡市地域公共交通協議会	<p>【事業の実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現況分析 ・意向調査 ・協議会の開催 ・課題のとりまとめ <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎データを分析し、長岡市の現況を整理した。 ・事業者からの提供データを参考に、利用状況と収支状況を整理した。 ・対象を絞ったうえでアンケート調査を実施した(高齢者、高校生、公共交通利用者)。 ・協議会を6月、9月(書面)に開催し、令和4年2月にも開催予定(3回/年)。 ・整理した情報と調査結果をもとに課題整理を行い、令和4年度計画策定の基礎資料を作成する。 	A	<p>計画どおり事業は適切に実施されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長岡市立地適正化計画の見直し(令和3・4年度)と連携しながら、主要なバス路線の維持と並行し、柔軟かつ効率的な移動手段の導入を検討していく。新たな公共交通システム導入も視野に、公共交通の利用促進を図る。 ・過疎地域において、デマンド型乗合タクシーを運行するエリアの拡充を想定しているため、計画に反映する。 ・令和4年度は、アンケート調査及び事業者ヒアリングの調査結果をもとに、解決すべき課題を設定する。そのうえで長岡市が中長期的に取組む政策を計画し、地域公共交通協議会で検討し、策定する。 	<p>協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、来年度の地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における二次評価結果
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果
柏崎市地域公共交通活性化協議会	<p>【名称】 柏崎市地域公共交通計画策定業務</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柏崎市における公共交通の現況整理(補完調査) ・柏崎市地域公共交通計画案策定 ・協議会開催 	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。	<p>本市の地域公共交通は、人口減少などにより、路線バス等の利用者数の減少に歯止めがかかっていない。また、利用者数の減少に伴う市内の路線バスの運行本数の著しい減少が利便性の低下を招き、ますます利用者数が減少していくといった「負のスパイラル」の状況に陥っている。さらには運転士の高齢化や、地域公共交通に係る財政負担額の膨大化、新型コロナウイルス感染症の感染拡大などにより、本市の地域公共交通の維持は大変困難な状況となっている。</p> <p>このような状況下でも、自動車を運転しない高齢者や高校生などにとって、地域公共交通は大切な移動手段であり、その方々の通院や買い物、通学などにおける生活の足は、これからも確保していかなければならない。</p> <p>本市の地域公共交通を取り巻く様々な課題に対応し、誰もが暮らしやすいまちを目指していくために「柏崎市地域公共交通計画」を策定する。</p>	<p>協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における二次評価結果
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針又は事業の今後の改善点	評価結果
長野市公共交通活性化・再生協議会	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画策定に向けた各種調査 ・人の移動状況調査 ・クロスセクター効果の分析 ・地域公共交通計画の計画案作成 ・協議会開催 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市構造、公共交通の現状の調査分析により、市の現状を整理した。 ・長野都市圏パーソントリップ調査の分析及びICカードKURURUの利用データの分析から、人の移動状況や移動需要を把握することができた。 ・見直しが必要な路線についてクロスセクター効果の算出評価を行う。 ・今後の協議会の検討を経て、地域公共交通計画案をとりまとめる。 	A	<p>計画通り事業は適切に実施された。</p> <p>・各地域を維持するためのバランスの取れた交通ネットワークの構築を目指す。</p>	<p>協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果
佐久市地域公共交通確保維持改善協議会	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐久市地域公共交通網形成計画の評価 ・市の地域公共交通を取り巻く状況の把握 ・上位、関連計画の整理 ・市民、公共交通利用者、関係者の意識把握 ・市の公共交通に関する問題点、課題の把握 ・佐久市公共交通計画案の作成 ・地域公共交通確保維持改善協議会の開催 ・住民説明会の開催 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市の概要(地形や人口、産業動向等)、公共交通の運行状況や利用状況等の整理を行い、公共交通を取り巻く問題点や課題の整理のための基礎資料として活用する。 ・各種アンケートのうち一部は現在集計中であるが、路線バスの主な利用者である望月地区及び浅科地区の高校生とその保護者へのアンケートでは、通学手段や保護者の送迎の状況、バスの設備(車内Wi-Fi、キャッシュレス決済)に関する意向などを把握できた。 	A 計画通り事業は適切に実施されている。	<p>地域公共交通調査事業(計画策定事業)において、利用実績データやアンケート結果の分析を進め、調査結果を踏まえた利便性向上のための地域公共交通体系の見直しを検討していく。</p> <p>令和4年3月までに当該検討結果を基にした地域公共交通計画素案の作成を目指す。</p>	<p>協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果
東御市公共交通活性化協議会	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の概況調査 ・公共交通の現状調査 ・移動実態とニーズ把握調査 ・まちづくりの方向性の整理 ・市民懇談会の開催 ・実証実験の実施 ・交通の課題整理 ・公共交通活性化協議会の開催 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の地勢、人口、世帯状況、公共施設等の分布等の基本情報を整理した。 ・統計や運行事業者資料等をもとに、公共交通の運行状況や令和2年度に実施した実証実験の状況、その他地域の移動資源を整理した。 ・市民等に対するアンケート調査を実施し、移動実態と公共交通に対するニーズを把握した。 ・上位関連計画や他部署における施策から、まちづくりの方向性、公共交通施策の考え方の整理するため、2月までに関係部署へのヒアリングを行う。 ・アンケート調査や現況調査の結果を市民に共有し、これからの公共交通の方向性について意見交換する懇談会を2月に5地区で開催する。 ・実際の車両を運行する実証実験に代えて、現行デマンド交通の運行データを利用し、AIを活用したオンデマンド交通を市内で運行した場合の運行シミュレーションを実施する。 ・各種調査結果や懇談会で出された意見から、公共交通の役割・位置づけを明確にするとともに、市における公共交通の問題点・課題の整理を行う。 ・これまで公共交通活性化協議会を3回(対面2回、書面1回)開催、次回3月に開催予定。 	A 計画通り事業は適切に実施された。	<p>高齢者であっても運転免許証を保有する割合が高く、自ら自家用車を運転して移動しており、また、運転免許証を持たない人も家族の送迎での移動が多く、公共交通を利用しなくても移動ができる市民が多い実態が明らかになった。</p> <p>一方で、運転免許証がなく、移動に不自由している高齢者や子どもが一定数おり、また、特に小中高生の保護者は通学の送迎を負担に感じていることも分かった。</p> <p>これらのことから、自家用車や送迎での移動からの転換を促すことができるよう、現行のデマンド交通や定時定路線バスをニーズに合わせた運行時間や運行ルート、運行形態へ変更することで、利用者の増加を図る。</p> <p>デマンド交通はAI活用型への転換も視野に入れ、導入に際しては新モビリティサービス推進事業の活用、また、交通システム全体の見直しについては、地域公共交通利便増進事業や地域旅客運送サービス継続事業の活用も検討している。</p>	<p>協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、来年度の地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となつて事業が進められることを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果	
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果	
中川村地域公共交通会議	<p>(1)地域状況および公共交通利用状況等のデータ分析 【地域状況】少子高齢化は若干鈍化するも生産年齢人口の減少が顕著／人口は今後30年間でさらに3/4まで減少する見通し／単身高齢世帯がこの25年で3.4倍に急増／段丘地形でバス停までの徒歩が困難な地区も／高校、総合病院などが村内になく村外への移動の必要性が高い 【利用状況等】この1年半に関しては、コロナ禍により、非常に低調／一時は増加に転じたNPOタクシーの利用者も再び減少。交通不便者層に対する利用率は未だに低い／利用者層が高校生と女性高齢者に二極化 (2)利用者アンケート調査 高齢者については、身近な人に送迎をお願いできないからバスを利用するという傾向がみられ、困窮度合いは高い。身体的な衰えもあり、バス停までの徒歩、バスへの乗車が難しくなっている現状も目に付く。運行の範囲や運行ルートに対する満足度は高くない。 (3)網形成計画の評価検証 前計画(中川村地域公共交通網形成計画<H29～R3>)の事業内容を評価検証。利用実績は全般的に低調であるが、利用促進事業、免許返納事業などは着実に実施。 (4)地域公共交通会議の運営支援 調査内容と取り組み方針、調査結果、計画の方向性、計画内容等について、4回の会議を開催し、協議を進めている(現在2回開催、あと2回) (5)地域公共交通計画(案)のとりまとめ 上記調査結果を受けて計画を作成(内容は右記③)</p>	A	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された</p>	<p>【①基本スタンス】前計画の基本方針「自家用車を利用できない人も安心して住み続けられる村を目指し、地域公共交通に関しても、費用を投じてしっかりと維持していく」を踏襲しつつ、支障箇所・非効率な部分を改善 【②村営巡回バスのあり方】高校生の通学利用に対応した朝夕の運行は現行通り。日中についてはドアtoドアに近いデマンド形式での運行を実証し、移管を目指す。 【③NPOタクシーの位置づけ】②の日中デマンドへの移管が図られれば、その仕組みに統合。ITを活用した予約配車システムの導入も進める。 【④福祉タクシー券】 デマンド化によって、福祉タクシー券との棲み分けが難しくなるため、取り扱いについて総合的に再検討。 【⑤地域づくり・ネットワークなどの視点】「ちいさな拠点」構想と連携させ、ここに各施策をつないでいく。幹線交通である飯田線や隣接市町村の交通機関への接続を図る。 【⑥利用促進・広報など】主たる利用者層である高校生と高齢者に的を絞った説明会を実施。公共交通の必要性やあり方に対する広報なども実施。 【⑦広域的な視点】令和4年度に予定されている全県計画の動向にあわせる。</p>	<p>協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。 なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果
南木曾町地域公共交通協議会	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通総合連携計画の評価及び見直し ・公共交通の現況調査 ・地域ニーズに適した公共交通の検討 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通総合連携計画で設定した施策の進捗状況を評価し、施策の実施効果を分析すると同時に、南木曾町総合計画等の各種計画との整合性を整理した。 ・木曾地域振興局が実施したアンケート調査から移動実態、利用状況を調査し、生活面、医療面、観光面のニーズを把握することができた。 ・調査結果から地域に適した運行、路線、ダイヤについて検討し、協議会に諮るための計画素案を作成している。 ・協議会やパブリックコメントでの検討を経て、南木曾町地域公共交通計画として取りまとめる。 	A 計画通り事業は適切に実施された。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数が少ないことから、不効率となっている便の改善、整理を行い、運行費用の抑制を図り、町の財政負担を増加させないように配慮するもの。 ・運行費用が大きく増加しない範囲で、利便性を向上させ、利用者数を確保する。 ・新型コロナウイルス感染症収束後に観光客の利用が回復することが見込まれることから、観光路線を維持する。 	<p>協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果	
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果	
木曽町地域公共交通協議会	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域内の公共交通に関する現況調査 ・地域公共交通に対する課題及び方向性の検討 ・地域公共交通施策の検討 ・木曽町地域公共交通計画(案)のとりまとめ ・協議会の開催 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的データの整理、現況調査などにより、地域の公共交通の状況を整理した。 ・地域や利用者のアンケートにより、住民の時間帯別、場所別の移動需要を把握することができた。 ・調査結果を受け、木曽町の地域公共交通計画の論点と方向性について検討し、協議会へ諮るための素案を作成。 ・今度の協議会の検討を経て、地域公共交通計画として最終的にとりまとめる。 	A	<p>計画通り事業は適切に実施された。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通は社会基盤であり、交通不便者を中心に観光客など多くの者が利用できる仕組みを継続するが、デマンド化などの個別輸送も検討していく。 ・運賃は現行通りの設定で位置付けていくが、収支率向上に向けた運賃改定や補助金取得についても引き続き議論の対象としていく。 ・ノンステップ車両の導入や小型車両化への検討、環境に配慮した車両の導入など、交通事業者と調整を図っていく。 ・免許返納者や通学利用者への利用促進や、GTFSを活用した乗換案内の充実など、利用者の拡大や利便性向上を図っていく。 	<p>協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果
信濃町地域公共交通協議会	<p>【事業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎調査 2. 公共交通の現状把握 3. 住民に対するアンケート調査 4. 公共交通利用者に対する調査 5. 現況・課題の整理 6. 地域公共交通の計画案作成 7. 路線バス・デマンド交通の運行改善の検討・調整 8. 協議会開催 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的データの整理、公共交通の現状把握などにより、地域の公共交通の状況を整理した。 ・住民および交通へのアンケートにより、移動需要および住民の時間帯別、場所別の移動実態を把握することができた。 ・計画の方針を定め今後、具体的な計画内容の作成を行う。 ・新しい町立病院開院にあわせた交通体系、ルート、ダイヤ変更の方向性について検討し、協議会に諮るための計画素案を作成する。 ・最終的に協議会での検討を経て、取りまとめを行う。 	A	計画通り事業は適切に実施されている。	<p>必要とする人の生活に必要な移動を担保する公共交通に見直すことを主眼に置きながら、費用の増加を最小限に抑え、運行の維持を図っていく。方針として、現在の利用者に配慮しつつ利用が少ないルートやダイヤは見直しを図り利便性を担保しながらよりよい交通ネットワークを構築できるよう検討を行う。なお、令和5年度確保維持事業(地域内フィーダー系統)の活用を見込んでいる。</p> <p>協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。 なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における二次評価結果	
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果	
中野市地域公共交通対策協議会	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現行計画の評価及び上位、関連計画の整理 ・地域住民アンケートの実施 ・地域住民意見交換会の実施 ・利用実態調査 ・地域の公共交通計画(マスタープラン)案の作成 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的データの整理、現況調査などにより、公共交通の状況を整理した。 ・住民へのアンケートにより、住民の時間帯別、目的別の移動需要を把握することができた。 ・今後、地域に適した交通体系について検討し、協議会に諮るための計画素案を作成した後、協議会の検討を経て、地域交通計画として最終的に取りまとめる。 	A	計画通り適切に実施された。	<p>2市町での広域的な計画であることを活かし、2市町間の相互乗り入れについて、具体的な検討を行うとともに、その他の交通体系についても、効率的かつ持続的な運行を実施できるよう計画していく。</p>	<p>協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。 なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における二次評価結果	
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針又は事業の今後の改善点	評価結果	
木曾地域公共交通活性化協議会	<p>【事業の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郡内住民の公共交通に対する意識、OD調査 ・地域公共交通の課題整理 ・地域に適した交通の検討 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域へのアンケート結果により、住民の時間帯別、施設別の移動需要を把握することができた。 ・今後の協議会に諮る論点の絞り込みと方向性を示すことができた。 ・アンケート結果を各町村が二次利用することで、町村ごとの計画策定、計画のための協議を推進することができた。 ・県、町村計画との調整を図りながら、今後の協議会の検討を受け、地域公共交通計画としてまとめていく。 	A	<p>計画通り事業は適切に実施された。</p>	<p>町村を跨がる公共交通の再構築を主眼において、この路線への接続方法を含めた見直しによる域内地域公共交通を強化するよう検討を進める。そのためには、町村の域内公共交通に対する共通認識と町村間の相互協力が必要であり、令和4年度は町村ごとの協議会による議論を深めるよう連携して取り組んで行く。</p>	<p>協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、来年度の地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果
長野県公共交通活性化協議会	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域的・基幹的な路線の利用実態の把握 ・人流データの整理・分析 ・協議会開催 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数市町村をまたがるバス路線のOD調査を実施することにより、路線バスの利用実態の詳細を整理中。 ・人流調査により、各地域でどのような移動の実態があるか、また現況のバス路線とのミスマッチがないか整理中。 ・上記の調査結果を踏まえ、今後の協議会の検討を経て、長野県地域公共交通計画として最終的にとりまとめる。 	A	計画通り事業は適切に実施されている。	<p>「広域的な移動軸の最適化」と「交通モード間をシームレスにつなぐ環境整備」の2点を主要なテーマとし、各モードの適切な役割分担の下、官民連携により持続可能で最適な地域公共交通システムの再構築を目指す。なお、広域的な移動軸の維持確保については、地域公共交通確保維持改善事業(地域間幹線系統補助)の活用を見込んでいる。</p> <p>協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。 なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、来年度の地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果	
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果	
魚津市公共交通活性化会議	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚津市地域公共交通網形成計画の再確認及び上位・関連計画の分析 ・公共交通関係者との意見交換 ・地域公共交通計画(案)の作成 ・協議会開催 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚津市地域公共交通網形成計画の再確認及び上位・関連計画の分析を行い、地域の公共交通の状況を整理した。 ・公共交通関係者とのヒアリングを行い、課題やニーズを把握した。 ・地域公共交通計画(案)の作成までには至っていないが、課題の整理、取組みの基本方針を活性化会議にて協議した。 ・今後は目指す将来像、基本目標や目標を達成するために行う事業、その実施主体について協議を行い、地域公共交通計画を取りまとめていく。 	A	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。</p>	<p>アンケートやヒアリング、魚津市の現況等の調査から「課題」を</p> <ul style="list-style-type: none"> ①持続的な地域公共交通サービスの確立 ②利用者の減少と財政負担額の増加への対応 ③地域、交通事業者、行政の連携強化 と整理し、これらの課題への取組みとして「基本方針」を <p>①魚津市が目指す都市構造を実現するための公共交通ネットワークの再編</p> <p>②市民・事業者・行政等、多様な主体が関わり、地域公共交通をつくること</p> <p>③誰もが自動車に頼らなくても豊かに暮らせるよう地域公共交通の利便性の向上</p> <p>④効率的な運行をし、持続可能な地域公共交通体系の構築</p> <p>⑤健康づくり、魅力づくり等、まちづくりを促進させる地域公共交通 とした。</p> <p>今後は、この基本方針に沿った施策案を示し、将来像や事業実施主体をまとめ、計画を策定する。</p>	<p>協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果
砺波市地域公共交通会議	1 地域内の公共交通に関する現況調査 ・市及び交通事業者から収集した資料やデータを整理し、地理条件や交通網の状況、人口分布、施設立地等の地域特性を分析した。 ・既存の公共交通機関の運行ルートやダイヤの整理、バス停毎の利用人数の把握を行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている	・収集した資料やデータを分析し、地域公共交通の現況や課題を把握することで、客観的データに基づいた計画策定につなげていく。	協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。 なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。
	2 地域住民のニーズ把握 ・市民1,000人を対象としたアンケート調査を実施し、市民の移動実態や公共交通に対する意識、交通ニーズの把握を行った。(回収率52.9%)		・市民アンケートを実施し、広く住民意識の把握に努めることで、普段、公共交通を利用しない市民の潜在的なニーズを計画に反映していく。	
	3 利用者ニーズ調査 ・市営バス利用者にアンケート調査を実施し、利用目的や満足度、他公共交通機関の乗り継ぎニーズ等の把握を行った。		・公共交通利用者の移動実態やニーズを把握することで、利便性の向上につながる施策を計画に盛り込んでいく。	
	4 砺波市地域公共交通計画(案)のとりまとめ ・上記現況把握やアンケート調査結果の分析をもとに、地域公共交通における課題を整理し、計画の基本理念、基本方針等計画骨子を作成した。令和4年3月までに計画における具体的な施策や取組み、評価目標等の設定を行う予定。		・各種データに基づいた計画策定を進めることで、地域の実情に合った計画として策定を進める。	
	5 砺波市公共交通会議開催 ・計画策定に向けて、4回(4/14、6/9、8/16、11/4)の会議を開催し、委員各位からご意見をいただいた。 ・今後はあと2回(12月下旬、2月下旬)会議を開催する予定。		・様々な立場から地域交通に関わる委員の皆さんからのご意見を計画に反映し、実効性の高い計画となるよう策定を進めていく。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果
城端・氷見線活性化推進協議会	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アンケート調査の実施・分析 ○網形成計画の検証、上位・関連計画の分析 ○城端線・氷見線沿線地域公共交通計画案の策定 ○協議会開催 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○沿線地域に居住する市民へのアンケート調査から、城端線・氷見線が置かれている状況や抱える課題を整理した。 ○網形成計画の検証、上位・関連計画の分析を行い、課題を整理した。 ○課題の解消に向けた施策について現在検討しており、協議会に諮るための計画素案を作成中。 	<p>事業が計画に位置づけられたと おりに実施されていない点があ った</p> <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート分析や課題整理に作業を要し、当初よりも遅れが生じている。現在、課題解消に向けた施策について現在検討し、計画素案を作成中。 	<p>「地域に利用され続ける交通ネットワークの形成」を基本理念に、「日常生活の足として利用される利便性の高い公共交通の実現」、「沿線地域の発展に繋がる公共交通ネットワーク網の形成」、「人口減少社会を見据えた、公共交通を中心としたライフスタイルの定着」の3点を基本方針に据え、城端線・氷見線の自立的な発展を目指す地域公共交通計画を策定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、課題解消に向けた施策について検討を進めており、本年度中に素案を固めるところまでとした。 ・次年度に協議会を経て、計画を策定する。 	<p>協議会における事業評価結果の②については、現在検討中である課題解消に向けた施策の検討を進め、計画素案の作成に向けて適切に事業の進捗管理を行われたい。その上で、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、来年度の地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果
加賀市地域公共交通活性化再生協議会	<p>【事業内容】加賀市地域公共交通計画策定調査 【結果概要】地域移動実態調査…自家用車による移動も含め、特定の地域間での移動が多いことが明確化された。 地域住民アンケート調査…公共交通の利用者の半数異常が利用環境に不満を感じていることが明らかになった。</p>	A <p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。ほぼ予定通りに進められており、協議会への報告も適切に行っている。</p>	<p>(計画名称)加賀市地域公共交通計画 (計画策定予定日)令和4年4月1日 (計画策定までの見込) 協議会での中間審議 令和4年2月 パブリックコメント 令和4年2月 協議会での最終審議 令和4年3月</p>	<p>協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。 なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域公共交通バリアフリー化調査事業(移動等円滑化促進方針策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果	
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果	
糸魚川市移動等円滑化促進方針推進協議会	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糸魚川市移動等円滑化促進方針(案)作成(ソフト施策の検討、素案・最終案とりまとめ、概要版作成) ・糸魚川市移動等円滑化促進方針推進協議会の運営(協議会の開催、まち歩き点検の実施) <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソフト施策の検討を行った。 ・移動等円滑化促進方針の最終案としてとりまとめを行い、概要版を作成する。 ・協議会を開催し、まち歩き点検結果による当市のバリアフリーの現状と課題について共有を図り、移動等円滑化促進方針に関する取組方針及び具体的取組内容について検討した。 ・昨年度の実施結果を踏まえ、親子連れの意見等、不十分と感じている部分について、まち歩き点検等により調査を深めるため、移動等円滑化促進地区候補地5か所の内、昨年度事務局で実施した4か所について、改めて協議会委員及び幼稚園教諭や保育士と共にまち歩き点検を実施した。 	A	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・円滑な移動空間確保の更なる拡充と共に、高齢者や障がい者への理解を深め支えあう「心のバリアフリー」を推進し、ともに安心していきいきと暮らすことの出来る共生社会の実現を目指して促進方針の策定に取り組んできた。 ・促進方針策定後は、だれもが安心して社会参加できる糸魚川市を基本理念として、関係機関と連携して継続的・段階的にバリアフリー化を推進していく。 <p>策定時期: 令和4年3月(予定)</p>	<p>協議会における事業評価結果②については、自己評価のとおりである。</p> <p>なお、③の計画策定に向けた方針については、国が示している基本方針等に従いつつ、地域が一体となってバリアフリー化の促進が図られていくことを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域公共交通バリアフリー化調査事業(移動等円滑化基本構想策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果	
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果	
福岡駅前地区移動等円滑化基本構想推進協議会	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係者ヒアリング調査 ・まち歩き点検 ・協議会開催 ・基本構想(案)のとりまとめ <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、障がい者団体等へのアンケート調査で、移動制約者の利用頻度の高い生活関連施設、生活関連経路に関する意見聴取を実施した。 ・地元要望や市民アンケート調査結果等の整理、重点整備地区、生活関連施設及び生活関連経路の設定の考え方を整理した。 ・重点整備地区、生活関連施設および生活関連経路の設定の考え方に関する意見交換を行うとともに、まち歩き点検による生活関連施設及び生活関連経路の課題を共有した。 ・高齢者・障がい者団体等へのアンケート調査やまち歩き点検等を踏まえ、バリアフリー化の課題に対応すべく基本的な方針をまとめ、最終的に基本構想(案)を取りまとめる。 	A	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。</p>	<p>本市では福岡駅を中心とする半径1km範囲において、平成21年度から都市再生整備計画事業を実施してきており、土地区画整理事業による道路整備やプロムナード整備、地域交流センター整備などにより、面的・一体的なバリアフリー化を図っている。この周辺都市整備とあわせ、バリアフリー法に基づく基本構想の策定により、福岡駅とのバリアフリー化を重点的に推進し、高齢者や障がい者等にやさしい、歩いて暮らせるまちづくりの実現化を目指す。</p> <p>【基本構想に位置付ける特定事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通特定事業(駅の改札(下りホーム)と上りホームを結ぶエレベーターの設置 実施期間: R4~) ・道路特定事業(駅前広場整備、歩道拡幅等 実施期間: R4~) ・都市公園特定事業((仮称)菘川1号公園整備 実施期間: R4~) ・教育啓発特定事業(小学生を対象としたバリアフリーパンフレットによる啓発 実施期間: R4~) <p>基本構想(案) 策定期限 令和4年3月(予定)</p>	<p>協議会における事業評価結果②については、自己評価のとおりである。</p> <p>なお、③の計画策定に向けた方針については、国が示している基本方針等に従いつつ、地域が一体となってバリアフリー化の促進が図られていくことを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和4年2月25日

北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域公共交通バリアフリー化調査事業(移動等円滑化基本構想策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果	
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果	
射水市バリアフリー推進協議会	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 射水市バリアフリー推進協議会の開催 重点整備地区等の精査 基本方針の設定 特定事業等の検討 基本構想(案)の作成 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> バリアフリー基本構想の策定に向けた論点整理、必要な施策の検討を行うため、射水市バリアフリー推進協議会を8月、11月、2月(予定)に開催。 大門・大島地区において、基本構想で位置付ける重点整備地区の範囲、生活関連施設、生活関連経路を精査し、まち歩き点検を行って問題点・課題を整理。 越中大門駅周辺地区における課題を踏まえ、基本目標・基本方針を設定。 特定事業その他の事業の考え方や手法、スケジュール等を検討。 重点整備地区等の精査、基本方針の設定、特定事業等の検討を踏まえて「越中大門周辺地区バリアフリー基本構想」(素案)をまとめた。今後のパブリック・コメントや協議会での検討を経て、基本構想(案)を作成する。 	A	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。</p>	<p>令和2年3月に策定した「射水市バリアフリーマスタープラン」の中で移動等円滑化促進地区の一つとして位置づけたあいの風とやま鉄道越中大門駅周辺において、越中大門駅をはじめとするバリアフリー化に向けた事業を具体化し、駅周辺地区におけるバリアフリー化を重点的かつ一体的に推進しながら、誰もが安全で快適に移動でき、楽しく暮らせるまちづくりの実現を目指す。</p> <p>【基本目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全で使いやすい交通環境の充実と活性化 安全で快適な都市環境の形成 思いやりの心の醸成 <p>【基本方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共交通の安全性の向上・維持と多様な主体の関わりの促進 情報提供方法の改善・充実 歩行ネットワークの快適性の維持・向上 施設の安全性・誘導機能の向上 バリアフリー意識の醸成 人材の育成 <p>基本構想(案)策定時期 令和4年3月(予定)</p>	<p>協議会における事業評価結果②については、自己評価のとおりである。</p> <p>なお、③の計画策定に向けた方針については、国が示している基本方針等に従いつつ、地域が一体となってバリアフリー化の促進が図られていくことを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業(新モビリティサービス推進事業)・事業評価総括表

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名： 日本版MaaS推進・支援事業

①補助事業者	②事業概要	補助事業者における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考
		③事業実施の適切性	④目標・効果の達成状況	⑤事業の今後の改善点	評価結果	
株式会社博報堂	公共交通(コミュニティバス・タクシー・地域住民主導の自家用有償旅客サービス)に関するサービス、商業・健康づくり情報を提供し、かつ、マチ活性や健康増進に繋がる行動を行うことで地域で使えるポイントが貯まるポイントシステムも搭載したMaaSプラットフォームをLINEを活用したMaaSキャンペーン(POHUNT)を2022年1月14日から2月20日まで実施。公共交通利用者だけでなく、マイカー利用者も使えるサービスにし、地域全体の移動総量を増やし、マチ活性/健康増進に繋げる。	B 1/14現在、計画通りにMaaSプラットフォームをLINEで構築しており、キャンペーンも計画通りの内容で実施中。LINEでの情報発信およびポイントキャンペーンも予定通りただし、一部機能(タクシーLINE予約、ノックルLINE予約)はキャンペーン途中(2月初旬予定)での実装予定。	A LINEの友達登録者数およびキャンペーン参加者は目標達成に向けて順調に増えており、高齢者を含め多くの町民がキャンペーンに参加し、町内の各施設への移動を通じて、健康増進およびマチ活性に繋がっている。	LINEの活用およびポイントシステムにより町民の行動が変化することが分かったことから、今後、公共交通の利用や歩行数の増加・コミュニティ活動への参加等の仕組みや、観光客向けの施策も検討予定。	評価対象事業者における事業評価結果の③、④については自己評価のとおりである。 なお、⑤事業の今後の改善点については、今後予定されている各施策の実施について関係者において引き続き検討されるとともに、今後も適切な検証を行い、地域の課題解決に資するMaaSの社会実装に向けて、地域一体となつて事業が進められることを期待する。	

地域公共交通確保維持改善事業(新モビリティサービス推進事業)・事業評価総括表

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名： 地域交通キャッシュレス決済導入支援事業

①補助事業者	②事業概要	補助事業者における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考	
		③事業実施の適切性	④目標・効果の達成状況	⑤事業の今後の改善点	評価結果		
加賀市	<p>チケットイン、アプリ決済手段導入及びバス、のりあい号、タクシー側決済システム連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内のバス会社2社及び市が運行する乗合タクシーの決済をアプリ上で完結するシステムを構築中 ・代行決済会社と調整を進めている ・関係各社との調整を進めている 	A	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、概ね適切に実施された</p> <p>事前調整を綿密に行ったため、発注事務が遅れたものの、システムの構築作業、関係間での調整は概ね計画のとおり進捗している。</p>	B	<p>一般タクシーのキャッシュレス決済との連携をめざしていたものの調整事項が多く達成はむずかしいものの、その他のバス、乗合タクシーについては予定通り完了の見込。</p> <p>効果については導入完了後に10%の利用増を見込み利用促進に取り組む。</p>	<p>地域公共交通計画に位置付けるバス(乗合タクシー含む)交通のキャッシュレス化が完了する見込みで、一般タクシーとの連携や、鉄道との相互利用などの拡張について模索していきたい。</p>	<p>評価対象事業者における事業評価結果の③、④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤事業の今後の改善点については、引き続き一般タクシーとの連携や、鉄道との相互利用などの拡張について検討を行うとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業(新モビリティサービス推進事業)・事業評価総括表

令和4年2月25日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：新モビリティサービス事業計画策定支援事業

①補助事業者	②事業概要	補助事業者における事業評価結果			地方運輸局等における二次評価結果	備考
		③事業実施の適切性	④目標・効果の達成状況	⑤事業の今後の改善点	評価結果	
一般財団法人塩尻市振興公社	(事業内容)新モビリティサービス事業計画の策定 塩尻市が目指す「コンパクト・プラス・ネットワーク(まちなかの便利な生活と農山村地域のゆとりある生活の両立)」の都市構造を実現するため、既存交通の高度化と新サービスの新規交通サービスの社会実装などを目指す「新モビリティサービス事業計画」を策定する。策定にあたっては、行政、交通事業者、新モビリティサービス事業者、地域住民等幅広い関係者を集め協議会を組成し推進する。	A ・協議会/研究会を組成し、R4.1.末までに3度開催した。1.24の協議会において計画素案を提示し、現在意見集約を行っている。3月までには予定する計画を策定する予定で作業を進めている。 ・計画素案策定にあたっては、交通事業者、医療分野、教育分野、福祉分野などの事業者や、別事業で実施する「AI活用型オンデマンドバス実証」や「自動運転実証」に関わる関係者にもヒアリングを行い、交通課題を抽出し素案を策定した。	A 計画素案を作成し、関係者からの意見収集を実施中。現時点ではスケジュール通り3月までに計画を策定できる見込み。	(今後の取り組み) ・計画素案に対する関係者からの意見集約 ・北陸信越運輸局様および国土交通省様との意見交換 ・全関係者の意見集約した最終計画案の作成 ・第3回協議会での承認 ・行政手続き、計画申請	評価対象事業者における事業評価結果の③、④については自己評価のとおりである。 なお、⑤事業の今後の改善点については、今年度中の策定に向けて協議会/研究会における関係者において引き続き協議が行われるとともに、来年度以降の新モビリティサービス事業の実施に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。	